

XF605

4Kビデオカメラ

Firmware ver. 1.0.3.1

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにご注意ください。

⚠ 警告 死亡や重傷を負うおそれがある内容です。

- 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
- 破損したときは、内部に触れない。
- 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
- 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。
感電の原因となります。
- 分解や改造をしない。
- 強い衝撃や振動を与えない。
- 指定外の電源は使わない。
- バッテリーチャージャーやACアダプターを使うときは、次のことに注意する。
 - 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれたバッテリーチャージャーやACアダプターに触れない。
 - 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
 - コードを引っ張って電源プラグを抜かない。
 - ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
 - 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
 - 電源に長時間つないだままにしない。
 - 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。
 - 0℃～40℃の範囲外で充電しない。
- バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
 - 液漏れしたものは使わない。
液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。
 - 指定外の製品で使わない。
 - 熱したり、火中投入しない。
 - 指定外の製品で充電しない。
 - 端子に他の金属や金属製のピンやゴミを触れさせない。
 - バッテリーを子供の手の届く範囲内に置かない。
 - 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。
- ファインダーで強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）を見ない。
- レンズキャップを外した状態で放置しない。
光がレンズを通して焦点を結び、火災の原因となります。
- 使用中および使用後すぐに、製品に布などをかけない。

- 長時間、身体の同じ部位に触れさせたまま使わない。
熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。
- 乳幼児の手の届くところに置かない。
アクセサリシューカバーを飲み込むと危険です。
飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。
- 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
- 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。
電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となるおそれがあります。
- 設置時、カメラと接続機器を含む総重量に耐える十分な強度があることを確認のうえ、必要に応じて適切な補強を行う。

⚠ 注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- 製品を高温や低温となる場所に放置しない。
製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。
- 三脚を使うときは、十分に強度があるものを使う。
- 長い時間、画面を見続けけない。
乗り物酔いのような症状をおこすことがあります。
すぐに製品の使用を中止して休息をとってください。

Contents

安全上のご注意	2	3. 撮影	36
1. はじめに	6	動画や静止画を撮影する	36
はじめにお読みください	6	撮影する	36
商品を確認する	7	撮影時の画面表示	38
各部の名称	8	レックレビューで確認する	44
2. 準備	15	撮影設定を行う	45
電源を準備する	15	ダイレクトタッチコントロールで基本的な 設定を行う	45
バッテリーを使う	15	カメラダイレクト設定を使う	46
コンセントにつないで使う	17	映像の記録信号形式を選ぶ	47
LCDモニターを使う	18	プロキシ動画を同時に記録する	50
日時を設定する	19	自動転送用に動画を分割して記録する (チャンク記録)	51
メニューで設定を変える	20	サブ動画を同時に記録する	52
カメラを準備する	23	シャッタースピードを調整する	54
マイクホルダーを取り付ける	23	シャッタースピードのモードを切り換える	54
レンズフードを取り付ける	23	シャッタースピードの値を調整する	55
ファインダーを使う	24	フリッカーを抑える	55
記録メディアを準備する	26	ISO感度／ゲインを調整する	56
使用可能な記録メディア	26	オートで調整する	56
SDカードを入れる／出す	27	NDフィルターを切り換える	59
カードを初期化する	27	アイリスを調整する	60
ボリュームラベルを設定する	28	オートで調整する (オートアイリス)	60
使用するカードスロットを切り換える	28	一時的にオートで調整する (ブッシュオートアイリス)	60
カードの記録可能時間を確認する	28	アイリスに絞り制限をつける (アイリスリミット)	61
撮影データを修復する	29	露出を補正する (AEシフト)	62
動画の記録方法を選ぶ	30	測光方式を設定する	62
記録するデータのファイル名を設定する	32	ホワイトバランスを調整する	63
XF-AVCクリップのファイル名を設定する	32	オートホワイトバランス (AWB) で調整する ...	64
MP4クリップ／静止画番号の付けかたを選ぶ ...	33	プリセット設定／色温度設定で調整する	64
冷却ファンの動作方法を選ぶ	35	ホワイトバランスセットで調整する	65
		ズームを操作する	67
		ズームのモードを選ぶ	67
		ズームの操作方法を選ぶ	67
		ズームリングで操作する	68
		ズームロッカーで操作する	68
		コンバージョンレンズを使う	70

フォーカスを調整する	71
マニュアルで調整する	71
PUSH AF/MF（プッシュ AF／MF）で調整する ...	74
AFブーストMFで調整する	74
コンティニュアスAFで調整する	74
AF枠の位置／タイプを変更する	75
顔を検出してフォーカスを合わせる （顔検出AF）	76
フォーカスリミットとマクロ撮影	77
手ブレを補正する	78
マーカー／ゼブラパターン／フォルスカラーを 表示する	79
タイムコードを設定する	82
ユーザービットを設定する	83
外部機器と同期をとる	84
外部のリファレンスビデオ信号に同期する （GENLOCK）	85
リファレンスビデオ信号を出力する	85
音声を記録する	86
MP4動画の音声記録形式を選ぶ	87
2スロット記録機能を使って音声記録をする	87
外部マイク／外部音声入力機器を本機に 接続する	88
記録する入力音声を選ぶ	89
録音レベルを調整する	90
入力音声を調整する	91
ヘッドホンでモニターする	92
カラーバー／テストトーンを記録する	93
波形モニター／ベクトルスコープを表示する	94
撮影中／撮影後のクリップにマークを付加する ...	96
撮影中にショットマークを付加する	96
最後に撮影したクリップにOKマーク／ チェックマークを付加する	96
メタデータを操作する	97
News Metadata（ニュースメタデータ）を 操作する	98
特殊記録を行う	100
スロー＆ファストモーション記録を行う	100
ブレ記録を行う	102
フレーム記録を行う	102
インターバル記録を行う	103
常時記録を行う	104
赤外撮影（INFRARED）を行う	105

リモートコントローラー RC-V100でリモート 撮影する	106
NUプロトコル対応機器でリモート撮影する	107
Webカメラとして使用する	108

4. カスタマイズ..... 109

アサインボタンを使用する	109
カスタムピクチャーを使用する	114
Lookファイルで画質を調整して記録する	116
カスタムピクチャーファイルを保存する	117
カスタムピクチャーの設定項目	118
設定データの保存と読み出し	123

5. 再生..... 124

撮影データを再生する	124
インデックス画面を表示する	124
再生する	126
撮影データを操作する	130
クリップメニューで操作する	130
クリップメニュー一覧	130
クリップの情報を表示する	131
OKマーク／チェックマークを付加する	131
OKマーク／チェックマークを消去する	132
ショットマークを付加／消去する	132
撮影データを消去する	133
ユーザーメモ／GPS情報を消去する	133

6. 接続..... 134

出力信号形式	134
外部モニター／外部レコーダーを接続する	138
接続のしかた	138
SDI OUT端子を使用する	138
HDMI OUT端子を使用する	139
出力レンジを選択する	139
出力映像に画面表示を重畳する	141
画面に表示する映像にLUT／ビューアシスト を適用する	142
LUTを適用する	144
HLGの色味を設定する	144
ユーザー LUTを使用する	144
ビューアシストを適用する	146
HDR映像をSDR映像に変換するときの ゲインの差を調整する	146

音声の出力チャンネルを選択する.....	147	8. メニュー.....	179
撮影データを保存する.....	148	メニュー一覧.....	179
MP4クリップをパソコンに保存する.....	148	カメラ設定メニュー.....	179
WAVファイルをパソコンに保存する.....	149	Custom Pictureメニュー.....	181
撮影データをスマートフォンに保存する.....	149	記録/メディア設定メニュー.....	181
撮影データをFTPサーバーに自動で転送する... ..	149	オーディオ設定メニュー.....	183
7. ネットワーク.....	151	モニタリング設定メニュー.....	184
ネットワーク機能と接続方式.....	151	アシスト設定メニュー.....	187
Wi-Fiで接続するとき.....	152	ネットワーク設定メニュー.....	189
イーサネット接続するとき.....	153	アサインボタンメニュー.....	189
ネットワークの接続設定を行う.....	154	システム設定メニュー.....	190
ネットワークを有効にする.....	154	マイメニュー.....	191
ウィザードで新規に接続設定を行う.....	155		
機能設定を行う.....	155	9. その他.....	192
その他の接続方法で通信設定を行う.....	158	ステータス画面を表示する.....	192
その他のネットワーク設定を行う.....	161	トラブルシューティング.....	204
接続設定 (SET) を確認／編集する.....	162	エラーメッセージ.....	211
通信設定 (NW) や機能設定 (MODE) を		取り扱い上のご注意.....	217
確認／変更する.....	164	アクセサリ紹介.....	220
ネットワークの接続状態を確認する.....	166	主な仕様.....	221
クリップをFTPで転送する.....	168	XF605本体.....	221
1つのクリップを転送する.....	168	バッテリーチャージャー CG-A20.....	224
クリップをまとめて転送する.....	168	コンパクトパワーアダプター CA-CP200 L.....	225
映像をストリーミングで送信する.....	169	バッテリーパック BP-A30.....	225
ネットワーク機器でリモート撮影する		動画の記録可能時間の目安.....	225
(ブラウザーリモート).....	170	バッテリーの充電時間の目安.....	226
ブラウザーリモートを起動する.....	170	寸法図 (単位: mm).....	227
リモート撮影する.....	171	索引.....	229
XCプロトコル対応コントローラー／アプリで			
リモート撮影する.....	175		
RC-IP100／RC-IP1000でリモート撮影する.....	175		
リモートカメラコントロールアプリで			
リモート撮影する.....	176		
Multi-Camera Controlでリモート撮影する.....	176		
撮影データをスマートフォンに転送する.....	178		

はじめにお読みください

ご使用の前に、必ず本書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。万一、本製品が正常に動作しないときは、「トラブルシューティング」(□□ 204)をご確認ください。

使う前に知っておいてください

必ずためし撮りをしてください

実際の撮影条件で事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。万一、カメラが正常に動作しないときは、「トラブルシューティング」(□□ 204)をご確認ください。

記録内容の補償はできません

カメラや記録メディアなどの不具合により、記録や再生ができなかった場合であっても、記録内容の補償はご容赦ください。

著作権にご注意ください

録画・録音したビデオは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

撮影方法にご配慮ください

本製品の使用においては、プライバシー保護および肖像権等の権利侵害を防止する観点から、撮影方法に十分ご配慮ください。

LCDモニターやファインダーの画面について

画面は精密度の高い技術で作られています。99.99%以上の有効画素がありますが、まれに点灯しない画素や常時点灯する画素が発生することがあります。

アクセスランプについて

アクセスランプ(□□ 27)が赤色に点灯／点滅中は、次のことを必ず守ってください。データを破損するおそれがあります。

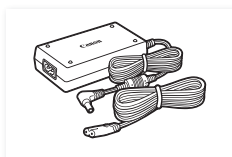
- 電源を切らない。バッテリーなどの電源を取り外さない。
- メモリーカードカバーを開けない。

本文中の表記

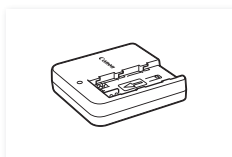
- **ご注意** 必ず守っていただきたいこと
- **MEMO** 知っておいていただきたいこと
- □□ 参照ページ
- **参考** ▶▶ 参考になるページなど
- ファインダー
ビューファインダーのこと
- 画面
ファインダーまたはLCDモニターの画面のこと
- バッテリー
付属または別売のバッテリーパックのこと
- ACアダプター
コンパクトパワーアダプターのこと
- SDカード
SD / SDHC / SDXCメモリーカードのこと
- カード
SDカードのこと
- カメラモード
動画撮影モードのこと
- メディアモード
再生モードのこと
- アクセスランプ
SDカードアクセスランプのこと
- Multi-Camera Control
Canon Multi-Camera Controlのこと
- 撮影用の機能は、とくに記載がないかぎりカメラモードで使用します。
- 本書で使用している作例写真は、スチルカメラで撮影したものです。
- 本書では開発中の画面を使用して説明しています。そのため、実際の製品とは異なることがあります。
- 本書では、見やすくするために加工した画面を一部使用しています。

商品を確認する

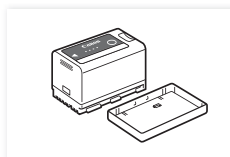
XF605には、次のものが付属しています。ご使用になる前に足りないものはないか確認してください。また、別売のアクセサリーについては、「アクセサリー紹介」(P.220)をご覧ください。以降、本書中では、特に必要な場合を除いて、付属品／別売品の記載を行いません。



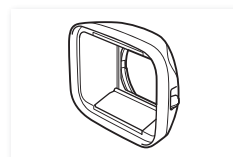
コンパクトパワーアダプター
CA-CP200 L



バッテリーチャージャー
CG-A20



バッテリーパック BP-A30



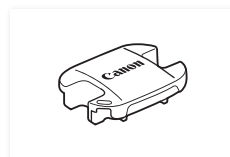
バリア付きレンズフード



マイクホルダーと取り付けネジ
(M4: 2個)



マルチアクセサリー
シューカバー



ファインダーキャップ



レンズキャップ



アイカップ



クイックガイド

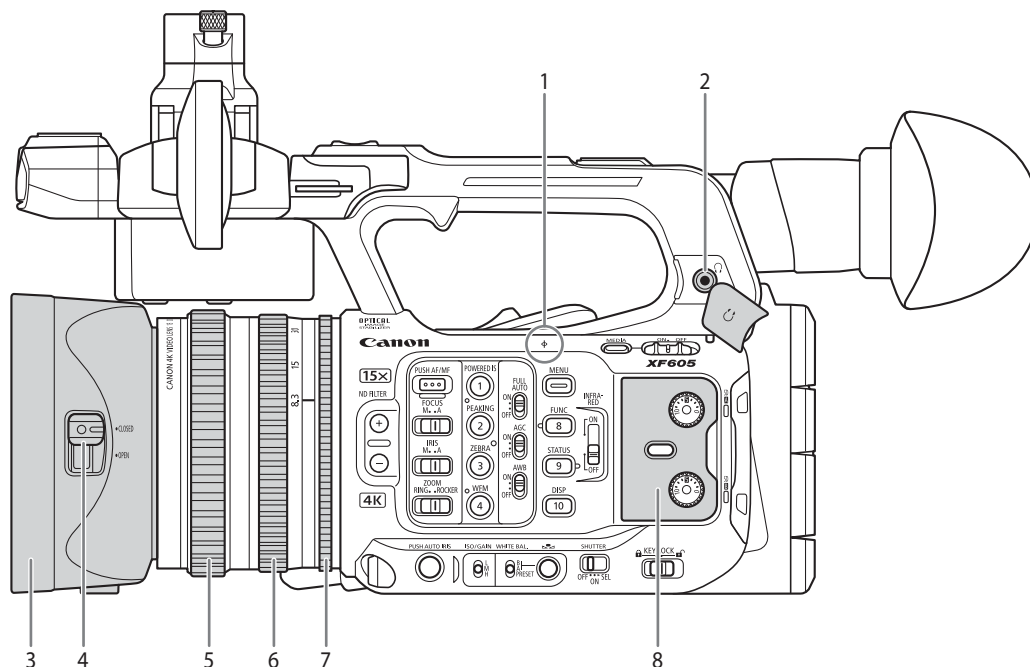
ご注意

- 同梱のコンパクトパワーアダプターと電源コードは、他の機器には使用しないでください。故障の原因となります。

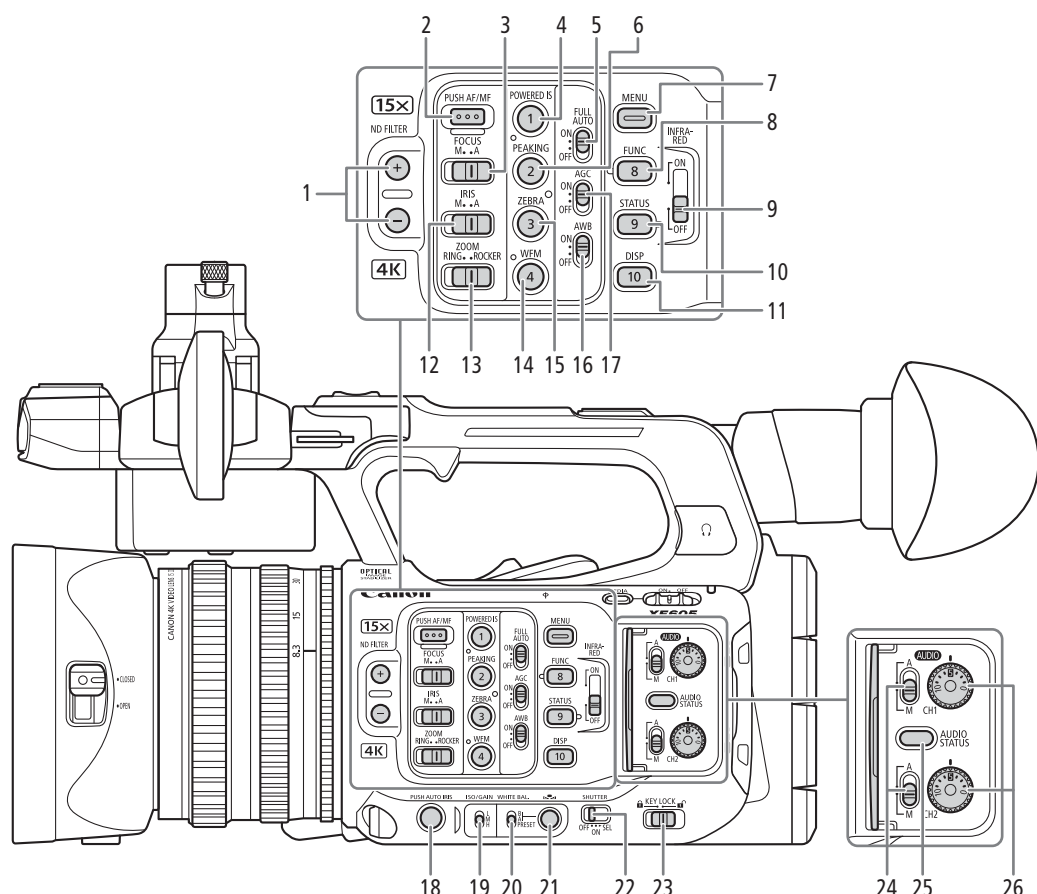
各部の名称

各部の機能と使いかたについては、▶ ㊦に記載されているページをご覧ください。なお、番号が付いているボタンはアサインボタンです (㊦ 109)。

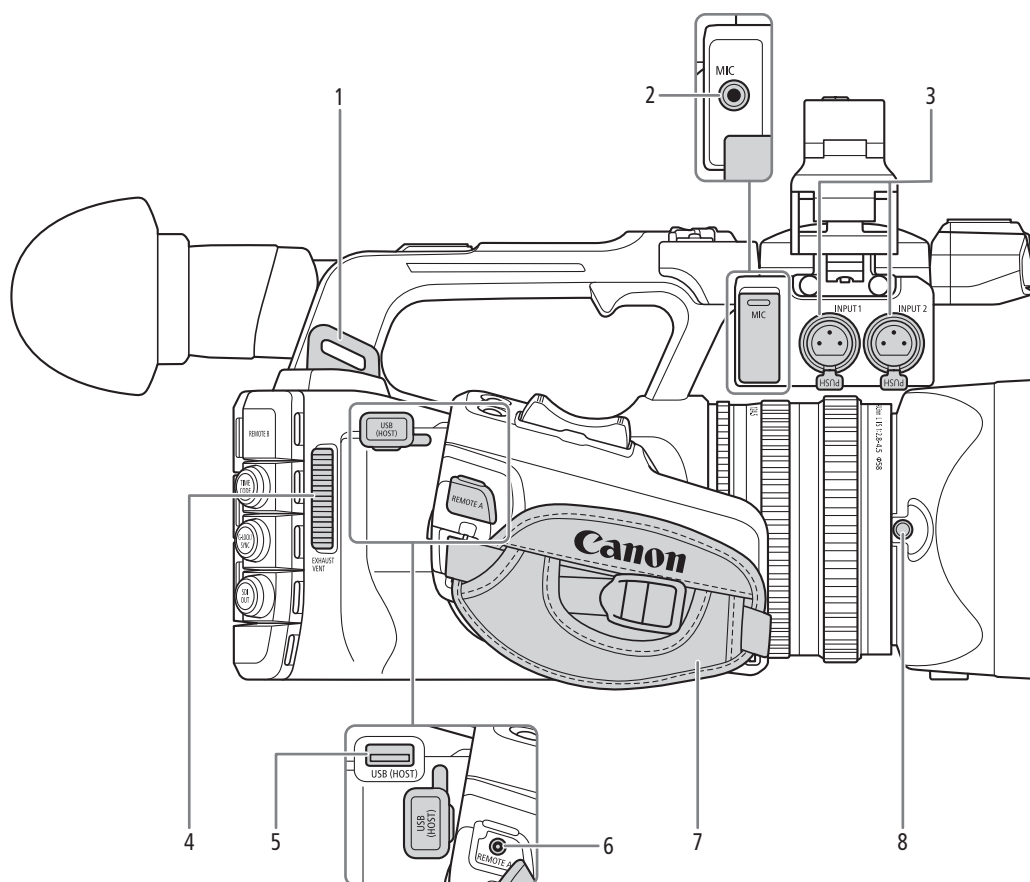
本体



- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 撮像面マーク | 5 フォーカスリング ▶ ㊦ 71 |
| 2 ㊦ (ヘッドホン) 端子 ▶ ㊦ 92 | 6 ズームリング ▶ ㊦ 68 |
| 3 レンズフード ▶ ㊦ 23 | 7 アイリスリング ▶ ㊦ 61 |
| 4 レンズバリア開閉レバー ▶ ㊦ 36 | 8 オーディオ操作カバー ▶ ㊦ 90 |

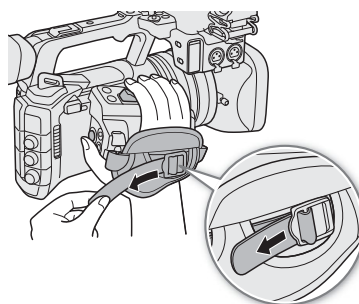


- | | |
|---|---|
| 1 ND FILTER (ND フィルター) 切り換え+/-ボタン
▶▶ 59 | 14 WFM (波形モニター) /アサイン4ボタン
▶▶ 94、109 |
| 2 PUSH AF/MF (プッシュ AF/MF) ボタン
▶▶ 74 | 15 ZEBRA (ゼブラ) /アサイン3ボタン ▶▶ 81、109 |
| 3 FOCUS (フォーカス) スイッチ ▶▶ 71 | 16 AWB (オートホワイトバランス) スイッチ
▶▶ 64 |
| 4 POWERED IS (パワードIS) /アサイン1ボタン
▶▶ 78、109 | 17 AGC (オートゲインコントロール) スイッチ
▶▶ 56 |
| 5 FULL AUTO (フルオート) スイッチ ▶▶ 37 | 18 PUSH AUTO IRIS (プッシュオートアイリス) ボタン
▶▶ 60 |
| 6 PEAKING (ピーキング) /アサイン2ボタン
▶▶ 73、109 | 19 ISO/GAIN (ISO感度/ゲイン) スイッチ ▶▶ 57 |
| 7 MENU (メニュー) ボタン ▶▶ 20 | 20 WHITE BAL. (ホワイトバランス) スイッチ
▶▶ 63 |
| 8 FUNC (ファンクション) /アサイン8ボタン
▶▶ 46、109 | 21 ☑ (ホワイトバランスセット) ボタン ▶▶ 64 |
| 9 INFRARED (赤外線撮影) 切り換えスイッチ
▶▶ 105 | 22 SHUTTER (シャッター) スイッチ ▶▶ 54 |
| 10 STATUS (ステータス表示) /アサイン9ボタン
▶▶ 192、109 | 23 KEY LOCK (キーロック) スイッチ ▶▶ 12 |
| 11 DISP (ディスプレイ) /アサイン10ボタン
▶▶ 38、109 | 24 AUDIO (録音レベル) 切り換えスイッチ (CH1 / CH2) ▶▶ 90 |
| 12 IRIS (アイリス) スイッチ ▶▶ 60 | 25 AUDIO STATUS (オーディオステータス) ボタン
▶▶ 197 |
| 13 ZOOM (ズーム) スイッチ ▶▶ 67 | 26 AUDIO (録音レベル) 調整つまみ (CH1 / CH2)
▶▶ 90 |

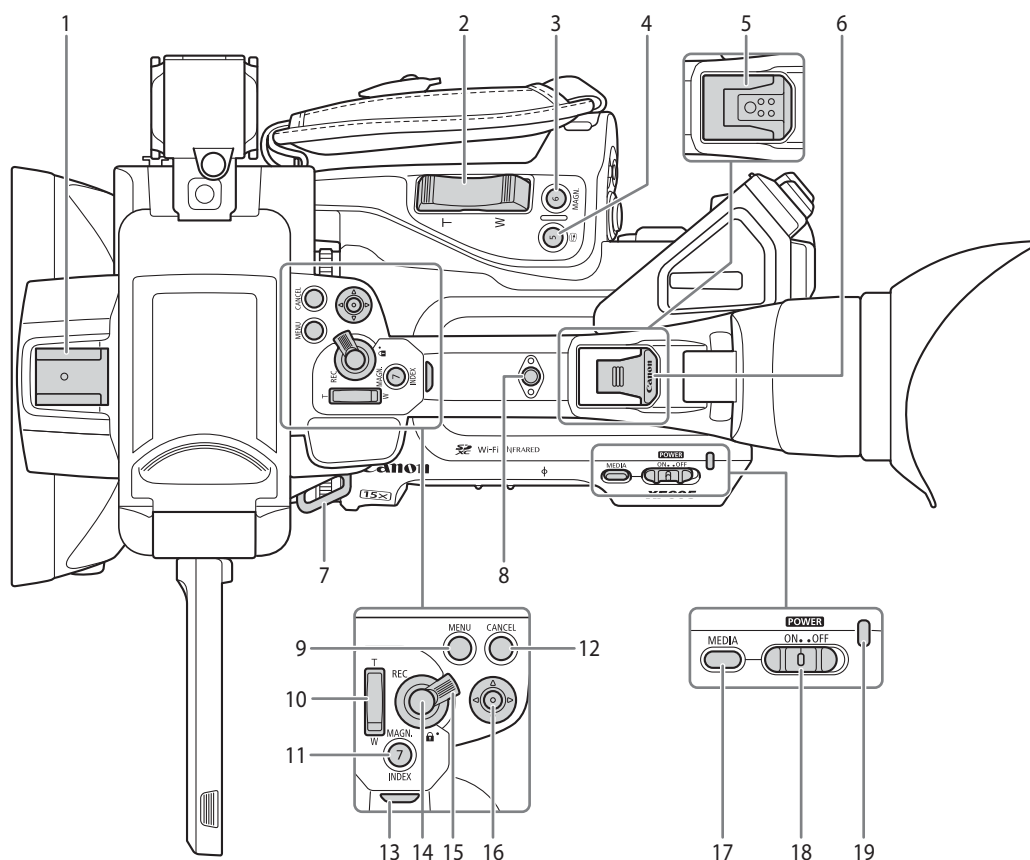


- 1 ストラップ取り付け部
- 2 **MIC** (マイク) 端子 ▶▶ 88
- 3 **INPUT 1** / **INPUT 2**端子 (XLR) ▶▶ 88
- 4 **EXHAUST VENT** (排気口) ▶▶ 35
- 5 **USB (HOST)** (USBホスト) 端子
 - 将来の機能拡張用。
- 6 **REMOTE A** (リモートA) 端子 ▶▶ 106
 - リモートコントローラー RC-V100 (別売) または市販のリモコンを接続する。

- 7 グリップベルト



- 8 レンズフード固定ネジ ▶▶ 23



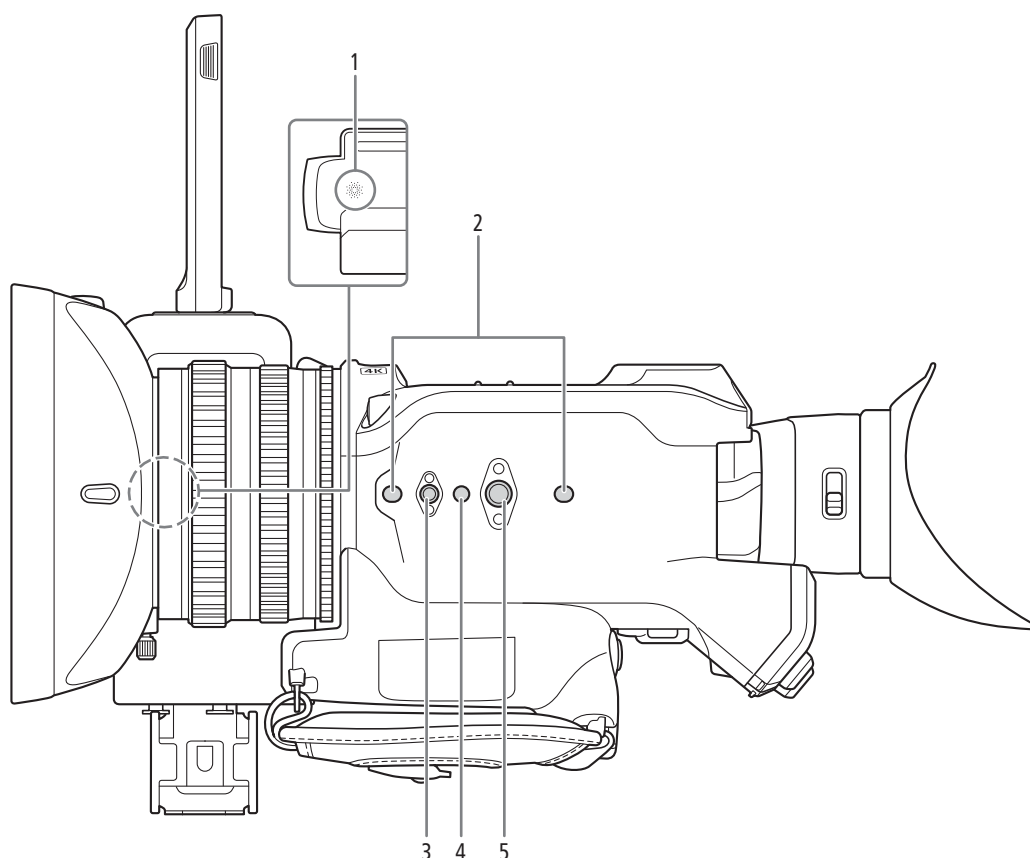
- 1 アクセサリーシュー
- 2 グリップズームロッカー ▶ 68
- 3 **MAGN.** (拡大) /アサイン6ボタン ▶ 73、109
- 4 **⏮** (レックレビュー) /アサイン5ボタン ▶ 44、109
- 5 マルチアクセサリーシュー ▶ 25

ご注意

- ネジの付いているアクセサリーを使用すると、マルチアクセサリーシューを破損することがあります。

- 6 マルチアクセサリーシューカバー ▶ 25
- 7 ストラップ取り付け部
- 8 1/4インチハンドルネジ穴 (1/4-20/深さ7.5 mm)
• 市販のアクセサリーを取り付け可能
- 9 **MENU** (メニュー) ボタン ▶ 20
- 10 ハンドルズームロッカー ▶ 69

- 11 **MAGN.** (拡大) / **INDEX** (インデックス) /アサイン7ボタン ▶ 73、125、109
- 12 **CANCEL** (キャンセル) ボタン ▶ 20
- 13 後部タリールンプ ▶ 36
- 14 **REC** (記録開始/停止) ボタン ▶ 36
- 15 ロックレバー ▶ 12
- 16 ジョイスティック ▶ 20
 - 上下左右の全4方向の移動操作と、垂直に押し込む決定操作が可能。
- 17 **MEDIA** (メディア) ボタン ▶ 124
 - カメラモードとメディアモードを切り換える。
- 18 **POWER** (電源) スイッチ ▶ 36
ON: カメラモードで起動
OFF: 電源OFF
• 電源ONで電源ランプが緑色に点灯し、電源OFFで消灯する。
- 19 電源ランプ



- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1 内蔵スピーカー
• LCDモニター収納部の底面に配置。 | 3 1/4 インチネジ穴 (1/4-20 / 深さ7.5mm) |
| 2 1/4インチネジ径三脚回転止め穴 (深さ5 mm。2個) | 4 3/8インチネジ径三脚回転止め穴 (深さ5.5 mm) |
| | 5 3/8 インチネジ穴 (3/8-16 / 深さ10mm) |

ご注意

- ネジの長さがネジ穴の深さを超える三脚などのアクセサリーを使用すると、カメラ本体を破損することがあります。
- 1か所の三脚補助用ネジ穴を使って三脚を使用すると、カメラ本体を破損することがあります。

誤操作を防止する (キーロック)

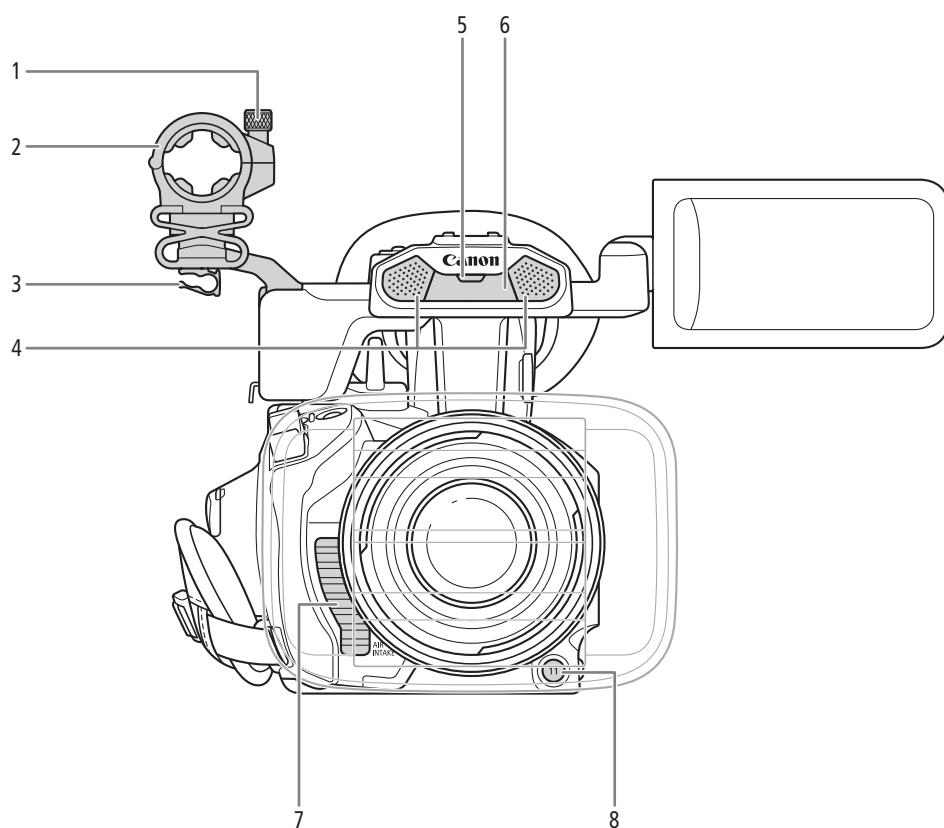
ロックレバー (☐ 11) やKEYLOCK (キーロック) スイッチを  (キーロック) にすると、次の操作以外は無効になり、誤操作を防止できます。

- INFRARED (赤外撮影) 切り換えスイッチ
- RECボタン*
- レンズの各リング (フォーカス、ズーム、アイリス)

ロックレバーやKEYLOCKスイッチを  に戻すとキーロックは解除されます。

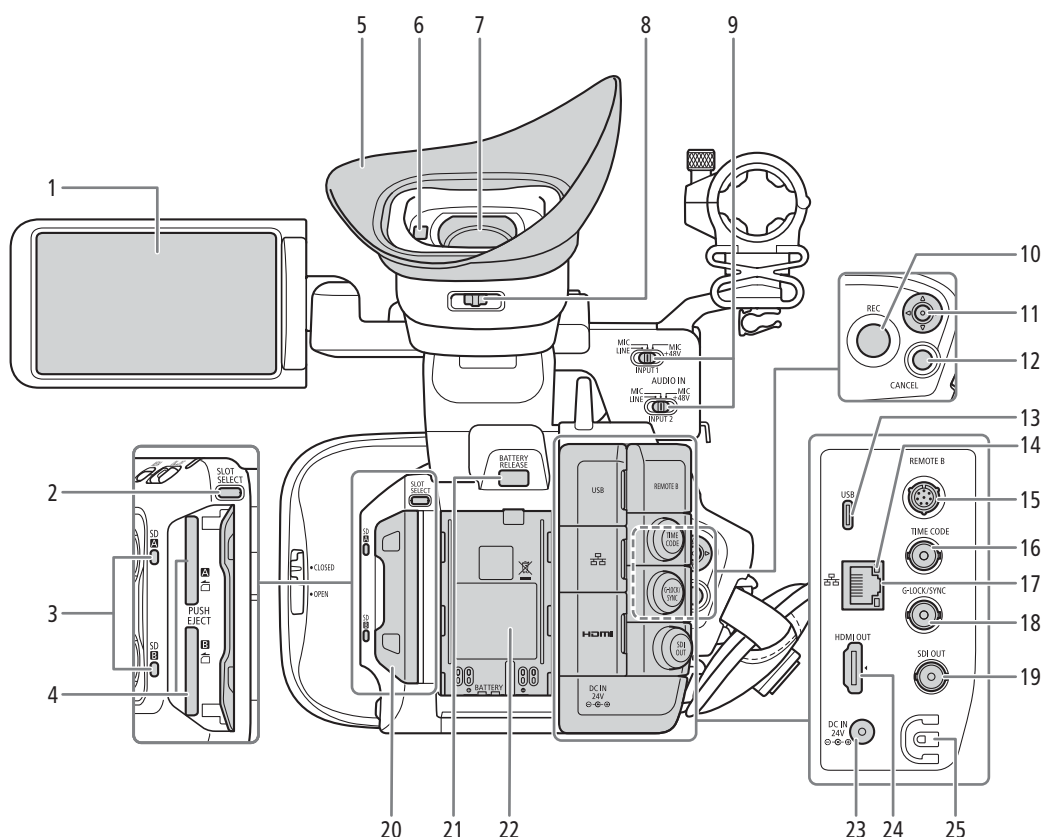
キーロックで本機の操作を無効にしているときでも、各種コントローラー (☐ 106、175) やブラウザーリモート (☐ 170)、リモートカメラコントロールアプリ (☐ 175)、Multi-Camera Control (☐ 176) からは操作できます。

* RECボタンを無効にすることもできる (☐ 190)。



- 1 外部マイク固定ネジ ▶▶ 88
- 2 外部マイクホルダー ▶▶ 88
- 3 ケーブルクランプ ▶▶ 88
- 4 内蔵マイク ▶▶ 86

- 5 前部タリーランプ ▶▶ 36
- 6 赤外ライト ▶▶ 105
- 7 **AIR INTAKE** (吸気口) ▶▶ 35
- 8 アサイン**11**ボタン ▶▶ 109



- | | |
|---|---|
| 1 LCDモニター ▶▶ 18 | 14 イーサネットアクセスランプ ▶▶ 153 |
| 2 SLOT SELECT (スロット選択) ボタン ▶▶ 28 | 15 REMOTE B (リモートB) 端子 ▶▶ 106 |
| 3 SDカードアクセスランプ (SD A / SD B) ▶▶ 27 | <ul style="list-style-type: none"> リモートコントローラー RC-V100または市販のリモコンを接続する。 |
| 4 SDカードスロット (SD A / SD B) ▶▶ 27 | 16 TIME CODE 端子 ▶▶ 84 |
| 5 アイカップ ▶▶ 25 | 17 品(イーサネット) 端子 ▶▶ 153 |
| 6 アイセンサー ▶▶ 24 | 18 G-LOCK/SYNC 端子 ▶▶ 84 |
| 7 ファインダー ▶▶ 24 | 19 SDI OUT 端子 ▶▶ 138 |
| 8 視度調整レバー ▶▶ 24 | 20 メモリーカードカバー ▶▶ 27 |
| 9 INPUT 1 / INPUT 2 端子入力切り換えスイッチ ▶▶ 88 | 21 BATTERY RELEASE (バッテリー取り外し) ボタン ▶▶ 16 |
| 10 REC (記録開始/停止) ボタン ▶▶ 36 | 22 バッテリー装着部 ▶▶ 16 |
| 11 ジョイスティック ▶▶ 20 | 23 DC IN 端子 ▶▶ 17 |
| <ul style="list-style-type: none"> 上下左右の全4方向の移動操作と、垂直に押し込む決定操作が可能。 | 24 HDMI OUT 端子 ▶▶ 139 |
| 12 CANCEL (キャンセル) ボタン ▶▶ 20 | 25 DCケーブルの抜け防止部 ▶▶ 17 |
| 13 USB 端子 (Type-C) ▶▶ 108、149 | |

端子カバーを取り外す/取り付ける

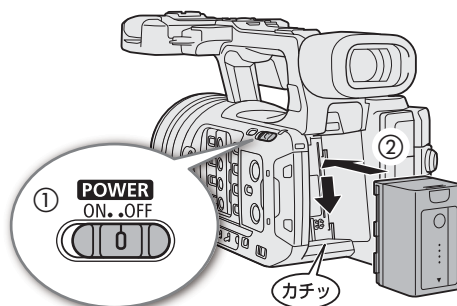
本機の端子カバーは、簡単に取り外すことができます。端子カバーを取り外すときは、端子カバーを開けて、まっすぐに引き出します。端子カバーを取り付けるときは、端子カバーの取り付け部を取り付け口に差し込みます。端子カバーの取り付け部がつかみにくいときは、ピンセットなど先の細いものを使用してください。

15

- バッテリーは、充放電を繰り返すと少しずつ劣化して容量が少なくなります。本機に取り付けたバッテリーの寿命は、システム設定ステータス画面（ 198）で確認できます。寿命をより正確に確認するには、バッテリーを充電してから使い切ってください。

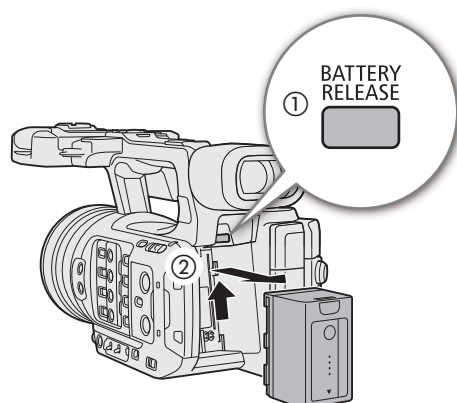
本体に取り付ける

- 1 本機の電源を切る（①）
- 2 バッテリーを図のように奥に押し付けながら、カチッと音がするまで下にスライドさせる（②）



本体から取り外す

- 1 本機の電源を切る
- 2 BATTERY RELEASE（バッテリー取り外し）ボタンを押しながら（①）、バッテリーを上へスライドさせて、バッテリーを取り出す（②）



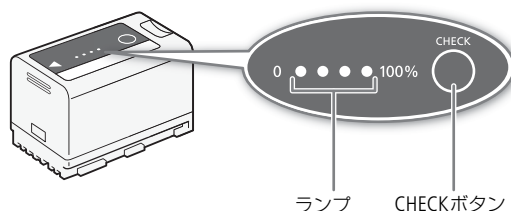
残量を確認する

BP-A30 / BP-A60は、バッテリー上のボタンを押して残量（目安）を確認できます。また、本機に取り付けて電源を入れたあとは、カメラモード／メディアモードの各画面表示やシステム設定ステータス画面（ 198）で、分単位の残量（目安）を確認することもできます。

バッテリー上のCHECKボタンを押す

- 約3秒間ランプが点灯してバッテリーパックの残量（目安）を確認できる。

   	0～25%
   	26～50%
   	51～75%
   	76～100%



MEMO

- 画面の電源供給状態（分）と、システム設定ステータス画面やバッテリーのランプで表示されるバッテリー残量は、一致しないことがあります。
- LCDモニターを明るくしていると、バッテリー使用時間が少し短くなることがあります。
- 低温下で使用すると、使用時間が短くなります。
- カメラの消費電力は、撮影のしかたによって変化します。そのため、バッテリーパックの実際の使用時間は、表記の時間より短くなることがあります。撮影時には、予定撮影時間の2～3倍のバッテリーパックを用意することをおすすめします。

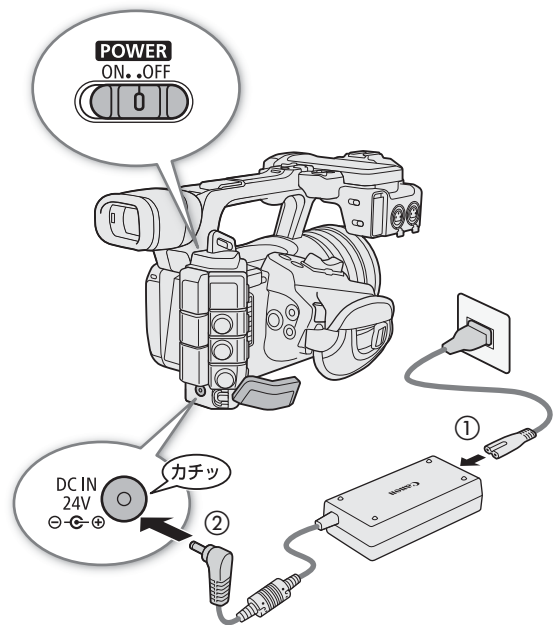
コンセントにつないで使う

コンパクトパワーアダプター（ACアダプター）CA-CP200 Lを使って、本機をコンセントにつないで使用できます。コンセントにつなぐと、電源を入れたままバッテリーを交換することもできます。

- 1 コンパクトパワーアダプターに電源コードを差し込み、電源プラグをコンセントに差し込む (①)
- 2 DC IN端子にDCプラグを接続する (②)

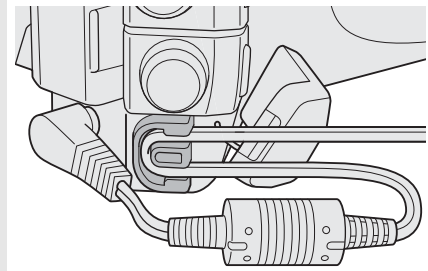
ご注意

- コンパクトパワーアダプター（ACアダプター）を抜き差しするときは、必ず本機の電源を切ってください。
- 故障の原因となりますので、コンパクトパワーアダプターを固定して使用しないでください。



DCプラグの抜け止めを行う

底面の抜け止め部にDCケーブルを図のように通しておくと、不意にDCプラグが抜けるのを防止できます。



電源の電圧を確認する

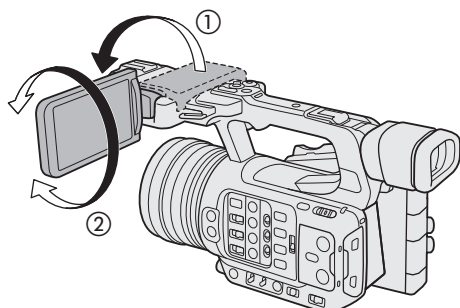
電源の電圧は、画面表示 (38) で確認できます。**MENU** > システム設定 > 「DC IN警告(V)」を設定しておくで、DC IN端子の電圧によって警告を通知します。DC IN端子の電圧が設定値に達したときは、画面の電圧表示を赤色にしたり、警告を表示したりすることができます。

MEMO

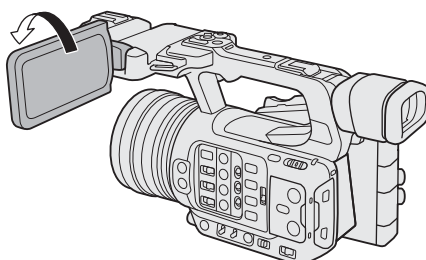
- 電源の電圧が、電源警告 (191) の設定値以下になると、記録開始しません。また、撮影中に電源の電圧が本機の動作に必要な電圧以下になったときは、記録を停止して、本機の電源が切れます。

LCDモニターを使う

LCDモニターの使いかたを説明します。LCDモニターは下図のように向きを調整して使用できるほか、明るさやコントラストなどの画質設定を行うこともできます。また、タッチパネルを搭載しているため、タッチ操作で被写体を選んだり、ダイレクトタッチコントロールで設定を行ったりすることができます。



LCD モニターを開き (①)、見やすい角度に調整する (②)



画面を被写体側に向けることも可能

MEMO

- LCDモニターは、明るさ、コントラスト、カラー、シャープネス、輝度の各項目を、**MENU > [] モニタリング設定** メニュー (184) で変更できます。なお、この設定は記録される映像には影響しません。
- カメラモードの場合、**MENU > [] モニタリング設定 > 「白黒: LCD」** で画面の映像を白黒に変更できます。なお、アイコンなどの画面表示 (38) はカラーで表示されます。
- LCDモニターのタッチパネルの応答性は、**MENU > [] システム設定 > 「タッチ操作レスポンス」** で変更できます。
- LCDモニターの画面を相手に見せながら撮影するときなどは、**MENU > [] モニタリング設定 > 「LCD対面ミラー」** を「入」にすると、画面を左右に反転して表示させることができます。
- LCDモニターの取り扱いについては217ページを、お手入れについては219ページをご覧ください。

日時を設定する

初めて電源を入れたときや本機をリセットした後は、日付と時刻の設定が必要です。設定操作に使うボタンなどの使いかたを、「メニューで設定を変える」(□ 20) の図で確認して、設定してください。



1 ジョイスティックでタイムゾーン*を選び、ジョイスティックを垂直に押し決定する

- カーソルが次の項目に移動する。
- 画面の▲／▼をタッチして設定値を選ぶこともできる。
- ジョイスティックを左右に押す、または画面の各項目をタッチしても、カーソルを移動できる。

* 協定世界時 (UTC)

2 1の操作を繰り返して、日付と時刻を設定する

3 カーソルが一番右の「セット」にある状態で、時報に合わせてジョイスティックを垂直に押す

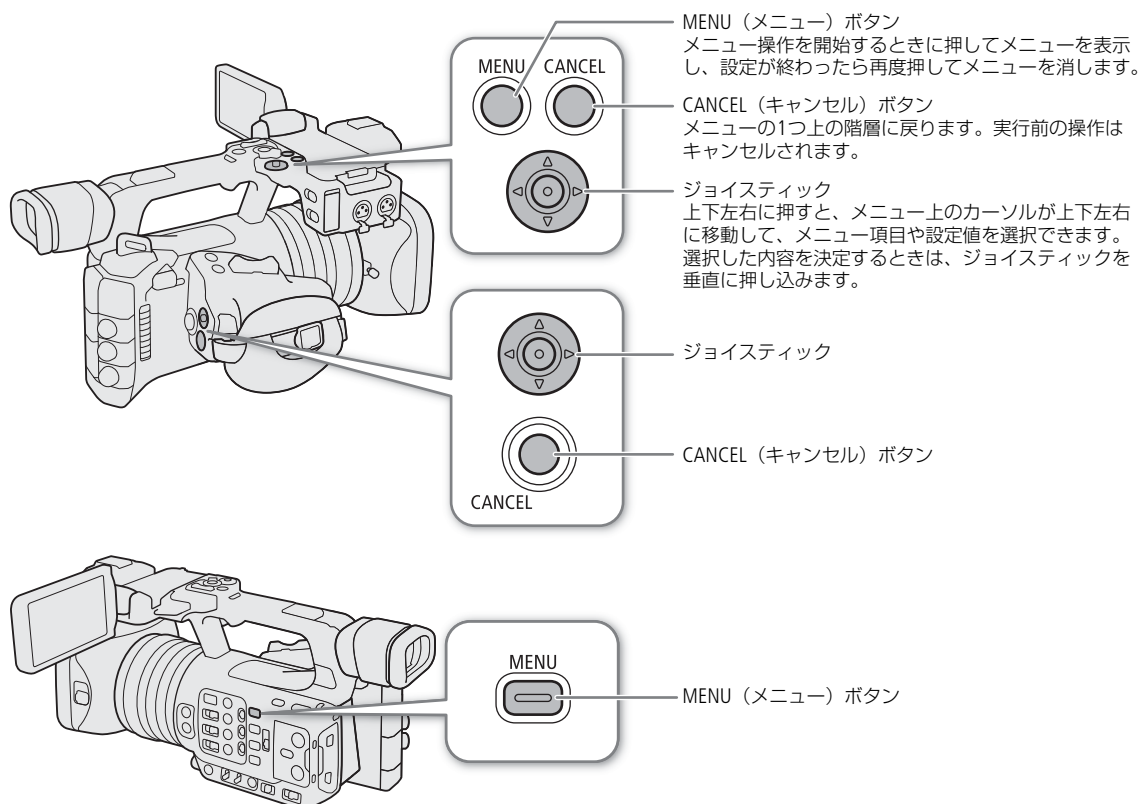
- 時報に合わせて画面の「セット」をタッチして決定することもできる。

MEMO

- **MENU** > モニタリング設定 > 「Custom Display 2」または「Custom Display」 > 「日付/時刻」で、画面に日時を表示できます。
- 設定は、**MENU** > システム設定 > 「タイムゾーン」または「日付/時刻」で変更できます。
- 本機を3ヶ月近く使わないと、内蔵の充電式リチウム電池が放電して日時の設定が解除されることがあります。そのときは、内蔵のリチウム電池を充電してから設定し直してください (□ 218)。
- GPSレシーバー GP-E2を使用すると、GPSから得られる時刻情報を本機に自動で設定できます (□ 191)。

メニューで設定を変える

本機のさまざまな機能をメニューによって設定できます。また、よく使うメニュー項目をあらかじめマイメニューに登録して設定することもできます。メニューの設定項目については「メニュー一覧」(P 179)をご覧ください。



メニュー操作の基本

ここではメニュー設定の基本操作について説明します。本書の各項目で説明されているメニュー設定を操作するときの参考にしてください。

1 MENUボタンを押す

- 画面にメニューが表示され、いずれかのメニューアイコンが選択状態（オレンジ色）になる。
- メニューアイコンが選択状態になっていないときは、ジョイスティックを上を押すか、CANCELを押して、アイコンの背景をオレンジ色にする。
- メニューは、最後にメニューを消した時の状態が保持されたまま、表示される（電源をOFF/ONすると初期状態に戻る）。

2 ジョイスティックを左右に押して、設定するメニューを選ぶ

- メニューアイコンをタッチして選ぶこともできる。

3 ジョイスティックを垂直に押して、設定するメニューを決定する

- 選んだメニューの先頭ページの先頭項目にカーソルが移動する。
- ジョイスティックを下に押して、カーソルをメニュー項目に移動することもできる。
- ページやメニュー項目をタッチして移動することもできる。
- 以降、この決定操作を「SETを押す」と記載する。

4 設定するメニュー項目を選び、SETを押す

- 左右に押すとページが切り換わり、ページの端を超えると次または前のメニューに移動する。画面を左右にフリックしてページを切り換えることもできる。
- 上下に押すとページ内のメニュー項目上をカーソルが移動する。画面のメニュー項目を上下にドラッグしても、カーソルを移動できる。また、設定するメニュー項目のところで指を離して選ぶこともできる。
- ページの端を超えると、次または前のメニューに移動する。

5 ジョイスティックを上下に押して設定内容を選び、SETを押す

- 選択中は現在選んでいる設定内容に▶が表示される。SETを押すと決定され、上の階層に戻る。
- 表示しきれないメニュー項目があるときは、メニューの右端にスクロールバーが表示される。カーソルを上下に移動するとメニューがスクロールする。
- 画面の設定内容をタッチして決定することもできる。
- 「CANCELボタンを押す」*、「を選んでSETを押す」のいずれかを行うと、カーソルが1つ上の階層に戻る。
* 以降、この操作を「CANCELを押す」と記載する。

6 MENUボタンを押してメニューを消す

- MENUボタンを押すと、メニューはいつでも終了する。

MEMO

メニュー階層の表記のしかた

操作説明中のメニュー階層は次のように表記します。

例：MENU >  システム設定 > 「日時スタイル」> いずれかを選ぶ

「～を選ぶ」は、「ジョイスティックを上下左右に押して対象を選び、SETを押す」または「画面をタッチして対象を選ぶ」操作を示す。

- 他の機能の設定内容などによって設定できない項目は、灰色で表示されることがあります。
- 操作ガイドとして画面に[SET]、[CANCEL]、[MENU]が表示されることがあります。このときはガイドに応じて、それぞれ、ジョイスティックやCANCELボタン、MENUボタンを押す、または画面のガイドをタッチしてください。
- リモートコントローラー RC-V100を使用しているときは、RC-V100の上／下／左／右／SET（設定）ボタンがジョイスティックと同様に機能します。SET（設定）ボタンは、ジョイスティックを垂直に押す操作と同じで、選択した内容を決定するときに使用します。
- 現在の設定内容の一部を、ステータス画面で確認できます（ 192）。

マイメニューを使う

カメラモードでよく使うメニュー項目をあらかじめマイメニューに登録しておき、必要なときに簡単に設定することができます。マイメニューは、1ページにメニュー項目を6個、全5セット（ページ）登録できるので、用途に応じて使い分けることができます。アサインボタン（ 109）にマイメニューを割り当てておけば、1ボタン操作でマイメニューを開くこともできます。

マイメニューに登録する

1 MENU > ★ マイメニュー > ページ番号 > 「編集」> 「登録」を選ぶ

- マイメニューに登録するメニュー項目を選ぶ画面が表示される。
- 登録を中止するときは、CANCELを押す。

2 メニュー項目を選ぶ

3 「OK」を選ぶ

- 登録したメニュー項目がマイメニューに表示される。

登録したメニュー項目を並べ換える

1 MENU > ★ マイメニュー > ページ番号 > 「編集」> 「並べ換え」を選ぶ

2 並び換えるメニュー項目を選ぶ

- 選んだメニュー項目の左に◆が表示される。

3 メニュー項目を移動して、SETを押す

登録したメニュー項目を消去する

1 MENU > ★ マイメニュー > ページ番号 > 「編集」 > 「消去」を選ぶ

2 消去するメニュー項目を選び、「OK」を選ぶ

登録したメニュー項目をすべて消去する

現在選択しているマイメニューに登録したメニュー項目をすべて消去できます。

MENU > ★ マイメニュー > ページ番号 > 「編集」 > 「設定初期化」 > 「OK」を選ぶ

マイメニューの名前を変更する

5セットのマイメニューにそれぞれ名前を付けておくと、マイメニューを識別するときに便利です。

1 MENU > ★ マイメニュー > ページ番号 > 「編集」 > 「メニュー名変更」を選ぶ

2 8桁の任意の英数字記号を入力する

文字入力のしかた

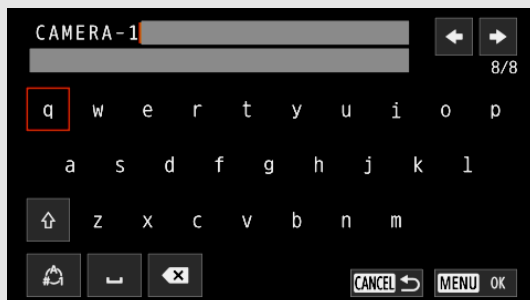
文字を入力するための画面は、キーボード画面と文字入力画面の2つがあります。画面と入力可能な文字は、操作している設定項目によって異なります。

キーボード画面で入力する

1 画面上のキーをタッチして文字を入力する

- 入力した文字が画面上部の入力エリアに表示される。

キー	説明
←/→	入力エリアのカーソル移動
⇧	Shiftキー
🔄/A⇄1	文字種切り換え
␣	Spaceキー
✖	Back Spaceキー



- ジョイスティックで文字を選択し、SETを押して入力することもできる。

2 「OK」をタッチすると入力が確定する

文字選択画面で入力する

入力操作はジョイスティックで行います。

1 文字を選び、SETを押して決定する

- カーソルが次の項目に移動する。
- ジョイスティックを左右に押しても、カーソルを移動できる。
- 画面の▲/▼を押して文字を選んだり、文字を押してカーソルを移動したりすることもできる。
- 同じ要領で残りの文字を入力する。

2 「セット」を選び、SETを押すと入力が確定する

- 画面の「セット」をタッチして入力を確定することもできる。
- 入力を中止するときは、CANCELを押す。



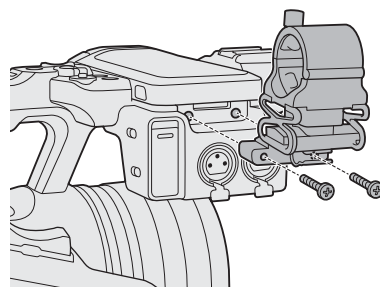
カメラを準備する

ここではマイクホルダーやレンズフードの取り付け、ファインダーの調整など、初めに行うカメラの準備について説明します。

マイクホルダーを取り付ける

ハンドルユニットの右側に取り付ける

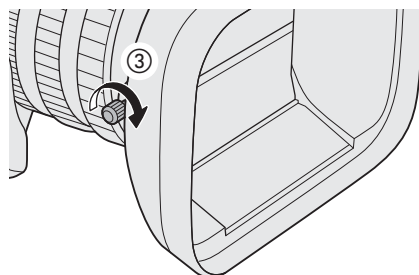
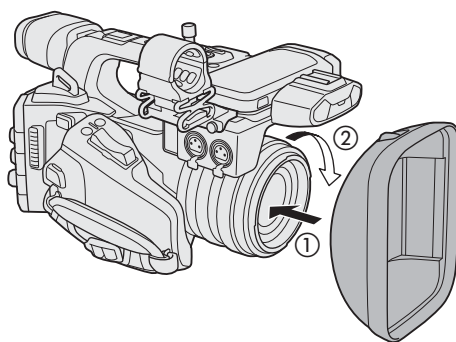
- 1 マイクホルダーをハンドルユニットに取り付ける
- 2 +のドライバー（市販）を使用して、2個のM4ネジで固定する。



レンズフードを取り付ける

撮影時はレンズフードを取り付けてください。ゴーストやフレアなどの低減に効果的です。また、レンズフードのレンズバリアを閉じれば、レンズに指紋などの汚れがつきにくくなります。カメラの持ち運びや保管時は、レンズフードを取り外してレンズキャップをご使用ください。

- 1 レンズキャップを取り外す
 - レンズキャップとレンズフードは、同時に使用できない。
- 2 レンズ先端部に、固定ネジを下にしてフードをはめ込み（①）、時計方向に回す（②）
 - フードの先端を軽く持って取り付ける。強く握ると変形して、取り付け／取り外しにくくなる。
 - レンズフードはまっすぐ、斜めにならないように取り付ける。
- 3 固定ネジでフードを固定する（③）



レンズの回折を補正する

映像の先鋭さが低下する現象（回折）を補正することができます。

- 1 本機をカメラモードで起動する
- 2 MENU >  カメラ設定 > 「回折補正」 > 「入」を選ぶ
 - 以降の撮影時に補正を行う。

ファインダーを使う

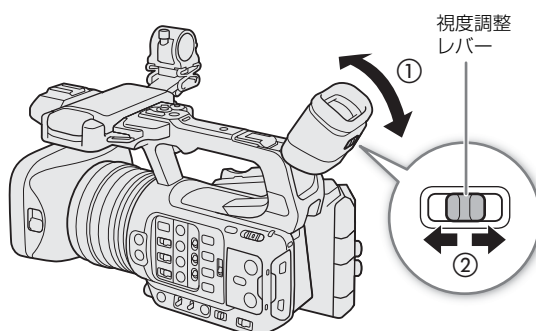
本機のファインダーは有機ELパネルを採用しており、ファインダーをのぞくと自動的に点灯し、のぞくのをやめると自動的に消灯します。

ファインダーの角度と視度を調整する

- 1 ファインダーを見やすい角度に調整する (①)
- 2 本機の電源を入れて、視度調整レバーを左右に動かして調整する (②)

MEMO

- ファインダーは、明るさ、コントラスト、カラー、シャープネス、輝度の各項目を、MENU >  モニタリング設定メニュー (□ 184) で変更できます。なお、この設定は記録される映像には影響しません。
- カメラモードの場合、MENU >  モニタリング設定 > 「白黒: VF」で画面の映像を白黒に変更できます。なお、アイコンなどの画面表示 (□ 38) はカラーで表示されます。
- ファインダーを常に点灯させるには、MENU >  モニタリング設定 > 「VFアイセンサー」 (□ 185) を「切」にします。



ファインダーの映像の揺れを軽減する

設定しているフレームレートが低い場合、カメラを左右に動かすと、ファインダーの映像が揺れることがあります。このようなファインダーの映像の揺れを低減できます。

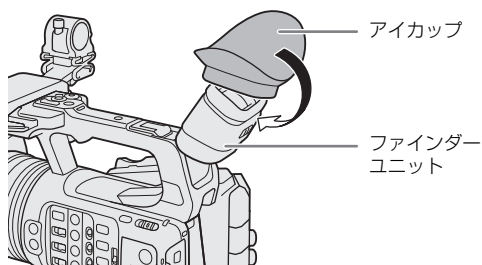
MENU >  モニタリング設定 > 「VF倍速駆動」 > 「入」にする

MEMO

- 次の場合は「VF倍速駆動」を使用できません。
 - 記録モードが通常記録またはプレ記録以外のとき。
 - フレームレートが29.97P/25.00P/23.98P以外のとき。
 - メディアモードのとき。
- 撮影しているとき（画面に「●REC」が表示中）は、「VF倍速駆動」の設定を変更できません。

アイカップを取り付ける

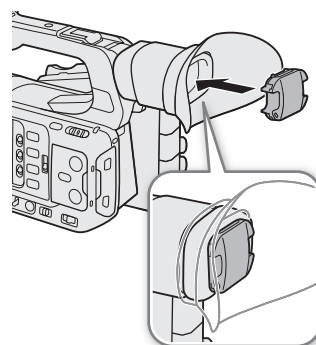
ファインダーユニットのゴム部分にアイカップをかぶせるようにして取り付けます。なお、左目でファインダーを見るときはアイカップを逆向きに取り付けてください。



ご注意

ファインダーキャップを取り付けてファインダー内部を保護する

太陽光によってファインダー内部が破損するのを防ぐため、ファインダーを使用しないときはファインダーキャップを取り付けてください。ファインダー内のキズ／ゴミの防止にも有効です。取り付けるときは、ファインダーユニットのゴム部分の内側にはめ込んでください。

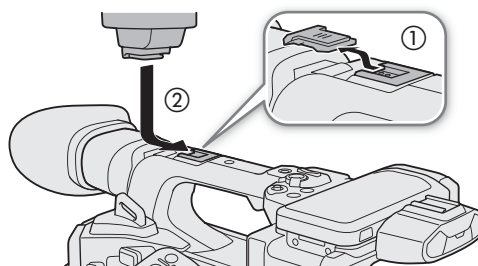


マルチアクセサリースュー対応アクセサリーを取り付ける

アクセサリーの取り付けや使いかたの詳細については、お使いのアクセサリーの説明書をご覧ください。

マルチアクセサリースューカバーを取り外して ①、
アクセサリーの接続端子をマルチアクセサリースュー
に差し込む ②

- マルチアクセサリースュー用の接点で通信を行うアクセサリーを取り付けるときは、アクセサリーの取り付け脚をカチッと音がするまで差し込んでから、取り付け脚ロックレバーをスライドして固定する。



ご注意

マルチアクセサリースューカバーを取り付けて接点を保護する

- マルチアクセサリースューからアクセサリーを取り外したときは、ほこりや水などから接点を保護するため、マルチアクセサリースューカバーを取り付けてください。
- マルチアクセサリースューにごみなどが入ったときは、市販品のブロアーなどを使用して除去してください。
- マルチアクセサリースューに水分が入ったときは、乾くまで放置してください。

MEMO

- 電子ビューファインダー EVF-DC2/EVF-DC1は、マルチアクセサリースューに取り付けることはできません。無理に取り付けるとマルチアクセサリースューおよびアクセサリーが破損するおそれがあります。

記録メディアを準備する

本機では、動画や静止画などの撮影データをSDカード*に記録します。カードスロットは2つあり、2つのスロットのカードへの記録方法を選択できます（□30）。記録メディアを使用するときは、はじめに本機で初期化してください（□27）。

* SDカードは、カスタムピクチャーなどの設定データの保存や読み出しにも使用します。

使用可能な記録メディア

本機で使用可能な記録メディアです。動作確認済みのメモリーカードなどの詳細情報は、キヤノンのホームページなどでご確認ください。

SDカード

メモリーカードのタイプ	 SDメモリーカード、  SDHCメモリーカード、  SDXCメモリーカード
UHSスピードクラス*	U3
ビデオスピードクラス*	V30、V60、V90

* SDカードのデータ記録時の最低速度を保証する規格です。

動画の記録条件と推奨するスピードクラス

動画の記録条件			ビットレート 方式	フレームレート	推奨する スピードクラス
記録モード	記録形式	解像度			
スロー & ファストモーション記録	—	—	—	—	V90
スロー & ファストモーション記録 以外	XF-AVC YCC422 10 bit	3840x2160	Intra	59.94P 50.00P	V90
				上記以外	V60、V90
		1920x1080	L.GOP	—	V60、V90
	MP4(HEVC) YCC422 10 bit	3840x2160	Intra	—	V60、V90
			—	—	V60、V90

ご注意

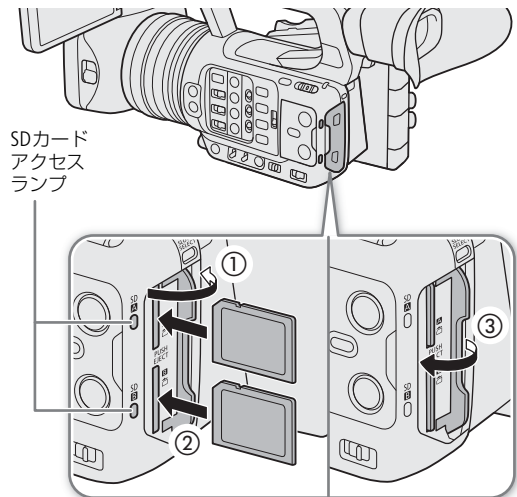
- 撮影や編集を繰り返しているカードの場合、データの書き込み速度が低下し、記録が停止することがあります。あらかじめカードの動画や静止画をバックアップしてから、本機でカードを初期化してください。特に、重要なシーンを記録する前には、本機でカードを初期化してください。
- SDXCメモリーカードを使用するとき：
 - これらのメモリーカードは、exFAT形式で初期化されます。
 - exFAT形式に対応した機器でのみ使用できる。exFAT形式に対応する、レコーダー、パソコン、またはカードリーダー／ライターなどをご使用ください。対応状況については、パソコン、OS、またはカードのメーカーにお問い合わせください。
 - exFAT形式に対応していないOSで使用すると、カードの初期化を促すメッセージが表示されることがある。初期化するとデータが失われますので、キャンセルしてください。

MEMO

- すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

SDカードを入れる／出す

- 1 SDカードアクセスランプが消灯または緑色に点灯していることを確認する
- 2 メモリーカードカバーを開ける (①)
- 3 カードのラベル面を操作ボタン側にして、カードをカチッと音がするまでカードスロットに入れる (②)
 - それぞれのカードスロットにカードを入れると、カードを2枚使うことができる。
 - カードを出すときは、SDカードアクセスランプが消灯していることを確認したあと、カードの端を押して、カードが出てきたら抜く。
- 4 メモリーカードカバーを閉じる (③)
 - カードが正しく入っていない状態で、カバーを無理に閉めない。



SDカードアクセスランプの光りかた

	スロットの状態
点灯 (赤)	カードにアクセス中
点灯 (緑)	記録／再生可能でかつ、スロットが記録／再生先として選択されている
消灯	カードが入っていない、または別のスロットが選択されている

SDカードアクセスランプは、**MENU** > システム設定 > 「SDカードアクセスLED」を「切」にすると点灯しません。

ご注意

- カードには表裏の区別があります。カードを裏返しに入れると、本機に不具合が発生することがあります。カードを入れるイラストを参考にして、正しい向きで入れてください。

カードを初期化する

記録メディアをはじめて使用するときや、記録メディアに記録した動画／静止画などすべての情報を消去するときは初期化します。

- 1 **MENU** > 記録／メディア設定 > 「メディア初期化」を選ぶ
- 2 記録メディアのいずれかを選ぶ
- 3 「OK」を選ぶ
 - 選んだカードが初期化され、すべての情報が消去される。

ご注意

- SD メモリーカードはFAT形式、SDHC メモリーカードはFAT32形式、SDXC メモリーカードはexFAT形式で初期化されます。
- 初期化すると、動画、静止画、プロテクトしたカスタムピクチャーファイルなど、メモリーカード内のすべての情報が消え、元に戻せません。残しておきたいデータがあるときは、バックアップしてから初期化してください。
- SDカードの初期化は、カードによっては数分かかることがあります。

MEMO

- 「メディア初期化」を割り当てたアサインボタンを押して、「メディア初期化」サブメニューを表示することができます（[109](#)）。

ボリュームラベルを設定する

SDXCメモリーカードには、ボリュームラベルを設定できます（カメラモードでXF-AVCクリップを記録するときのみ）。ボリュームラベルを設定しておくと、撮影に使用したカードの識別や管理に便利です。

1 MENU > 記録/メディア設定 > 「ボリュームラベル」> いずれかを選ぶ

Canon：文字列「Canon」

Canon＋メタデータ：文字列「Canon」＋カメラインデックス＋リール番号（[32](#)）

2 カードを初期化する（[27](#)）

3 XF-AVCクリップのファイル名を設定する（[32](#)）

4 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する

- ボリュームラベルは、初期化したカードにはじめてXF-AVCクリップを記録するときに設定される。

使用するカードスロットを切り換える

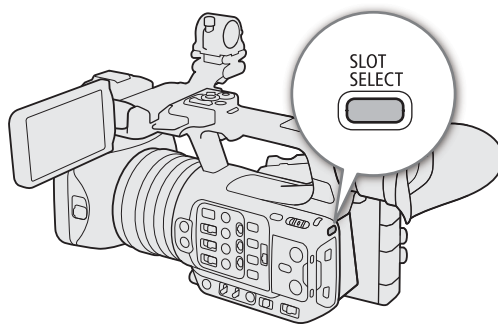
両方のスロットにカードを入れているときは、記録／再生に使うスロットを必要に応じて切り換えることができます。

SLOT SELECT（スロット選択）ボタンを押す

- 選択されたスロットのSDカードアクセスランプが緑色に点灯する。

MEMO

- 記録中または再生中にSLOT SELECTボタンを押しても、スロットは切り換わりません。
- ブラウザーリモートを使って撮影するときは、ブラウザーリモート画面の「SLOT SELECT」を押して切り換えることもできます（[171](#)）。



カードの記録可能時間を確認する

各スロットに入っている記録メディアの記録可能時間（分単位）*と、選択されているスロットを撮影画面で確認できます（[39](#)）。 記録 / メディア設定ステータス画面（[199](#)）を表示すると、各カードの総容量、使用量、記録可能時間、静止画記録可能枚数、スピードクラスを確認できます。

* 記録可能時間は、現在設定している映像の信号形式を元に算出します。

撮影データを修復する

記録中の停電やカードの取り出しなどによって、カードに記録した撮影データ（クリップ、WAVファイル、News Metadata）に異常が発生することがあります。このようなデータは、修復することによって正常な状態に戻すことができます。

1 メディアモードに切り換え、修復する撮影データを含むインデックス画面を表示する（ 124）

2 「？」が表示されているサムネイルにカーソルを合わせる

3 クリップメニュー＞「修復」＞「OK」を選ぶ

- 選んだ撮影データが修復される。

MEMO

- 記録を開始してすぐに、停電やカードの取り出しが発生すると、撮影データが記録されないことがあります。また、撮影データが記録されても、修復によって消去されることがあります。
- 修復を行っても正常な状態に戻らないことがあります。特に、ファイルシステムが壊れているとき、またはカードが物理的に壊れているときは修復できません。
- 修復は、本機で撮影したクリップ／WAVファイル、News Metadataのみ行えます。また、チャンク記録のクリップ（News Metadataを含む）と静止画は修復できません。

動画の記録方法を選ぶ

本機には、記録モードと2つのカードスロットを使ったさまざまな動画記録方法があります。また、記録メディアに記録しながらストリーミング送信することもできます（ 169）。以下ではそれらの概要を紹介します。詳細については、各機能の説明をご覧ください。

記録モード

選択中のカードに記録する動画（メイン動画）の記録方法を選びます。

記録モード	機能	
通常記録	設定した記録信号形式で動画を記録する最も基本的な記録方法。	36
スロー & ファストモーション記録	再生時と異なるフレームレートで記録する記録方法（オーバークラंक、アンダークラंक撮影）。音声（WAV）も記録可能。	100
ブレ記録	記録開始操作より一定時間（3秒）前からの映像／音声を記録する。	102
フレーム記録	あらかじめ設定した記録フレーム数分の映像を記録する。音声は記録されない（ミュート）。	102
インターバル記録	あらかじめ設定した記録間隔と記録フレーム数で間欠的に映像を自動記録する。音声は記録されない（ミュート）。	103
常時記録	2つのカードスロットのうち、カードAは通常記録、カードBは常に記録を行う記録方法。	104

2スロット記録機能

選択中ではないカードに記録する動画の記録方法を選びます。

2スロット記録機能	機能	
プロキシ動画記録	メイン動画をカードAに記録し、同時に、オフライン編集用にデータ量が小さいプロキシ動画をカードBに記録する。プロキシ動画は、メイン動画に関連付いたファイル名で記録する。	50
チャンク記録	メイン動画をカードAに記録し、同時に、自動転送に適した時間ごとに分割した動画（チャンク動画）をカードBに記録する。	51
サブ動画記録	メイン動画をカードAに記録し、同時に、異なる記録信号形式の動画（サブ動画）をカードBに記録する。	52
音声記録	メイン動画をカードAに記録し、同時に、WAVファイル*をカードBに記録する。 * スロー & ファストモーション記録で記録できるWAVファイルとは異なる。	87
リレー記録	撮影中のカードの空き容量がなくなると、自動的にもう一方のスロットに切り換え、連続して記録する。スロットの切り換えは双方向に可能。	—
ダブルスロット記録	メイン動画をもう一つのカードにも同時に記録する。撮影中に映像のバックアップを取ることができる。	—

1 記録モードを選ぶ

- ダイレクトタッチコントロール（ 45）またはMENU >  記録／メディア設定 > 「記録モード」

2 2スロット記録機能を選ぶ

- ダイレクトタッチコントロール（ 45）またはMENU >  記録／メディア設定 > 「2スロット記録機能」

同時に使用可能な動画記録の組み合わせ

		2スロット記録機能					
		切	プロキシ動画 記録／チャンク 記録	サブ動画記録	音声記録	リレー記録	ダブルスロット 記録
記録 モード	通常記録	●	●	●	●	●	●
	スロー & ファスト モーション記録	●	—	—	—	—	—
	プレ記録	●	●	●	—	●	●
	フレーム記録	●	—	—	—	●	●
	インターバル記録	●	—	—	—	●	●
	常時記録	●	—	—	—	—	—

- IPストリーミングを有効にしてネットワークに接続中は、通常記録のみ同時に使用できます。

MEMO

- プロキシ動画記録、チャンク記録、サブ動画記録、音声記録および常時記録が有効のときは、カードスロットの切り換えができません。
- ダブルスロット記録中、記録容量の少ないカードの空き容量がなくなると、両カードへの記録を停止します。なお、一方のカードに書き込みエラーが発生しても、他方のカードへの記録は継続します。

記録するデータのファイル名を設定する

XF-AVCクリップ、MP4クリップ、静止画のファイル名の付け方を設定します。

XF-AVCクリップのファイル名を設定する

カードに記録されるXF-AVCクリップのファイル名を設定します（カメラモードのみ）。以下の設定操作で文字を入力するときは、「文字入力のしかた」（□ 22）をご覧ください。

クリップファイル名の構成

A 0 0 1
C 0 0 1
_ y y m m d d X X
_ C A N O N
_ 0 1 P

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦

	項目	内容
①	カメラインデックス	A～Zの1文字。カメラごとに異なる文字を設定する。
②	リール番号	001～999の3桁の数字。カードごとに異なる番号が自動的に振られる。任意の初期値を指定できる。新しいカード*に交換すると、初回の記録時に番号が1つ繰り上がる。 * 購入または初期化直後のカード。
③	クリップ番号	001～999の3桁の数字で、先頭に「C」が付いてC001～C999となる。999を超えると「C」が「D」に変わり、D001～D999となる。クリップ番号はクリップごとに自動的に振られる。任意の初期値を設定したり、初期値（C001）にリセットしたりすることもできる。 クリップ番号の付けかたは、記録メディアを交換しても連番を振る「通し番号」と、記録メディアの交換後、初回の記録時に「001」にリセットする「オートリセット」の2方式がある。
④	年月日	撮影した年月日が自動的に設定される。
⑤	ランダムID	クリップごとにランダムに付加される、A～Z、0～9からなる2文字。
⑥	ユーザー定義	A～Z、0～9からなる5文字。
⑦	プロキシ、ストリーム番号	プロキシクリップのときに「_Proxy」または「_P」が自動的に付加される（□ 33）。記録先がSD / SDHCメモリーカードのときは、「_Proxy」または「P」の前にストリーム番号（01～99の数字）が付与される。ストリーム番号は、クリップ内の映像ファイル（ストリーム）が分割されると1つ繰り上がる。

- プロキシ動画のクリップ名は、⑦の「_Proxy」または「_P」を除いてメイン動画と同じになる。
- サブ動画のクリップ名は、②を除いてメイン動画と同じになる。
- ダブルスロット記録のクリップ名は、カードA / Bとも同じになる。
- スロー & ファストモーション記録または2スロット記録機能の音声記録のWAVファイルは、⑦と拡張子（.WAV）を除いてメイン動画と同じファイル名となり、カードの「PRIVATE/AUDIO」フォルダーに格納する。

カメラインデックスを設定する

1 MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「カメラインデックス」を選ぶ

2 A～Zのいずれかの文字を選び、「セット」を選ぶ（□ 22）

クリップ番号方式を設定する

MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「クリップ番号方式」> 「オートリセット」または「通し番号」を選ぶ

リール番号／クリップ番号の初期値を設定する

1 MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「リール番号」または「クリップ番号」> 「変更」を選ぶ

- 「リセット」を選ぶと、初期設定（「001」）に戻る。

2 数値を入力する (□ 22)

ユーザー定義を設定する

1 MENU > 記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「ユーザー定義」> 「変更」を選ぶ

- 「リセット」を選ぶと、初期設定（「CANON」）に戻る。

2 文字や数値を入力する (□ 22)

プロキシクリップのファイル名を設定する

プロキシクリップのファイル名の末尾に自動的に付加する文字列を設定します。

MENU > 記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「ストリーム番号／プロキシ」> 「01_Proxy」または「_01P」を選ぶ

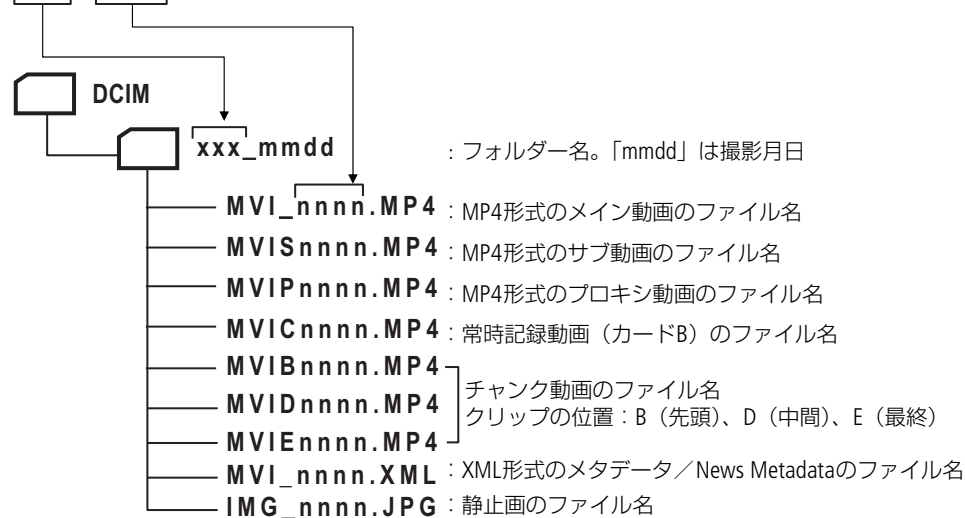
MP4クリップ／静止画番号の付けかたを選ぶ

本機で記録するMP4クリップ／静止画には、連続した番号（MP4クリップ／静止画番号）が自動的に付けられます。MP4クリップ／静止画番号の付けかたはメニューで設定できます。

MP4クリップ／静止画のフォルダー構成とファイル名

MP4クリップ／静止画番号

xxx - nnnn : 「xxx」(100～999) はフォルダー番号。「nnnn」(0001～9999) はファイル固有の番号



- サブ記録では、フォルダー名とファイル固有の番号（「nnnn」）が、カードAとカードBで同じになる。
- ダブルスロット記録では、フォルダー名／ファイル名がカードAとカードBで同じになる。
- スロー & ファストモーション記録のWAVファイルは、メイン動画のファイル名（MVI_nnnn）に「_yyyymmddHHMMSS.WAV」（年月日時分秒）を付加したファイル名となり、カードの「/PRIVATE/AUDIO」フォルダーに格納する。
- 2スロット記録機能の音声記録のWAVファイルは、カードの「/PRIVATE/AUDIO」フォルダーに次のファイル名で格納される。
メイン動画のファイル名（MVI_nnnn） + 「_yyyymmddHHMMSS」 + プロキシ識別子* + 「.WAV」
* メニューの「ストリーム番号／プロキシ」(□ 182) に応じて、「_P」または「_Proxy」となる。
- XML形式のメタデータ／News Metadataのファイル名は、ファイル名の一部（「MVI_」）が「MVIS」や「MVIC」、「MVIP」、「MVIB」、「MVE」になることもある。

MP4クリップ／静止画番号方式を選ぶ

設定値	内容
オートリセット	初期化されたカードに記録する場合、常に100-0001から始まる。カード内にすでにMP4クリップ／静止画が記録されているときは、その続きの番号になる。
通し番号	最後に記録したMP4クリップ／静止画の続き番号から始まる。カード内に記録されているMP4クリップ／静止画番号のほうが大きいときは、その続き番号になる。パソコンで管理するときなどに便利。通常はこの設定をおすすめします。

MENU >  記録/メディア設定 > 「MP4クリップ／静止画番号方式」> いずれかを選ぶ。

MEMO

- 1つのフォルダーには500ファイルまで保存でき、それを超えると自動的にフォルダーが作成されます。

冷却ファンの動作方法を選ぶ

本機は冷却ファンを回転させて、本機内部の熱を排出します。カメラモードでは、冷却ファンの動作をメニューで切り換えることができます。メディアモードでは、冷却ファンが常時回転します。

カメラモードで冷却ファンの動作を設定する

1 MENU > システム設定 > 「ファンモード」> いずれかを選ぶ

- オート： 撮影一時停止中は回転し、撮影中（画面に●RECが表示中）は自動的に停止する。なお、撮影中でも、本機の内部温度が上昇すると、冷却ファンが自動的に回転する（**FAN**が表示される）。内部温度が十分下がると、再び冷却ファンは停止する。この設定は、冷却ファンの動作音を記録したくないときに使用する。
- 常時： 常に回転する。

ご注意

- 冷却ファンの回転中は、EXHAUST VENT（排気口）から暖かい空気が排出されます。
- 冷却ファンの吸排気口（ 10、13）をテープなどで塞がないでください。

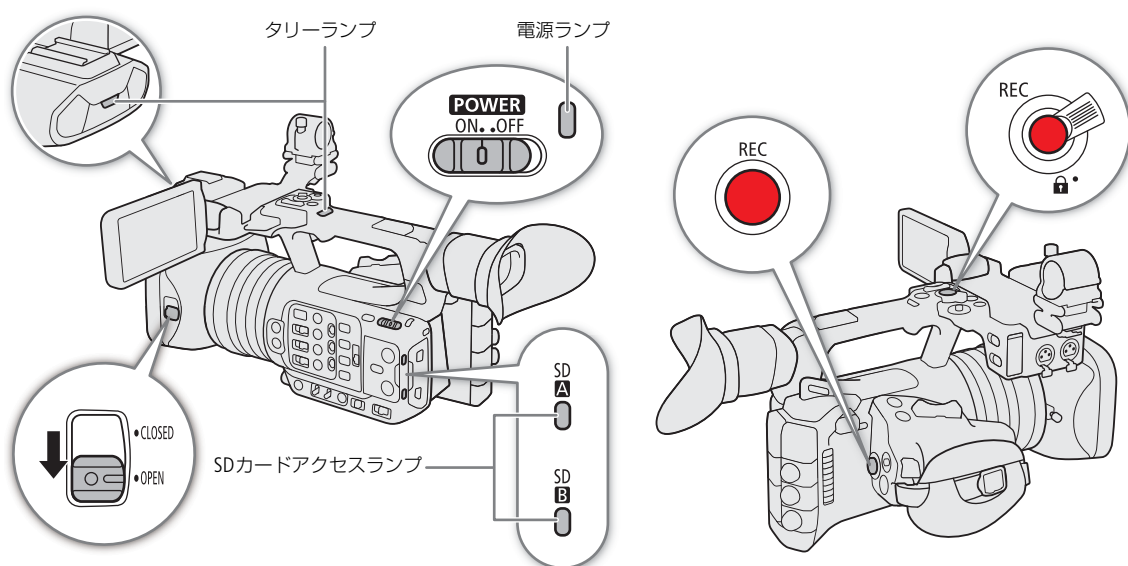
MEMO

- 高温下など撮影環境によっては「オート」にしてもファンが停止しないことがあります。

動画や静止画を撮影する

ここでは、動画や静止画の基本的な撮影について説明します。音声の記録については、86ページをご覧ください。

撮影する



1 レンズバリアを開ける

2 POWER（電源）スイッチを押しながら「ON」にする

- 本機がカメラモードで起動し、撮影一時停止状態（STBY）になる。電源ランプが緑色に点灯する。
- メモリーカードが入っているスロットのアクセスランプが赤色に点灯したあと、記録先として選択されているカードのアクセスランプが緑色に点灯する。

3 REC（記録開始／停止）ボタンを押す

- 撮影が始まる。タリーランプが点灯し、画面の撮影状態が「STBY」から「●REC」に変わる。
- 記録先として選択されているカードのアクセスランプが赤色に点灯する。
- ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（□ 170）を使って撮影開始することもできる。

4 もう一度REC（記録開始／停止）ボタンを押す

- 撮影が終了してクリップ*がカードに記録され、撮影一時停止状態（STBY）になる。タリーランプは消灯する。
- 記録先として選択されているカードのアクセスランプが緑色に点灯する。

* 本書では、1回の撮影操作で記録される動画を「クリップ」と呼びます。クリップには、映像・音声のほかに、メタデータや News Metadata（□ 98）が含まれることがあります。

ご注意

- 万一のデータ破損に備えて、撮影したデータは必ずバックアップしてください。データ破損の場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。

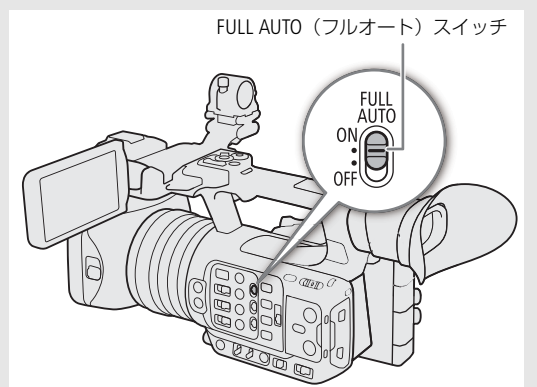
MEMO

- メタデータ (□ 97) やNews Metadata (□ 98) を設定して撮影すると、メタデータやNews Metadataが動画と一緒にクリップ内に記録されます。
- 撮影中にリレー記録 (□ 30) が発生すると、撮影された映像はそれぞれ別々のクリップとして記録されます。
- 1つのクリップには、約6時間まで記録できます。それを超えると、自動的に別のクリップを生成して記録します。
- レックレビュー機能 (□ 44) を使うと、カメラモードのまま、最後に撮影したクリップを再生して確認できます。
- SDHC メモリーカードに記録する場合、クリップ内の映像ファイル (ストリーム) が約 4 GBごとに分割されます。本機では連続して再生されます。
- カメラアサイン11ボタンに「REC」を割り当てて、記録開始/停止操作を行うこともできます。
- **MENU** > **システム設定** > 「REC/STBYタッチボタン」を「入」にすると、画面の「**STBY**」をタッチして記録開始、「**REC**」をタッチして記録停止することもできます。
- **MENU** > **システム設定** > 「タリールンプ設定」を「REC」以外にすると、PGMのタリールンプが入力されたときにタリールンプが点灯します。

フルオートモードで撮影する

FULL AUTO (フルオート) スイッチをONにすると本機がフルオートモードになります。このときはアイリス、ISO感度/ゲイン、シャッタースピード、ホワイトバランスがすべてオートに設定され、明るさとホワイトバランスが常に自動で調整されます*。ただし、フルオートモードにしてもフォーカスはオートになりません。

* 測光方式 (□ 62) は「Standard」に、AEシフト (□ 62) は「±0」に、オート時リミット (□ 56) かつISO感度のときは「切/ISO 12800」に、オート時リミットかつゲインのときは「切/21.0 dB」に、それぞれ設定されます。なお、「AEレスポンス」(□ 179) は設定にかかわらず「ノーマル」で動作します。



静止画を記録する

動画の撮影一時停止中に、静止画をスロットBのカードに記録できます。

1 アサインボタンに「Photo」を割り当てる (□ 109)

2 撮影一時停止状態 (STBY) 中に、アサインボタンを押す

- 画面に「▶[B]」が表示され、静止画がスロットBのSDカードに記録される。
- 記録中はSDカードアクセスランプが赤色に点灯する。
- 記録される静止画のサイズは、3840×2160になる。

MEMO

- **静止画が記録できない場合**
 - 動画の記録中やスロー & ファストモーション記録モード中。
 - プレ記録モードのとき。
 - 本機をWebカメラとして使用しているとき。
 - ブラウザリモートの動作中。
 - カラーバーの表示中。

撮影時の画面表示

ここでは、カメラモードのときの画面表示について説明します。各表示項目は、メニューの「Custom Display 1」／「Custom Display 2」(185) で、表示の入／切を選択できます。以下の表内では「CD1」、「CD2」と省略して表記します。画面表示の情報量／位置 (DISPレベル) は3段階で変更でき、各DISPレベルの内容もメニューで選択できます (42)。以下では、DISPレベル1 (全表示) の場合で説明しています。



フォーカス枠

表示の入／切: CD1 > フォーカスモード

コンティニュアスAF枠: AF枠が「大」または「小」のときに白色で表示。赤色は至近方向の調整が不可。(74)
AFブーストMF枠: 黄色はマニュアル調整領域内、白色はオート調整領域内、赤色は至近方向の調整が不可。(74)

追尾の被写体選択 (77)

フォーカス調整不可枠: 赤色。コンティニュアスAF時かつAF枠が「全域」のときに至近方向の調整が不可。

瞳検出枠: メインで検出した被写体の瞳 (76)



顔検出枠: メインで検出した被写体 (76)

顔検出枠: 顔検出が1つのみ、またはメイン以外で検出した被写体

追尾枠

フォーカスガイド ガイド枠 (71)

画面の左側

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
W T Z 00/00	ズーム (67)	CD1 > ズーム表示 CD1 > ズーム位置
MF AF	フォーカスモード (71)	CD1 > フォーカスモード
😊 😊	顔検出AF (76)	
1.5x 3.0x 6.0x	デジタルテレコン (67)	CD1 > デジタルテレコン
TL-U58, WA-U58	コンバージョンレンズ (70)	CD1 > コンバージョンレンズ
📷 📷 📷	手ブレ補正 (78)	CD1 > 手ブレ補正
IR ON OFF	赤外撮影モード、赤外ライト状態 (105)	CD1 > 赤外撮影
Full Auto	フルオートモード (37)	CD1 > フルオート

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
00	選んだカスタムピクチャーファイル (114)	CD1 > Custom Picture
/ / / / / / / / /	カスタムピクチャーのガンマ／色空間 (118)	
	Look ファイル (116)	
	測光方式 (62)	CD1 > 測光方式
	LUTの適用状態 (142) • 画面に表示する映像にLUTを適用している。	CD1 > LUT
	マルチアクセサリシュー (25)	CD2 > マルチアクセサリシュー
	GPS信号の受信状態 • 衛星未捕捉時は点滅し、衛星を捕捉すると点灯する。 • 本機にGPSレシーバー GP-E2を装着時のみ表示される。	CD2 > GPS
	冷却ファンの動作 白色：通常 (35) ／赤色：警告 (206)	CD2 > 温度/ファン
(緑色) (黄色) (赤色)	高温警告 (206) • 内部温度が上昇すると黄色で、本機を使い続けてさらに上昇すると赤色で表示される。	
	ユーザーメモ (97)	
(赤色)	USB (HOST)端子の状態 (206)	CD2 > USB HOST

画面の上側

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
記録メディア状態／記録可能時間 (分) ／動画形式		CD2 > 記録可能時間
(緑色) 0000 min	: SDカード 緑色：記録可能／黄色：記録可能時間5分以下／赤色：記録可能時間1分未満／白色：認識中。 • 選択中のカードに▶が付く。	
(赤色) END	カードの空き容量なし	
(赤色)	カードなし／記録不可能	
	動画形式 (48) ／音声 (100)	
	ネットワークの接続状態／機能 (166)	CD2 > ネットワーク機能
000.0 m	被写体距離	CD1 > 被写体距離

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
	ダブルスロット記録 (130)	CD2 > 記録モード
撮影状態 (記録モード)		
STBY、●REC	動画記録：撮影一時停止中／撮影中	
S&F STBY、 S&F ●REC	スロー & ファストモーション記録 (100)：撮影一時停止中／撮影中。	
PRE STBY、 PRE ●REC	プレ記録 (102)：撮影一時停止中／撮影中	
FRM STBY、 FRM ●REC、 FRM ●STBY	フレーム記録 (102)：撮影一時停止中／撮影中	
INT STBY、 INT ●REC、 INT ●WAIT	インターバル記録 (103)：撮影一時停止中／撮影中	
CONT、●CONT	常時記録 (104)：常時記録停止中／撮影中	
1s～10m00s	インターバルカウンター	CD2 > インターバルカウンター
REC★、STBY★、 EXT REC★、EXT STBY★	記録コマンド状態 (139) 「EXT」：記録メディアなしのときに表示	CD2 > 記録コマンド (EXT REC)
00.00P、00.00i	フレームレート (48) • スロー & ファストモーション記録時は、撮影フレームレートも表示される (000/00.00P)。	CD2 > フレームレート
	キーロック (12)	CD1 > キーロック
00:00:00.00 00:00:00.00 R / P / F / E	タイムコード (82) タイムコードの設定状態 (83)	CD2 > Time Code
電源供給状態		CD2 > バッテリー残量
 000 min	バッテリーパック BP-A30またはBP-A60のバッテリー残量 (目安) と撮影／再生可能時間 (分単位) • が表示されたときは、充電したバッテリーパックと交換する。 • 本機／バッテリーの状態により、実残量と表示が異なったり、システム設定ステータス画面やバッテリーのランプで表示されるバッテリー残量 (目安) と表示が一致しなかったりすることがある。	
DC IN 00.0V	ACアダプターの電圧 • 電圧が電源警告 (191) の設定値以下になったときは、電圧が赤色で表示される。	

画面の右側

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
60(24)fps、 60(30)fps	映像出力 (112)	CD2 > 映像出力
Gen	ゲンロック (85)	CD2 > Genlock
0000x0000	解像度 (48)	CD2 > 解像度/カラーサンプリング
YCC000 00 bit	色深度、カラーサンプリング (48)	
▶	静止画記録可能 (37)	CD2 > Photo
▶ (赤色)	SDカードなし／静止画記録不可能	
(黄色)	画面表示出力 (141)	CD2 > オンスクリーン表示

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
 (黄色)	表示文字記録 (183)	CD2 > 表示文字記録
 (黄色)	拡大表示 (73)	CD1 > Magnification
 (黄色)	ピーキング (73)	CD1 > ピーキング
	オーディオレベルメーター (90)	CD2 > オーディオレベル
 00, 	ヘッドホン音量 (129)	—
yyyy.mm.dd HH:MM	日時表示	CD2 > 日付/時刻
CH0/CH0、 CH0+CH0/CH0+CH0	音声出力チャンネル (147)	CD2 > モニターチャンネル
	オーディオリミッター (91)	CD2 > オーディオレベル
 1/0000.00、000.00°、 000.00Hz	シャッタースピード (54)	CD1 > シャッター

画面の下側

アイコン／表示	説明	各項目の表示入／切
A001C001 ~ Z999D999	カメラインデックス、リール番号、クリップ番号 クリップファイル名 (32)	CD2 > リール番号/クリップ番号
00 00 00 00	ユーザービット (83)	CD2 > User Bit
  	ズーム操作量 (69) • 「グリップズームスピード」で「ユーザー設定」を選び、グ リップズームを使用したときに表示される。	CD1 > グリップズームスピード： ユーザー
	ダイレクトタッチコントロール (45)	—
 A/  B、  、  、  、  00000 K ±00	ホワイトバランス (63)	CD1 > ホワイトバランス
	露出バー (62)	CD1 > 露出バー
AE ±0.00	AEシフト (62)	CD1 > AEシフト
ND 1/00、  、 	NDフィルター／ND 警告 (59)	CD1 > ND Filter
 F00.0 / closed	アイリス／絞り値 (F値) (60)	CD1 > アイリス
 ISO 000000 00.0dB	ISO感度／ゲイン (56)	CD1 > ISO/ゲイン
	高感度モード (57)	

画面表示の情報量を変更する

縦撮り用の画面表示でないときにDISP（ディスプレイ）ボタンを押すと、画面表示の情報量を変更することができます。DISPボタンを押すたびに、DISPレベルが、1→2→3→1の順で切り換わります。カメラモードでは、各DISPレベルの表示内容をメニューで変更できます（[185](#)）。



DISPレベル2（撮影情報表示）の例

カメラモード	メニュー設定 ^{*1}	表示内容
DISPレベル1	全表示	すべての情報を表示する。
	全表示（フレーム）	周辺部にすべての情報を表示する。各表示項目の大きさは「全表示」より小さい。
DISPレベル2 ^{*2}	撮影情報表示	撮影中に必要な情報に絞って表示する。
	FUNC/MENU操作時表示	撮影状態、マーカー、フォーカス枠、WFM機能のみ表示する。カメラダイレクト設定やメニュー/アサインボタン操作を行ったときに関連する情報は表示する。
DISPレベル3 ^{*2}	REC/STBY表示のみ	撮影状態のみ表示する。
	表示なし	すべての画面表示を行わない。

^{*1} MENU > モニタリング設定 > 「DISPレベル1」、「DISPレベル2」または「DISPレベル3」

^{*2} 表示項目の大きさは「全表示（フレーム）」と同じ。

メディアモード	クリップ/静止画の再生中	インデックス画面/音声再生中
DISPレベル1	全表示	全表示
DISPレベル2	画面表示なし	
DISPレベル3	—	

MEMO

- ゼブラパターンやフォルスカラーは、DISPレベルに関係なく、常に表示されます。
- 画面表示を透過にして、不透過度を設定することができます（[141](#)）。

画面表示を映像の周囲に表示する

映像の表示領域を画面の内側に少し狭めて、映像に重ならないよう周辺の余白領域に画面表示を行います（フレーム表示）。フレーム表示はDISPレベルと連動でき、フレーム表示を行うDISPレベルをMENU > モニタリング設定 > 「フレーム表示対象」で選択できます。



全画面表示



フレーム表示

タリー OSDを表示する

XCプロトコル経由で入力されたタリー情報を画面に表示できます（タリー OSD）。

1 MENU > モニタリング設定 > 「タリー OSD: XXXXX」のいずれか > 「入」を選ぶ

- タリー OSDを表示する画面と出力先を確認／変更します。

2 MENU > モニタリング設定 > 「タリー OSD設定」> いずれかを選ぶ

タリー OSD設定一覧

タリー OSD設定	タリー入力状態	撮影状態（REC）	タリー OSDの表示色
タリー入力(PGM/PVW)	PGM	—	赤
	PVW		緑
	PGM + PVW		アンバー
REC	—	撮影中	赤
REC/ タリー入力(PGM/PVW)	—		赤
	PGM	撮影一時停止	赤
	PVW		緑
	PGM + PVW		アンバー

3 MENU > モニタリング設定 > 「タリー OSD位置」> いずれかを選ぶ



フレーム



上部



下部

MEMO

- 記録される動画／静止画には影響しません。

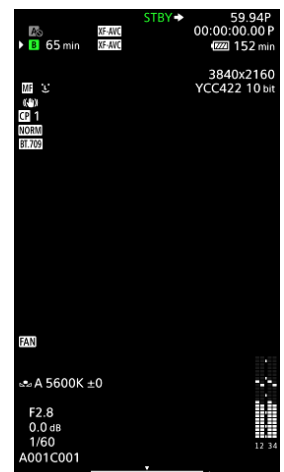
縦撮り用の画面表示にする

縦位置で撮影するときは、画面表示の向きを回転させることができます。

MENU > モニタリング設定 > 「オンスクリーン表示方向：LCD/VF」> 「 右90度回転」または「 左90度回転」を選ぶ

MEMO

- HDMI OUT端子／SDI OUT端子の出力映像は、MENU >  モニタリング設定 > 「オンスクリーン表示方向：HDMI」または「オンスクリーン表示方向：SDI」で変更できます（LCDモニター／ファインダーの画面表示の回転時のみ）。
- メニューやステータス画面は回転しません。
- 撮影画面を回転中、ダイレクトタッチコントロールとフレーム表示は使用できません。
- 表示文字記録が有効のときは、撮影画面を回転できません。



レックレビューで確認する

カメラモードで最後に撮影したクリップの映像を再生して確認できます。

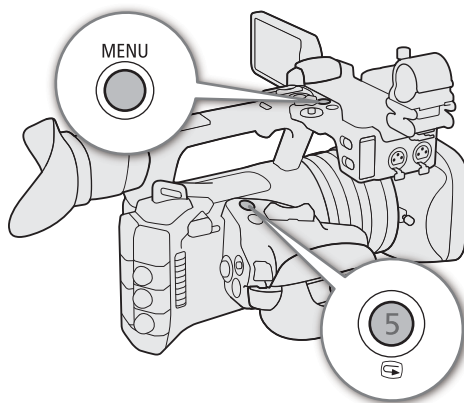
1 MENU > システム設定 > 「レックレビュー」> いずれかを選ぶ

クリップ先頭から： クリップの先頭からすべて再生する。

最終4 sec： クリップの最後の4秒間のみを再生する。

2 撮影が終了したあとに [5] ボタンを押す

- 操作1で選んだ再生範囲に応じて、直前に撮影した映像が再生される。画面に「▶ REVIEW」が表示される。
- スピーカーから音声は出力されません。音声は、🔊（ヘッドホン）端子またはHDMI OUT端子から出力されます。
- ジョイスティックによる映像の早送り／早戻しや、画面のシークバーのタッチ／ドラッグによる再生位置移動ができる（📖 128）。
- CANCELを押すか、画面を下にフリックすると、レックレビューを中止できる。
- レックレビューが終了するか、レックレビューを中止すると、撮影一時停止状態（STBY）に戻る。



MEMO

- 撮影中に記録先のカードが自動的に切り換わった場合、直後にレックレビューを行うと、新たに記録先となったカード内のクリップが再生されます。
- 常時記録モード中は、レックレビューを行えません。

撮影設定を行う

撮影時によく使うカメラ、記録、アシストなどの基本設定を、ダイレクトタッチコントロールで行うことができます。また、FUNCボタンで操作するカメラダイレクト設定で、ホワイトバランスや露出関連の設定を行うこともできます。

ダイレクトタッチコントロールで基本的な設定を行う

カメラ設定、記録設定、アシスト設定の各メニュー設定のうち、撮影時に良く使う項目をタッチ操作で変更できます。各機能の詳細については、それぞれの節をご覧ください。

設定可能な項目

項目	設定内容
ホワイトバランス	調整方法（プリセット、色温度）、色補正值
NDフィルター	切（OFF）と3段階の濃度
アイリス	F値の調整
ISO感度／ゲイン	ISO感度またはゲイン値の調整
シャッタースピード	現在のシャッタースピードモードでの値の調整
📷（アシスト設定）	フォーカスガイド（入／切）、ピーキング（種類）、WFM（種類）、ゼブラ（種類）、フォルスカラー（入／切）、マーカー（入／切）、ビューアシスト（入／切）
📹（記録設定）	記録モード、2スロット記録機能、常時記録*1*2、Slow & Fastフレームレート、フレーム記録、フレーム記録 フレーム数、インターバル記録、インターバル記録 フレーム数、インターバル記録 時間間隔、チャンク記録 時間設定、メイン記録形式、📁/ファイル選択、メイン解像度、フレームレート、ビットレート、[B]記録形式、Proxy記録色変換、[B]解像度／ビットレート、[B]記録フレームレート

*1 メイン記録形式がMP4のときのみ。

*2 「常時記録」（📺 104）の設定を「STBY」から「REC」にするときのみ。



ダイレクトタッチコントロールを開始／終了する

ダイレクトタッチコントロールのホーム画面を表示します。この画面を表示したまま、撮影やメニュー設定、カメラダイレクト設定、ステータス画面表示などを行うこともできます。

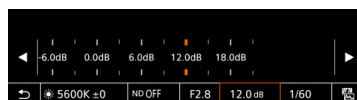
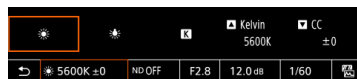
- 👉をタッチしてダイレクトタッチコントロールを開始する
- 設定後、✕をタッチしてダイレクトタッチコントロールを終了する

カメラ設定を変更する

1 カメラ設定の設定値のいずれかをタッチ > 調整値を選ぶ

- 下位の設定項目が表示されたときは、必要に応じて調整値／設定値を選ぶ。
- スライダーが表示されたときは、スライダー上を左右にドラッグするか、◀／▶をタッチして調整する。

2 ㊟ をタッチする



アシスト設定を変更する

1 ㊟ (アシスト設定) をタッチ > アシスト機能を入／切するか、種類を選ぶ

2 ㊟ をタッチする



記録設定を変更する

1 ㊟ (記録設定) をタッチする

- 設定項目の選択画面が表示される。画面は3ページあり、左右のフリックで切り換える。

2 設定項目を選び、設定を変更する

3 ✕ をタッチする



カメラダイレクト設定を使う

画面を見ながら、ホワイトバランス、アイリス、ISO感度／ゲイン、シャッタースピードを設定できます（カメラダイレクト設定）。ここでは基本的な操作を説明します。各機能の詳細については、それぞれの節をご覧ください。

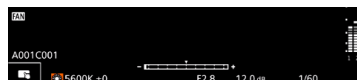
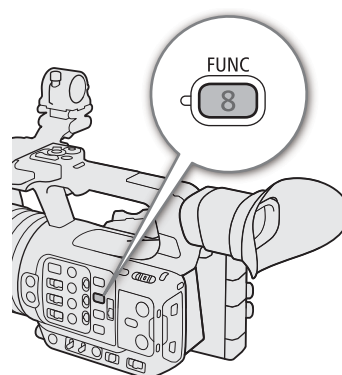
1 FUNCボタンを押す

- いずれかの項目の背景がオレンジ色になる。
- FUNCボタンを押すか、ジョイスティックを左右に押して、設定したい項目に切り換える。

2 ジョイスティックを上下に押して、数値やホワイトバランスの調整方法を選ぶ

3 SETを押す

- 設定が決定され、カメラダイレクト設定を終了する。
- 画面のオレンジ色の表示は解除される。



MEMO

- カメラダイレクト設定が終了する場合
 - 約6秒間操作しなかったとき。
 - シャッタースピードを選択中にFUNCボタンを押したとき。
 - メニューやステータス画面を開いたとき。
- 「ホワイトバランス」、「アイリス」、「ISO/ゲイン」、「シャッター」のいずれかを割り当てたアサインボタンを押して、カメラダイレクト設定のそれぞれの設定に切り換えることができます（㊟ 109）。

映像の記録信号形式を選ぶ

記録メディアに映像（メイン動画）を記録するときの信号形式を設定します。記録信号形式は、メイン記録形式（動画形式、カラーサンプリング、ビット数）、メイン解像度、フレームレート、ビットレートの組み合わせからなります。フレームレートはシステム周波数によって、メイン解像度はメイン記録形式によって、それぞれ選択できる値が異なります。記録信号形式の組み合わせは後述の表をご覧ください。
サブ動画については「サブ動画を同時に記録する」（[□ 52](#)）を、音声については「音声を記録する」（[□ 86](#)）をご覧ください。

XF-AVC形式

メイン記録形式	メイン解像度	ビットレート方式*1	ビットレート	システム周波数／フレームレート						
				59.94 Hz				50.00 Hz		
				59.94P	59.94i	29.97P	23.98P	50.00P	50.00i	25.00P
XF-AVC YCC422 10 bit	3840x2160	Intra	600Mbps	●	—	—	—	—	—	—
			500Mbps	—	—	—	—	●	—	—
			410Mbps	—	—	●	●	—	—	●
			300Mbps	—	—	●	—	—	—	—
			250Mbps	—	—	—	—	—	—	●
			240Mbps	—	—	—	●	—	—	—
	1920x1080	L.GOP	260Mbps	●	—	—	—	●	—	—
			160Mbps	—	—	●	●	—	—	●
		Intra	310Mbps	●	—	—	—	●	—	—
			160Mbps	—	●	●	●	—	●	●
		L.GOP	50Mbps	●	●	●	●	●	●	●
			25Mbps	—	●*2	—	—	—	●*2	—
	1280x720	L.GOP	24Mbps	●	—	—	—	●	—	—

*1 ビットレートの方式は可変（Variable Bit Rate）。「Intra」（Intra-frame）は1フレームごとに圧縮し、カット編集に適した高画質な圧縮方式。「L.GOP」（Long GOP）は前後のフレームの差分を圧縮し、高圧縮で長時間の録画が可能。

*2 2スロット記録機能のサブ動画記録、音声記録、リレー記録またはダブルスロット記録が有効のときは選択できない。

MP4形式

メイン記録形式	メイン解像度	システム周波数／フレームレート				
		59.94 Hz			50.00 Hz	
		59.94P	29.97P	23.98P	50.00P	25.00P
MP4(HEVC) YCC422 10 bit	3840x2160	●	●	●	●	●
MP4(HEVC) YCC420 10 bit	1920x1080	●	●	●	●	●
MP4(H.264) YCC420 8 bit	1280x720	●	—	—	●	—

MEMO

- 各種出力端子からの信号については、「出力信号形式」(P.134)をご覧ください。

システム周波数を選ぶ

カードに記録したシステム周波数と再生するクリップのシステム周波数が異なっても、メディアモードで本機のシステム周波数を切り換えられます。

1 MENU >  記録/メディア設定 > 「システム周波数」を選ぶ

2 いずれかを選ぶ

- 選んだシステム周波数に設定され、本機が再起動する。

メイン動画の記録形式を選ぶ

メイン動画の動画形式とカラーサンプリング、ビット数の組み合わせを選択します。

1 MENU >  記録/メディア設定 > 「メイン記録形式」を選ぶ

- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる (P.45)。

2 いずれかを選ぶ

メイン動画の解像度を選ぶ

1 MENU >  記録/メディア設定 > 「メイン解像度」を選ぶ

- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる (P.45)。

2 いずれかを選ぶ

メイン動画のフレームレートを選ぶ

1 MENU >  記録/メディア設定 > 「フレームレート」を選ぶ

- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる (P.45)。

2 いずれかを選ぶ

メイン動画のビットレートを選ぶ

メイン動画が下記の記録形式、解像度、フレームレートのときは、ビットレートを選択します。

メイン記録形式	メイン解像度	フレームレート	ビットレート
XF-AVC YCC422 10 bit	3840 x 2160 Intra-frame	29.97P	410Mbps、300Mbps
		25.00P	410Mbps、250Mbps
		23.98P	410Mbps、240Mbps
	1920 x 1080 Long GOP	59.94i、50.00i	50Mbps、25Mbps

1 MENU > 記録/メディア設定 > 「ビットレート」を選ぶ

- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる（ 45）。

2 いずれかを選ぶ

プロキシ動画を同時に記録する

スロットAのカードにメイン動画を記録しながら、スロットBのカードにプロキシ動画を記録できます。プロキシ動画はメイン動画よりもビットレートが低く、ファイル容量も比較的小さいため、オフライン編集に向いています。設定操作はダイレクトタッチコントロール（ 45）で行うこともできます。また、Content Transfer Mobileを使うと、プロキシ動画のクリップをFTPサーバーに自動転送できます（ 149）。

プロキシ動画の記録信号形式

メイン動画			プロキシ動画		
メイン記録形式	メイン解像度	フレームレート	記録形式と解像度／ビットレート		フレームレート
			XF-AVC YCC420 8 bit	MP4 (H.264) YCC420 8 bit	
XF-AVC YCC422 10 bit	3840x2160 1920x1080	59.94P、50.00P	1920 x 1080／35Mbps L.GOP	1920x1080／9Mbps 1280x720／9Mbps 1280x720／6Mbps 1280x720／4Mbps	メイン動画と 同一*3
		29.97P、25.00P 23.98P	1920x1080／24Mbps L.GOP*1		
	1920x1080	59.94i、50.00i	1920x1080／16Mbps*2		
	1280x720	59.94P、50.00P	1280x720／17Mbps L.GOP	1280x720／9Mbps 1280x720／6Mbps 1280x720／4Mbps	
MP4 (H.264) YCC420 8 bit	3840x2160 1920x1080	59.94P、50.00P	—	1920x1080／9Mbps 1280x720／9Mbps 1280x720／6Mbps 1280x720／4Mbps	メイン動画と同一
		29.97P、25.00P 23.98P	—		
	1280x720	59.94P、50.00P	—	1280x720／6Mbps 1280x720／4Mbps	

*1 メイン動画の「ビットレート」で「25Mbps」以外を選択時のみ。
*2 メイン動画の「ビットレート」で「25Mbps」を選択時のみ。
*3 「」記録形式」で「MP4(H.264) YCC 420 8 bit」を、「」解像度／ビットレート」で「1920x1080／16Mbps」を選択時は、プログレッシブ方式で記録される。

- 1 スロットAにメイン動画用のカードを、スロットBにプロキシ動画用のカードを入れる
- 2 メイン動画の記録形式をXF-AVC形式またはMP4（H.264）形式に設定する（ 48）
- 3 MENU >  記録/メディア設定 > 「2スロット記録機能」> 「メイン／Proxy記録」を選ぶ
- 4 MENU >  記録/メディア設定 > 「記録形式」> いずれかを選ぶ
 - メイン動画の記録形式がXF-AVC形式のときのみ、選択できる。
- 5 MENU >  記録/メディア設定 > 「解像度／ビットレート」> いずれかを選ぶ
 - メイン動画またはプロキシ動画の設定が一部の組み合わせのときのみ、選択できる。
- 6 MENU >  記録/メディア設定 > 「Proxy記録色変換」> いずれかを選ぶ
 - Custom Picture準拠： 変換しない。
 - BT.709 (Wide DR) ／ カスタムピクチャーのガンマが、「BT.709 XXXXX」／「Canon 709」のとき、またはLook File適用後のガンマが「SDR XXXXX」のときはそのまま、それ以外のときは選んだガンマに変換する。色空間は「BT.709」に変換する。変換元のガンマがHDRのときは、MENU >  モニタリング設定 > 「HDR→SDRゲイン」で明るさを調整できる（ 146）。
- 7 RECボタンを押して、記録を開始する
 - メイン動画の記録開始と同時に、プロキシ動画の記録が始まる。

MEMO

- 同時記録中にメイン動画の記録が停止すると、プロキシ動画の記録も停止します。
- メイン動画用のカードがスロットに入っていないときは、プロキシ動画のみ記録します。

自動転送用に動画を分割して記録する（チャンク記録）

スロットAのカードにメイン動画を記録しながら、スロットBのカードに設定時間ごとに分割した動画を記録できます。Content Transfer Mobileの自動転送機能を有効にしてチャンク記録を行うと、記録されたクリップを順次転送できます（[□ 149](#)）。メイン動画の記録中でもチャンク記録のクリップを転送できるため、受信側の待ち時間が短縮されます。設定操作はダイレクトタッチコントロール（[□ 45](#)）で行うこともできます。

チャンク動画の記録信号形式

メイン動画				チャンク動画			
メイン記録形式	メイン解像度	フレームレート	ビットレート	記録形式	解像度	フレームレート	ビットレート
XF-AVC YCC422 10 bit	1920 x 1080 Long GOP	59.94i	25Mbps	MP4 (H.264) YCC420 8 bit	1920 x 1080 Long GOP	59.94P	16Mbps
		50.00i				50.00P	

- 1 スロットAにメイン動画用のSDXCカードを、スロットBにチャンク動画用のSDXCカードを入れる
- 2 メイン動画の記録信号形式を設定する（[□ 48](#)）
- 3 MENU > 記録/メディア設定 > 「2スロット記録機能」 > 「**[A]**メイン／**[B]**チャンク記録」を選ぶ
- 4 MENU > 記録/メディア設定 > 「チャンク記録 時間設定」 > いずれかを選ぶ（[□ 182](#)）
- 5 RECボタンを押して、記録を開始する
 - メイン動画の記録開始と同時に、チャンク記録が始まる。

MEMO

- 同時記録中にメイン動画の記録が停止すると、チャンク記録も停止します。
- メイン動画用のカードがスロットに入っていないときは、チャンク記録のみ行います。
- チャンク記録の記録時間は、選択した時間設定値から最大1.5秒ずれることがあります。

サブ動画を同時に記録する

スロットAのカードにメイン動画を記録しながら、スロットBのカードにサブ動画を記録できます。サブ動画の記録信号形式については下表を、音声については「音声を記録する」(□ 86)をご覧ください。

設定操作はダイレクトタッチコントロール (□ 45)で行うこともできます。

サブ動画の記録信号形式（メイン記録：XF-AVC）

メイン動画				サブ動画の記録信号形式*1	
				サブ記録形式とサブ解像度／ビットレート	
メイン記録形式	メイン解像度	フレームレート	ビットレート	XF-AVC YCC422 10 bit	MP4(H.264) YCC420 8 bit
XF-AVC YCC422 10 bit	3840x2160	Intra	59.94P、50.00P	1920x1080／310 Mbps Intra 1920x1080／160 Mbps Intra*2 1920x1080／50Mbps L.GOP*3 1280x720／24Mbps L.GOP	1920x1080／35Mbps 1280x720／8Mbps
			29.97P	3840x2160／300Mbps Intra 3840x2160／160Mbps L.GOP 1920x1080／160Mbps Intra 1920x1080／50Mbps L.GOP	3840x2160／150Mbps 1920x1080／35Mbps
			25.00P	3840x2160／250Mbps Intra 3840x2160／160Mbps L.GOP 1920x1080／160Mbps Intra 1920x1080／50Mbps L.GOP	
			23.98P	3840x2160／240Mbps Intra 3840x2160／160Mbps L.GOP 1920x1080／160Mbps Intra 1920x1080／50Mbps L.GOP	
			29.97P、25.00P 23.98P	3840x2160／160Mbps L.GOP 1920x1080／160Mbps Intra 1920x1080／50Mbps L.GOP	
		L.GOP	59.94P、50.00P	1920x1080／50Mbps L.GOP*3 1280x720／24Mbps L.GOP	1920x1080／35Mbps 1280x720／8Mbps
			29.97P、25.00P 23.98P	1920x1080／50Mbps L.GOP	3840x2160／150Mbps 1920x1080／35Mbps
	1920x1080	Intra	59.94P、50.00P	1920x1080／50Mbps L.GOP 1280x720／24Mbps L.GOP	1920x1080／35Mbps 1280x720／8Mbps
			29.97P、25.00P 23.98P	1920x1080／50Mbps L.GOP	1920x1080／35Mbps
			59.94i、50.00i		—
		L.GOP	59.94P、50.00P	1280x720／24Mbps L.GOP	1920x1080／35Mbps 1280x720／8Mbps
			29.97P、25.00P 23.98P	—	1920x1080／35Mbps
	1280x720	L.GOP	59.94P、50.00P	—	1280x720／8Mbps

*1 フレームレートは原則としてメイン動画と同じ。

*2 59.94i/50.00iのみ選択可能。

*3 59.94i/50.00iも選択可能。

サブ動画の記録信号形式（メイン記録：MP4）

メイン動画				サブ動画の記録信号形式*1		
				サブ記録形式とサブ解像度／ビットレート		
メイン 記録形式	メイン 解像度	フレームレート	ビット レート	MP4(HEVC) YCC422 10 bit	MP4(HEVC) YCC420 10 bit	MP4(H.264) YCC420 8 bit
MP4(HEVC) YCC422 10 bit	3840x2160	59.94P、50.00P	225Mbps	1920x1080／50Mbps 1280x720／12Mbps	1920x1080／35Mbps 1280x720／9Mbps	—
		29.97P、25.00P 23.98P	135Mbps	1920x1080／50Mbps	3840x2160／ 100Mbps 1920x1080／35Mbps	
	1920x1080	59.94P、50.00P	50Mbps	1280x720／12Mbps	1280x720／9Mbps	
		29.97P、25.00P 23.98P		—	1920x1080／35Mbps	
	1280x720	59.94P、50.00P	12Mbps	—	1280x720／9Mbps	
MP4(HEVC) YCC420 10 bit	3840x2160	59.94P、50.00P	170Mbps	—	1920x1080／35Mbps 1280x720／9Mbps	—
		29.97P、25.00P 23.98P	100Mbps		1920x1080／35Mbps	
	1920x1080	59.94P、50.00P	35Mbps		1280x720／9Mbps	
MP4(H.264) YCC420 8 bit	3840x2160	59.94P、50.00P 29.97P、25.00P 23.98P	150Mbps	—	—	1920x1080／35Mbps 1280x720／8Mbps*2
	1920x1080	59.94P、50.00P	35Mbps			1280x720／8Mbps

*1 フレームレートは原則としてメイン動画と同じ。

*2 59.94P/50.00Pのときのみ。

- 1 スロットAにメイン動画用のカードを、スロットBにサブ動画用のカードを入れる
- 2 MENU > 記録/メディア設定 > 「2スロット記録機能」> 「**A**メイン／**B**サブ記録」を選ぶ
- 3 MENU > 記録/メディア設定 > 「**B**記録形式」> いずれかを選ぶ
- 4 MENU > 記録/メディア設定 > 「**B**解像度／ビットレート」> いずれかを選ぶ
- 5 MENU > 記録/メディア設定 > 「**B**フレームレート」> いずれかを選ぶ
 - メイン動画が一部の記録形式のときのみ、選択できる。
- 6 RECボタンを押して、記録を開始する
 - メイン動画の記録開始と同時に、サブ動画の記録が始まる。

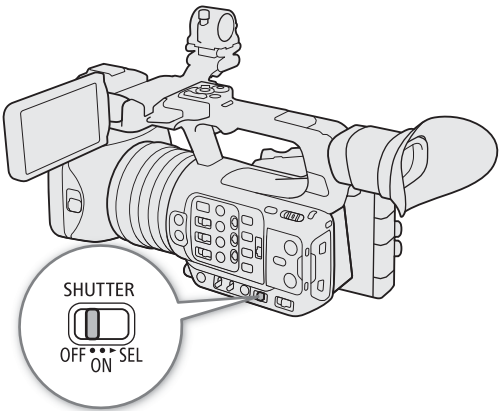
MEMO

- メイン動画用のカードがスロットに入っていないときは、サブ動画のみ記録します。

シャッタースピードを調整する

被写体や撮影環境に合わせてシャッタースピードを調整すると、動きの速い被写体（スポーツや乗り物など）を鮮明に撮影したり、低照度のシーンを明るく撮影したりすることができます。シャッタースピードの調整には、次のモードがあります。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（P.172）を使って調整することもできます。

- スピード：秒数でシャッタースピードを設定する。設定時の刻み幅は、メニューで1/3段と1/4段から選べる。
- アングル：開角度でシャッタースピードを設定する。
- クリアスキャン：周波数でシャッタースピードを設定する。モニター画面に黒い帯が出ないようにするときなど。
- スロー：フレームレートより低速のシャッタースピードを秒数で設定する。低照度の場所で撮影するときなど。スロー & ファストモーション記録モードのときは選択できない。
- オート：映像の明るさに応じて、シャッタースピードを無段階で自動調整する。
- 切：各フレームレートの基準シャッタースピードを使用する。



シャッタースピードのモードを切り換える

SHUTTER（シャッター）スイッチをONにして、「SEL」方向に押す

- 「SEL」方向に押すたびに、シャッタースピードの設定方式がスピード → アングル → クリアスキャン → スロー → オート → スピードの順に切り換わる。
- オートの場合は、画面のシャッタースピードの値の左にAが表示され、調整にともなって画面のシャッタースピードの値が更新される。

設定可能なシャッタースピード

選択できるシャッタースピードはフレームレートによって異なります。

シャッタースピードモード		システム周波数 / フレームレート				
		59.94 Hz			50.00 Hz	
		59.94P / 59.94i*1	29.97P	23.98P	50.00P/50.00i*1	25.00P
スピード*2	1/3段刻み	1/1 ～ 1/2000秒（全34設定）				
	1/4段刻み	1/1 ～ 1/2000秒（59.94 Hz：全47設定、50.00 Hz：全45設定）				
アングル*2		360°、240°、180°、120°、90°、60°、45°、30°、22.5°、15°、11.25° 1/120秒、1/100秒、1/60秒、1/50秒、1/40秒、3/100秒、1/30秒、 1/25秒相当のアングルも設定可能。				
クリアスキャン*2		23.98 Hz ～ 1998 Hz			25.00 Hz ～ 2003 Hz	
スロー*3		1/4、1/8、1/15、 1/30秒	1/4、1/8、 1/15秒	1/3、1/6、 1/12秒	1/3、1/6、1/12、1/25秒	1/3、1/6、 1/12秒
切*2		1/60秒	1/30秒	1/24秒	1/50秒	1/25秒

- *¹ MENU >  記録/メディア設定の「メイン記録形式」に「XF-AVC YCC422 10 bit」を、「メイン解像度」に「1920x1080 Intra-frame」または「1920x1080 Long GOP」を選択時のみ。
- *² 設定できる値は、フレームレートまたはスロー & ファストモーション記録の撮影フレームレート、「VF倍速駆動」の設定によって変わる。また、「VF倍速駆動」が「入」の場合、シャッタースピードの下限は1/x 秒相当になる（xは設定しているフレームレートの2倍の値）。
- *³ スロー & ファストモーション記録モードのとき、または「VF倍速駆動」が「入」のときは使用できない。

シャッタースピードの値を調整する

シャッタースピードのモードがOFFまたはオート以外のときは、シャッタースピードを手動で調整します。

1 シャッタースピードのモードを選ぶ（ 54）

2 「スピード」を選んだときは、MENU > カメラ設定 > 「シャッターステップ」> 「1/3段」または「1/4段」を選ぶ

3 カメラダイレクト設定（ 46）で、シャッタースピードや開角度（アングル）、周波数（クリアスキャン）を調整する

- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる（ 45）。

スローによる撮影について

スローを使うと、明るさが不足している場所で被写体を明るく撮影できます。また、動いている被写体をパンするときに背景を流す、ズームに残像効果を加えるなどの特殊効果として使用することもできます。

- 通常の撮影に比べて画質が多少劣化することがあります。

MEMO

- 晴天下などの明るい場所で撮影するときに絞りを絞り込むと、小絞りによるボケが発生することがあります。この現象は、以下を行うことで防止することがあります。
 - ND フィルターの濃度を濃くする（ 59）。
 - シャッタースピードを高速にして絞りを開く。
- 本機をフルオートモード（ 37）やInfrared モード（ 105）にすると、シャッタースピードはオートになります。また、Infrared モードを有効にすると、シャッタースピードの上限は、MENU >  カメラ設定 > 「高感度モード」が「切」のときは1/250に、「入」のときは1/500になります。
- シャッタースピードのモードを「スロー」にすると、画面に赤、緑、青の輝点が出る場合があります。このときはシャッタースピードを上げるか、ISO感度/ゲインを下げてください（ 56）。
- リモートコントローラー RC-V100のSHUTTER SELECTボタン、SHUTTER上/下ボタンで、シャッタースピードのモード/設定値をそれぞれ切り換えることもできます。

フリッカーを抑える

蛍光灯のフリッカーを自動的に検知して補正することができます。

MENU > カメラ設定 > 「フリッカー低減」> 「オート」を選ぶ

MEMO

- 蛍光灯、水銀灯、ハロゲンライトなどの人工光源の照明下で撮影する場合、設定したシャッタースピードによっては、原理上フリッカーが出る場合があります。フリッカーが気になるときは、電源の周波数に応じたシャッタースピードを設定すると抑制できることがあります。電源周波数が50Hzのときは1/50秒*、または1/100秒を、60Hzのときは1/60秒、または1/120秒を選んでください。
 - *フレームレートによっては選択できません。
- フレームレートが23.98PかつMENU >  モニタリング設定 > 「VF倍速駆動」が「入」のときは、「フリッカー低減」を使用できません。

ISO感度／ゲインを調整する

映像アンプの増幅量をISO感度またはゲインで設定できます。設定にはオートとマニュアルの2種類があり、ISO/GAIN（ゲイン）スイッチの各ポジション（L、M、H）にそれぞれ設定して、スイッチで切り換えて使用します。感度をオートに設定したときは、感度の最大値を設定することもできます。マニュアル設定時の刻み幅は、ISO感度／ゲインそれぞれ個別に設定できます。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（□ 172）を使って調整することもできます。

設定可能な値

メイン記録形式*1	ISO/ゲイン*2	刻み幅	設定可能な値*3
XF-AVC MP4	ISO	1 段	200、400、800、1600、3200、6400、12800
		1/3 段	200、250、320、400、500、640、800、1000、1250、1600、2000、2500、3200、4000、5000、6400、8000、10000、12800
	ゲイン	ノーマル（3 dB）	-6.0 dB～21.0 dB、36.0 dB*4
		ファイン（0.5 dB）	

*1 MENU > 記録/メディア設定 > 「メイン記録形式」の設定。

*2 MENU > カメラ設定 > 「ISO/ゲイン」の設定。

*3 カスタムピクチャーのGammaによって設定可能な値が変わる。

Wide DR、Canon Log 3またはCanon 709のとき ISO500～ISO12800（-2.0 dB～21.0 dB）

PQまたはHLGのとき ISO320～ISO12800（-6.0 dB～21.0 dB）

*4 BT.709 NormalまたはBT.709 Standardのとき ISO200～ISO12800（-6.0 dB～21.0 dB）

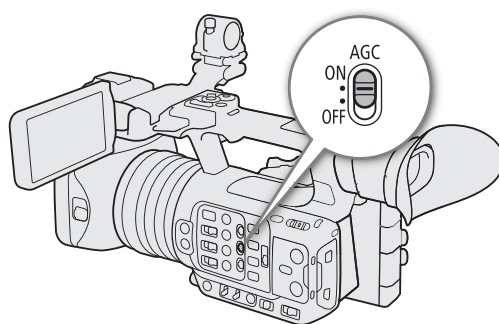
*4 ゲインブースト（□ 110）使用時のみ。

オートで調整する

感度を被写体に応じて自動的に調整します。感度の上限を設定することもできます。

AGC（オートゲインコントロールスイッチ）をONにする

- 画面のゲインの値の左に **A** が表示され、調整にともなって画面のゲインの値が更新される。
- 感度の下限値は、カスタムピクチャーのガンマがWide DR、Canon Log 3またはCanon 709のときはISO500（-2.0 dB）に、PQまたはHLGのときはISO320（-6.0 dB）に、BT.709 NormalまたはBT.709 StandardのときはISO200（-6.0 dB）に自動的に決まります。



オート調整時の感度の上限を設定する

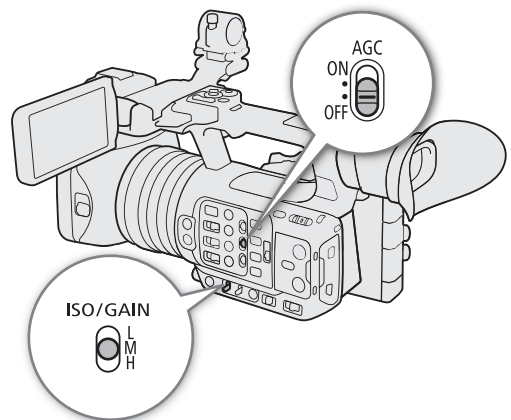
感度を自動的に調整するときの感度の上限を設定して、ノイズの上昇を抑えたり、暗い雰囲気を残したまま撮影したりすることができます。本機をフルオートモード（□ 37）またはInfraredモード（□ 105）にすると、MENU > カメラ設定 > 「ISO/ゲイン」が「ISO」のときは「切/ISO 12800」に、「ゲイン」のときは「切/21.0 dB」になります。

MENU > カメラ設定 > 「オート時リミット」> いずれかの値を選ぶ

マニュアルで調整する

ISO/GAIN（ゲイン）スイッチを、L、M、Hのいずれかに切り換えます。それぞれのポジションによく使う設定をあらかじめ登録しておけば、素早くISO感度／ゲインの値を変更できます。

- 1 AGC（オートゲインコントロールスイッチ）をOFFにする
- 2 ISO/GAIN（ゲイン）スイッチをL、M、Hのいずれかにする



ISO/GAIN（ゲイン）スイッチのISO感度／ゲインの値を設定する

- 1 MENU > カメラ設定 > 「ISO/ゲイン」 > 「ISO」または「ゲイン」を選ぶ
- 2 操作1の選択に応じて、MENU > カメラ設定 > 「ISO/ゲインステップ」 > いずれかを選ぶ
- 3 MENU > カメラ設定 > 「ISO/ゲイン XXXXX」 > いずれかを選ぶ

ISO/GAIN（ゲイン）値を調整する

- 1 ISO/GAIN（ゲイン）スイッチをL、M、Hのいずれかにする
- 2 カメラダイレクト設定（ 46）で、ISO感度またはゲインの値を調整する
 - ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる（ 45）。

高感度モードを使う

高感度モードを使うと、明るく撮影できます。暗い環境での撮影に向いています。

- 1 MENU > カメラ設定 > 「ISO/ゲイン」 > 「ゲイン」を選ぶ
- 2 MENU > カメラ設定 > 「高感度モード」 > 「入」を選ぶ
 - 画面のゲインの値の右にが表示される。

MEMO

- 「ゲインブースト」を割り当てたアサインボタンを押すたびに、ゲインの値を36.0 dB／設定しているゲインに切り換えることができます（ 109）。
- 「ゲインブースト」（ 110）は、MENU > カメラ設定 > 「ISO/ゲイン」の設定が「ゲイン」かつ、ゲインの自動調整が無効のときに使用できます。
- MENU > カメラ設定 > 「ISO/ゲイン」の設定を「ISO」にすると、高感度モードが解除されます。
- ISO感度／ゲインを上げると画面が多少ざらつくことがあります。
- ISO感度／ゲインを上げると、画面に赤、緑、青の輝点が出る場合があります。このときはシャッタースピード（ 54）を上げるか、ISO感度／ゲインを下げてください。
- ISO感度／ゲインの切り換え時、画面にノイズが現れる場合があります。撮影中は、ISO感度／ゲインを切り換えしないでください。

- 本機をInfraredモード（ 105）にすると、ISO感度／ゲインはオートになります。
- ISO/GAIN（ゲイン）スイッチでゲインを切り換えたときの値が変化する速さを、**MENU** >  カメラ設定メニュー > 「ショックレスゲイン」で設定できます（ 180）。
- ISO/GAIN（ゲイン）スイッチのポジション（L／M／H）の値を、リモートコントローラー RC-V100のISO/GAIN上／下ボタンを押して調整することもできます。

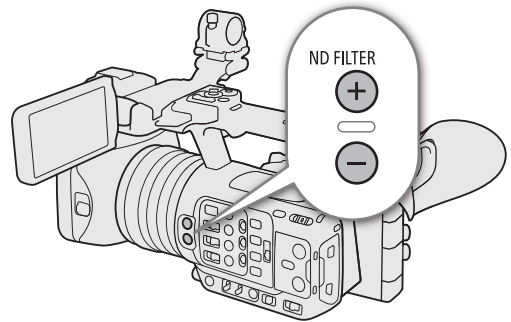
NDフィルターを切り換える

NDフィルターを使用すると、明るい屋外の撮影でもアイリスを開けて被写界深度の浅い映像表現が可能となります*。NDフィルターは3段階から選択できます。切り換えは、本機のほか、ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（[□ 172](#)）を使って操作することもできます。

* アイリスを絞り込んだときに発生する「小絞りによるボケ」の回避にも使用できます。

ND FILTER切り換え+／- ボタンを押して、希望のNDフィルターに切り換える

- ND FILTER切り換え+ ボタンを押すたびに、次の順にNDフィルターが切り換わる（-ボタンは逆順）。
OFF → 1/4 → 1/16 → 1/64 → OFF
- ダイレクトタッチコントロール（[□ 45](#)）で操作することもできる。



MEMO

• NDフィルターの警告表示について

次のときは、NDフィルターの設定が適切ではないため、画面のND表示*（**ND+**または**ND-**）が点滅します。

- ゲインが上昇している。
- アイリスが絞り込み過ぎている。
- シャッタースピードが高速になりすぎている。

ND+が点滅したときはND FILTER切り換え+ボタンを、**ND-**が点滅したときはND FILTER切り換え-ボタンを数回押して点滅しない状態にすると、上の状況を緩和できます。

* リモートコントローラー RC-V100の装着時は、RC-V100のNDフィルターランプが点滅します。

- シーンによっては、NDフィルターを入／切すると、わずかに発色が変わることがあります。このときはホワイトバランスをセットして撮影すると効果的です（[□ 65](#)）。

リモートコントローラー RC-V100を使ったNDフィルターの切り換えについて

- RC-V100のND切り換えボタンを押して、NDフィルターを切り換え可能（本機のND FILTER切り換え+ボタンと同じ動作）。
- RC-V100のNDフィルターランプは、1/4、1/16、1/64選択時はランプの1、2、3が点灯する。

アイリスを調整する

被写体の明るさに応じてアイリス（絞り）を調整します。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（□ 172）を使って操作することもできます。

- | | |
|--------------|---------------------------------|
| オートアイリス： | 適正露出になるように常に自動調整する。 |
| プッシュオートアイリス： | PUSH AUTO IRISボタンなどで一時的に自動調整する。 |
| マニュアルアイリス： | 手で調整する。 |

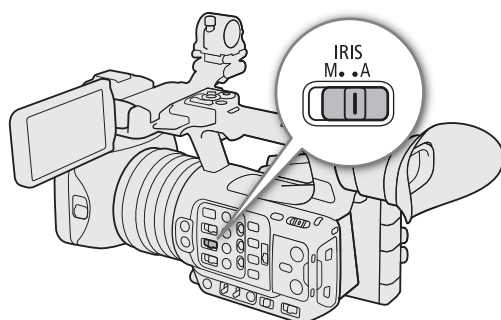
オートで調整する（オートアイリス）

IRIS（アイリス）スイッチをAにする

- 適正露出になるように絞りが自動的に調整される。画面の絞り値（F値）の左に **A** が表示され、調整にともなって画面の絞り値が更新される。

MEMO

- アイリスを自動で調整するときの応答性を、**MENU** > **カメラ設定** > 「AEレスポンス」で設定できます。
- 本機をフルオートモードにするとアイリスはオート、赤外撮影に設定するとアイリスは開放固定になります。



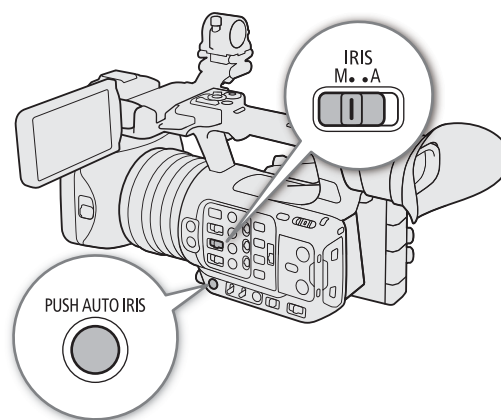
一時的にオートで調整する（プッシュオートアイリス）

PUSH AUTO IRIS（プッシュオートアイリス）ボタンを押している間、絞りを自動的に調整して適正な露出にします。

1 IRIS（アイリス）スイッチをMにする

2 PUSH AUTO IRISボタンを押し続ける

- ボタンを押し続けている間、適正露出になるように絞りが自動的に調整される。画面の絞り値の左に **A** が表示され、調整にともなって画面の絞り値が更新される。
- ボタンを離すと絞りの自動調整が終了し、絞り値が固定される。絞り値の左の **A** は消える。



マニュアルで調整する

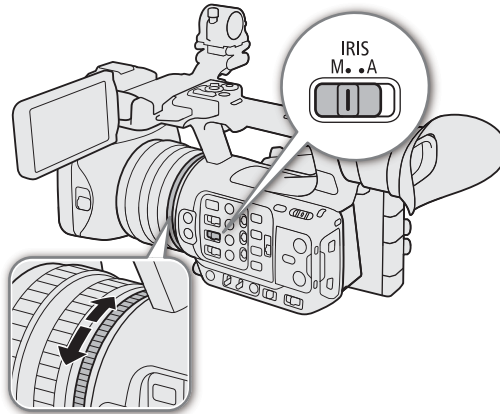
1 IRIS（アイリス）スイッチをMにする

2 MENU > カメラ設定 > 「アイリスステップ」 > 「1/3段」 または 「1/4段」 を選ぶ

- MENU >  カメラ設定 > 「アイリスファイン」 > 「入」 を選ぶと、最小の刻み幅で調整することもできる。画面上の絞り値は、レンズの最小の刻み幅では表示されない。

3 アイリスリングを回して絞り値を調整する

- カメラダイレクト設定（ 46）で調整したり、ダイレクトタッチコントロールで操作したりすることもできる（ 45）。



MEMO

- アイリスをオート（フルオートモードを除く）に切り換えるとき、手動で設定した絞り値は記憶されません。オートからマニュアルに切り換えたときは、オートの絞り値が引き継がれます。
- NDフィルターが挿入されているときに、アイリスを絞り込むと画面が暗くなることがあります。このときは、NDボタンを押して、アイリスを再調整してください。
- 「アイリス +」 または 「アイリス -」 を割り当てたアサインボタンを押して、絞りを開いたり、絞ったりすることもできます（ 109）。
- アイリスリングの操作方向は、MENU >  カメラ設定メニュー > 「アイリスリング方向」 で設定できます（ 179）。
- KEY LOCK（ 12）を  （キーロック）にしても、アイリスリングはロックされません。
- リモートコントローラー RC-V100を使うとき、初期設定では、RC-V100のIRIS（アイリス）ダイヤルを右に回すと絞り値が小さくなり、左に回すと絞り値が大きくなります。
- リモートコントローラー RC-V100のAUTO IRISボタンで、アイリスのオートとマニュアルを切り換えることもできます。

アイリスに絞り制限をつける（アイリスリミット）

絞り（設定可能F値）の最大値を制限することができます。

MENU > カメラ設定 > 「アイリスリミット」 > 「入」 を選ぶ

- 「入」 にすると、小絞り回折F値（F11）まで絞れる。
- 「切」 にすると、クローズまで絞れる。絞り値が小絞り回折F値を超えると、画面の絞り値が灰色になる。

MEMO

- 小絞り回折F値を超えると、小絞りによるボケが発生するなど記録する映像に影響を与えることがあります。小絞り回折F値以下でのご使用をおすすめします。

露出を補正する（AEシフト）

プッシュオートアイリスやオートアイリスで絞りを自動調整するときは、露出を意図的に補正して明るめや暗めに撮影することができます。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（ 172）を使って調整することもできます。

1 MENU > カメラ設定 > 「AEシフト」を選ぶ

2 いずれかの値を選ぶ

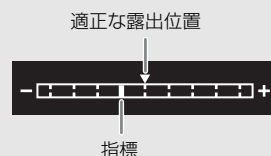
- 設定した補正量に応じて露出を調整する。
- 補正量は－2段～＋2段まで17段階で設定できる。

MEMO

- 「AEシフト＋」と「AEシフト－」を割り当てたアサインボタンを押して露出の補正量を調整することもできます（ 109）。

露出バー

図の「適正な露出位置」（▼）は、補正量が±0（AE±0）時の明るさの目標値を示します。露出バーの刻み幅は1/2段です。露出バーの内側に現在の露出位置が表示されます。露出バーは±2段まで表示でき、この範囲を超えると指標が点滅します。測光方式を変更すると、適正露出は変化します。



測光方式を設定する

撮影シーンに合わせて測光方式を設定すると、より適正な明るさで撮影することができます。

1 MENU > カメラ設定 > 「測光方式」を選ぶ

2 いずれかを選ぶ

- バックライト： 逆光のシーンを撮影するとき、暗部をより明るく制御する。
- スタンダード： 画面中央の被写体に重点を置きながら、画面全体を測光する。
- スポットライト： スポットライトが当たった被写体を撮影するとき、スポット的に明るくなった部分が最適な明るさになるように制御する。

- バックライトを選ぶとが、スポットライトを選ぶとが画面に表示される。

MEMO

- 「バックライト」または「スポットライト」を割り当てたアサインボタンを押して、それぞれの測光方式と「スタンダード」を切り換えることもできます（ 109）。
- 露出をマニュアルで調整後、測光方式を変更したときは、露出を再調整してください。

ホワイトバランスを調整する

照明や太陽光などの光源の色温度に応じて、ホワイトバランスを設定することができます。本機では次の方法でホワイトバランスを調整でき、WHITE BAL.（ホワイトバランス）スイッチの各ポジション（B、A、PRESET）にそれぞれ設定して、スイッチで切り換えて使用できます*。蛍光灯下で撮影するときは、ホワイトバランスセットで調整してください。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（□ 172）を使って調整することもできます。

* WHITE BAL.スイッチのポジションによって、設定できる調整方法が異なります（下表）。

オートホワイトバランス（AWB）： 常に適切なホワイトバランスになるように自動調整する。
 プリセット設定： 「☀」（太陽光）または「💡」（電球）のいずれかを選ぶ。色温度（K）と色補正值（CC）*の微調整が可能。
 色温度設定： 2000K ～ 15000Kの範囲で色温度を設定する。色補正值（CC）の微調整が可能。
 ホワイトバランスセット： 実際に撮影する環境下でグレーカードや白い無地の被写体を写して基準白色を取り込む。「📷A」（セットA）と「📷B」（セットB）の2種類の設定を登録できる。

* マゼンタ／グリーン方向の補正。Color Compensation。

WHITE BAL.スイッチのポジションと使用できる調整方法

調整方法	WHITE BAL.（ホワイトバランス）スイッチのポジション		
	B	A	PRESET
プリセット設定	—	—	●
色温度設定	—	—	●
ホワイトバランスセット	●	●	—

MEMO

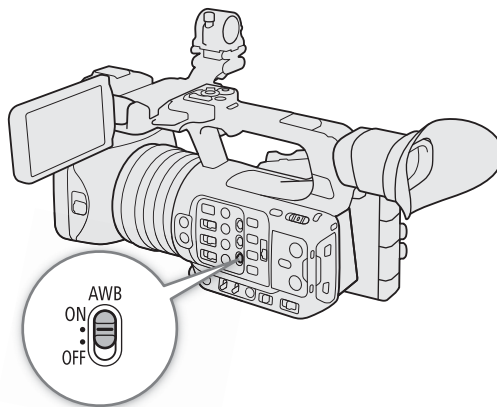
- 本機をフルオートモードにすると、ホワイトバランスは自動調整になります。赤外撮影時は、ホワイトバランスを設定することはできません。
- カスタムピクチャー（□ 121）の「Color Matrix Tuning」または「White Balance」を設定しているときは、それらの設定がホワイトバランス設定より優先されます。
- MENU > 📷 カメラ設定 > 「ショックレスWB」を「入」にすると、ホワイトバランスを切り換えたときに値がなめらかに変化します。
- リモートコントローラー RC-V100のA / Bボタン、PRESETボタン、📷 ボタン、AWBボタンを使って、調整することもできます。
- 本機で表示または設定する色温度は目安です。

オートホワイトバランス（AWB）で調整する

常に適切なホワイトバランスになるように自動で調整します。光源の色温度が変化すると、ホワイトバランスも自動的に調整し直されます。

AWB（オートホワイトバランススイッチ）をONにする

- 調整された色温度や色補正值（CC）が、**AWB**のアイコンの隣に表示される。



MEMO

- 次のような条件で撮影する場合、画面の色が不自然なときは、**WB**（ホワイトバランスセット）で調整してください。
 - 照明条件が急に変わる場所での撮影。
 - クローズアップ撮影。
 - 空や海、森など単一色しか持たない被写体の撮影。
 - 水銀灯や一部の蛍光灯／LED照明下での撮影。
- オートホワイトバランスの応答性は、**MENU** > **カメラ設定** > 「AWBレスポンス」で設定できます。
- 「AWBホールド」を割り当てたアサインボタンを押して、オートホワイトバランスの動作を一時停止させることができます（**109**）。もう一度押すか、他の調整方法に切り換えると解除されます。

プリセット設定／色温度設定で調整する

1 AWB（オートホワイトバランススイッチ）をOFFにする

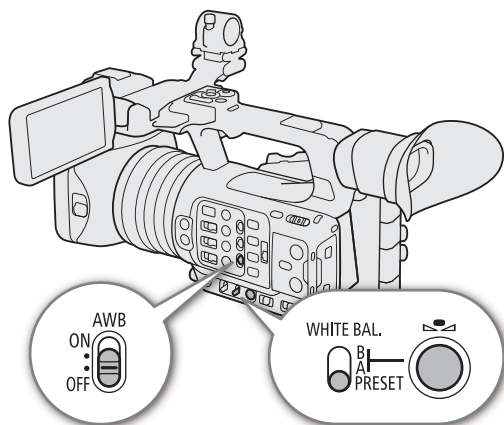
2 WHITE BAL.（ホワイトバランス）スイッチをPRESETにする

3 カメラダイレクト設定（**46**）でホワイトバランスのモードを選ぶ

- ☀**（太陽光）、**💡**（電球）、**K**（色温度）のいずれかを選ぶ。
- SET**を押すと、プリセット設定または色温度設定が適用される。以降の操作は不要。色温度や色補正值（CC）を調整するときは、以下の操作を行う。
- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる（**45**）。
- MENU** > **カメラ設定** > 「ホワイトバランス: PRESET」でも設定できる。

4 **WB**（ホワイトバランスセット）ボタンを押す

- カメラダイレクト設定に入り、色温度の背景がオレンジ色で表示される。ジョイスティックを右に押すと、カーソルが色補正值（CC）の設定値に移動する。
- ダイレクトタッチコントロールで、色温度／色補正值をタッチして調整することもできる（**45**）。



5 調整値を選ぶ

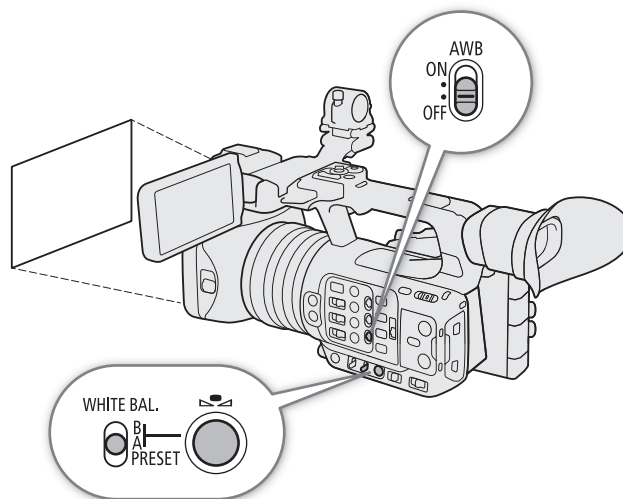
- 選んだ色温度または色補正值（CC）が設定され、☀、💡、または **K** の隣に表示される。

ホワイトバランスの調整方法	調整可能範囲	
	色温度（K）	色補正值（CC）
☀（太陽光）	4300K ～ 8000K	- 5 CC ～ + 5 CC
💡（電球）	2700K ～ 3700K	
K （色温度）	2000K ～ 15000K	- 20 CC ～ + 20 CC

MEMO

- MENU** > **カメラ設定** > 「色温度ステップ」で、色温度の単位を「ミレッド」（5ミレッド単位）または「ケルビン」（100ケルビン単位）から選ぶことができます。「ミレッド」に設定した場合でも、ケルビンに換算して画面に表示されます。なお、色温度ステップを変更すると、ホワイトバランスの設定が変わることがあります。
- 「☀ 太陽光」、「💡 電球」、「**K** Kelvin」のいずれかを割り当てたアサインボタンを押して、ホワイトバランスモードを一時的に変更することができます。アサインボタンをもう一度押すと、ホワイトバランスモードは元に戻ります（[109](#)）。

ホワイトバランスセットで調整する



1 AWB（オートホワイトバランススイッチ）をOFFにする

2 WHITE BAL.（ホワイトバランス）スイッチをAまたはBのいずれかにする

- 登録済みのホワイトバランスセットを選んだときは、以降の操作は不要。新しいホワイトバランスセットを登録するときは、以下の操作を行う。

3 グレーカードや白い無地の被写体を画面の中央に写す

- 被写体は実撮影と同じ照明条件下に置く。

4 **WB**（ホワイトバランスセット）ボタンを押す

- 「**A**」または「**B**」が速く点滅する。
- 調整中は、グレーカードや白い無地の被写体を画面の中央に写し続ける。
- 点滅→点灯に変わったら調整完了。調整されたホワイトバランスは電源を切っても記憶されている。

MEMO

- 場所や明るさが変わったときや、NDフィルターを切り換えたときは、ホワイトバランスセットをセットし直してください。
- 光源によっては、ごくまれにが速い点滅→点灯に変わらない（速い点滅から遅い点滅に変わる）ことがあります。その場合は、被写体の明るさを変えて、再度ホワイトバランスセットの調整を行ってください。
- 調整後に色温度値と色補正值が灰色で表示されることがあります。これは、表示可能な範囲を超えたためで、調整自体は適切に行われています。

ズームを操作する

ズームリングまたはズームロッカー（グリップ部／ハンドル部）を操作してズームできます。また、メニューでデジタルテレコンを選ぶこともできます。

ズームのモードを選ぶ

MENU > 設定 > カメラ設定 > 「デジタルズーム」 > いずれかを選ぶ

デジタルテレコン 6.0x： 焦点距離をテレ側に約6.0倍、約3.0倍、または1.5倍移動する。

デジタルテレコン 3.0x

デジタルテレコン 1.5x

デジタル 300x： 光学で15倍まで、デジタルで15～300倍のズームが可能。

アドバンスド 30x*¹： 光学込みで30倍までズーム可能。

切： 光学で15倍までズーム可能。

ズーム操作を行うと、ズーム位置の目安となるズームバー*²が画面に表示されます。バーの色が白色の領域は光学ズーム*³、水色の領域はデジタルズーム*⁴を表わします。

*¹ 解像度が1920x1080または1280x720のときのみ設定可能。ただし、スロー＆ファストモーション記録モード時に60を超える撮影フレームレートを設定しているときは使用できない。

*² **MENU > 設定 > モニタリング設定 > 「Custom Display 1」の「ズーム表示」**で数値表示に変更することもできます。

*³ 「アドバンスド 30x」など光学込みのズームも含む。

*⁴ デジタルズームのときのみ。



MEMO

- テレコンバーター TL-U58を装着すると約1.5倍の望遠撮影が、ワイドアタッチメントWA-U58を装着すると約0.8倍の広角撮影ができます（□ 70）。TL-U58とデジタルテレコンを併用することもできます。
- リモートコントローラー RC-V100を装着時にデジタルテレコンを使用すると、RC-V100のEXTENDER（エクステンダー装着）ランプが点灯します。
- **MENU > 設定 > カメラ設定 > 「コンバージョンレンズ」**が「WA-U58」のときは、デジタルズームおよびデジタルテレコンは使用できません。

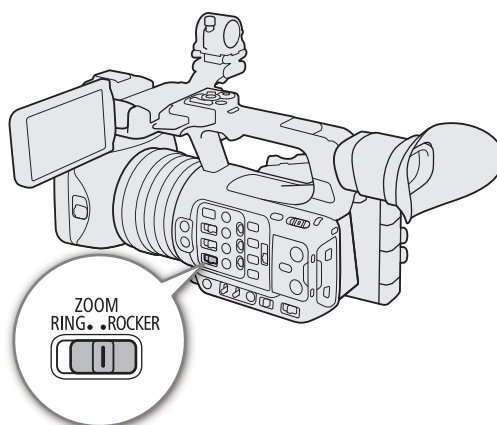
ズームの操作方法を選ぶ

ZOOM（ズーム）スイッチを切り換える

RING（リング）：ズームリングによるズーム操作が有効になる。

ROCKER（ロッカー）：グリップズーム、ハンドルズーム、REMOTE

（リモート）端子に接続したリモコンによるズーム操作が有効になる。

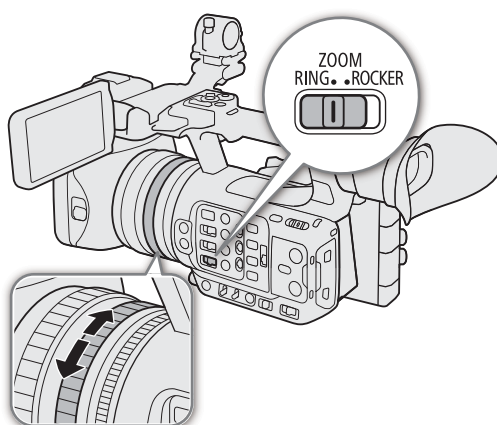


ズームリングで操作する

ZOOM（ズーム）スイッチをRINGに切り換えたあと、ズームリングを回してズームを調整します。ズームリングの位置によってズーム倍率が変わります。

MEMO

- ROCKERからRINGに切り換えた場合、ズームリングに記載されている焦点距離位置にズームレンズが自動的に移動します。
- KEY LOCK (🔒 12) を🔒（キーロック）にしても、ズームリングはロックされません。



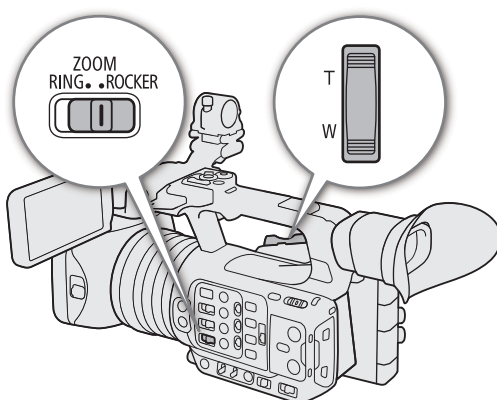
ズームロッカーで操作する

ZOOM（ズーム）スイッチをROCKERに切り換えたあと、グリップ／ハンドルのズームロッカーやREMOTE（リモート）端子に接続したリモートコントローラー RC-V100／市販のリモコンでズームを操作します。

グリップズームロッカーで操作する

グリップズームロッカーのズームスピードをメニューで設定できます。「ユーザー設定」では、グリップズームロッカーの押し方（押しやすさ）によるズームスピードを任意に設定できます。

- 1 ZOOM（ズーム）スイッチをROCKERに切り換える
- 2 広角にするときはW（ワイド）側を押し、望遠にするときはT（テレ）側を押す



グリップズームロッカー操作のズームスピード

「グリップズームスピード」		「ズームスピードレベル」の設定とワイド端→テレ端の時間		
	「固定スピード」の設定（16段階）	ロー	ノーマル	ハイ
固定 （固定速）	1（最低速）	約4分38秒	約2分	約1分
	16（最高速）	約4.2秒	約2.6秒	約0.9秒*
可変速	ズームの押しかたによって可変	約4.2秒～約4分38秒	約2.6秒～約2分	約0.9秒*～約1分

* ズーム中にピントが合いにくくなることがある。

グリップズームのズームスピードを設定する

1 MENU > 設定カメラ設定 > 「ズームスピードレベル」> いずれかを選ぶ

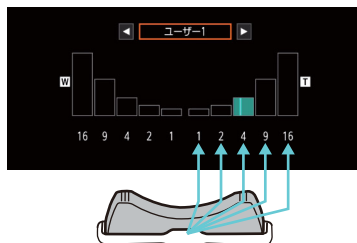
- ここで選んだズームスピードのレベルがハンドルズームにも適用される。

2 MENU > 設定カメラ設定 > 「グリップズームスピード」> いずれかを選ぶ

固定： 一定の速度でズームする。

可変速： グリップズームロッカーの押しかた（操作量）に応じてズームの速度が変わる。

ユーザー設定： グリップズームロッカーを押しこむ角度（5分割）ごとにズームの速度を任意で設定できる。3つのズーム速度のパターンを設定、登録してカスタマイズできる。



「固定」のとき

3 MENU > 設定カメラ設定 > 「固定スピード」> いずれかを選ぶ

「ユーザー設定」のとき

3 MENU > 設定カメラ設定 > 「ユーザー設定」> ユーザー 1～ユーザー 3のいずれか > 「OK」を選ぶ

- 任意のズームスピードを設定するときは、以降の操作を行う。

4 「編集」を選ぶ

5 数値を入力する（ 22）

- 「リセット」を選ぶと、初期値に戻る。

MEMO

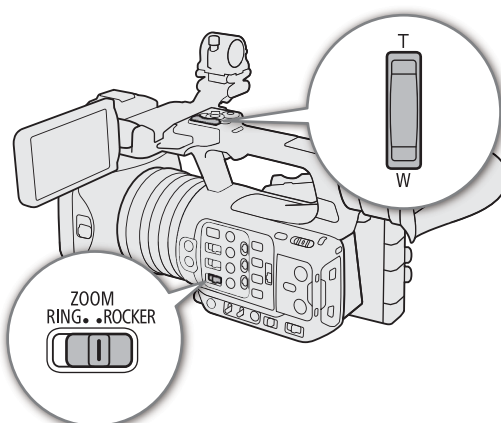
- 「ズームスピードレベル」を「ハイ」にすると、レンズの動作音が記録されることがあります。
- グリップズームスピードが可変速の場合、「ハイスピードズーム」を「入」にすると、撮影一時停止中のスピードレベルを一時的に「ハイ」にできます。撮影中はメニューで選んだスピードレベルで動作します。

ハンドルズームロッカーで操作する

ハンドルズームロッカーのズームスピードをメニューで設定できます。ズームのしかたは固定速です。

1 ZOOM（ズーム）スイッチをROCKERに切り換える

2 広角にするときはW（ワイド）側を押し、望遠にするときはT（テレ）側を押す



ハンドルズームロッカー操作のズームスピード

	「ハンドルズームスピード」の設定 (16段階)	「ズームスピードレベル」の設定とワイド端→テレ端の時間		
		ロー	ノーマル	ハイ
固定 (固定速)	1 (最低速)	約4分38秒	約2分	約1分
	16 (最高速)	約4.2秒	約2.6秒	約0.9秒*

* ズーム中にピントが合いにくくなることがある。

ハンドルズームのズームスピードを設定する

1 MENU > カメラ設定 > 「ズームスピードレベル」> いずれかを選ぶ (□ 69)

2 MENU > カメラ設定 > 「ハンドルズームスピード」> いずれかを選ぶ

リモートコントローラー RC-V100などで操作する

本機にリモートコントローラー RC-V100や市販のリモコンを接続すると、ズームを操作できます。ズームスピードは使用するリモコンによって異なります。

使用するリモコン	ズームスピードの動作
リモートコントローラー RC-V100	RC-V100のZOOMダイヤル操作にて、中央からの回転角度が大きいほど高速になる。
市販のリモコンなど	可変速ズーム機能がないときは固定速。可変速ズーム機能があるときはリモコンの設定に従う。
ブラウザーリモート	固定速となる。速度は上表の最高速 (16)。

MEMO

- リモートコントローラー RC-V100を使うとき、初期設定では、RC-V100のZOOM（ズーム）ダイヤルを中央から右に回すとテレ側、中央から左に回すとワイド側にズームします。

コンバージョンレンズを使う

次のコンバージョンレンズを本機に取り付けることができます。これらのアクセサリーの取り付けかたや機能の詳細については、各アクセサリーの説明書も併せてご覧ください。

	倍率	最短撮影距離
テレコンバーター TL-U58	約1.5倍の望遠撮影	約130 cm (ズーム全域)
ワイドアタッチメント WA-U58	約0.8倍の広角撮影	約60 cm (ズーム全域)

MENU > カメラ設定 > 「コンバージョンレンズ」> いずれかを選ぶ

- コンバージョンレンズに応じて、手ブレ補正のしかたや最短撮影距離、画面に表示する距離情報が変更される。
- コンバージョンレンズを装着しないときは「切」にする。

MEMO

- テレコンバーター TL-U58使用時は、広角側でケラレが生じます。

フォーカスを調整する

次の方法でフォーカスを調整できます。AF（オートフォーカス）の方式にはデュアルピクセルCMOS AFを使用します。ネットワークに接続した機器からブラウザーリモート（□ 172）を使って調整することもできます。また、調整方法によっては、LCDモニターの画面上をタッチしてピントを合わせる位置を移動できます。

マニュアルフォーカス：	レンズのフォーカスリングを回してフォーカスを手動で調整する。フォーカスアシスト機能（□ 71）を使うと、ピントを合わせやすくなる。
PUSH AF（ブッシュ AF）：	マニュアルフォーカスのときに、PUSH AF/MFボタンを押している間だけ、フォーカスを自動調整する。
PUSH MF（ブッシュ MF）：	オートフォーカスのときに、PUSH AF/MFボタンを押している間だけ、手動でフォーカスを調整する。
AFブーストMF*：	大まかな調整はマニュアルで行い、合焦位置に近づくときAFで自動調整する。
コンティニュアスAF*：	フォーカスを常に自動調整する。
顔検出AF*：	人物の顔を検出して自動的にピントを合わせ、被写体が動いても追尾する。
瞳検出*：	人物の瞳を検出して自動的にピントを合わせ、被写体が動いても追尾する。
追尾：	選んだ被写体を認識し、被写体が動いても追尾する。

* AFロック（□ 109）でフォーカス位置を固定することも可能。

マニュアルで調整する

マニュアルでフォーカスを調整します。

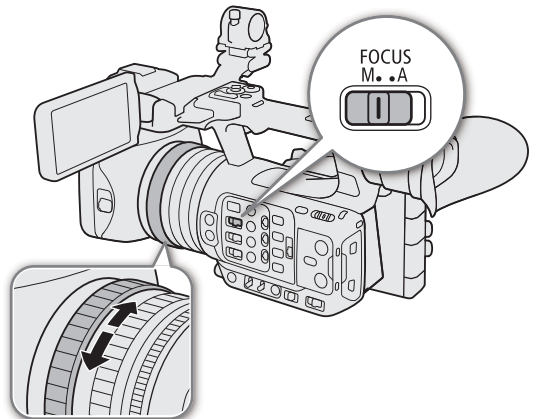
1 FOCUSスイッチをMにする

- 画面に**MF**が表示される。

2 フォーカスリングを回して、ピントを合わせる

MEMO

- オートフォーカスのときでも、リングによるフォーカス調整を行うことができます。フォーカス調整後にオートフォーカスに戻ります。
- フォーカスリングの操作方向と敏感度を「**カメラ設定メニュー**の「フォーカスリング方向」（□ 180）と「フォーカスリングレスポンス」（□ 180）でそれぞれ設定できます。
- ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。
- 電源を入れたままで放置するとピントがボケることがあります。これはレンズとカメラ内部の温度上昇によってピント面がわずかに移動するためです。撮影を開始する前に再度ピントを確認してください。
- リモートコントローラー RC-V100を使うとき、初期設定では、RC-V100のFOCUS（フォーカス）ダイヤルを右に回すと無限方向に、左に回すと至近方向に調整できます。
- KEY LOCK（□ 12）を**（キーロック）**にしても、フォーカスリングはロックされません。



フォーカスアシスト機能を使う

フォーカスを調整するとき、デュアルピクセルフォーカスガイド、ピーキング（輪郭強調）表示や拡大表示を使うと、ピントが合わせやすくなります。デュアルピクセルフォーカスガイドとピーキング、ピーキングと拡大表示を同時に使うこともできます。

デュアルピクセルフォーカスガイド

現在のフォーカス位置から合焦位置への調整方向と調整量を、ガイド枠で視覚的に表示します。顔検出（ 76）と併用すると、ガイド枠は主な被写体と判断した顔に表示されます。瞳検出（ 76）が有効のときは、ガイド枠が主な被写体と判断した顔の瞳に表示されます。

1 ダイレクトタッチコントロール（ 45）の「フォーカスガイド」でガイド枠を表示する

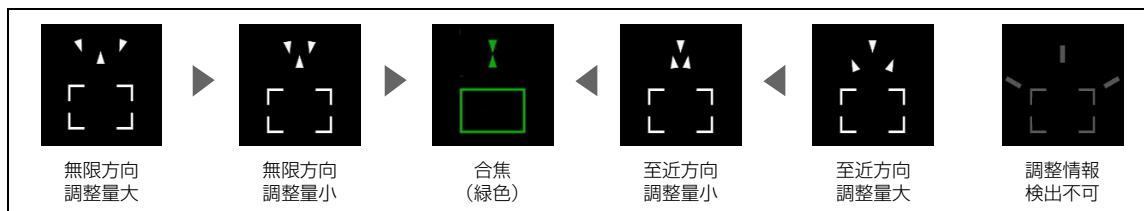
- MENU >  アシスト設定 > 「フォーカスガイド」または「フォーカスガイド」を割り当てたアサインボタンで、ガイド枠を入／切することもできる（ 109）。

2 LCDモニター画面上のフォーカスを合わせたい被写体にタッチして、フォーカスガイド枠を移動する

- ジョイスティックを4方向のいずれかに押して、フォーカスガイド枠を移動することもできる。CANCELを押すと、フォーカスガイド枠が画面の中央に戻る。

3 必要に応じて、手動でフォーカスを調整する

- ピントが合う、またはピントが合う付近になると、ガイド枠が緑色になる。



MEMO

- アイリスがオートの場合は、ズーム操作後フォーカスガイド枠の応答が安定するまでに、時間がかかることがあります。
- オートフォーカスでピントが合いにくい撮影条件／設定（ 75）では、ガイドが正しく表示されないことがあります。
- デュアルピクセルフォーカスガイドが使えないとき：
 - AFブーストMF、またはコンティニュアスAFの調整中。
 - MENU >  カメラ設定 > 「デジタルズーム」で「デジタルテレコン 6.0x」または「デジタルテレコン 3.0x」に設定しているとき。
 - MENU >  カメラ設定 > 「デジタルズーム」で「デジタル 300x」を設定していて、ズーム位置がデジタルズーム領域のとき。
 - MENU >  カメラ設定 > 「コンバージョンレンズ」で「TL-U58」または「WA-U58」に設定しているとき。
 - MENU >  カメラ設定 > 「カラーバー」を「入」に設定しているとき。
 - カスタムピクチャーのガンマの設定が「PQ」または「HLG」のとき。
 - 赤外線撮影を設定しているとき。
 - ズーム中。

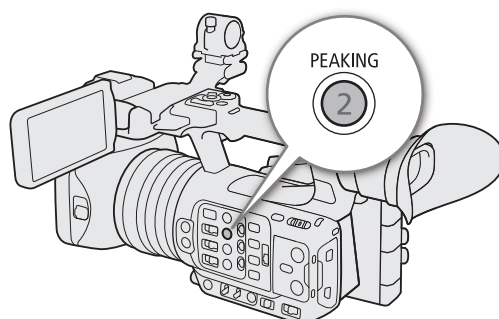
ピーキング

本機では2つのピーキングをメニューで切り換えて使用できます。

1 PEAKING（ピーキング） ボタンを押す

- 画面に **PEAK1** または **PEAK2** が表示され、画面の映像の輪郭が合焦状態に応じて強調される。
- もう一度、PEAKING ボタンを押すと、ピーキング表示が解除される。
- ダイレクトタッチコントロール（□ 45）で、「ピーキング1」／「ピーキング2」を入／切することもできる。
- **MENU** >  アシスト設定 > 「ピーキング: XXXXX」で、各端子／出力先ごとにピーキング表示を入／切することもできる。

2 MENU > アシスト設定 > 「ピーキング選択」 > 「ピーキング1」または「ピーキング2」を選ぶ



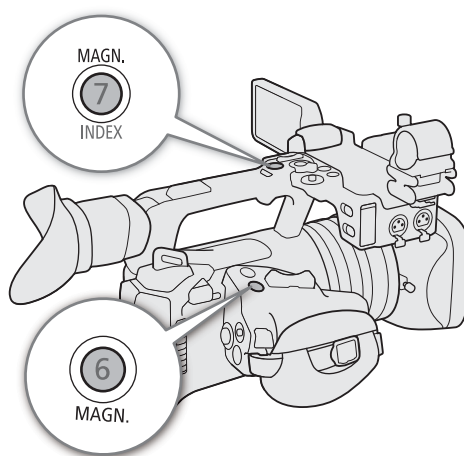
拡大表示

1 MAGN.（拡大） ボタンを押す

- 画面に **MAGN.** 表示され、画面の中心部*を中心に約2倍に拡大される。
* 各種AF枠や顔検出枠、フォーカスガイド枠が表示されているときは、枠の中心部となる。
- 画面の右上に拡大領域の位置を示すオレンジ色の枠が表示される。
- SETを押すたびに、拡大倍率が2倍→5倍→10倍→2倍→5倍→10倍のように切り換わる。

2 必要に応じて拡大位置を移動して、拡大表示した部分を確認する

- ジョイスティックを4方向のいずれかに押すか、LCDモニター画面上をドラッグして拡大位置を移動させる。
- CANCELを押すと、拡大位置が画面の中央に戻る。
- もう一度MAGN.ボタンを押すと拡大表示が解除される。



MEMO

- **ピーキング／拡大表示について：**
 - ピーキングの色、ゲイン、周波数は、**MENU** >  アシスト設定 > 「ピーキング1」または「ピーキング2」でそれぞれ設定できます。
 - **MENU** >  アシスト設定 > 「Magnification出力先」で拡大表示の出力先を選べます。
 - 記録される動画／静止画には影響しません。
 - 拡大表示中に、記録信号形式（□ 47）や、**MENU** >  カメラ設定 > 「手ブレ補正モード」を設定したり、スロー&ファストモーション記録モードを入／切したりすると、拡大表示が解除されます。
- ピーキング／拡大表示は、カラーバーの表示中に使用できません。
- **MENU** >  アシスト設定 > 「Magnification有効時白黒」を「入」にすると、拡大表示使用時に、画面を白黒表示します。記録される映像や外部出力には影響しません。

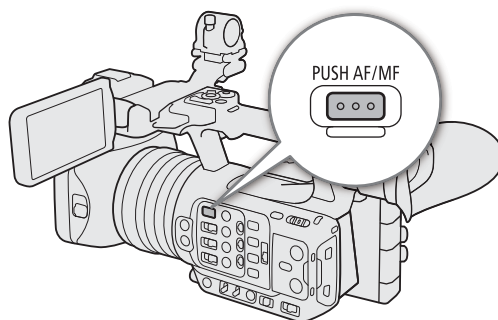
PUSH AF/MF（プッシュ AF／MF）で調整する

マニュアルフォーカスのときは、PUSH AF/MFボタンを押している間だけ、フォーカスの自動調整ができます。また、オートフォーカスのときは、PUSH AF/MFボタンを押している間だけ、手動でフォーカスを調整できます。

PUSH AF/MFボタンを押し続ける

MEMO

- 顔検出AFが「顔限定」で、顔が検出されていないときや、フォーカスの調整方法が「AFブーストMF」で、自動調整領域以外のときは、フォーカスは固定されます。



AFブーストMFで調整する

ねらった被写体に対して、大まかなフォーカス調整をマニュアルで行い、合焦位置に近づくとAFで自動調整します。高解像度（4K以上）の撮影でピン트가甘くなるのを防ぎたいときなどに使用します。また、調整情報が検出できないときに不確実な調整動作を行わないため、コンティニユアスAFよりも安定して調整できます。

1 フォーカスモードスイッチをオートにする

- 画面に『AF』が表示される。

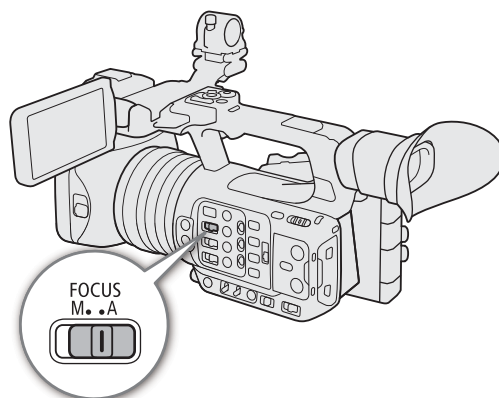
2 MENU > 設定 > 「カメラ設定」> 「AFモード」> 「AFブーストMF」を選ぶ

- フォーカス位置が手動調整領域内のときは、画面に黄色のAF枠（AFブーストMF枠）が表示される。

3 必要に応じてAF枠の位置／タイプを変更する（ 75）

4 フォーカスリングを回して、調整する

- フォーカス位置が合焦位置に近づき自動調整領域に入ると、画面のAF枠が白色に変わり、自動的にピン트가合うまで自動調整を行う。
- フォーカス位置が自動調整領域内にある間は、常に自動調整する。



コンティニユアスAFで調整する

画面中央の縦横それぞれ80%のエリア内の被写体を対象にして、フォーカスを常に自動調整します。

1 フォーカスモードスイッチをオートにする

- 画面に『AF』が表示される。

2 MENU > 設定 > 「カメラ設定」> 「AFモード」> 「連続」を選ぶ

- AF枠が「大」または「小」のときは、画面に白いAF枠（コンティニユアスAF枠）が表示される。
- 顔検出AFを使用中は、主な被写体と判断した顔に白い枠が表示される。

3 必要に応じてAF枠の位置／タイプを変更する（ 75）

MEMO

オートフォーカス機能について

- ピントが合う位置は、被写体条件や明るさ、ズーム位置などの撮影条件によってわずかに変動します。撮影を開始する前に再度ピントを確認してください。
- 次の場合、ピント合わせに時間がかかることがあります。
 - フレームレートが29.97P、25.00P、23.98Pのいずれかのとき。
- オートフォーカスの調整速度や応答性を変更できます。
 - MENU > カメラ設定 > 「AFスピード」で、AFスピード（ピントが合うまでの速度）を3段階で選択できます。
 - MENU > カメラ設定 > 「AFレスポンス」で、AFの応答性を3段階で選択できます。
- 次のときはオートフォーカス関連の設定ができません。
 - MENU > カメラ設定 > 「デジタルズーム」で「デジタルテレコン 6.0x」または「デジタルテレコン 3.0x」に設定しているとき。
 - MENU > カメラ設定 > 「コンバージョンレンズ」で「TL-U58」または「WA-U58」に設定しているとき。
 - カスタムピクチャーのガンマの設定が「PQ」または「HLG」のとき。
 - 赤外線撮影を設定しているとき。

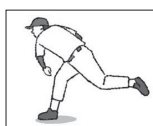
オートフォーカスでピントが合いにくい撮影条件



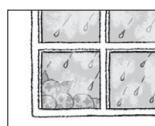
強い光が反射



明暗差がない



動きが速い



水滴が付いた
ガラス越しの撮影



夜景



繰り返す模様

- 絞りを小絞りに設定したとき
- 遠近の被写体が同時に含まれるとき
- カスタムピクチャー（ 118）のガンマにBT.709 Normal、またはBT.709 Standard以外を選んだとき。

AF枠の位置／タイプを変更する

オートフォーカスで調整するときに、画面に表示されるAF枠（顔検出AF／追尾用の枠を除く）の位置／タイプを変更することができます。

1 MENU > カメラ設定 > 「AF枠位置」> いずれかを選ぶ

可動： LCDモニター画面上をタッチして、AF枠を移動できる。ジョイスティックを4方向のいずれかに押し、AF枠を移動することもできる。CANCELを押すと、AF枠が画面の中央に戻る。

中央固定： AF枠を画面の中央に固定する。

2 MENU > カメラ設定 > 「AF枠」> いずれかを選ぶ

全域*： 画面中央部にある被写体にピントが合うように自動的にAF枠を設定する。画面に枠は表示されない。

大： 標準的な大きさのAF枠。

小： 「大」の横幅を1/3にした大きさのAF枠。

* MENU > カメラ設定 > 「AFモード」が「連続」のときのみ選択可能。

MEMO

- 次のときはAF枠や位置を変更できません。
 - MENU > カメラ設定 > 「デジタルズーム」で「デジタルテレコン 6.0x」または「デジタルテレコン 3.0x」に設定しているとき。
 - MENU > カメラ設定 > 「デジタルズーム」で「デジタル 300x」を設定していて、ズーム位置がデジタルズーム領域のとき。
 - MENU > カメラ設定 > 「コンバージョンレンズ」で「TL-U58」または「WA-U58」に設定しているとき。
 - カスタムピクチャーのガンマの設定が「PQ」または「HLG」のとき。
 - カラーバーを表示しているとき。
 - 赤外線撮影を設定しているとき。

顔を検出してフォーカスを合わせる（顔検出AF）

人物の顔を検出して、検出した複数の人物の中からメインの被写体を自動的に決定し、メインの被写体が動いても自動的に追尾します。顔検出したメインの被写体の瞳を検出したり（瞳検出）、自動で明るさを調整したり（顔検出AE）することもできます。オートフォーカス機能を併用すれば、自動的にメインの被写体にピントを合わせることができます（顔検出AF）。また、デュアルピクセルフォーカスガイドを使用すれば、メインの被写体に手でフォーカス調整することもできます。さらに、メインの被写体は変更することもできます。

- 1 MENU > カメラ設定 > 「顔検出&追尾」> 「入」を選ぶ
- 2 MENU > カメラ設定 > 「顔検出AF」> 顔が検出されないときの動作を選ぶ
 - 顔優先： AFモードの設定に応じた調整方法になる。
 - 顔限定： ピントが固定される。
 - 画面に （顔優先）または （顔限定）が表示される。
 - 瞳検出や顔検出AEを有効にしないときは、操作5に進む。
- 3 MENU > カメラ設定 > 「瞳検出」> 「入」を選ぶ
- 4 MENU > カメラ設定 > 「顔検出AE」> 「入」を選ぶ
- 5 カメラを人物に向ける

- 検出したすべての顔に枠が表示される。複数の顔が検出されたときは、メインの被写体を自動的に決定し、メインの被写体の顔の枠に◀と▶が付く。瞳検出を有効にすると、メインの被写体の瞳に枠が表示される。
- ジョイスティックを左右に押すと、メインの被写体が別の人物に切り換わる。瞳検出を有効にして、両方の瞳が検出されているときは、ジョイスティックを左右に押すと、任意の瞳を選べる。メインの被写体の顔や瞳の枠は、オートフォーカスのときは、白色で、マニュアルフォーカスのときは、灰色または黄色*で表示される。
* AFモードが「AFブーストMF」でフォーカス位置が手動調整領域内のとき。
- コンティニユアスAF のときは、メインの被写体と判断した顔や瞳に継続してピントを合わせる。
- 追尾（ 77）と併用すると、メインの被写体を確実に追尾することができる。LCDモニター画面上の被写体をタッチすると、追尾が開始され、顔検出枠が2重枠（追尾枠）に変わる。

設定可能な項目

AFモード	フォーカス操作	顔検出AF			
		顔優先		顔限定	
		顔の検出あり	顔の検出なし	顔の検出あり	顔の検出なし
コンティニユアスAF	自動調整	検出した顔に合焦	AF枠内の被写体に合焦	検出した顔に合焦	マニュアルフォーカス
AFブーストMF	自動調整中				
	自動調整をしていないとき （黄色のAF枠が表示中）	マニュアルフォーカス			

MEMO

- 顔が検出されない主な例
 - 顔が画面全体に対して極端に小さい、大きい、暗い、または明るいとき。
 - 顔が横や斜めを向いていたり、顔の一部が隠れたりしているとき。顔が上下逆さまのとき。
- 顔検出AFまたは追尾、瞳検出が使用できない場合
 - スロー&ファストモーション記録モード以外で、シャッタースピードが1/30秒未満（システム周波数が59.94 Hz時）、1/25秒未満（同50.00 Hz時）、1/24秒未満（同59.94Hz時でフレームレートが23.98P）のとき。
 - スロー &ファストモーション記録モードで、フレームレートが24P未満のとき。
 - MENU > カメラ設定 > 「デジタルズーム」で「デジタル 300x」を設定していて60倍を超えて拡大しているとき。
 - MENU > カメラ設定 > 「デジタルズーム」で「デジタルテレコン 6.0x」に設定しているとき。
 - 赤外撮影を設定しているとき。
- 顔検出AEが使用できない場合
 - シャッタースピードとISO感度／ゲイン、アイリスの各調整がマニュアルのとき。
 - 測光方式が「スポットライト」のとき。

- 人物以外の被写体を、誤って顔として検出することがあります。そのときは「顔検出&追尾」を「切」にしてください。
- 「顔検出&追尾」や「顔検出AF」、「瞳検出」、「顔検出AE」を割り当てたアサインボタンを押して、それぞれの機能を設定することもできます（[109](#)）。

選んだ被写体を追尾する

ねらった被写体を追尾し、AFモードやAF枠のタイプの設定に応じて、追尾対象の被写体にピントを合わせることができます。

AFモードが「連続」でAF枠が「全域」のとき

LCDモニター画面上の追尾したい被写体をタッチする

- 2重枠^①（追尾枠）に変わり、選んだ被写体の追尾が始まる。
- CANCELを押すと追尾を終了する。

AF枠が「全域」または「大」、「小」のとき

1 アサインボタンに「追尾」を割り当てる（[109](#)）

2 「追尾」を割り当てたアサインボタンを押す

- 追尾待機モードになり、画面に^②が表示される。
- もう一度アサインボタンを押すか、CANCELを押すと追尾待機モードを終了する。

3 LCDモニター画面上の追尾したい被写体をタッチする

- ^②が2重枠^③（追尾枠）に変わり、選んだ被写体の追尾が始まる。
- ジョイスティックを4方向のいずれかに押して^②の中央を被写体に合わせた後、SETを押しても追尾を開始できる。
- 追尾に失敗すると^②が約1秒間赤色になる。もう一度被写体を選ぶ。
- 追尾被写体が、オートフォーカスの処理対象になる。

4 SETまたは「追尾」を割り当てたアサインボタンを押す

- 追尾を終了して追尾待機モードに戻る。
- CANCELを押すと追尾を終了し、AFモードに応じたAF枠が表示される。

MEMO

- 特徴が似た別の被写体を誤って追尾することがあります。そのときは、被写体を選択しなおしてください。
- 「顔検出AFまたは追尾、瞳検出が使用できない場合」と同じ条件で追尾も使用できません。

フォーカスリミットとマクロ撮影

フォーカスリミットを入にすると60cm～∞（テレ～ワイド全域）の範囲でフォーカス操作ができます。マクロ撮影を行うときは、フォーカスリミットを切にします。切にすると1cm（ワイド側）～∞の範囲でマクロ領域を含むフォーカス操作ができます。

MENU > カメラ設定 > 「フォーカスリミット」 > 「入」を選ぶ

手ブレを補正する

手ブレによる映像の揺れを軽減します。補正方式は、撮影のしかたによって選べます。また、静止して望遠撮影するときは、パワードISを使うと大きな手ブレを抑えることができます。

- 《》ダイナミックIS： 歩きながら撮影するときなどの大きな手ブレを補正。ズームを広角側にするほど補正効果が大きい。
- 《》スタンダードIS： 静止して手持ちで撮影するときなどの比較的小さな手ブレを補正。自然な映像が撮影できる。
- 《》パワードIS： 静止して望遠撮影するときの手ブレを補正。ズームを望遠側にすると補正効果が大きい。パンやチルトなどカメラを動かす撮影には向かない。

1 MENU > カメラ設定 > 「手ブレ補正モード」> いずれかを選ぶ

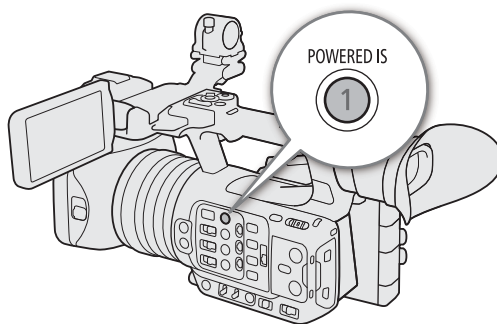
- 「手ブレ補正モード」を割り当てたアサインボタンで手ブレ補正モードを切り換えることもできる（ 109）。

2 MENU > カメラ設定 > 「手ブレ補正」> 「入」を選ぶ

- 画面に《》または《》が表示される。
- 三脚を使って撮影するときや手ブレ補正を使用しないときは「切」を選ぶ。
- 「手ブレ補正」を割り当てたアサインボタンを押して、手ブレ補正の入／切を操作することもできる（ 109）。

3 望遠側の手ブレをさらに補正したいときは、 POWERED IS（パワードIS）ボタンを押す

- 画面に《》が表示される。
- もう一度POWERED ISボタンを押すと、操作1、2で設定した補正方式に戻る。
- MENU >  カメラ設定 > 「パワードIS」でも入／切を設定できる。



MEMO

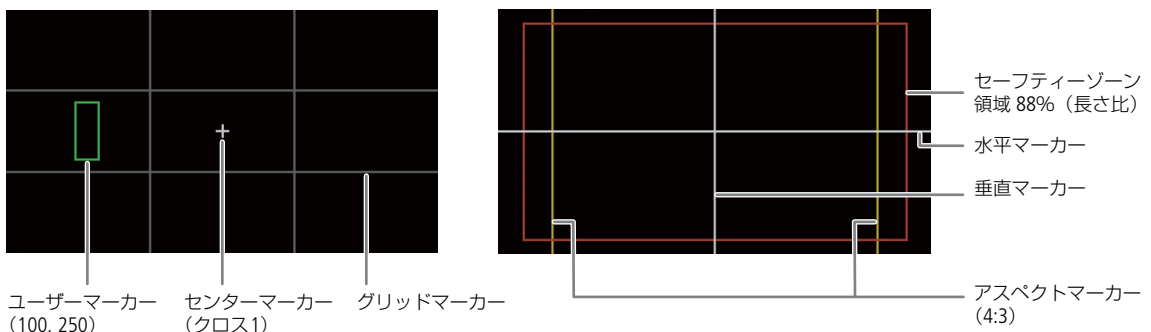
- 手ブレが大きいときは、補正しきれないことがあります。
- ダイナミックIS使用時、大きな手ブレを補正すると画像の周辺の画質が劣化（ゴースト、ひずみ、暗くなるなど）することがあります。
- 「ダイナミック」と「スタンダード」を切り換えるときに、画面が黒くなります。
- 動画撮影中に「ダイナミック」と「スタンダード」を変更することはできません。
- 「ダイナミック」設定時は画角が狭くなります。

マーカー／ゼブラパターン／フォルスカラーを表示する

画面にマーカーを表示すると、構図を決めるガイドにしたり、適切なセーフティーゾーンを確認したりできます。ゼブラパターンを表示すると、露出オーバーになる領域を把握できます。フォルスカラーを表示すると、撮影している映像の露出が正しいか確認できます。これらの表示は、画面やSDI OUT端子、HDMI OUT端子に出力でき、個別に入／切できます。記録される映像には影響しません。

マーカーを表示する

構図を決める際のガイドとして、次の種類のマーカーを表示することができます。マーカーの色は、それぞれのマーカーで選べます。



センターマーカー：

水平マーカー、垂直マーカー：

グリッドマーカー：

アスペクトマーカー：

セーフティーゾーンマーカー：

ユーザーマーカー 1、ユーザーマーカー 2：

画面の中央を示すマーカー。中央のマーカー形状は選べる。

画面の水平または垂直を示すマーカー。

画面の垂直と水平を格子状で示すマーカー。

アスペクト比を示すマーカー。さまざまなアスペクト比で、色枠の表示または映像以外の部分のマスク表示ができる。アスペクト比は任意の値を指定することもできる。

セーフティーゾーンを示すマーカー（色枠またはマスク表示）。セーフティーゾーンは、基準領域と、それに対する長さまたは面積で設定できる。

矩形を示すマーカー。矩形は2つまで表示でき、矩形のサイズや位置もそれぞれ設定できる。

1 MENU > アシスト設定 > 「マーカー：XXXXX」のいずれか > 「入」を選ぶ

- 「入」に設定した出力先へのマーカー出力が有効になる。
- ダイレクトタッチコントロール（ 45）で、「マーカー：LCD」を入／切することもできる。
- 「切」にすると、マーカーの設定を個別に行ってもマーカーは表示されない。

2 表示するマーカーの種類を決めて、マーカーの設定をする

- 異なるマーカーを同時に表示できる。

センターマーカー／水平マーカー／垂直マーカー／グリッドマーカーを設定する

1 MENU > アシスト設定 > 「センターマーカー」、「水平マーカー」、「垂直マーカー」、「グリッドマーカー」のいずれか > いずれかの色を選ぶ

- 「切」を選ぶと、マーカーを表示しない。

2 センターマーカーを選んだときは、MENU > アシスト設定 > 「センターマーカータイプ」> いずれかを選ぶ

アスペクトマーカーを設定する

- 1 MENU >  アシスト設定 > 「アスペクトマーカー」> いずれかの色かマスクの透過度を選ぶ
 - 「切」を選ぶと、マーカーを表示しない。
- 2 MENU >  アシスト設定 > 「マーカー アスペクト比」> いずれかを選ぶ
- 3 「カスタム」を選んだときは、MENU >  アシスト設定 > 「マーカー カスタムアスペクト比」> アスペクト比の数値を入力する (□ 22)

MEMO

アスペクトマーカーが表示されないとき

- マーカーのアスペクト比が「16：9」のとき。「カスタム」で1.78：1のアスペクト比を設定したときも同様。

セーフティーゾーンマーカーを設定する

セーフティーゾーンの領域をマーカーまたはマスクで表示します。セーフティーゾーンの領域は、映像全体またはアスペクトマーカー領域のいずれかに対して、長さ比または面積比で指定します。

- 1 MENU >  アシスト設定 > 「セーフティーゾーンマーカー」> いずれかの色かマスクの透過度を選ぶ
 - 「切」を選ぶと、マーカーを表示しない。
- 2 アスペクトマーカーを表示しているときは、MENU >  アシスト設定 > 「マーカー セーフティーゾーン基準」> 「映像全体」または「アスペクトマーカー領域」を選ぶ
- 3 MENU >  アシスト設定 > 「セーフティーゾーン領域」> いずれかの領域を選ぶ
 - セーフティーゾーンにする領域は、パーセントと比率（長さ、または面積）の組み合わせから選ぶ。

ユーザーマーカーを設定する

ユーザーマーカー 1とユーザーマーカー 2の2種類があり、色、サイズ、位置を個別に設定できます。

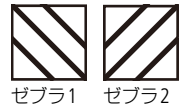
- 1 MENU >  アシスト設定 > 「ユーザーマーカー x」> いずれかの色を選ぶ
 - 「切」を選ぶと、マーカーを表示しない。
- 2 MENU >  アシスト設定 > 「ユーザーマーカー x サイズ」> 幅と高さの数値を入力する (□ 22)
- 3 MENU >  アシスト設定 > 「ユーザーマーカー x 位置」> 水平方向と垂直方向の座標値を入力する (□ 22)

MEMO

- 画面表示のDISPレベルを設定すれば、マーカーだけを表示することもできます (□ 42)。
- 「マーカー：XXXX」を割り当てたアサインボタンを押して、各出力先のマーカー表示を入／切することもできます (□ 109)。

ゼブラパターンを表示する

露出オーバーで白とびするおそれがある領域に、縞状のパターンを表示することができます。ゼブラパターンには「ゼブラ1」と「ゼブラ2」の2種類があり、2つを同時に表示することもできます。ゼブラ1は設定した輝度レベル $\pm 5\%$ の領域にゼブラパターン1を表示します（輝度レベルは $5\pm 5\% \sim 95\pm 5\%$ の範囲。5%刻みで設定可能）。ゼブラ2は設定した輝度レベル以上の領域にゼブラパターン2を表示します（輝度レベルは0%～100%の範囲。5%刻みで設定可能）。

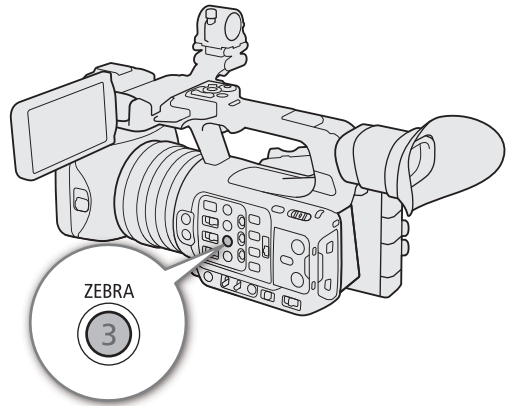


1 ZEBRA（ゼブラ）ボタンを押して、出力先に設定している端子や機器のゼブラパターンを表示する

- ダイレクトタッチコントロール（ 45）で、「ゼブラ：LCD」を入／切することもできる。
- 「ゼブラ：XXXX」を割り当てたアサインボタンを押して、各出力先のゼブラパターン表示を入／切することもできる（ 109）。

2 MENU > アシスト設定 > 「ゼブラ選択」> いずれかを選ぶ

3 MENU > アシスト設定 > 「ゼブラ1レベル」または「ゼブラ2レベル」> いずれかの輝度レベルを選ぶ



フォルスカラーを表示する

撮影時、フォルスカラーを表示して、映像の輝度レベルを色で確認できます。

MENU > アシスト設定 > 「フォルスカラー：XXXX」のいずれか > 「入」を選ぶ

- ダイレクトタッチコントロール（ 45）で、「フォルスカラー：LCD」を入／切することもできる。
- 「フォルスカラー：XXXX」を割り当てたアサインボタンを押して、各出力先のフォルスカラー表示を入／切することもできる（ 109）。

MEMO

- MENU > アシスト設定 > 「フォルスカラーインデックス」でフォルスカラーのインデックスを表示できます。

色	意味
赤	White clipping（白クリップ）
黄	Just below white clipping（白クリップの直ぐ下）
ピンク	One stop over 18% gray（18%グレイより1段高いグレイ）
緑	18% gray（18%グレイ）
青	Just above black clipping（黒クリップの直ぐ上）
紫	Black clipping（黒クリップ）
無彩色	上記以外の明るさ

- カスタムピクチャーのLookファイルが有効のときは、正しい輝度レベルの色で表示されないことがあります。

タイムコードを設定する

タイムコードを内蔵のタイムコードジェネレーターで生成して、映像とともに記録メディアに記録できます。タイムコードは、SDI OUT端子またはTIME CODE端子、HDMI OUT端子に出力できます。また、設定しているフレームレートによって、ドロップフレームとノンドロップフレームを選択できます（□□ 82）。

タイムコードのモードを選ぶ

タイムコードのモードを選びます。

MENU > システム設定 > 「Time Codeモード」> いずれかを選ぶ

- Preset： タイムコードを任意の初期値から開始する。タイムコードの初期値は「00：00：00：00」。以降の操作でタイムコードの歩進方法と任意の初期値を設定する。
- Regen.： タイムコードは記録時に歩進する。記録メディアに記録されている最後のタイムコードを読み出し、その続きから歩進する。同一の記録メディアに記録している間、タイムコードは記録したクリップの順で連続する。

タイムコードの歩進方法を選ぶ

タイムコードのモードに「Preset」を選んだときは、タイムコードの歩進方法を選びます。

MENU > システム設定 > 「Time Code Run」> いずれかを選ぶ

- Rec Run： タイムコードは記録時に歩進する。タイムコードの初期値は任意に設定可能。同一の記録メディアに記録している間、タイムコードは記録したクリップの順で連続する。
- Free Run： タイムコードは、記録状態に関係なく常に歩進する。初期値は任意に設定可能。

タイムコードの初期値を設定する

タイムコードのモードに「Preset」を選んだときは、タイムコードの初期値を設定します。

1 MENU > システム設定 > 「Time Code設定」> 「変更」を選ぶ

- タイムコードの設定画面が表示され、「時」の桁が選択される。
- 「リセット」を選ぶと、タイムコードが「00:00:00:00」（NDF時は「00:00:00:00」）にリセットされる。「Free Run」を選んでいるときは、リセット後のタイムコードから歩進を続ける。

2 タイムコードの初期値の数値を入力する（□□ 22）

- タイムコードのモードに「Free Run」を選んでいるときは、この時点で設定値のタイムコードから歩進する。

ドロップフレーム／ノンドロップフレームを切り換える

フレームレートを59.94P、59.94i、または29.97Pに設定しているときは、ドロップフレーム（DF）、またはノンドロップフレーム（NDF）を切り換えることができます。なお、フレームレートが59.94P、59.94i、29.97P以外のときはNDFに固定されます。

MENU > システム設定 > 「Time Code DF/NDF」> いずれかを選ぶ

- DFとNDFで画面上のタイムコード表示が次のように異なる。

DFのとき	00：00：00 . 00
NDFのとき	00：00：00：00

タイムコードの表示について

タイムコードの設定や状態を表す文字が、画面のタイムコードの横に表示されます。

文字	意味
R	Regen. (リジェネ) 設定時
P	Rec Run (レックラン) 設定時
F	Free Run (フリーラン) 設定時
E	タイムコード外部入力時
表示なし	再生時

MEMO

- タイムコードのフレームカウントは、フレームレートが23.98Pのときは0～23、25.00P / 50.00i / 50.00Pのときは0～24、それ以外は0～29となります。
- スロー & ファストモーション記録モードやフレーム記録モード、インターバル記録モードのときは、「Free Run」は使用できません。また、プレ記録のときは「Free Run」固定となります。
- スロー & ファストモーション記録モードやフレーム記録モード、インターバル記録モードのときは、本機の各出力端子にタイムコードを出力できません。
- ドロップフレーム、ノンドロップフレームを混在させて録画すると、撮影開始時のタイムコードが不連続になることがあります。
- 内蔵のリチウム電池の残量があれば、バッテリーなどの電源がなくても、フリーランタイムコードは歩進します。
- 「Time Code」を割り当てたアサインボタンを押して、**MENU** >  システム設定のタイムコードを設定するメニューページを表示することもできます (□ 109)。

ユーザービットを設定する

8桁の16進数、撮影時刻、または撮影日(年月日)をユーザービットとして設定できます。16進数は、0～9とA～Fの英数字を使用できます。ユーザービットは映像と一緒に記録され、SDI OUT端子またはTIME CODE端子、HDMI OUT端子から出力できます。ユーザービットには、撮影情報や記録した映像の管理情報など、映像に付加したい情報を自由に設定できます。

1 MENU > システム設定 > 「User Bit タイプ」 > 「設定」、「時刻」または「日付」を選ぶ

- 「時刻」または「日付」を選んだときは以降の操作は不要。

2 「変更」を選ぶ

- 「リセット」を選ぶと、ユーザービットが「00 00 00 00」にリセットされる。

3 ユーザービットに設定する数値と文字を入力する (□ 22)

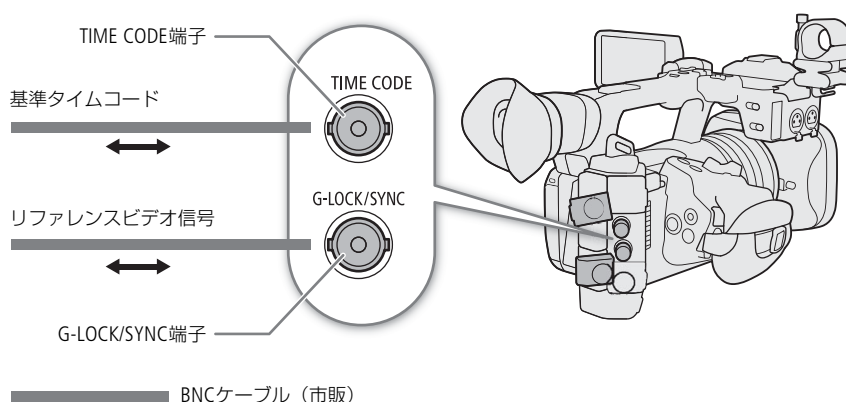
外部機器と同期をとる

TIME CODE端子を使って、本機のタイムコードを外部入力タイムコードに同期させることができます。同じジェネレーターのタイムコードを複数のカメラに入力すれば、マルチカメラ撮影を行うことができます。本機のタイムコードを他のカメラに出力してマルチカメラ撮影を行うこともできます。撮影／再生時にSDI OUT端子の出力を編集機などに入力して、編集機で同一タイムコードの映像を記録することもできます。また、G-LOCK/SYNC端子を使って、外部の映像機器と本機のリファレンスビデオ信号*をゲンロック（GENLOCK）によって同期させたり、本機から同期信号としてリファレンスビデオ信号*を出力したりすることもできます。

* リファレンスビデオ信号としてHD三値信号の他にアナログ・ブラックバースト信号も入力可能です。

外部機器と接続する

外部機器とタイムコードを同期させるときは、TIME CODE端子にタイムコード信号を入力します。映像信号と同期させるときは、G-LOCK/SYNC端子にリファレンスビデオ信号を入力します。それぞれの端子の入力／出力モードの設定は、あらかじめメニューで切り換えます。



外部のタイムコード信号に同期する（タイムコード入力）

TIME CODE端子に入力されるLTC規格の信号を、タイムコードとして記録メディアに記録します。同時に入力されるユーザービットも記録できます。TIME CODE端子の設定は、外部機器を接続する前に入力モードに切り換えます。なお、本機のタイムコードの歩進方式（□ 82）が「Free Run」のときのみ、タイムコードを入力できます。

1 MENU > システム設定 > 「TC In/Out」 > 「In」を選ぶ

2 外部入力のユーザービットを記録するときは、MENU > システム設定 > 「User Bit 記録モード」 > 「External」を選ぶ

MEMO

- フレームレートが23.98Pのときは24フレーム信号のタイムコード、25.00P / 50.00i / 50.00Pのときは25フレーム信号のタイムコード、その他のフレームレートのときは30フレーム信号のタイムコードを入力できます。
- タイムコードが入力されると本機のタイムコードが同期します。TIME CODE端子からケーブルを外しても、外部ロック状態は保持されます。
- タイムコードが入力されない、または不正な値が入力されているときは、MENU > システム設定 > 「Time Code モード」と「Time Code Run」で設定した内部タイムコードが記録されます。
- DF/NDFは、外部入力されるタイムコードの設定に従います。

- プレ記録を設定した後、タイムコード入力を行うと、プレ記録したクリップのタイムコードが不連続になることがあります。
- ケーブルを外した状態で次の操作を行うと、タイムコードの同期が乱れます。ケーブルを再度接続すると、正しいタイムコードに復帰します。
 - 電源の入／切
 - メディアモードへの切り換え
 - 記録信号形式の変更

タイムコードを出力する

本機のタイムコードを、LTC規格の信号でTIME CODE端子から出力します。ユーザービットも同時に出力します。

MENU > ④ システム設定 > 「TC In/Out」 > 「Out」 を選ぶ

MEMO

- **ユーザービットの出力について：**
設定されているユーザービット（□ 83）が出力され、メディアモードで再生するときは、TIME CODE端子からユーザービットを出力しません。
- スロー & ファストモーション記録時やフレーム記録時、インターバル記録時は、タイムコードとユーザービットを出力しません。

外部のリファレンスビデオ信号に同期する（GENLOCK）

同期信号（アナログ・ブラックバースト信号または三値信号）をG-LOCK/SYNC端子に入力すると、自動的に内部のV同期／H同期の位相を合わせます。本機とリファレンスビデオ信号を同期させたときの位相差の初期設定は0です。H位相は0を中心として、約±0.4Hの範囲で調整できます。

1 MENU > ④ システム設定 > 「G-LOCK/SYNC端子」 > 「Genlock入力」 を選ぶ

2 MENU > ④ システム設定 > 「Genlock調整」 > 「変更」 を選ぶ

- 「リセット」を選ぶと、調整値が「000」にリセットされる。

3 調整するH位相の数値を入力する（□ 22）

MEMO

- 同期可能なGENLOCK信号が入力されると約10秒後に同期が安定します。
- 入力されたGENLOCK信号を検知すると、画面の右側に **Gen.** が点滅して表示されます。入力信号に本機がロックすると点灯に変わります。
- 不正なGENLOCK信号が入力されると、同期が安定しないことがあります。この場合、タイムコードの記録も乱れることがあります。

リファレンスビデオ信号を出力する

G-LOCK/SYNC端子の機能を「HD Sync出力」に設定すると、G-LOCK/SYNC端子から同期信号としてリファレンスビデオ信号（HD三値信号）を出力できます。出力されるリファレンスビデオ信号は、SDI OUT端子の出力信号形式とメニューの設定によって決まります。

1 MENU > ④ システム設定 > 「G-LOCK/SYNC端子」 > 「HD Sync出力」 を選ぶ

2 必要に応じて、MENU > ④ システム設定 > 「SYNCスキャンモード」 > 「P」 または 「PsF」 を選ぶ

音声を記録する

本機では、以下に示す形式の音声を記録／再生できます。収録する音声は、外部マイク／外部ライン入力（INPUT端子）、外部マイク／外部ライン入力（MIC端子）、内蔵マイクから選びます。また、SDI OUT端子、またはHDMI OUT端子から出力される映像信号には音声信号が重畳されます。この音声信号を外部レコーダーで記録できます。

音声記録形式

	動画の記録形式 または 音声記録の条件	音声記録形式				
		コーデック	サンプリング 周波数	量子化ビット数	記録チャンネル数	ビットレート
動画記録	XF-AVC	リニアPCM	48 kHz	24 bit	4チャンネル	4.5 Mbps
	MP4*	リニアPCM		16 bit	4チャンネル	3 Mbps
		AAC		16 bit	2チャンネル	256 kbps
音声記録	スロー & ファスト モーション記録の 音声記録時	—	48 kHz	24 bit	4チャンネル	4.5 Mbps
	2スロット記録機能の 音声記録時	—	8 kHz	16 bit	1チャンネル	128 kbps

* プロキシ記録時の音声記録形式は、AAC記録方式になる。

音声の設定と記録音声

必要な設定			記録音声			
オーディオInput選択 ^{*1}		CH2 Input ^{*1}	CH1	CH2	CH3	CH4
(CH1/CH2)	(CH3/CH4)					
INPUT端子	INPUT端子 ^{*2}	INPUT2	INPUT1端子	INPUT2端子	INPUT1端子	INPUT2端子
INPUT端子	INPUT端子 ^{*2}	INPUT1	INPUT1端子	INPUT1端子	INPUT1端子	INPUT2端子
INPUT端子	MIC端子	INPUT2	INPUT1端子	INPUT2端子	MIC端子 (L)	MIC端子 (R)
INPUT端子	MIC端子	INPUT1	INPUT1端子	INPUT1端子	MIC端子 (L)	MIC端子 (R)
INPUT端子	MIC端子	MIC端子	INPUT1端子	MIC端子 (L+R)	MIC端子 (L)	MIC端子 (R)
INPUT端子	内蔵マイク	INPUT2	INPUT1端子	INPUT2端子	内蔵マイク (L)	内蔵マイク (R)
INPUT端子	内蔵マイク	INPUT1	INPUT1端子	INPUT1端子	内蔵マイク (L)	内蔵マイク (R)
INPUT端子	内蔵マイク	内蔵マイク	INPUT1端子	内蔵マイク (L+R)	内蔵マイク (L)	内蔵マイク (R)
INPUT端子	マルチアクセサリ シュー ^{*3}	INPUT2	INPUT1端子	INPUT2端子	アクセサリ (市販) の 音声端子	アクセサリ (市販) の 音声端子
INPUT端子	マルチアクセサリ シュー ^{*3}	INPUT1	INPUT1端子	INPUT1端子	アクセサリ (市販) の 音声端子	アクセサリ (市販) の 音声端子
MIC端子	INPUT端子 ^{*2}	—	MIC端子 (L)	MIC端子 (R)	INPUT1端子	INPUT2端子
MIC端子	MIC端子	—	MIC端子 (L)	MIC端子 (R)	MIC端子 (L)	MIC端子 (R)
MIC端子	内蔵マイク	—	MIC端子 (L)	MIC端子 (R)	内蔵マイク (L)	内蔵マイク (R)
MIC端子	マルチアクセサリ シュー ^{*3}	—	MIC端子 (L)	MIC端子 (R)	アクセサリ (市販) の 音声端子	アクセサリ (市販) の 音声端子
内蔵マイク	INPUT端子 ^{*2}	—	内蔵マイク (L)	内蔵マイク (R)	INPUT1端子	INPUT2端子
内蔵マイク	MIC端子	—	内蔵マイク (L)	内蔵マイク (R)	MIC端子 (L)	MIC端子 (R)

必要な設定			記録音声			
オーディオInput選択 ^{*1}		CH2 Input ^{*1}	CH1	CH2	CH3	CH4
(CH1/CH2)	(CH3/CH4)					
内蔵マイク	内蔵マイク	—	内蔵マイク (L)	内蔵マイク (R)	内蔵マイク (L)	内蔵マイク (R)
内蔵マイク	マルチアクセサリースュー ^{*3}	—	内蔵マイク (L)	内蔵マイク (R)	アクセサリー (市販) の 音声端子	アクセサリー (市販) の 音声端子

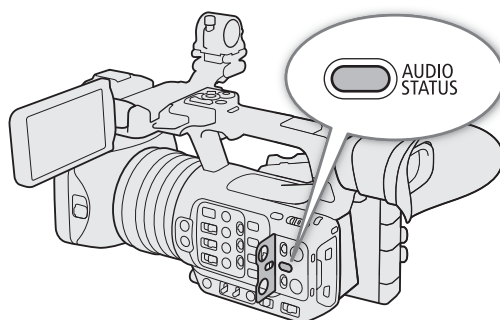
^{*1} オーディオ設定のメニュー項目

^{*2} マルチアクセサリースューに対応したアクセサリー (市販) を装着時は、「INPUT端子(カメラ)」に変わる。

^{*3} マルチアクセサリースューに対応したアクセサリー (市販) を装着時のみ表示される。

MEMO

- AUDIO STATUS (オーディオステータス) ボタンを押すと、
 オーディオ設定ステータス画面が表示されます。オーディオ設定ステータス画面では、各記録チャンネルの設定と現在のオーディオ設定が確認できます (197)。



MP4動画の音声記録形式を選ぶ

メイン動画またはサブ動画がMP4形式のときは、音声記録形式を選択します。

MENU > 記録/メディア設定 > 「メイン記録MP4オーディオ形式」または「 MP4オーディオ形式」> いずれかを選ぶ

2スロット記録機能を使って音声記録をする

2スロット記録機能を使って音声記録をすると、データ容量の軽いWAVファイルが記録できます。記録する音声は、メイン動画の4チャンネルの音声を1チャンネルの音声に変換した音声です。そのため、各チャンネルの録音レベルは下がって記録されます。

1 スロットAにメイン動画用のカードを、スロットBに音声記録用のカードを入れる

2 MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」 > 「通常記録」を選ぶ

3 MENU > 記録/メディア設定 > 「2スロット記録機能」 > 「 メイン / 音声記録」を選ぶ

4 RECボタンを押して、記録を開始する

- メイン動画の記録開始と同時に、WAVファイルの記録が始まる。

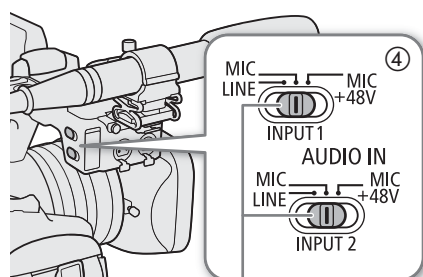
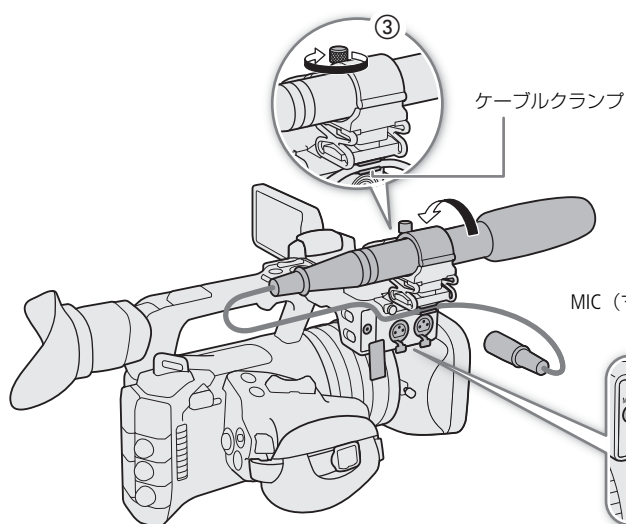
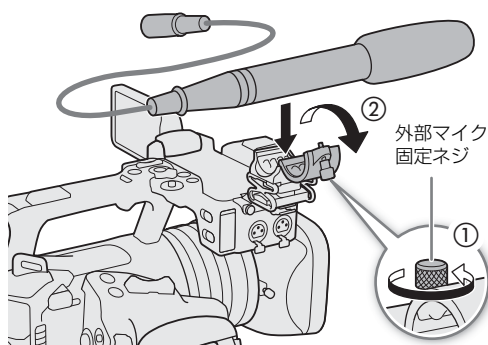
MEMO

- 2スロット記録機能を使って音声記録で音声 (WAV) を記録するとき
 - 8 kHz、16 bit、1チャンネルで記録する。
 - 記録メディアの状況により動画が記録できないときは、音声も記録しない。
 - 記録メディアの状況により音声記録できない場合でも、動画は記録する。
 - 同一ファイル名のWAVファイルがあるときは、記録しない。
 - 6時間に達すると、自動的に音声の記録を停止する (動画の記録は継続する)。
 - WAVファイルは999個を超えて記録できない。

外部マイク／外部音声入力機器を本機に接続する

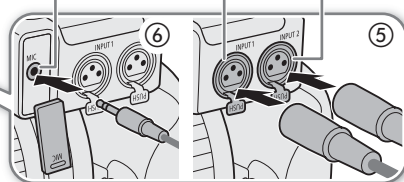
INPUT端子には、XLRコネクタの外部マイク／外部ライン入力機器（アナログ）を、MIC（マイク）端子には $\phi 3.5\text{mm}$ ステレオミニプラグの外部マイク／外部ライン入力機器（アナログ）をそれぞれ接続できます。なお、マイクホルダーには、 $\phi 19 \sim 20\text{ mm}$ のマイクを固定できます。

- 1 マイクのときは、外部マイク固定ネジをゆるめ
(①)、外部マイクホルダーを開く (②)
- 2 マイクのときは、外部マイクを取り付けて固定
(③) し、ケーブルをケーブルクランプにとめる
- 3 INPUT端子を使用するときは、INPUT 1／INPUT 2端子入力切り換えスイッチを「MIC + 48V」以外にする (④)
- 4 外部マイク／外部ライン入力機器のケーブルを本機のINPUT端子 (⑤) またはMIC（マイク）端子 (⑥) に接続する



INPUT 1／INPUT 2端子
入力切り換えスイッチ

MIC（マイク）端子 INPUT 1端子 INPUT 2端子



ご注意

- 故障の原因となるため、入力切り換えスイッチをMIC + 48VにしているINPUT端子は、抜き差しをしないでください。

INPUT 1／INPUT 2端子の入力を切り換える

INPUT 1端子とINPUT 2端子に接続した機器に応じて、INPUT 1／INPUT 2端子入力切り換えスイッチを切り換えます。

INPUT 1／INPUT 2端子入力切り換えスイッチを、LINE、MIC、MIC + 48Vのいずれかにする

- INPUT端子を1チャンネルのみ使用するとき、INPUT 1端子を使用する。

で注意

ファンタム電源が必要なマイクを使うとき

カメラの電源を切るか、各INPUT端子の入力切り換えスイッチをMICにして、+48V対応のマイクを接続した後、MIC+48Vに切り換えます。

- +48V対応のマイク以外の機器を各INPUT端子に接続するときは、各INPUT端子の入力切り換えスイッチをLINEまたはMICにしてください。MIC+48Vにしたまま機器を接続すると、接続した機器が故障することがあります。

MIC端子の入力を切り換える

MIC端子に接続した機器に応じて設定します。

- 1 MENU > オーディオ設定 > 「MIC入力」を選ぶ
- 2 「MIC（電源供給有り）」、「MIC」、「LINE」のいずれかを選ぶ
 - 「MIC（電源供給有り）」を選ぶと、マイクに電源を供給する。

で注意

電源供給が不要なマイクを使うとき

電源供給が不要な外部マイクを接続して、「MIC入力」を「MIC（電源供給有り）」にすると、外部マイクが故障する恐れがあります。

記録する入力音声を選ぶ

記録する音声は、CH1/CH2またはCH3/CH4の2チャンネルごとに選択します。「音声の設定と記録音声」（ 86）を参考にして設定してください。

- 1 MENU > オーディオ設定 > 「オーディオInput選択」 > 「CH1/CH2」を選ぶ
- 2 「INPUT端子」、「MIC端子」、「内蔵マイク」のいずれかを選ぶ
- 3 同様に「CH3/CH4」の入力音声を選ぶ
 - マルチアクセサリシューに対応したアクセサリ（市販）を装着時は、「INPUT端子(カメラ）」、「MIC端子」、「内蔵マイク」、「マルチアクセサリシュー」から選ぶ。
- 4 CANCELを押すと、前の画面に戻る

CH2に記録する入力音声を選ぶ

記録する入力音声にINPUT端子を選ぶと、初期設定ではINPUT 1端子の入力をCH1に、INPUT 2端子の入力をCH2に記録します。必要に応じて、INPUT 1端子の音声をCH1とCH2の両方に記録することができます（CH2はバックアップ用）。このときCH1とCH2の録音レベルを独立して設定することもできます。また、MIC端子や内蔵マイクの音声をCH2に記録することもできます。

MENU > オーディオ設定 > 「CH2 Input」 > いずれかを選ぶ

- | | |
|----------|---|
| INPUT 2： | INPUT 1端子の入力はCH1に、INPUT 2端子の入力はCH2に録音する。 |
| INPUT 1： | INPUT 1端子の入力をCH1 / CH2の両方に録音する。INPUT 2端子の音声は録音されない。 |
| MIC端子： | INPUT 1端子の入力はCH1に、MIC端子の入力はCH2に録音*する。 |
| 内蔵マイク： | INPUT 1端子の入力はCH1に、内蔵マイクの入力はCH2に録音*する。 |

* 記録音声はL+R。

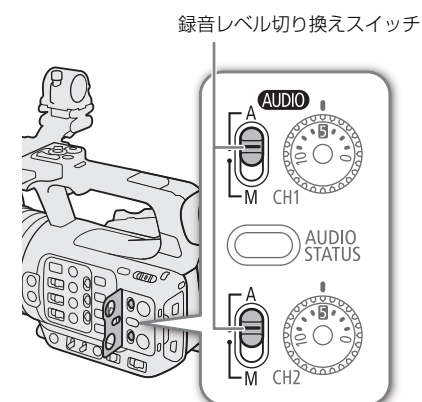
録音レベルを調整する

INPUT端子、MIC端子、内蔵マイクの録音レベルを調整します。録音レベルは、CH1～CH4のチャンネルごと、またはCH1/CH2*、CH3/CH4*の組み合わせごとにオート/マニュアルを設定できます。内蔵マイクのときは、CH1の調整がCH1/CH2の両方に適用されます。

*「CH1/CH2 ALCリンク」または「CH3/CH4 ALCリンク」を「連動」にしたとき（□91）。

CH1、CH2、またはCH1 / CH2をオートで調整する

録音レベル切り換えスイッチをA（オート）にすると、そのチャンネルの録音レベルがオートになり、自動調整されます。



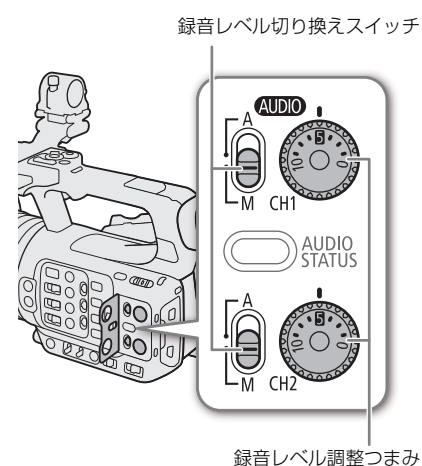
CH1、CH2、またはCH1 / CH2をマニュアルで調整する

各チャンネルの録音レベルを $-\infty \sim +18$ dBの範囲で手動調整できます。

1 録音レベル切り換えスイッチをM（マニュアル）にする

2 録音レベル調整つまみを回して調整する

- つまみの0 ($-\infty$) $\sim$ 5 (0 dB) $\sim$ 10 (+18 dB) の範囲でレベルを調整できる。
- 画面に表示されるオーディオレベルメーターの -18 dB (-20 dBの1つ右隣) より右が時々点灯するように調整する。



CH3、CH4、またはCH3 / CH4を調整する

1 MENU > オーディオ設定 > 「録音レベル CH3」、「録音レベル CH4」、「録音レベル CH3/CH4」のいずれか > 「オート」または「マニュアル」を選ぶ

- 「オート」を選んだときは、以降の操作は不要。「マニュアル」を選んだときは、以降の操作を行い、録音レベルを調整する。

2 MENU > オーディオ設定 > 「CH3 レベル」、「CH4 レベル」、「CH3/CH4 レベル」のいずれか > 録音レベルを調整する

- 0 ($-\infty$) $\sim$ 50 (0dB) $\sim$ 100 (+18dB) の範囲で録音レベルを調整する。
- 画面に表示されるオーディオレベルメーターの -18 dB (-20 dBの1つ右隣) より右が時々点灯するように調整する。

INPUT端子またはMIC端子のCH1とCH2（またはCH3とCH4）の録音レベル調整を連動させる

- INPUT 1 / INPUT 2端子またはMIC端子が同じ音声入力（外部ライン、または外部マイク）に設定されている場合、CH1とCH2（またはCH3とCH4）のレベル調整を連動させることができます。設定は、MENU > **♪** オーディオ設定 > 「CH1/CH2 ALCリンク」（または「CH3/CH4 ALCリンク」）で設定します。
- 連動する設定にすると、CH1の調整操作でCH1 / CH2を、CH3の調整操作でCH3 / CH4を、それぞれまとめて調整できます。

INPUT端子の音声信号レベルを制限する

- 次の設定を行うと、録音レベルをマニュアルで調整するときに、入力信号が歪みはじめるレベルになると自動的に信号レベルを制限して、過大な音声入力による歪みを低減します。
MENU > **♪** オーディオ設定 > 「INPUT リミッター」 > 「入」

MEMO

- 録音レベルを調整するときは、ヘッドホンでモニターしながら行うことをおすすめします。オーディオレベルメーター上で適切に表示されていても、入力レベルが過大な場合、音声が入りすぎることがあります。
- 「オーディオレベル」を割り当てたアサインボタンを押して、オーディオレベルメーターの表示を入／切することができます（□ 109）。

入力音声を調整する

INPUT端子、MIC端子、内蔵マイクの音声を調整することができます。各調整機能は、それぞれの音声入力があるときに働きます。なお、INPUT端子はINPUT 1 / INPUT 2端子切り換えスイッチがMICまたはMIC + 48Vのときに、MIC端子は入力がマイクのときに調整できます。

外部マイク（INPUT端子）の入力感度を調整する

各INPUT端子に接続している外部マイクの入力感度を調整できます。

MENU > **♪** オーディオ設定 > 「INPUT×マイクトリミング」のいずれか > 入力感度を選ぶ

- 入力感度は、「+12 dB」、「+6 dB」、「0 dB」、「-6 dB」、「-12 dB」のいずれかを選ぶ。

外部マイク（INPUT端子）のアッテネーターを使う

各INPUT端子に接続した外部マイクのアッテネーター（20dB）を有効にします。

MENU > **♪** オーディオ設定 > 「INPUT×マイクアッテネーター」のいずれか > 「入」を選ぶ

外部マイク（INPUT端子）の特性を選ぶ

収録する音に合わせてマイクの特性を選択できます。

MENU > **♪** オーディオ設定 > 「INPUT×マイクローカット」 > いずれかを選ぶ

- 切： 一般的な音を録音するとき。風の影響を受けない場所で撮影するときや、低音まで収録するとき。
- LC1： 人の声を中心に録音するとき。
- LC2： 海辺やビルの近くなど風の影響を受ける屋外で撮影するとき、風の「ポコポコ」という音の影響を低減する。収録する低い音の一部も風の音と一緒に低減される。

外部マイク（INPUT端子）の基準レベルを切り換える

各INPUT端子の基準レベルを-18 dB、または-20 dBから選べます。

MENU > **♪** オーディオ設定 > 「INPUT端子基準レベル」 > いずれかを選ぶ

内蔵マイクの感度を選ぶ

収録する音に合わせて感度を選択できます。

MENU >  オーディオ設定 > 「内蔵マイク感度」 > いずれかを選ぶ

ノーマル： 通常のレベルの音を録音するとき。

ハイ： より大きな音量（+6 dB）で録音するとき。

外部マイク（MIC端子）／内蔵マイクのアッテネーターを使う

外部マイク（MIC端子）または内蔵マイクにアッテネーター（20 dB）を使用できます。

MENU >  オーディオ設定 > 「MIC アッテネーター」または「内蔵マイクアッテネーター」 > 「入」を選ぶ

外部マイク（MIC端子）／内蔵マイクの特性を選ぶ

収録する音に合わせてマイクの特性を選択できます。

MENU >  オーディオ設定 > 「MICローカット」または「内蔵マイクローカット」 > いずれかを選ぶ

切： 一般的な音を録音するとき。風の影響を受けない場所で撮影するときや、低音まで収録するとき。

LC1： 人の声を中心に録音するとき。

LC2： 海辺やビルの近くなど風の影響を受ける屋外で撮影するとき、風の「ポコポコ」という音の影響を低減する。収録する低い音の一部も風の音と一緒に低減される。

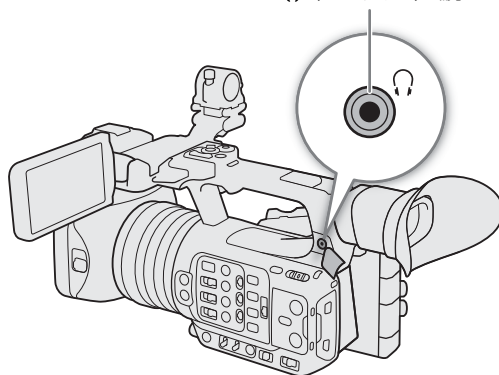
ヘッドホンでモニターする

φ 3.5 mmステレオミニプラグのヘッドホンをΩ（ヘッドホン）端子に接続して、収録される音声をモニターできます。

Ω（ヘッドホン）端子

MEMO

- **MENU >  オーディオ設定 > 「ヘッドホン音量」**で音量を調整できます。「ヘッドホン+」または「ヘッドホン-」を割り当てたアサインボタンで操作することもできます（ 109）。



カラーバー／テストトーンを記録する

カラーバーと1 kHzのテストトーンを次の端子から出力／記録できます。

	LCDモニター	ファインダー	SDI OUT端子	HDMI OUT端子	Ω (ヘッドホン) 端子
カラーバー	●	●	●	●	—
テストトーン	—	—	●	●	●

カラーバーを記録する

出力／記録するカラーバーは、SMPTE準拠、EBU準拠、ARIB準拠のいずれかをメニューで選べます。

1 MENU > カメラ設定 > 「カラーバー」 > 「入」 を選ぶ

- 画面にカラーバーが表示される。

2 MENU > カメラ設定 > 「カラーバータイプ」 > いずれかを選ぶ

- RECボタンを押して撮影を開始すると、カラーバーを記録できる。
- 電源を切るかメディアモードに切り換えると、自動的に「カラーバー」は「切」になる。

MEMO

- 「カラーバー」を割り当てたアサインボタンを押して、カラーバーを入／切することもできます（ 109）。

カラーバーを表示できないとき

- スロー & ファストモーション記録モードのとき。
- カスタムピクチャーのガンマが、「BT.709 Wide DR」、「BT.709 Normal」、「BT.709 Standard」または「Canon 709」のいずれでもないとき。

テストトーンを記録する

カラーバーの出力と同時に1 kHzのテストトーンを出力します。

MENU > オーディオ設定 > 「1 kHz トーン」 > いずれかを選ぶ

- テストトーンのレベルは、「-12 dB」、「-18 dB」、「-20 dB」、「切」から選ぶ。
- カラーバーが「入」のときに、RECボタンを押して撮影を開始すると、選択したレベルのテストトーンが記録できる。

波形モニター／ベクトルスコープを表示する

画面に波形モニター（Waveform Monitor）やベクトルスコープ（Vectorscope）を表示できます。画面やSDI OUT端子、HDMI OUT端子に出力できます。

表示する

波形モニターまたはベクトルスコープを表示します。不透過度や表示位置、波形モニターの表示倍率を変更することができます。

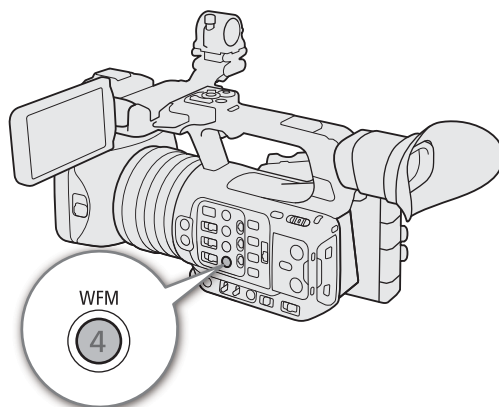
1 MENU > アシスト設定 > 「WFM機能」> 「波形モニター」または「ベクトルスコープ」を選ぶ

2 WFMボタンを押す

- MENU >  アシスト設定 > 「WFM: XXXXX」で出力先ごとに入／切することもできる。
- MENU >  アシスト設定 > 「波形モニター設定」または「ベクトルスコープ設定」> 「位置」で、表示位置（右／左）を選択できる。
- ダイレクトタッチコントロール（ 45）で表示の入／切や位置を切り換えることもできる。

3 必要に応じて、MENU > アシスト設定 > 「WFM不透過度」> いずれかを選ぶ

- 数値が小さくなるほど、画面が透明になる。



MEMO

- 波形モニター／ベクトルスコープは、カスタムピクチャーの画質調整画面にも表示されます。
- LCDモニターやファインダー、SDI OUT端子、HDMI OUT端子の映像にLUTやビューアシスト、レンジ (Range)を適用していても、本機能の波形には影響しません。
- MENU >  システム設定 > 「SDI出力形式」が「720x480i」または「720x576i」のときは、SDI OUT端子から波形モニター／ベクトルスコープを出力できません。

波形モニターの設定を変更する

1 MENU > アシスト設定 > 「波形モニター設定」> 「タイプ」> いずれかを選ぶ

- ライン： ライン表示する。
- ライン+スポット： ライン表示に重ねて、赤枠内の波形を赤色で表示する。
- ラインセレクト： 赤い横線における波形を表示する。
- RGB： R、G、B信号をパレード表示する。
- YPbPr： Y、Pb、Pr信号をパレード表示する。
- 「ラインセレクト」以外を選んだときは、操作4に進む。

2 MENU > アシスト設定 > 「波形モニター設定」> 「ラインセレクト」を選ぶ

3 赤い横線のY座標値を入力する（ 22）

- 設定できる範囲は、垂直解像度によって変わる。
- 2160のとき： 0 ～ 2158 （2ライン刻み）
- 1080のとき： 0 ～ 1079 （1ライン刻み）
- 720のとき： 0 ～ 719 （1ライン刻み）

4 MENU > アシスト設定 > 「波形モニター設定」 > 「HDR時スケール」 > いずれかを選ぶ

- HDR映像を波形モニターで表示するときの縦軸（輝度）の指標を選ぶ。
 IRE : IRE単位で指標を表示する。
 PQ/HLG : PQのHDR映像のときはnits指標 (cd/m²) と、ナローレンジ（ビデオレンジ）の波形を表示する。
 HLGのHDR映像のときは、0.0 ～ 1.0の相対指標を表示する。

5 MENU > アシスト設定 > 「波形モニター設定」 > 「ゲイン」 > 「1x」 または 「2x」 を選ぶ

- 「1x」を選んだときは、以降の操作は不要。

6 MENU > アシスト設定 > 「波形モニター設定」 > 「Yポジション」 > いずれかを選ぶ

- 波形モニターの縦軸（輝度）の表示範囲が50%になるため、表示開始輝度（%）を選択する。

7 必要に応じて、画面の波形モニターをタッチして表示倍率を切り換える（LCD／VFのみ）

- MENU >  アシスト設定 > 「波形モニター設定」 > 「サイズ: LCD/VF」 で設定することもできる。

MEMO

- 波形モニターの表示をONにして、MENU >  Custom Picture > 「 ファイル編集」 > 「Knee」 > 「Point」 を変更する場合、波形モニター上の二ポイントに相当する輝度値*に横線を表示します。
 * カスタムピクチャーのLookファイルが有効のときは、正しい輝度に表示されないことがあります。
- 波形モニターのIRE指標は、カスタムピクチャーの設定にかかわらず、コード値（10 bit）の64を0%として、940を100%として表示します。

ベクトルスコープの設定を変更する

1 MENU > アシスト設定 > 「ベクトルスコープ設定」 > 「タイプ」 > いずれかを選ぶ

- ノーマル : 映像全体の波形をベクトルスコープで表示する。
- スポット : 画面上の赤い矩形で囲まれた領域の波形を、「ノーマル」のベクトルスコープの波形に重ねて赤色で表示する。

2 画面のベクトルスコープをタッチするたびに、拡大率（1x、2x）が切り換わる

- MENU >  アシスト設定 > 「ベクトルスコープ設定」 > 「ゲイン」 で設定することもできる。

撮影中／撮影後のクリップにマークを付加する

XF-AVC形式でメイン動画を記録する場合、撮影中には重要なフレームにショットマーク（**S**）を、最後に撮影したクリップにはOKマーク（**OK**）またはチェックマーク（**✓**）を付加できます。メディアモードでも、クリップのマークを操作できます（[131](#)）。

なお、プロキシクリップにはマークを付加できません。

撮影中にショットマークを付加する

撮影中にショットマークを付加するには、あらかじめ、いずれかのアサインボタンに「Shot Mark追加」を割り当てる必要があります。

- 1 アサインボタンに「Shot Mark追加」を割り当てる（[109](#)）
- 2 撮影中、ショットマークを付加したいフレームでアサインボタンを押す
 - 「Shot Mark」が表示され、ショットマークが付加される。

MEMO

- 1つのクリップに付加できるショットマークは、100個までです。
- ボタンを押した時点のフレームとショットマークを付加するフレームは、最大0.5秒程度ずれることがあります。
- ショットマークを付加すると、メディアモードのインデックス画面で、クリップサムネイルの横に**S**が表示されます。
- プレ記録モードでREC（記録開始／停止）ボタンを押下前やインターバル記録モード、フレーム記録モードのときには、ショットマークを付加できません。

最後に撮影したクリップにOKマーク／チェックマークを付加する

OKマークを付加したクリップは、本機での消去が禁止されるため、重要なクリップを保護することができます。あらかじめ、アサインボタンに「**OK** Mark追加」または「**✓** Mark追加」を割り当てて操作します。

- 1 アサインボタンに「**OK** Mark追加」または「**✓** Mark追加」を割り当てる（[109](#)）
- 2 撮影が終了したあとにアサインボタンを押す
 - 「**OK** Mark」または「**✓** Mark」が表示され、選んだマークがクリップに付加される。

MEMO

- OKマークとチェックマークは、同じクリップに同時に付加することはできません。
- OKマークやチェックマークを付加すると、メディアモードのインデックス画面で、クリップサムネイルの横に**OK**または**✓**が表示されます。

メタデータを操作する

動画を記録する場合、記録したクリップにはメタデータが付加されます。付加されたメタデータは、ソフトウェアCanon XF Utility（以下、XF Utility）で表示して確認したり、検索に使用したりすることができます。設定されるメタデータは、以下のとおりです。設定のしかたは項目によって異なります。また、News Metadataをクリップに付加することもできます（□ 98）。

メタデータ	設定			参照		
	カメラ	XF Utility	Content Transfer Mobile	カメラ	XF Utility	Content Transfer Mobile
ユーザーメモ：クリップタイトル、撮影者、撮影場所、撮影内容	—	●*1	—	●	●	—
GPS情報	●*2	●*3	—	●	●	—
撮影情報：シーン、テイク	●	—	—	●*4	●	—
撮影情報：シャッター、ゲインなどの撮影時設定	—*5	—	—	●	●	—
UMD所有情報：国コード、組織コード、ユーザーコード	● (□ 183)	—	—	●*4	—	—
News Metadata (□ 98)	—	—	●	●	—	●

*1 ユーザーメモは、あらかじめソフトウェアで作成して、SDカードへの保存が必要。

*2 GPSレシーバー GP-E2接続時のみ、撮影時に自動的に記録される。

*3 記録されたクリップに対してのみ設定可能。

*4 カメラモードのみ。

*5 撮影時に自動的に記録される。

XF Utilityを使ってユーザーメモを設定する

ユーザーメモを設定する前に、XF Utilityをダウンロードしてインストールします（□ 148）。次にXF Utilityでユーザーメモの情報を入力してSDカードに保存します。ユーザーメモの情報を入力したSDカードを本機に入れて、SDカード内のユーザーメモを選んで撮影すると、記録されるクリップにユーザーメモの情報が付加されます。

1 XF Utilityでユーザーメモを設定し、SDカードに保存する

参考 ▶▶ XF Utilityの使用説明書

2 ユーザーメモが保存されているSDカードを本機のスロットBに入れる

3 MENU > 記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「XMLファイル付加」 > 「入」を選ぶ

4 MENU > 記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「XMLファイル形式」 > 「User Memo」を選ぶ

5 MENU > 記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「User Memo」 > SDカードに保存されているユーザーメモのファイル名のいずれかを選ぶ

- 画面に **MEMO** が表示される*。

* MENU > モニタリング設定 > 「Custom Display2」 > 「User Memo」が「入」のときのみ。

MEMO

- ユーザーメモを設定して撮影するときは、スロットBのSDカードを抜かないでください。SDカードを抜くとユーザーメモはクリップに付加されません。
- ユーザーメモの設定は撮影前に行ってください。SDカードに記録されたクリップのユーザーメモを本機で変更することはできません*。

* XF Utilityを使用して変更できます。

News Metadata（ニュースメタデータ）を操作する

動画を記録する場合、METADATA EXCHANGE FOR NEWS RECOMMENDATION DPP002 Ver1.1.1に準拠したNews Metadata（ニュースメタデータ。以降、News Metadataと記載）をクリップに付加することができます。News Metadataは、Content Transfer Mobileで編集したり、参照したりすることができます。付加するNews Metadataは、最後に設定したNews Metadataが優先されます。設定されるNews Metadataは、以下のとおりです。

News Metadata	設定		参照	
	カメラ	Content Transfer Mobile	カメラ	Content Transfer Mobile
Story Title、Description、KeyWords(Tags)、Category、Contributor、Source/Originator、Copyright Holder、Restrictions	—	●	●	●
Genre	—	●	—	●
Language	—	—	—	●

MEMO

- ファイル名が64文字（拡張子を含む）以上のNews Metadataは使用できません。

SDカードに保存したNews Metadataを設定する

News Metadataを設定する前に、あらかじめ作成したNews MetadataをSDカードに保存します。News Metadataの情報を入力したSDカードを本機に入れて、SDカード内のNews Metadataを選んで撮影すると、記録されるクリップにNews Metadataの情報が付加されます。

1 News MetadataをSDカードに保存する

- News Metadataは、SDカード内の格納フォルダー（/XMLTAG）に保存する。

2 News Metadataが保存されているSDカードを本機のスロットBに入れる

3 MENU > 記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「XMLファイル付加」 > 「入」を選ぶ

4 MENU > 記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「XMLファイル形式」 > 「News Metadata」を選ぶ

5 MENU > 記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「News Metadata」 > SDカードに保存されているNews Metadataのファイル名のいずれかを選ぶ

- 選んだNews Metadataは、本機に保存される。

MEMO

- SDカードに記録されたクリップのNews Metadataを本機で変更することはできません*。

* Content Transfer Mobileを使用して変更できます。

Content Transfer Mobileで編集したNews Metadataを設定する

News Metadataを設定する前に、あらかじめContent Transfer MobileでNews Metadataを編集します。本機とスマートフォンを接続（ 149、178）して、スマートフォンから本機にNews Metadataを転送し、本機に保存します。保存したNews Metadataを選んで撮影すると、記録されるクリップにNews Metadataの情報が付加されます。

- 1 スマートフォン：News MetadataをContent Transfer Mobileで編集する
- 2 本機とスマートフォンを接続する（ 149、178）
- 3 スマートフォン：Content Transfer Mobileを操作して、News Metadataを本機に転送する
- 4 本機にNews Metadataを保存する
 - スマートフォンから本機にNews Metadataを転送すると、自動的に本機に保存される。
 - 自動的に**MENU** >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」の「XMLファイル付加」が「入」に、「XMLファイル形式」が「News Metadata」に設定される。
 - スマートフォンから最後に転送したNews Metadataのみ本機に保存できる。

News Metadataを初期化する

クリップに付加するNews Metadataを初期化します。

- 1 **MENU** >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「News Metadata設定初期化」を選ぶ
- 2 「OK」を選ぶ

ご注意

- News Metadataの保存、または本機に保存されたNews Metadataの初期化は、正常に電源を切ったときに行われます。停電などで正常に電源が切られなかったときは、保存／初期化されませんのでご注意ください。
- **MENU** >  システム設定 > 「リセット」 > 「全設定」で本機の設定をリセットするか、本機のファームウェアの更新を行うと、本機に保存したNews Metadataは初期化されます。

撮影情報（シーン、テイク）を設定する

撮影情報（シーン、テイク）を設定しておくと、撮影後のシーンやテイクを識別するときに便利です。

- 1 **MENU** >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「シーン」または「テイク」 > 「変更」を選ぶ
- 2 任意の文字を入力する（ 22）
 - 「リセット」を選ぶと、入力したシーンまたはテイクの情報が消去される。

特殊記録を行う

次の特殊記録を行うことができます。

スロー & ファストモーション記録：	再生時と異なるフレームレートで記録することにより、再生時にスローモーション、またはファストモーションの効果を得る。WAV形式の音声を同時に記録することもできる。
ブレ記録：	撮影開始時点の一定時間前から記録することで、撮影開始操作が遅れたときの撮り逃がしを防ぐ。
フレーム記録：	あらかじめ設定したフレーム数分の映像を記録する。クレイアニメを撮影するときなどに有効。
インターバル記録：	あらかじめ設定した記録間隔とフレーム数で、間欠的に記録を行う。自然や植物など動きの少ない被写体を撮影するとき有効。
常時記録：	2つ目のスロットのカードに常時映像を記録して、撮り逃しを防ぐ（MP4形式のみ）

スロー & ファストモーション記録を行う

スロー & ファストモーション記録モードにすると、再生時のフレームレートと異なるフレームレート（撮影フレームレート）で、プログレッシブ方式で記録できます。再生時より高いフレームレートで撮影して再生すると、スローモーション効果が得られ、再生時より低いフレームレートで撮影して再生すると、ファストモーション効果が得られます。クリップに音声は記録されません（ミュート）が、WAV形式の音声を別データとして記録できます。1つのクリップに、再生時間で約6時間分以上の記録はできません。

設定操作はダイレクトタッチコントロール（□45）で行うこともできます。

設定可能な撮影フレームレート

メイン記録形式*1	メイン解像度*2	ビットレート	解像度やビットレート方式に応じて使用できる撮影フレームレート
XF-AVC	3840×2160 Intra-frame	410Mbps	●
フレームレート			スロー & ファストモーション記録時の撮影フレームレート
29.97P			1、2、3、6、15、22、24、26、28、30
25.00P			1、5、15、17、19、21、23、25、26、28、30
23.98P			1、2、3、6、12、16、18、20、22、24、26、28、30

*1 MENU > 記録/メディア設定 > 「メイン記録形式」の設定。

*2 MENU > 記録/メディア設定 > 「メイン解像度」の設定。

メイン記録形式*1	メイン解像度*2	解像度やビットレート方式に応じて使用できる撮影フレームレート	
XF-AVC	3840×2160 Intra-frame*3	●	—
	3840×2160 Long GOP	●	—
	1920×1080 Intra-frame	●	—
	1920×1080 Long GOP	●	●
MP4	3840×2160	●	—
	1920×1080	●	●
フレームレート		スロー & ファストモーション記録時の撮影フレームレート	
59.94P		1、2、3、6、15、30、44、48、52、56、60	90、120
50.00P		1、5、15、25、34、38、42、46、50、54、58、60	75、100、120
29.97P		1、2、3、6、15、22、24、26、28、30、32、36、40、44、48、52、56、60	90、120

フレームレート	スロー & ファストモーション記録時の撮影フレームレート	
25.00P	1、5、15、17、19、21、23、25、26、28、30、34、38、42、46、50、54、58、60	75、100、120
23.98P	1、2、3、6、12、16、18、20、22、24、26、28、30、32、36、40、44、48、52、56、60	72、96、120

*1 MENU > 記録/メディア設定 > 「メイン記録形式」の設定。

*2 MENU > 記録/メディア設定 > 「メイン解像度」の設定。

*3 ビットレートが410 Mbps以外のとき。

1 音声を記録するときは、動画の記録先ではない方のスロットにカードを入れる

2 MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」 > 「Slow & Fastモーション」または「Slow & Fastモーション／音声（WAV）」を選ぶ

- スロー & ファストモーション記録モードになる。画面に「S&F STBY」が表示され、撮影フレームレート（撮影フレームレート／再生フレームレート）が表示される。

3 MENU > 記録/メディア設定 > 「Slow&Fastフレームレート」 > いずれかの撮影フレームレートを選ぶ

- 再生フレームレートの1/2倍、等倍、2倍のプリセット値から選ぶこともできる。

4 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する

- タリールンプが点灯する。
- 撮影中は画面の「S&F STBY」が「S&F ●REC」に変わる。

5 もう一度RECボタンを押して、撮影を停止する

- クリップが、選択しているスロットのカードに記録される。
- 「Slow & Fastモーション／音声（WAV）」を選んだときは、WAVファイルが動画の記録先ではない方のカードに記録される。
- タリールンプは消灯する。画面の表示は「S&F STBY」に変わる。

6 MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」 > 「通常記録」を選ぶと、スロー & ファストモーション記録モードが終了する

MEMO

- スロー & ファストモーション記録中は、撮影フレームレートを変更できません。
- システム周波数を変更すると、設定値は初期値のフレームレートにリセットされます。
- スロー & ファストモーション記録中のタイムコードについて**
 - 「Rec Run」（レックラン）または「Regen.」（リジェネ）で記録される。
 - 「Free Run」（フリーラン）に設定しているときにスロー & ファストモーション記録モードにすると、強制的に「Rec Run」に設定される。
 - スロー & ファストモーション記録モードを解除すると、元のタイムコードの設定に戻る。
 - いずれの端子からも出力されません。
- WAVファイルを記録するとき**
 - 48 kHz、24 bit、4チャンネルで記録する。
 - 記録メディアの状況により動画が記録できないときは、音声も記録しない。
 - 記録メディアの状況により音声が記録できない場合でも、動画は記録する。
 - 同一ファイル名のWAVファイルがあるときは、記録しない。
 - 60分に達すると、自動的に音声の記録を停止する（動画の記録は継続する）。
 - WAVファイルは999個を超えて記録できない。

プレ記録を行う

プレ記録では、REC（記録開始／停止）ボタンを押して撮影を開始する一定時間（3秒）前からの映像と音声を記録できます。

設定操作はダイレクトタッチコントロール（ 45）で行うこともできます。

1 MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」> 「プレ記録」を選ぶ

- プレ記録モードになり、画面に「PRE **STBY**」が表示される。

2 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する

- タリーランプが点灯する。
- 撮影中は画面の「PRE **STBY**」が「PRE ● **REC**」に変わる。

3 もう一度RECボタンを押して、撮影を停止する

- 撮影開始から、プレ記録時間分さかのぼった時点からの映像が記録される。
- タリーランプは消灯する。画面の表示は「PRE **STBY**」に変わる。

4 MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」> 「通常記録」を選ぶと、プレ記録モードを終了する

MEMO

- 記録モードを変更すると、プレ記録モードが解除されます。
- **プレ記録中のタイムコードについて**
 - タイムコードの記録は、撮影開始操作からプレ記録時間分さかのぼった時点から行われる。
 - 「Free Run」（フリーラン）で記録される。
 - 「Rec Run」（レックラン）または「Regen.」（リジェネ）に設定しているときにプレ記録モードにすると、強制的に「Free Run」に設定される。
 - プレ記録モードを解除すると、元のタイムコードの設定に戻る。

フレーム記録を行う

記録フレーム数をあらかじめ設定して撮影を行うと、設定したフレーム数分の映像を記録します。記録中、音声は記録されません（ミュート）。撮影時は、本体を三脚などに固定してリモートで操作することをおすすめします。

設定操作はダイレクトタッチコントロール（ 45）で行うこともできます。

1 MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」> 「フレーム記録」を選ぶ

- 画面に「FRM **STBY**」（FRMが点滅）が表示され、フレーム記録モードになる。

2 MENU > 記録/メディア設定 > 「フレーム記録 フレーム数」> いずれかを選ぶ

3 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する

- タリーランプが点灯する。
- 撮影中は画面の「FRM **STBY**」が「FRM ● **REC**」に変わる。
- 設定したフレーム数分のフレームが記録され、画面の表示が「FRM ● **STBY**」に変わる。

4 操作3を繰り返して、撮影する

5 MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」> 「通常記録」を選ぶと、フレーム記録モードを終了する

- フレーム記録モードが終了する。この間に撮影したフレームは、すべて結合して1つのクリップとして記録される。
- タリーランプは消灯する。画面の表示は「**STBY**」に変わる。

MEMO

- フレームレートを59.94iまたは50.00iに設定しているときは、使用できません。また、フレーム記録モードのときにフレームレートを59.94iまたは50.00iに設定すると、フレーム記録モードが解除されます。
- フレーム記録モードで撮影中に、記録フレーム数を変更することはできません。
- クリップの末尾に、フレーム記録モードを終了したときの映像が記録されることがあります。
- **フレーム記録中のタイムコードについて**
 - Rec Run（レックラン）またはRegen.（リジェネ）で記録され、記録フレーム数ずつ歩進する。
 - Free Run（フリーラン）またはタイムコード入力している状態でフレーム記録モードにすると、強制的にRec Runに設定される。
 - フレーム記録モードを解除すると、元のカウントアップ方式に戻る。
 - タイムコードは、TIME CODE端子、SDI OUT端子またはHDMI OUT端子のいずれからも出力されない。

インターバル記録を行う

記録間隔と記録フレーム数をあらかじめ設定して撮影を行うと、間欠的に映像を自動記録できます。記録中、音声は記録されません（ミュート）。

設定操作はダイレクトタッチコントロール（□45）で行うこともできます。

- 1 MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」 > 「インターバル記録」を選ぶ
 - 画面に「INT STBY」（INTが点滅）が表示され、インターバル記録モードになる。
- 2 MENU > 記録/メディア設定 > 「インターバル記録 時間間隔」 > いずれかを選ぶ
- 3 MENU > 記録/メディア設定 > 「インターバル記録 フレーム数」 > いずれかを選ぶ
- 4 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する
 - タリールンプが点灯する。
 - 撮影中は画面の「INT STBY」が「INT ● REC」に変わる。
 - 設定した記録間隔おきに、設定したフレーム数分のフレームが、自動的に記録される。
- 5 もう一度RECボタンを押して、撮影を停止する
 - タリールンプは消灯する。画面の表示は「INT STBY」（INTが点滅）に変わる。
- 6 MENU > 記録/メディア設定 > 「記録モード」 > 「通常記録」を選ぶと、インターバル記録モードを終了する

MEMO

- フレームレートを59.94iまたは50.00iに設定しているときは、使用できません。また、インターバル記録モードのときにフレームレートを59.94iまたは50.00iに設定すると、インターバル記録モードが解除されます。
- インターバル記録モードで撮影中に、記録間隔やフレーム数を変更することはできません。
- クリップの末尾に、インターバル記録モードを終了したときの映像が記録されることがあります。
- **インターバル記録中のタイムコードについて**
 - Rec Run（レックラン）またはRegen.（リジェネ）で記録され、記録フレーム数ずつ歩進する。
 - Free Run（フリーラン）またはタイムコード入力している状態でインターバル記録モードにすると、強制的にRec Runに設定される。
 - インターバル記録モードを解除すると、元のカウントアップ方式に戻る。
 - タイムコードは、TIME CODE端子、SDI OUT端子またはHDMI OUT端子のいずれからも出力されない。

常時記録を行う

2つのカードスロットのうち、カードAは通常の記録、カードBは常に記録を行います。メイン記録形式がMP4のときに使用でき、両カードともMP4形式で、音声はリニアPCMで記録されます。

操作5以外の設定操作はダイレクトタッチコントロール（ 45）で行うこともできます。

1 スロットAに通常記録用のカードを、スロットBに常時記録用のカードを入れる

2 MENU >  記録/メディア設定 > 「記録モード」 > 「**A**メイン／**B**常時記録」を選ぶ

- 画面のカードBに「CONT」が表示され、常時記録モードになる。

3 MENU >  記録/メディア設定 > 「常時記録」 > 「REC」を選ぶ

- カードBへの常時記録が始まり、タリールンプが点灯する。
- 画面の表示は「**●CONT**」に変わる。

4 REC（記録開始／停止）ボタンを押して、撮影する

- カードAへの通常記録が始まる。
- 操作3の前にこの操作を行うと、常時記録と通常記録を同時に開始できる。

5 MENU >  記録/メディア設定 > 「常時記録」 > 「STBY」を選ぶ

- 常時記録が終了してタリールンプが消灯し、画面の表示は「CONT」に変わる。
- 通常記録も同時に停止する。

6  記録/メディア設定 > 「記録モード」 > 「通常記録」を選ぶと常時記録モードが終了する

MEMO

- カードBの状況によって常時記録を実行できない場合、通常記録も行いません。
- カードAの空き容量がなくなっても、常時記録は継続します。
- 「常時記録」が「STBY」のときに、メイン記録形式をMP4以外に変更すると、常時記録モードが解除されます。

赤外撮影（INFRARED）を行う

Infrared（赤外撮影）モードを使うと、通常の撮影に比べて近赤外線の受光感度が上がるため、暗い撮影シーンでも明るく撮影できます。また、赤外ライトを使えば、より明るく撮影できます。なお、撮影する映像の色は、白または緑から選択できます。

1 INFRARED（赤外撮影）切り換えスイッチをONにする

- Infraredモードになり、画面に「IR」と  OFFが表示される。

2 MENU > カメラ設定 > 「赤外撮影色」> いずれかを選ぶ

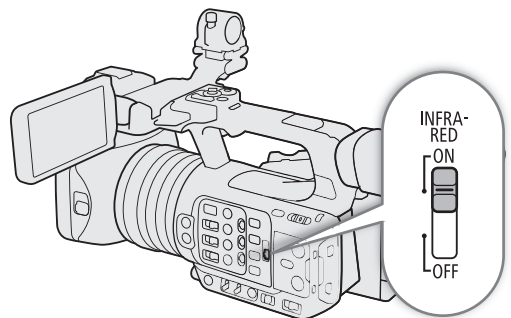
3 必要に応じて、MENU > カメラ設定 > 「赤外ライト」> いずれかを選ぶ

トグル： 「赤外ライト」を割り当てたアサインボタン（ 109）を押して、赤外ライトの入／切を切り換える。

常時 入： 赤外ライトを常に点灯させる。

常時 切： 赤外ライトは点灯しない。

- 赤外ライトが点灯し、画面に  ONが表示される（消灯時は  OFF）。



ご注意

- 使用方法によっては、プライバシーおよび肖像権等の侵害ならびに法令違反となる行為に該当する場合があります。

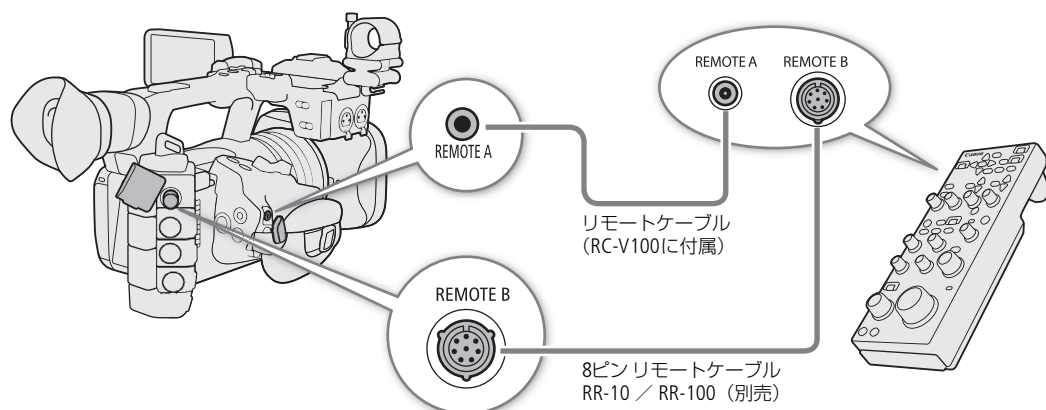
MEMO

InfraredモードをONにしたとき

- ゲイン、シャッタースピードはオートに固定、アイリスは開放固定となり、NDフィルターは使用できない。なお、「AEレスポンス」は設定にかかわらず「ノーマル」で動作する。
- オート時リミット、測光方式、AEシフト、ホワイトバランスは使用できない。
- フォーカスがマニュアルのときにInfraredモードをONにすると、Infraredモードへの移行時に、いったんオートフォーカスが動作するため、合焦状態が変わる。このときは、ピントを確認してください。
- 光源の種類によっては、ズーム中にオートフォーカスが合いにくくなる場合があります。
- 赤外撮影時は近赤外光の感度を大幅にアップしているため、赤外撮影に切り換える際には強い光、熱源をレンズに向けないでください。強い光、熱源が被写体内にある状態で赤外撮影に切り換える際には、レンズを遮光した状態での切り換えを推奨します。
- アサインボタンに「赤外撮影色」を割り当てると、アサインボタンを押して撮影する映像の色を切り換えられます（ 109）。
- MENU >  カメラ設定 > 「赤外撮影時スローシャッター」を使用するときは、MENU >  モニタリング設定 > 「VF倍速駆動」を「切」にしてください。

リモートコントローラー RC-V100でリモート撮影する

本機にリモートコントローラー RC-V100を接続すると、リモートで操作できます。電源の入/切やメニュー操作に加えて、撮影時は、アイリス、シャッターなどのカメラ設定や、ニー、シャープネスなどの画質調整ができます。接続のしかたやRC-V100の詳細については、RC-V100の説明書をご覧ください。



1 本機の電源を切って、RC-V100を本機につなぐ

2 本機をカメラモードで起動する

3 MENU > システム設定 > 「REMOTE端子」> 「RC-V100 (REMOTE A)」または「RC-V100 (REMOTE B)」を選ぶ

RC-V100 (REMOTE A) : RC-V100をリモートケーブルと接続して使用するとき。

RC-V100 (REMOTE B) : RC-V100をRR-10/RR-100と接続して使用するとき。

スタンダード : 市販のリモコンを使用するとき。

スタンダード + RC-V100 : 市販のリモコンをREMOTE A端子に、RC-V100をREMOTE B端子に接続して同時に使用するとき。

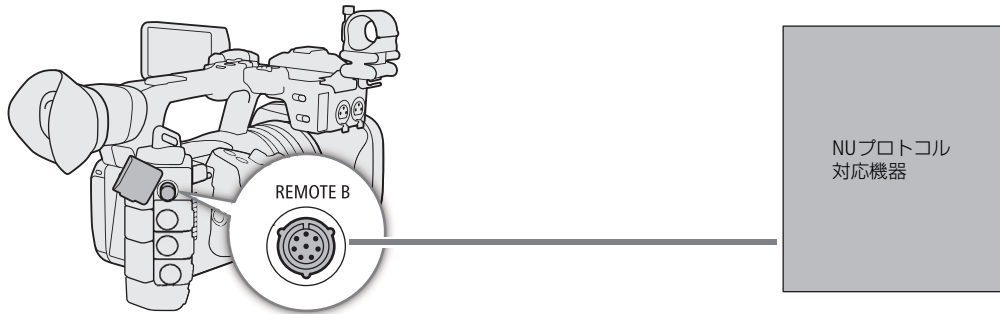
MEMO

- 本機がフルオートモード (37) のときは、RC-V100から、アイリス、ゲイン、シャッタースピード、ホワイトバランス (WHITE BALANCE R / Bダイヤルを除く*) を設定できません。

* 赤外撮影のときは、WHITE BALANCE R/Bダイヤルも含め、設定できません。

NUプロトコル対応機器でリモート撮影する

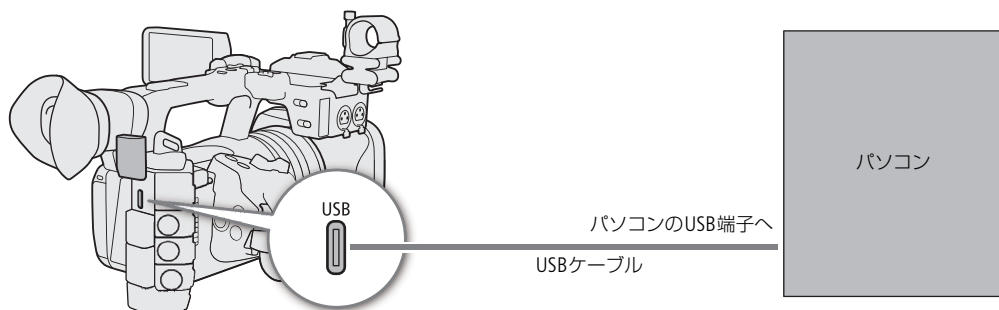
本機にNUプロトコル対応機器を接続すると、リモートで操作できます。



- 1 本機の電源を切って、NUプロトコル対応機器を本機につなぐ
- 2 本機をカメラモードで起動する
- 3 MENU >  システム設定 > 「REMOTE端子」> 「NU Protocol (REMOTE B)」を選ぶ

Webカメラとして使用する

本機とパソコンをUSBケーブルで接続すると、対応するアプリケーションのWebカメラとして使用できます。Webカメラとして使用するときには、動画のみ記録できます。対応OSや動作確認済みアプリケーションについては、キヤノンのホームページをご覧ください。パソコンやUSBケーブルの詳細については、それぞれの説明書をご覧ください。



映像の出力信号形式

映像フォーマット	解像度	フレームレート
Motion JPEG	1024×576	最大30 fps

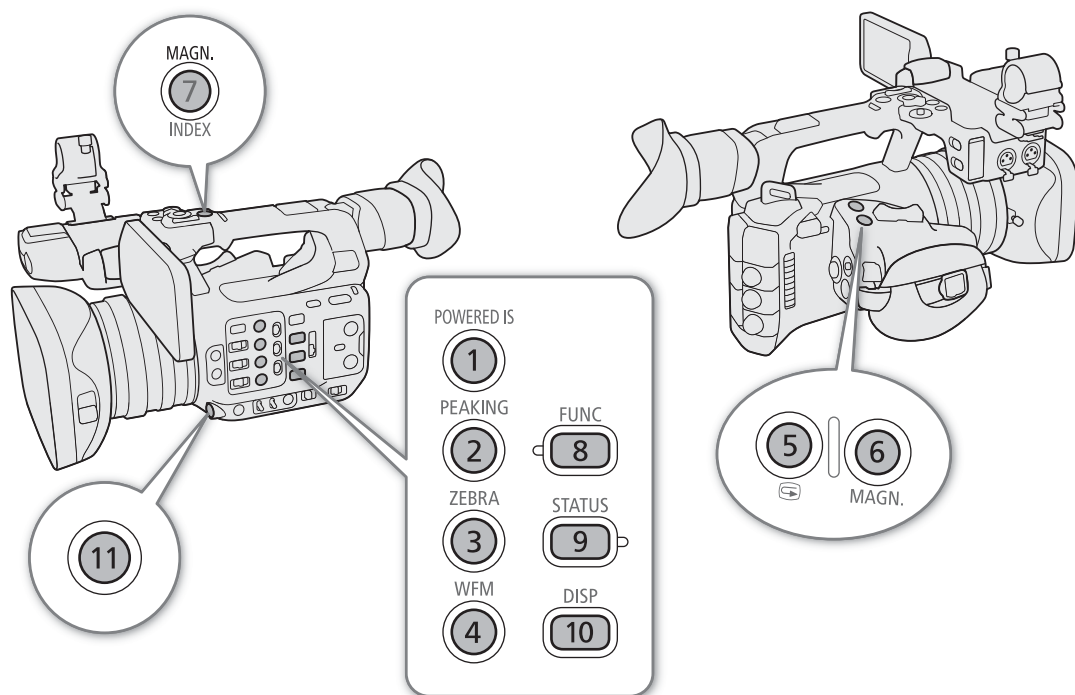
- 1 MENU > システム設定 > 「USB (Type-C)モード」 > 「映像出力 (UVC)」を選ぶ
- 2 本機をパソコンにつなぐ
- 3 パソコン：対応アプリケーションを起動する
- 4 接続を終了するときは、本機からUSBケーブルを抜く

MEMO

- IPストリーミング送信やブラウザーリモート（ 170）、XCプロトコル（ 175）、静止画記録と同時には使用できません。

アサインボタンを使用する

使用頻度の高い機能をアサインボタンに割り当てて、より使いやすくカスタマイズすることができます。アサインボタンは、カメラ本体に11個あります。また、リモートコントローラー RC-V100やリモートカメラコントローラー RC-IP100／RC-IP1000、ブラウザーリモート、リモートカメラコントロールアプリ、Multi-Camera Controlの4個のアサインボタンを使用することもできます。



アサインボタンの機能を変更する

カメラモードとメディアモードで個別に機能を割り当てることができます。

1 MENUボタンを押しながら、機能を割り当てるアサインボタンを押す

- アサインボタンの機能割り当て画面が表示される。
- アサインボタンメニューから機能を変更したいアサインボタンを選んで表示することもできる。

2 任意の機能を選ぶ

- 選んだ機能がアサインボタンに割り当てられる。

3 「ユーザー設定」を選んだときは、任意のメニュー項目を選ぶ

- 「ユーザー設定」が、選んだメニュー項目の名称（先頭に **MENU** が付く）に変わる。

MEMO

- アサインボタンに割り当てた機能は、ステータス画面で確認できます（ 196）。

- **MENU** >  システム設定 > 「リセット」> 「アサインボタン」で、アサインボタンの割り当てを初期状態に戻すことができます。
- **MENU** >  アサインボタン > 「カメラ本体に連動」に「する」を選ぶと、カメラのアサインボタン1～4に割り当てた機能をRC-V100やRC-IP100／RC-IP1000、ブラウザーリモート、リモートカメラコントロールアプリ、Multi-Camera Controlのアサインボタン1～4にも割り当てることができます (189)。

アサインボタンを使う

必要なときに、機能を割り当てたアサインボタンを押して使用します。アサインボタンを押すと、画面に機能の詳細項目を選ぶメニューが表示されることがあります。そのときは、ジョイスティックを上下に押して項目を選んでください。

使用可能な機能

機能名に含まれる出力先（LCDや端子名）や「すべて」は、その出力先のみ、または適用可能な全出力先が対象となることを示します。

機能名	内容	CAMERA	MEDIA
AFロック*	AFロックの入／切を切り換える。	●	
PUSH AF/MF	押している間だけブッシュ AF／MFが有効になる。	●	
AF枠	AF枠の全域／大／小を切り換える。	●	
顔検出AE	顔検出AEの入／切を切り換える。	●	
顔検出AF	顔検出AFの顔優先／顔限定を切り換える。	●	
顔検出&追尾	顔検出&追尾の入／切を切り換える。	●	
瞳検出	瞳検出の入／切を切り換える。	●	
追尾	追尾待機モードに入る。もう一度押すと出る。	●	
フォーカスガイド	デュアルピクセルフォーカスガイドの入／切を切り換える。	●	
ピーキング: すべて ピーキング: LCD / VF ピーキング: LCD ピーキング: VF ピーキング: SDI ピーキング: HDMI	ピーキングの入／切を切り換える。	●	
Magnification Magnification: LCD Magnification: VF Magnification: SDI Magnification: HDMI	拡大表示の入／切を切り換える。	●	
デジタルズーム	デジタルズームの300 x / 切を切り換える。	●	
デジタルテレコン	デジタルテレコンの6.0 x / 3.0 x / 1.5 x / 切を切り換える。	●	
ブッシュオートアイリス	ブッシュオートアイリスを実行する。	●	
アイリス+	絞り値を調整する。押すたびに、絞りを開く。	●	
アイリスー	絞り値を調整する。押すたびに、絞りを絞る。	●	
ND +	NDフィルターを正順（濃くなる方向）に切り換える。	●	
ND -	NDフィルターを逆順（薄くなる方向）に切り換える。	●	
ゲインブースト*	36.0 dB（ゲインブースト）／設定しているゲインを切り換える。	●	
AEシフト +	露出を明るめに調整する。	●	
AEシフト -	露出を暗めに調整する。	●	

機能名	内容	CAMERA	MEDIA
バックライト	測光方式のバックライト／スタンダードを切り換える。	●	
スポットライト	測光方式のスポットライト／スタンダードを切り換える。	●	
赤外撮影色	赤外撮影時のモノクロ表示のホワイト／グリーンを切り換える。	●	
赤外ライト	赤外撮影時の赤外ライトの入／切を切り換える。 ( カメラ設定メニュー>「赤外ライト」が「トグル」のときのみ)	●	
ゼブラ: すべて ゼブラ: LCD / VF ゼブラ: LCD ゼブラ: VF ゼブラ: SDI ゼブラ: HDMI	ゼブラパターン表示の入／切を切り換える。	●	
WFM: すべて WFM: LCD WFM: VF WFM: SDI WFM: HDMI	WFM機能の表示の入／切を切り換える。	●	●
LUT: SDI	LUTの入／切を切り換える。	●	●
ビューアシスト: LCD ビューアシスト: VF ビューアシスト: HDMI	ビューアシストの入／切を切り換える。	●	
フォルスカラー: すべて フォルスカラー: LCD フォルスカラー: VF フォルスカラー: SDI フォルスカラー: HDMI	フォルスカラーの入／切を切り換える。	●	
フォルスカラーインデックス	フォルスカラーインデックス表示の入／切を切り換える。	●	
ホワイトバランス	カメラダイレクト設定のホワイトバランス設定に切り換える。	●	
ホワイトバランスセット	ホワイトバランスセットの白取り込みを実行する。	●	
AWBホールド*	オートホワイトバランスのホールドの入／切を切り換える。	●	
 太陽光	ホワイトバランスの調整方法を太陽光に変更する。	●	
 電球	ホワイトバランスの調整方法を電球に変更する。	●	
 Kelvin	ホワイトバランスの調整方法を色温度に変更する。	●	
手ブレ補正モード	手ブレ補正モードのスタンダード／ダイナミックを切り換える。	●	
手ブレ補正	手ブレ補正の入／切を切り換える。	●	
パワードIS	パワードISの入／切を切り換える。	●	
LCD設定	 モニタリング設定メニューのサブメニューを表示する。	●	●
VF設定	 モニタリング設定メニューのサブメニューを表示する。	●	●
オンスクリーン表示: すべて オンスクリーン表示: SDI オンスクリーン表示: HDMI	出力映像に画面表示を重畳する／しないを切り換える。	●	●
オンスクリーン透過: すべて オンスクリーン透過: LCD オンスクリーン透過: VF オンスクリーン透過: SDI オンスクリーン透過: HDMI	オンスクリーン透過の入／切を切り換える。	●	●
DISP	画面の表示レベルを切り換える。	●	●

機能名	内容	CAMERA	MEDIA
オンスクリーン表示方向: LCD/VF	オンスクリーン表示方向を、標準→左90度回転→右90度回転の順に切り換える。	●	
マーカー: すべて マーカー: LCD マーカー: VF マーカー: SDI マーカー: HDMI	マーカーの入/切を切り換える。	●	
カラーバー	カラーバーの入/切を切り換える。	●	
フリッカー低減	フリッカー低減のオート/切を切り換える。	●	
IPストリーミング	IPストリーミングの入/切を切り換える。	●	
Photo*	静止画を記録する。	●	
レックレビュー	カメラモードのままで、最後に撮影したクリップを再生する。	●	
Time Code	🔊 システム設定の「Time Code」サブメニューを表示する。	●	
Shot Mark追加*	ショットマークを付加する。	●	●
OK Mark追加	OKマークを付加する。	●	●
☑ Mark追加	チェックマークを付加する。	●	●
ヘッドホン+	ヘッドホンの音量を大きくする。	●	●
ヘッドホン-	ヘッドホンの音量を小さくする。	●	●
モニターチャンネル	Ω (ヘッドホン) 端子から出力される音声のチャンネルを切り換える。押すたびに出力チャンネルが切り換わる。	●	●
オーディオレベル	オーディオレベルメーター表示の入/切を切り換える。	●	●
FUNC	FUNCボタンの機能を割り当てる。	●	
Slow & Fastモーション	スロー & ファストモーション記録モードに切り換える。	●	
Slow & Fastフレームレート	スロー & ファストモーション記録モードのときに、スロー & ファストモーション記録の撮影フレームレート設定に切り換える。	●	
出力: 60⇔60(24)fps* 出力: 60⇔60(30)fps*	フレームレートが59.94Pまたは59.94iのときに、出力端子/画面の映像を24 fps (または30 fps) 相当にする/しないを切り換える。	●	
アイリス	カメラダイレクト設定のアイリス設定に切り換える。	●	
シャッター	カメラダイレクト設定のシャッタースピード設定に切り換える。	●	
ISO/ゲイン	カメラダイレクト設定のISO感度/ゲイン設定に切り換える。	●	
ステータス	ステータス画面を表示する。	●	●
オーディオステータス	オーディオ専用のステータス画面を表示する	●	●
Custom Picture	📷 Custom Picture設定メニューを表示する。	●	
マイメニュー	マイメニューを表示する。	●	
メディア初期化	メディア初期化メニューを表示する。	●	●
再生/一時停止	再生/再生一時停止を切り換える。		●
INDEX/レジューム解除* INDEX	インデックス画面を切り換える。再生中断時のフレーム位置を保持しているクリップを選んで「レジューム解除」を行うと、フレーム位置を解除する。		●
REC	RECボタンの機能を割り当てる。カメラアサイン11ボタンだけに割り当て可能	●	
ファイル選択	インデックス画面でファイル選択画面を表示する。または、ファイル選択画面でファイルを選択する。		●

機能名	内容	CAMERA	MEDIA
絞り込み	絞り込み画面を表示する。		●
ユーザー設定*	任意のメニュー項目を表示する。	●	●

* アサインボタンのみの機能。

カスタムピクチャーを使用する

撮影条件に合わせる、意図的に効果をつけるなど画質を調整するためのさまざまな設定を行うことができます。調整した設定値はカスタムピクチャーファイルとして本機やSDカードに保存し、必要に応じて再利用できます。また、カスタムピクチャーを設定してXF-AVC形式で撮影すると、カスタムピクチャーファイルをクリップと一緒に保存できます（ 117）。カスタムピクチャーファイルは本機とSDカードに20セット保存でき、本機とSDカードとの間で相互にコピーできます。なお、記録中（プレ記録中を除く）やIPストリーミング実行中は、カスタムピクチャーファイルの選択とLookファイルを含む一部の画質調整（ 118）が行えません。

カスタムピクチャーファイルを選ぶ

撮影に使用するカスタムピクチャーファイルを選択します。あらかじめ、画質設定をカスタムピクチャーファイルとして登録しておくと、リストから選ぶだけで希望の画質に調整することができます。カスタムピクチャーファイルの編集／登録、名称変更、プロテクト、コピーを行うときも、その対象となるカスタムピクチャーファイルを選びます。

1 MENU > Custom Picture > 「 ファイル選択」を選ぶ

- カスタムピクチャーの選択画面が表示される。
- 本機に保存されているカスタムピクチャーファイル（C1～C20）が選択可能になる。
- SDカードに入っているカスタムピクチャーファイルを使うときは、あらかじめ本機にコピーする（ 117）。
- ダイレクトタッチコントロール（ 45）の  記録設定で操作することもできる。

2 いずれかのカスタムピクチャーファイルを選ぶ

- 本機が、選んだカスタムピクチャーファイルの設定に調整される。

プリセットされたカスタムピクチャーについて

初期状態では、C1～C20に次の組み合わせのプリセットが用意されています。C1からC9のカスタムピクチャーファイルは、プロテクトされているため、設定を変更するときはプロテクトの解除が必要です。

	Gamma/Color Space (ガンマ／色空間)	Color Matrix (カラーマトリクス)	Lookファイル	特長
C1:BT.709 Normal	BT.709 Normal / BT.709	Video	—	BT.709準拠モニターで見るときに適した設定。
C2:BT.709 Wide DR	BT.709 Wide DR / BT.709	Video	—	BT.709準拠モニターで見るときに適した設定。広いダイナミックレンジを実現。
C3:BT.709 Standard	BT.709 Standard / BT.709	Video	—	BT.709準拠モニターで見るときに適した設定。ITU-R BT.709規格に準拠したガンマを使用。
C4:Canon Log 3	Canon Log 3 / C.Gamut	Neutral	—	ポストプロダクション処理を前提としたCanon Log 3ガンマを使用。
C5:PQ	PQ / BT.2020	Neutral	—	ITU-R BT.2100 (PQ)規格に準拠したHDR映像用ガンマを使用。
C6:HLG	HLG / BT.2020	Neutral	—	ITU-R BT.2100 (HLG)規格に準拠したHDR映像用ガンマを使用。
C7:EOS Standard	BT.709 Wide DR / BT.709	Neutral	入	レンズ交換式デジタル一眼カメラEOSでピクチャースタイル「スタンダード」を選択した場合の画質を再現する設定。
C8:EOS Neutral	BT.709 Wide DR / BT.709	Neutral	入	レンズ交換式デジタル一眼カメラEOSでピクチャースタイル「ニュートラル」を選択した場合の画質を再現する設定。

	Gamma/Color Space (ガンマ/色空間)	Color Matrix (カラーマトリクス)	Lookファイル	特長
C9:Canon 709	Canon 709 / BT.709	Neutral	—	BT.709準拠モニターで見るときに適した設定。広いダイナミックレンジを確保しつつ、コントラストのある、「撮って出し（ポスト処理無しでの使用）」にも適したルック。
C10:User10～ C20:User20	BT.709 Normal / BT.709	Video	—	BT.709準拠モニターで見るときに適した設定。広いダイナミックレンジを実現。

* ITU-R BT.2100は10 / 12 bit規格のため、記録信号形式のビット数が8 bitのときは規格相当となる。

MEMO

Canon Log 3を使用する

- ポストプロダクション処理を前提とするガンマで、撮像素子の特性を最大限に引き出す広いダイナミックレンジを実現できます。
- 撮影中、SDI OUT端子の映像にLUTを適用し、モニタリングに適したガンマ/色空間に変換できます。
- 撮影したクリップをポストプロダクション処理する際、LUT（ルックアップテーブル）*を適用できます。
* 最新のLUTデータについては、キヤノンのホームページでご確認ください。

リモートコントローラー RC-V100を使うとき

- リモートコントローラー RC-V100のCUSTOM PICT.ボタンを押して、 Custom Pictureメニューを表示することもできます。
- プロテクトしたカスタムピクチャーファイルを選んでいると、カスタムピクチャーの設定をRC-V100から調整できません。
- RC-V100で画質の調整を行うと、選択中のカスタムピクチャーファイルの設定が変更/登録されます。大切なカスタムピクチャーファイルはSDカードにコピーし、変更しても良いカスタムピクチャーファイルを選んだから、RC-V100で調整してください。

カスタムピクチャーファイルを編集する

撮影時に使用する画質設定やカスタムピクチャーファイルの設定を変更します。

1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ（□□ 114）

2 MENU > Custom Picture > 「 ファイル編集」を選ぶ

- プロテクトされていない、またはプロテクトを解除したカスタムピクチャーファイルを選ぶ（□□ 115）。

3 画質調整の設定を行う

 参考 ▶ カスタムピクチャーの設定項目（□□ 118）

カスタムピクチャーファイルの名前を変更する

1 MENU > Custom Picture > 「 ファイル編集」> 「名称変更」> 「Input」を選ぶ

2 16文字の英数字・記号で名前を入力する（□□ 22）

- カスタムピクチャーファイルの名前が変更される。

カスタムピクチャーファイルをプロテクトする

必要に応じて、カスタムピクチャーファイルをプロテクトすることができます。

1 プロテクトするカスタムピクチャーファイルを選ぶ（□□ 114）

2 MENU > Custom Picture > 「 ファイル編集」> 「プロテクト」> 「プロテクト」を選ぶ

- カスタムピクチャーファイル名にが表示される。
- プロテクトを解除するときは「プロテクト解除」を選ぶ。

カスタムピクチャーファイルをリセットする

選択しているカスタムピクチャーファイルの設定を初期状態に戻します。

1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ (□ 114)

2 MENU > Custom Picture > 「 ファイル編集」> 「リセット」を選ぶ

3 プリセットのいずれかを選び、「OK」を選ぶ

- ・ カスタムピクチャーファイルが、選択したプリセットの設定に初期化される。

Lookファイルで画質を調整して記録する

Blackmagic Design社のDaVinci Resolveで作成したLUTファイル（以下「Lookファイル」と呼ぶ）をカスタムピクチャーファイルに登録すると、記録する映像の画質をLookファイルで調整できます。調整は、プロキシ動画や静止画、画面／出力端子の映像にも適用されます。

1 SDカードのルートフォルダーにLookファイルを格納し、本機のスロットBにカードを入れる

2 カスタムピクチャーファイルを選ぶ (□ 114)

3 MENU > Custom Picture > 「 ファイル編集」> 「Gamma/Color Space」> いずれかを選ぶ

4 MENU > Custom Picture > 「 ファイル編集」> 「Look File設定」> 「登録」を選ぶ

- ・ SDカード内のLookファイルが表示される。

5 いずれかのLookファイルを選ぶ

6 Lookファイルの適用後のガンマ／色空間を選ぶ

7 「OK」を2回選ぶ

- ・ Lookファイルが読み込まれ、カスタムピクチャーファイルに登録される。
- ・ 続いて、Lookファイルによる画質調整が有効になり、画面に **LOOK** が表示される。
- ・ Lookファイルによる画質調整を無効にするときは、MENU >  Custom Picture > 「 ファイル編集」> 「Look File」> 「切」を選ぶ。

MEMO

Lookファイルについて

- Blackmagic Design社のDaVinci Resolveで作成した17グリッドまたは33グリッドのLUTファイル（3D LUT／.cube形式）を使用できる。
- ヘッダー部の「LUT_3D_INPUT_RANGE」に、0～1以外の入力レンジを定義しているLUTファイルは使用できない。
- データ部に、0～1以外の値が含まれるLUTファイルは使用できない。
- ファイルサイズが2MB以上、またはファイル名が65文字（拡張子を含む）以上のLUTファイルは使用できない。
- ファイル名に使用可能な文字： 0～9、a～z、A～Z、「_」（アンダーバー）、「-」（ハイフン）、「.」（ドット）、「 」 （半角スペース）
- ・ Lookファイルは、SDカードの直下（ルートディレクトリ）に保存してください。
- ・ 入力／出力のガンマ／色空間が正しく選択されていないと、正しく変換されません。
- ・ Lookファイルに登録後、「Gamma/Color Space」、「HLG Color」、「Over 100%」を変更すると、登録したLookファイルを使用できません。
- ・ 「Gamma/Color Space」のガンマが「BT.709 Normal」、「BT.709 Standard」、または「BT.709 Wide DR」の場合、スーパーホワイト（出力100%を超える信号）とスーパーブラック（出力0%未満の信号）はクリップされます。スーパーホワイトの信号を使用するときは、MENU >  Custom Picture > 「 ファイル編集」> 「Other Functions」> 「Over 100%」で「Press」を選んだ上でLookファイルを有効にして、100%に圧縮した信号に対してLookファイルを適用します。

Lookファイルを消去する

カスタムピクチャーファイルに登録したLookファイルを消去できます。

- 1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ (📖 114)
- 2 MENU > **CP** Custom Picture > 「**CP** ファイル編集」> 「Look File設定」> 「消去」> 「OK」を選ぶ
 - Lookファイルが消去され、Lookファイルによる画質調整が無効になる。

カスタムピクチャーファイルを保存する

カスタムピクチャーファイルをコピーする

本機とスロットBのSDカードとの間で、カスタムピクチャーファイルを相互にコピーすることができます。

選択中のカスタムピクチャーファイルをSDカードにコピーする

選択中のカスタムピクチャーファイルをSDカードに保存します。新規に追加するか、既存のカスタムピクチャーファイルを上書きするかを選ぶことができます。

- 1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ (📖 114)
- 2 MENU > **CP** Custom Picture > 「**CP** ファイル保存」> 「SDカードBへコピー」を選ぶ
- 3 SDカード内のコピー先となるカスタムピクチャーファイルまたは「新規ファイル」*を選ぶ
 - * SDカード内のカスタムピクチャーファイルが20セット未満のときは、「新規ファイル」が表示される。
- 4 「OK」を選ぶ
 - 選択中のカスタムピクチャーファイルがSDカードにコピーされる。
 - 「新規ファイル」を選んだときは、自動的に最後に追加される。

MEMO

- 保存したカスタムピクチャーファイルは、本機と同じ機種のみで使用できます。

選択中のカスタムピクチャーファイルをSDカードのカスタムピクチャーファイルで置き換える

選択中のカスタムピクチャーファイルをSDカードのカスタムピクチャーファイルで上書きします。

- 1 カスタムピクチャーファイルを選ぶ (📖 114)
- 2 MENU > **CP** Custom Picture > 「**CP** ファイル保存」> 「SDカードBから読み出し」を選ぶ
- 3 SDカード内のコピー元となるカスタムピクチャーファイルを選ぶ
- 4 「OK」を選ぶ
 - 選択中のカスタムピクチャーファイルが置き換わる。

撮影時にクリップと一緒にカスタムピクチャーファイルを保存する

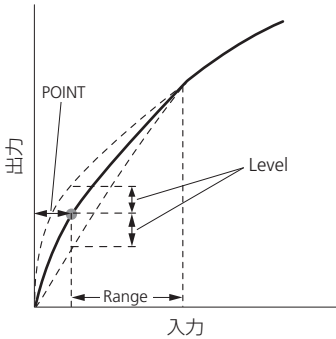
画質調整の設定を行ったあと、XF-AVC形式で撮影すると、カスタムピクチャーファイルがクリップと一緒に保存されます。メディアモードで情報表示画面を表示すると、そのクリップを撮影したときのカスタムピクチャーの設定を確認できます。

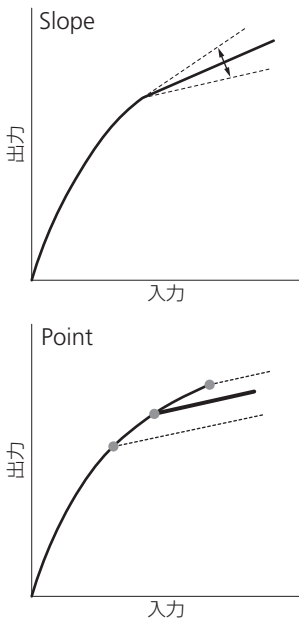
- MENU > **📷** 記録/メディア設定 > 「メタデータ」> 「**CP** ファイル付加」> 「入」を選ぶ

カスタムピクチャーの設定項目

カスタムピクチャーで設定できる項目について説明します。初期設定は太字で記載しています。なお、記録中（プレ記録中を除く）やIPストリーミング実行中は、「Gamma/Color Space」、「Color Matrix」、「Look File」、「Look File設定」、「HLG Color」、「Color Correction」の設定を変更できません。

設定項目	設定値／内容
Gamma/Color Space	Canon Log 3 / C.Gamut、Canon Log 3 / BT.2020、Canon Log 3 / BT.709、PQ / BT.2020、HLG / BT.2020、BT.709 Wide DR / BT.2020、BT.709 Wide DR / BT.709、BT.709 Normal / BT.2020、BT.709 Normal / BT.709、BT.709 Standard / BT.709、Canon 709 / BT.709 ガンマと色空間の組み合わせを選択する。 ガンマ Canon Log 3 : Canon Logの特徴を残したまま、ダイナミックレンジを広くしたガンマ。ポストプロダクション処理が前提。 PQ : ITU-R BT.2100(PQ)規格*に準拠したHDR映像用ガンマ。 HLG : ITU-R BT.2100(HLG)規格*に準拠したHDR映像用ガンマ。 BT.709 Wide DR : 広いダイナミックレンジを確保。BT.709準拠モニターに出力するとき。従来の「Wide DR」と同等。 BT.709 Normal : ITU-R BT.709規格に対して、低輝度部をより暗くして、高輝度部のコントラストを抑えたガンマ。BT.709準拠モニターで見るとき。従来の「Normal 1」と同等。 BT.709 Standard : ITU-R BT.709規格に準拠したガンマ。BT.709準拠モニターで見るとき。従来の「Normal 3」と同等。 Canon 709 : 広いダイナミックレンジを確保しつつ、コントラストのある「撮って出し（ポスト処理無しでの使用）」にも適したガンマ。BT.709準拠モニターに出力するとき。 * ITU-R BT.2100は10 / 12 bit規格のため、記録信号形式のビット数が8 bitのときは規格相当となる。 色空間 C.Gamut : センサーの特性に基づいてキャノンが開発した色空間でBT.2020より広い色域をカバーする。 BT.2020 : UHDTV (4K/8K) 用に規定されたITU-R BT.2020規格に準拠した色空間。ITU-R BT.2100規格もこの色空間を採用している。 BT.709 : sRGB規格に準拠した標準的な色空間。
Color Matrix	Neutral、Production Camera、Video Neutral : 忠実な色再現。 Production Camera : 映画制作用の色再現。 Video : TV放送に適したコントラストのある色再現。
Look File	入、切 Lookファイルによる画質調整を有効にする。
Look File設定	
登録	Lookファイルをカスタムピクチャーに登録する。
消去	カスタムピクチャーに登録したLookファイルを消去する。
HLG Color	BT.2100、Vivid HLGの色味を設定する。「Gamma/Color Space」で「HLG / BT.2020」を選択時、有効。 BT.2100 : ITU-R BT.2100 相当。 Vivid : ITU-R BT.2390 記載のTraditional Colour 相当。

設定項目	設定値／内容
Black	
Master Pedestal	- 50～+50 (±0) 黒のレベルを調整する。値を高くするほど暗部が明るくなり、コントラストが弱くなる。マイナスの値にすると、黒が沈む。「Gamma/Color Space」のGammaにCanon Log 3を選択時は、無効。
Master Black Red、Master Black Green、Master Black Blue	- 50～+50 (±0) 黒の色かぶりをRGB個別に補正する。「Gamma/Color Space」のGammaにCanon Log 3を選択時は、無効。
Black Gamma	
Level	- 50～+50 (±0)
Range、Point 	- 20～+50 (±0) 低輝度部のガンマを補正する。各値を変えることで、図の範囲内で黒側のガンマカーブを調整する。「Gamma/Color Space」のGammaにBT.709 Normal、またはBT.709 Standardを選択時のみ有効。 Level：基準ガンマからの高さ Range：Pointからの幅 Point：頂点の位置
Low Key Saturation	
Activate	On、Off
Level	- 50～+50 (±0) 低輝度領域の色の濃い／薄いを調整する。 Activate：Onにすると、ローキーサチュレーションによる調整を有効にする。 Level：低輝度領域の色の濃さ、薄さを設定する。

設定項目	設定値／内容
Knee	
Activate	On、Off
Automatic	On、Off
Slope	-35～+50 (±0)
Point	50～109 (95)
Saturation	-10～+10 (±0)
 出力 入力	高輝度部分に圧縮をかけて、とびの発生を抑える。「Gamma/Color Space」のGammaにBT.709 Normal、またはBT.709 Standardを選択時のみ有効。 Activate：Onにすると、ニーの調整が有効になる。 Automatic：Onにすると、ニーの自動調整が有効になる。 Slope：ニーの傾き。 Point：ニーポイント。 Saturation：高輝度部における色の濃さ・薄さ。
Sharpness	
Level	-10～+50 (±0)
	輪郭強調のレベルを調整する。
Detail Frequency	-8～+8 (±0)
	輪郭強調の中心周波数を設定する。値を大きくするほど周波数が高くなり、輪郭強調は細くなる。
Coring Level	-30～+50 (±0)
	コアリングのレベル。大きくすると、微小な輪郭が強調されなくなり、ノイズを低減できる。
Limit	-50～+50 (±0)
	輪郭強調の大きさを制限するレベルを調整する。
Noise Reduction	
Automatic	Off、On
Spatial Filter	Off、1～12
	画像全体がソフトフォーカスをかけたようになりノイズを除去。Off以外に設定すると、残像は発生しないが、画面全体がソフトに表現される。
Frame Correlation	Off、1～3
	前の画像（フィールド）と現在の画像を比較してノイズ成分を除去。Off以外に設定すると、解像感は落ちないが、動いている被写体では残像が出ることがある。

設定項目	設定値／内容
Skin Detail	
Effect Level	Off、Low、Middle、High
Hue	-16～+16 (±0)
Chroma、Area、Y Level	0～31 (16)
	肌色部分のノイズを低減して肌を美しく撮影するための設定を行う。調整中、設定した肌色部分を検出すると、画面や映像出力端子の出力映像上にゼブラパターンを表示する。 Effect Level：肌色を検出して、きれいな肌を演出するためのフィルターを調整する。調整は3段階のレベルで設定でき、Highがもっとも強く調整される。 Hue：検出する肌色の色相。 Chroma：検出する肌色の彩度。 Area：検出する肌色の色相の幅。 Y Level：検出する肌色の輝度レベル。
Color Matrix Tuning	
Gain	-50～+50 (±0)
Phase	-18～+18 (±0)
R-G、R-B、G-R、G-B、B-R、B-G	-50～+50 (±0)
	映像の色調を微調整する。 Gain：色の濃さを調整する。 Phase：色相を調整する。 R-G：シアンからグリーン、レッドからマゼンタの色調を調整する。 R-B：シアンからブルー、レッドからイエローの色調を調整する。 G-R：マゼンタからレッド、グリーンからシアンの色調を調整する。 G-B：マゼンタからブルー、グリーンからイエローの色調を調整する。 B-R：イエローからレッド、ブルーからシアンの色調を調整する。 B-G：イエローからグリーン、ブルーからマゼンタの色調を調整する。
White Balance	
R Gain、G Gain、B Gain	-50～+50 (±0)
	ホワイトバランスのシフト量を赤色の濃淡（R Gain）、緑色の濃淡（G Gain）、青色の濃淡（B Gain）で調整する。

設定項目	設定値／内容
Color Correction	
Select Area	Off、Area A、Area B、Area A&B
Area A Setting Phase	0～31 (0)
Area B Setting Phase	
Area A Setting Chroma	0～31 (16)
Area B Setting Chroma	
Area A Setting Area	
Area B Setting Area	
Area A Setting Y Level	
Area B Setting Y Level	
Area A Revision Level	－50～+50 (±0)
Area B Revision Level	
Area A Revision Phase	－18～+18 (±0)
Area B Revision Phase	
特定の範囲の色調を補正する。調整中、設定した範囲の色調部分を検出すると、設定した範囲以外の色を画面や映像出力端子の出力映像上に無彩色で表示する（Area A(B) Revision LevelまたはArea A(B) Revision Phaseの調整中を除く）。 Select Area：補正する色の範囲をAエリアとBエリアの2種類設定でき、補正はいずれかまたは両方を選択できる。 Area A (B) Setting Phase：AエリアまたはBエリアの色相を設定する。 Area A (B) Setting Chroma：AエリアまたはBエリアの彩度を設定する。 Area A (B) Setting Area：AエリアまたはBエリアの色相の幅を設定する。 Area A (B) Setting Y Level：AエリアまたはBエリアの輝度レベルを設定する。 Area A (B) Revision Level：AエリアまたはBエリアにおける、色の濃さの補正量を設定する。 Area A (B) Revision Phase：AエリアまたはBエリアにおける、色相の補正量を設定する。	
Other Functions	
Over 100%	Through、Press、Clip
100%を超える信号の出力のしかたを設定する。「Gamma/Color Space」のGammaにCanon Log 3、PQ、HLGまたはCanon 709を選択時は、無効。 Through：信号をそのまま出力する。 Press：108%までの信号全体を100%に圧縮する。 Clip：白レベルを100%でクリップする。	

MEMO

- 赤外撮影を設定しているときは、以下の項目を使用できません。
 - Color Matrix
 - HLG Color
 - Low Key Saturation
 - KneeのSaturation
 - Skin Detail
 - Color Matrix Tuning
 - White Balance
 - Color Correction
- 設定値を変えたとき、メニューの設定によっては、画質調整の効果が得られないことがあります。
- リモートコントローラー RC-V100を接続すると、次の項目をRC-V100から調整できます。
 - BlackのMaster Pedestal、Master Black Red / Blue
 - Black GammaのLevel
 - KneeのAutomatic*、Slope*、Point*
 - SharpnessのLevel
 - White BalanceのR Gain / B Gain

* KneeのActivateがOnのときのみ。

設定データの保存と読み出し

本機の各種の設定情報（設定データ）をカメラ本体またはスロットBのSDカードに保存できます。設定データは、必要に応じて読み出して再利用できます。複数の本機と同じ機種を同じ設定にするとときに便利です。

設定データを保存する

1 MENU >  システム設定 > 「メニュー /  設定保存」 > 「保存」を選ぶ

2 「カメラ本体へ」または「SDカードBへ」 > 「OK」を選ぶ

- 現在のメニュー設定やカスタムピクチャーが、選んだ保存先に保存される。保存されている設定データは、現在の設定で上書きされる。

設定データを読み込む

1 MENU >  システム設定 > 「メニュー /  設定保存」 > 「読み出し」を選ぶ

2 「カメラ本体から」または「SDカードBから」 > 「OK」を選ぶ

- 設定データが本機に読み込まれる。読み込まれたあと、画面が一度消え、本機が再起動する。

MEMO

- 保存されない設定

- MENU >  カメラ設定 > 「カラーバー」
- MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「News Metadata」
- MENU >  記録/メディア設定 > 「メタデータ」 > 「User Memo」
- MENU >  アシスト設定 > 「Magnification」、「Magnification出力先」
- MENU >  アシスト設定 > 「波形モニター設定」 > 「サイズ: LCD/VF」
- FTP転送のルート証明書

- 設定データを読み込むとき、本機にプロテクトされたカスタムピクチャーファイルがあっても、上書きされます。

撮影データを再生する

ここでは、撮影データ（クリップ、静止画、WAV形式の音声）の再生について説明します。外部モニターに接続して再生するときは、「接続」(134)をご覧ください。

インデックス画面を表示する

1 POWER（電源）スイッチを押しながら「ON」にする

2 MEDIA（メディア）ボタン (11) を押す

- 本機がメディアモードになり、クリップのサムネイル（縮小画像）がインデックス画面に表示される。
- ジョイスティックでカーソルを移動できる。
- 上下にフリックすると、次または前のページに移動する。



1 キーロック ▶▶ 12

- KEYLOCK（キーロック）スイッチを （キーロック）にしていることを示す。

2 ショットマーク*¹ ▶▶ 96

- ショットマークが付加されていることを示す。

3 OKマーク*¹/チェックマーク*¹ ▶▶ 96

- OKマークまたはチェックマークが付加されていることを示す。

4 カーソル（オレンジ色の枠）

5 プロキシ動画 ▶▶ 50

6 カメラインデックス、リール番号、クリップ番号、クリップ/音声ファイル名 ▶▶ 32

7 収録日（年月日）と記録開始時間

8 ネットワークの接続状態/機能

9 記録メディア **A B**

- 現在選択しているカードの隣に が表示される。

10 記録形式

11 ファイル選択 ▶▶ 126

- ファイル選択画面が表示される。

12 チャンク動画 ▶▶ 51

13 クリップのサムネイル

14 電源供給状態 ▶▶ 40

15 クリップ番号/クリップ総数

16 収録日（月日）と記録開始時間

17 記録開始フレームのタイムコード

18 記録時間

19 カスタムピクチャー *¹ ▶▶ 117

- カスタムピクチャーファイルと一緒に記録されていることを示す。

20 特殊記録 ▶▶ 100

21 カラーサンプリングと解像度、音声記録形式

22 フレームレート*² ▶▶ 48

*¹ XF-AVC形式のみ。

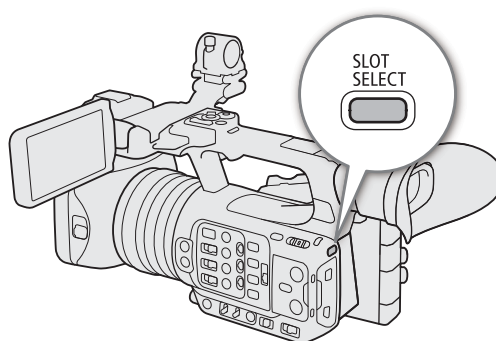
*² スロー&ファストモーション記録のクリップでは、撮影/再生フレームレートが表示される。

MEMO

- XF-AVCクリップの場合、システム周波数がクリップの撮影時と現在の設定で異なると、サムネイルの表示やクリップの再生ができません。本機のシステム周波数を再生するクリップと同じ設定にしてください（[p.47](#)）。

カードスロットを切り換える

両方のカードスロットにカードを入れているときは、SLOT SELECT（スロット選択）ボタンを押して、再生するカードスロットを切り換えることができます（静止画インデックス画面を除く）。インデックス画面の記録メディアに表示されている●をタッチしてカードスロットを切り換えることもできます。



インデックス画面を切り換える

表示する記録形式を選んで、インデックス画面を切り換えることができます。

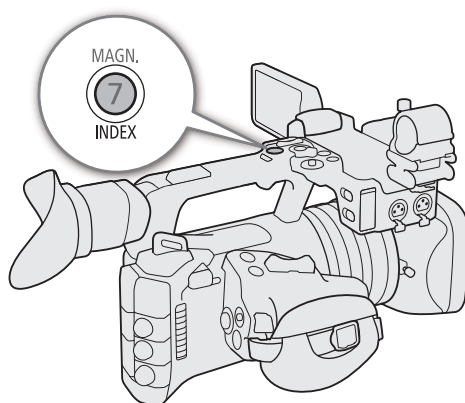
XF-AVC Index :	XF-AVC形式の動画
MP4 Index :	MP4形式の動画
Photo Index :	静止画（スロットBのカードのみ）
WAV Index :	WAV形式の音声

1 INDEX（インデックス）ボタンを押す

- インデックスメニューが表示される。
- インデックス画面の記録形式をタッチしてインデックスメニューを表示することもできる。

2 記録形式を選ぶ

- 選んだインデックス画面に切り換わる。
- 画面に表示された記録形式をタッチして選ぶこともできる。
- 切り換えを中止するときは「キャンセル」を選ぶ。



再生する

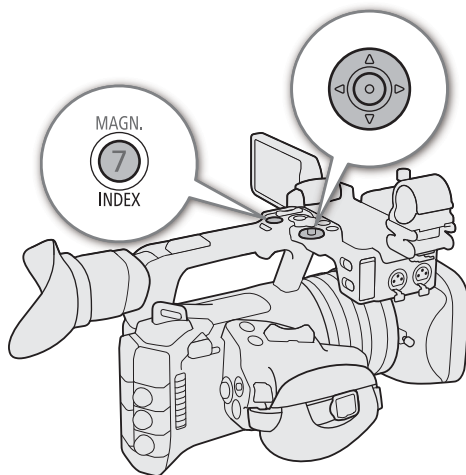
インデックス画面で選んだクリップや静止画、音声を再生します。再生は、画面上のタッチ操作、アサインボタン操作のほか、ジョイスティックで操作することもできます。

1 インデックス画面上で再生対象のサムネイルをタッチする

- 再生が始まる。
- ジョイスティックでカーソルを移動し、SETを長押し（約1秒）しても再生開始できる。
- 画面をタッチして表示される「III」（一時停止）をタッチするか、ジョイスティックを押すと、再生が一時停止する。
- 静止画の再生中は、ジョイスティックを左右に押すと、前または次の静止画に移動する。

2 再生を終了するとき、INDEXボタンを押す

- インデックス画面に戻る。
- 画面を下にフリックしても再生を終了する。



MEMO

- 次の静止画は正しく再生されないことがあります。
 - 本機以外の製品で記録したとき。
 - パソコンで作成や加工、ファイル名の変更をしたとき。
- チャンク記録のクリップは再生されません。

クリップを絞り込んで再生する

選択したクリップのみを連続で再生します。

1 インデックス画面の [X] をタッチする

- ファイル選択画面が表示される。
- [X] をタッチするとインデックス画面に戻る。

2 サムネイルをタッチしてクリップを選択した後、[Y] をタッチする

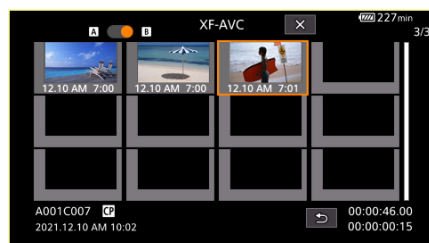
- 絞り込み画面が表示される。
- [Y] をタッチするとファイル選択画面に、[X] をタッチするとインデックス画面に戻る。

3 絞り込み画面上でサムネイルをタッチする

- 以降の操作は「再生する」と同様。
- 再生を終了すると、絞り込み画面に戻る。



ファイル選択画面の例

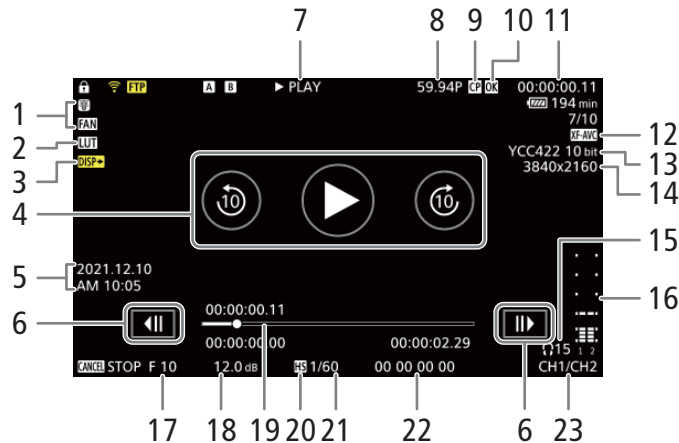


絞り込み画面の例

再生時の画面表示

インデックス画面と共通の表示項目は、「インデックス画面を表示する」(124) で説明しています。

クリップの再生画面



- | | |
|----------------------|--------------------------------------|
| 1 内部温度、ファン ▶▶ 206 | 8 撮影フレームレート*2/フレームレート ▶▶ 48 |
| 2 LUT | 9 カスタムピクチャー*3 ▶▶ 117 |
| 3 画面表示出力 | 10 OKマーク*3/チェックマーク*3/プロキシ動画 ▶▶ 96、50 |
| 4 再生ボタン ▶ | 11 タイムコード ▶▶ 82 |
| 10秒送りボタン ⏮ | 12 動画形式 |
| 10秒戻しボタン ⏭ | 13 カラーサンプリングと色深度 |
| 5 収録日と記録時刻*1 | 14 解像度 |
| 6 コマ戻しボタン ◀◀ | 15 ヘッドホン音量 |
| コマ送りボタン ▶▶ | 16 オーディオレベルメーター*4 |
| 7 再生状況 | 17 絞り値*5 ▶▶ 60 |
| ▶ PLAY 再生中 | 18 ISO感度/ゲイン*5 ▶▶ 56 |
| ⏸ PAUSE 再生一時停止中 | 19 シークバー |
| 10 sec ▶▶ 10秒送り | 20 高感度モード撮影 ▶▶ 57 |
| ◀◀ 10 sec 10秒戻し | 21 シャッタースピード*5 ▶▶ 54 |
| ◀◀/▶▶ コマ戻し/コマ送り | 22 ユーザービット ▶▶ 83 |
| F FWD x5 早送り (5倍速) | 23 音声出力チャンネル ▶▶ 147 |
| F FWD x15 早送り (15倍速) | |
| F FWD x60 早送り (60倍速) | |
| F REV x5 早戻し (5倍速) | |
| F REV x15 早戻し (15倍速) | |
| F REV x60 早戻し (60倍速) | |

*1 モニタリング設定 > 「Custom Display」 > 「日付/時刻」が「入」のときのみ。

*2 スロー&ファストモーション記録で記録されたクリップのみ。

*3 XF-AVCクリップのみ。

*4 モニタリング設定 > 「Custom Display」 > 「オーディオレベル」が「入」のときのみ。

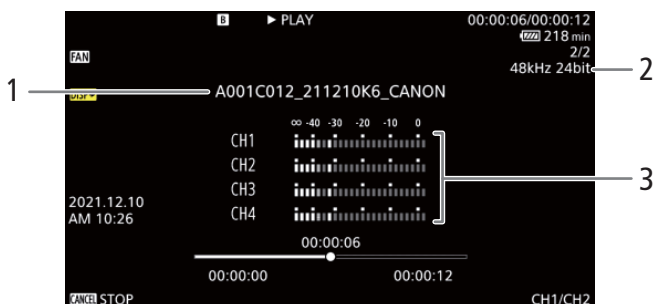
*5 モニタリング設定 > 「Custom Display」 > 「カメラデータ」が「入」のときのみ。

MEMO

- DISP (ディスプレイ) ボタンを押すと、画面表示のレベルを切り換えことができます (42)。

WAVファイルの再生画面

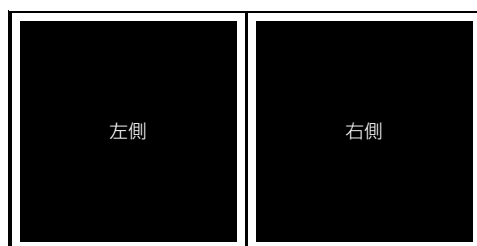
再生画面で共通の表示項目は、「クリップの再生画面」(127) で説明しています。



- 1 音声ファイル名
2 サンプリング周波数／量子化ビット数
3 オーディオレベルメーター

さまざまな再生

早送りや早戻し、コマ送り、スキップ再生などの再生方法があります。操作は、画面をタッチするか、ジョイスティックで行います。また、シークバーで再生位置を変更することもできます。



機能	操作時期	操作		説明
		画面をタッチ	ジョイスティック	
早送り * ¹	再生中に	—	上	押すたびに再生速度が約5倍→約15倍→約60倍に切り換わる。* ²
早戻し * ¹	再生中に	—	下	
10秒送り	再生中に	右側を2度タッチ	—	2度タッチするたびに10秒ごと進む。
	一時停止中に	右側のⓈ	—	タッチするたびに10秒ごと進む。
10秒戻し	再生中に	左側を2度タッチ	—	2度タッチするたびに10秒ごと戻る。
	一時停止中に	左側のⓈ	—	タッチするたびに10秒ごと進む。
コマ送り	一時停止中に	▶▶	上	押すたびに1コマ進む。押し続けると連続してコマごとに進む。
コマ戻し	一時停止中に	◀◀	下	押すたびに1コマ戻る。押し続けると連続してコマごとに戻る。
スキップ再生	再生中／一時停止中に	左にフリック	右	次のクリップの先頭から再生。
	再生中／一時停止中に	—	左	現在のクリップの先頭から再生。
	再生中／一時停止中に	右にフリック	—	前のクリップの先頭から再生。
	再生中に2回押す	—	左	前のクリップの先頭から再生。
再生位置変更	再生中／一時停止中に	シークバー上のタッチ／ドラッグ	—	再生位置／再生停止位置を移動する。

*¹ 操作中、画面が乱れることがあります。

*² 画面に出る倍速表示は目安です。

MEMO

- 特殊再生中は音声聞こえません。

音声を聞く

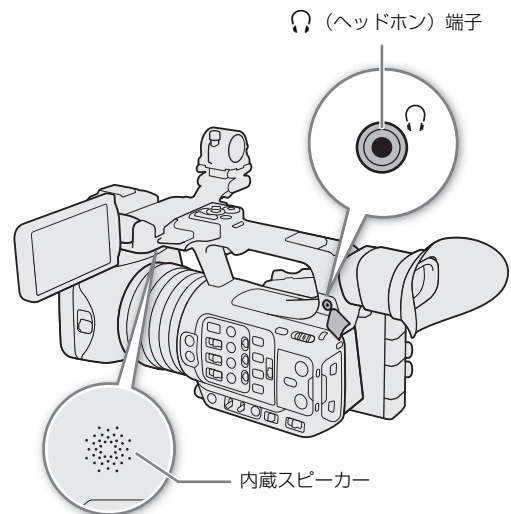
通常の再生中は、音声をヘッドホンやスピーカーで聞くことができます。音声はSDI OUT端子とHDMI OUT端子にも出力されます（[138](#)）。

1 MENU >  オーディオ設定 > 「ヘッドホン音量」または「スピーカー音量」を選ぶ

2 音量を調整する

MEMO

- モニターするチャンネルの選択については、「音声出力を選択する」（[147](#)）をご覧ください。
- 「ヘッドホン+」または「ヘッドホン-」を割り当てたアサインボタンで操作することもできます（[109](#)）。



撮影データを操作する

インデックス画面で選んでいる撮影データに対する操作や情報表示を行うことができます。

クリップメニューで操作する

1 操作対象のクリップを選ぶ

2 SETを押す

- クリップメニューが表示される。選択できる機能は撮影データによって異なる。
- 画面を長押し（約1秒）しても、クリップメニューを表示できる。

3 メニュー項目を選ぶ

クリップメニュー一覧

メニュー項目	内容	インデックス画面			
		XF-AVC クリップ	MP4 クリップ	静止画	WAV 音声
キャンセル	クリップメニューを消す。	●	●	●	●
再生	再生を開始する。	●	●*1	●	●
情報表示	情報表示画面を表示する。	●	●	—	—
選択	インデックス画面でファイル選択画面を表示する。または、ファイル選択画面でファイルを選択する。	●	●	—	—
選択解除	ファイルの選択を解除する。	●	●	—	—
全選択解除	ファイルの選択をすべて解除し、インデックス画面に戻る。	●	●	—	—
絞り込み	絞り込み画面を表示する。	●	●	—	—
絞り込み終了	絞り込み画面からインデックス画面に戻る。	●	●	—	—
再選択	絞り込み画面から選択画面に戻る。	●	●	—	—
 Mark追加/  Mark消去	OKマークを付加／消去する。	●*2*3	—	—	—
 Mark追加/  Mark消去	チェックマークを付加／消去する。	●*2*3	—	—	—
Shot Mark全消去	ショットマークをすべて消去する。	●*2	—	—	—
修復	撮影データを修復する。	●	●*1	—	●
消去	撮影データを消去する。	●	●	●	●
User Memo消去	クリップに付加されているユーザーメモ／GPS情報を消去する。	●	●	—	—
FTP転送	クリップをFTP転送する。	●	●	—	—
停止	静止画の再生を終了する。	—	—	●	—

*1 チャンク記録のクリップを除く。

*2 プロキシクリップを除く。

*3 クリップへのマークの付加状況により「追加」と「消去」が切り換わる。

クリップの情報を表示する

クリップメニューで「情報表示」を選択すると、選択しているクリップの情報を確認できます。情報表示画面でジョイスティックを左右に押すか、画面上の◀/▶をタッチすると、前/次のクリップに移動します。CANCELを押すと元の画面に戻ります。



- | | |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1 選択しているクリップのサムネイル（縮小画） | 9 OKマーク／チェックマーク／ショットマーク
▶▶ 131 |
| 2 GPS情報マーク | 10 カスタムピクチャー ▶▶ 117 |
| 3 前のクリップのサムネイル | 11 プロキシ動画 ▶▶ 50 / チャンク動画 51 |
| 4 次のクリップのサムネイル | 12 カラーサンプリング ▶▶ 47 |
| 5 撮影開始日時 | 13 記録開始フレームのタイムコード |
| 6 クリップファイル名 ▶▶ 32 | 14 記録終了フレームのタイムコード |
| 7 ビットレート／解像度 | 15 収録時間 |
| 8 特殊記録情報／フレームレート ▶▶ 100 | |
- 特殊記録を行ったクリップのときは、「INT REC」、
「FRM REC」、
「S&F REC」が表示される。スロー &
ファストモーション記録で記録したクリップのときは、
フレームレートの表示が「撮影フレームレート
／再生フレームレート」になる。

ユーザーメモ／News Metadataを表示する

情報表示画面でジョイスティックを上または下に押すか、画面上の◻/◻の部分をタッチすると、クリップに付加されているユーザーメモまたはNews Metadataを表示できます。画面下の「情報表示」の左に表示される◻/◻と同じ方向にジョイスティックを押すか、画面上の「情報表示」をタッチすると、情報表示画面に戻ります。

カスタムピクチャーの設定を表示する

カスタムピクチャーファイルと一緒に記録されているクリップのときは、情報表示画面でジョイスティックを上または下に押すか、画面上の◻/◻の部分をタッチすると、カスタムピクチャーの設定内容を表示することができます。画面下の「情報表示」の左に表示される◻/◻と同じ方向にジョイスティックを押すか、画面上の「情報表示」をタッチすると、情報表示画面に戻ります。

OKマーク／チェックマークを付加する

XF-AVC形式で記録したクリップにOKマーク／チェックマークを付加することができます。OKマークが付加されたクリップは、本機での消去が禁止されるため、重要なクリップを保護できます。

再生中にOKマーク／チェックマークを付加する

再生中または再生一時停止中にOKマークまたはチェックマークを付加することができます。

- 1 アサインボタンに「 Mark追加」または「 Mark追加」を割り当てる（[109](#)）
- 2 XF-AVCクリップの再生中／再生一時停止中にアサインボタンを押す
 - 「 Mark」または「 Mark」が表示され、選んだマークがクリップに付加される。
 - 再生中は、再生一時停止になる。

インデックス画面でOKマーク／チェックマークを付加する

- 1 XF-AVC形式のインデックス画面でクリップを選ぶ
- 2 クリップメニュー>「 Mark追加」または「 Mark追加」>「OK」を選ぶ
 - クリップにマークが付加される。

MEMO

- 1つのクリップにOKマークとチェックマークを同時に付加することはできません。一方のマークが付加されたクリップに他方のマークを付加すると、はじめに付加されていたマークは消去されます。

OKマーク／チェックマークを消去する

XF-AVC形式の動画に付加したOKマーク／チェックマークを消去することができます。

- 1 XF-AVC形式のインデックス画面でクリップを選ぶ
- 2 クリップメニュー>「 Mark消去」または「 Mark消去」>「OK」を選ぶ
 - 選択したクリップのマークが消去される。

ショットマークを付加／消去する

XF-AVC形式で記録したクリップの再生中、重要なフレームにショットマークを付加することができます。また、クリップに付加したショットマークをまとめて消去することもできます。

再生中にショットマークを付加する

- 1 アサインボタンに「Shot Mark追加」を割り当てる（[109](#)）
- 2 XF-AVCクリップの再生中／再生一時停止中にアサインボタンを押す
 - 「Shot Mark」が表示され、ショットマークが付加される。
 - 再生中は、再生一時停止になる。

インデックス画面でショットマークをすべて消去する

- 1 インデックス画面でXF-AVC形式のクリップを選ぶ
- 2 クリップメニュー>「Shot Mark全消去」>「OK」を選ぶ
 - 選んだクリップに付加されているショットマークがすべて消去される。

撮影データを消去する

記録した撮影データ（クリップ、静止画、WAV形式の音声）を消去することができます。OKマークが付加されたクリップを消去するときは、先にOKマークを消去する必要があります。

1 インデックス画面で撮影データを選ぶ

- 静止画は再生画面で操作することもできる。

2 クリップメニュー＞「消去」＞「OK」を選ぶ

- 選択した撮影データが消去される。
- 撮影データの消去は中止できない。

ユーザーメモ／GPS情報を消去する

1 インデックス画面でクリップを選ぶ

2 クリップメニュー＞「User Memo消去」＞「OK」を選ぶ

- 選択したクリップに付加されているユーザーメモ／GPS情報が消去される。

出力信号形式

SDI OUT端子やHDMI™ OUT端子からの出力は、記録・再生の映像信号形式とメニューの設定によって切り換わります。

撮影時の出力信号形式

メイン動画の記録信号形式			MENU > ☛システム設定	出力信号形式*1	MENU > ☛システム設定	出力信号形式*1
メイン 記録形式	解像度	フレーム レート	HDMI出力形式	HDMI OUT端子*2	SDI出力形式	SDI OUT端子*2
XF-AVC MP4(HEVC) MP4(H.264)	3840x2160	59.94P 50.00P	3840x2160P	3840x2160	3840x2160P	3840x2160
			1920x1080P	1920x1080	1920x1080P	1920x1080
			1920x1080i	1920x1080 59.94i / 50.00i	1920x1080i(PsF)	1920x1080 59.94i / 50.00i
			1280x720P	1280x720	1280x720P	1280x720
			—	—	720x480i*3 720x576i*3	720x480 59.94i 720x576 50.00i
		29.97P 25.00P	3840x2160P	3840x2160	3840x2160P	3840x2160
			1920x1080P	1920x1080	1920x1080P	1920x1080
			1920x1080i	1920x1080 59.94i / 50.00i	1920x1080i(PsF)	1920x1080 29.97PsF(59.94i) / 25.00PsF(50.00i)
			1280x720P	1280x720 59.94P / 50.00P	1280x720P	1280x720 59.94P / 50.00P
			—	—	720x480i*3 720x576i*3	720x480 29.97PsF(59.94i) 720x576 25.00PsF(50.00i)
		23.98P	3840x2160P	3840x2160	3840x2160P	3840x2160
			1920x1080P	1920x1080	1920x1080P	1920x1080
			1920x1080i	1920x1080 59.94i	1920x1080i(PsF)	1920x1080 59.94i
			1280x720P	1280x720 59.94P	1280x720P	1280x720 59.94P
			—	—	720x480i	720x480 59.94i

メイン動画の記録信号形式			MENU > ☛ システム設定	出力信号形式* ¹	MENU > ☛ システム設定	出力信号形式* ¹
メイン 記録形式	解像度	フレーム レート	HDMI出力形式	HDMI OUT端子* ²	SDI出力形式	SDI OUT端子* ²
XF-AVC MP4(HEVC) MP4(H.264)	1920x1080	59.94P 50.00P	1920x1080P	1920x1080	1920x1080P	1920x1080
			1920x1080i	1920x1080 59.94i / 50.00i	1920x1080i(PsF)	1920x1080 59.94i / 50.00i
			1280x720P	1280x720	1280x720P	1280x720
			—	—	720x480i* ³ 720x576i* ³	720x480 59.94i 720x576 50.00i
		59.94i* ⁴ 50.00i* ⁴	1920x1080i	1920x1080	1920x1080i(PsF)	1920x1080
			1280x720P	1280x720 59.94P / 50.00P	1280x720P	1280x720 59.94P / 50.00P
			—	—	720x480i* ³ 720x576i* ³	720x480 59.94i 720x576 50.00i
		29.97P 25.00P	1920x1080P	1920x1080	1920x1080P	1920x1080
			1920x1080i	1920x1080 59.94i / 50.00i	1920x1080i(PsF)	1920x1080 29.97PsF(59.94i) / 25.00PsF(50.00i)
			1280x720P	1280x720 59.94P / 50.00P	1280x720P	1280x720 59.94P / 50.00P
			—	—	720x480i* ³ 720x576i* ³	720x480 29.97PsF(59.94i) 720x576 25.00PsF(50.00i)
		23.98P	1920x1080P	1920x1080	1920x1080P	1920x1080
			1920x1080i	1920x1080 59.94i	1920x1080i(PsF)	1920x1080 59.94i
			1280x720P	1280x720 59.94P	1280x720P	1280x720 59.94P
			—	—	720x480i	720x480 59.94i
	1280x720	59.94P 50.00P	1280x720P	1280x720	1280x720P	1280x720
			—	—	720x480i* ³ 720x576i* ³	720x480 59.94i 720x576 50.00i

*¹ 出力フレームレートは、特に記載がないかぎり記録信号形式と同じ（スロー & ファストモーション記録時を除く）。

*² カラーサンプリングはYCC422 10 bit。ビット数は映像信号の有効ビット数。

*³ システム周波数によって、選択できるメニューが変わる。

*⁴ MENU > ☛ 記録/メディア設定 > 「メイン記録形式」で「XF-AVC YCC422 10 bit」を選択時のみ。

再生時の出力信号形式

再生する動画の記録信号形式			MENU > ⚙ システム設定	出力信号形式*1	MENU > ⚙ システム設定	出力信号形式*1
記録形式	解像度	フレーム レート	HDMI出力形式	HDMI OUT端子*2	SDI出力形式	SDI OUT端子*2
XF-AVC MP4(HEVC) MP4(H.264)	3840x2160	59.94P 50.00P	3840x2160P	3840x2160	3840x2160P	3840x2160
			1920x1080P	1920x1080	1920x1080P	1920x1080
			1920x1080i	1920x1080 59.94i / 50.00i	1920x1080i(PsF)	1920x1080 59.94i / 50.00i
			1280x720P	1280x720	1280x720P	1280x720
			—	—	720x480i*3 720x576i*3	720x480 59.94i 720x576 50.00i
		29.97P 25.00P	3840x2160P	3840x2160	3840x2160P	3840x2160
			1920x1080P	1920x1080	1920x1080P	1920x1080
			1920x1080i	1920x1080 59.94i / 50.00i	1920x1080i(PsF)	1920x1080 29.97PsF(59.94i) / 25.00PsF(50.00i)
			1280x720P	1280x720 59.94P / 50.00P	1280x720P	1280x720 59.94P / 50.00P
			—	—	720x480i*3 720x576i*3	720x480 29.97PsF(59.94i) 720x576 25.00PsF(50.00i)
		23.98P	3840x2160P	3840x2160	3840x2160P	3840x2160
			1920x1080P	1920x1080	1920x1080P	1920x1080
			1920x1080i	1920x1080 59.94i	1920x1080i(PsF)	1920x1080 59.94i
			1280x720P	1280x720 59.94P	1280x720P	1280x720 59.94P
			—	—	720x480i	720x480 59.94i
	1920x1080	59.94P 50.00P	3840x2160P	1920x1080	3840x2160P	1920x1080
			1920x1080P		1920x1080P	
			1920x1080i	1920x1080 59.94i / 50.00i	1920x1080i(PsF)	1920x1080 59.94i / 50.00i
			1280x720P	1280x720	1280x720P	1280x720
			—	—	720x480i*3 720x576i*3	720x480 59.94i 720x576 50.00i
		59.94i 50.00i	3840x2160P	1920x1080	3840x2160P	1920x1080
			1920x1080P		1920x1080P	
			1920x1080i		1920x1080i(PsF)	
			1280x720P	1280x720 59.94P / 50.00P	1280x720P	1280x720 59.94P / 50.00P
			—	—	720x480i*3 720x576i*3	720x480 720x576

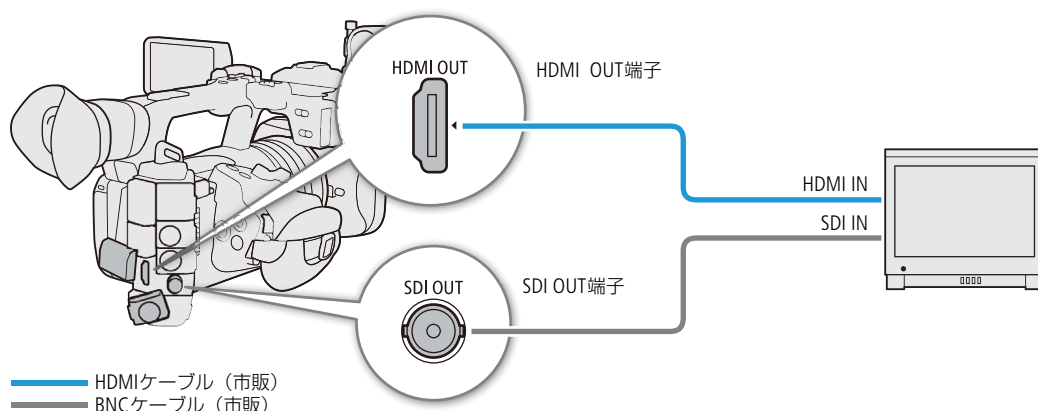
再生する動画の記録信号形式			MENU > ☛ システム設定	出力信号形式* ¹	MENU > ☛ システム設定	出力信号形式* ¹
記録形式	解像度	フレームレート	HDMI出力形式	HDMI OUT端子* ²	SDI出力形式	SDI OUT端子* ²
XF-AVC MP4(HEVC) MP4(H.264)	1920x1080	29.97P 25.00P	3840x2160P	1920x1080	3840x2160P	1920x1080
			1920x1080P		1920x1080P	
			1920x1080i	1920x1080 59.94i / 50.00i	1920x1080i(PsF)	1920x1080 29.97PsF(59.94i) / 25.00PsF(50.00i)
			1280x720P	1280x720 59.94P / 50.00P	1280x720P	1280x720 59.94P / 50.00P
			—	—	720x480i* ³ 720x576i* ³	720x480 29.97PsF(59.94i) 720x576 25.00PsF(50.00i)
		23.98P	3840x2160P	1920x1080	3840x2160P	1920x1080
			1920x1080P		1920x1080P	
			1920x1080i	1920x1080 59.94i	1920x1080i(PsF)	1920x1080 59.94i
			1280x720P	1280x720 59.94P	1280x720P	1280x720 59.94P
			—	—	720x480i	720x480 59.94i
	1280x720	59.94P 50.00P	3840x2160P	1280x720	3840x2160P	1280x720
			1920x1080P		1920x1080P	
			1920x1080i		1920x1080i(PsF)	
			1280x720P		1280x720P	
			—	—	720x480i* ³ 720x576i* ³	720x480 59.94i 720x576 50.00i
MP4(H.264)	1280x720	29.97P 25.00P	3840x2160P	1280x720 59.94P / 50.00P	3840x2160P	1280x720 59.94P / 50.00P
			1920x1080P		1920x1080P	
			1920x1080i		1920x1080i(PsF)	
			1280x720P		1280x720P	
			—	—	720x480i* ³ 720x576i* ³	720x480 29.97PsF(59.94i) 720x576 25.00PsF(50.00i)
		23.98P	3840x2160P	1280x720 59.94P	3840x2160P	1280x720 59.94P
			1920x1080P		1920x1080P	
			1920x1080i		1920x1080i(PsF)	
			1280x720P		1280x720P	
			—	—	720x480i	720x480 59.94i

*¹ 出力フレームレートは、特に記載がないかぎり記録信号形式と同じ。*² カラーサンプリングはYCC422 10 bit。ビット数は映像信号の有効ビット数。*³ システム周波数によって、選択できるメニューが変わる。

外部モニター／外部レコーダーを接続する

撮影・再生映像を外部モニターに表示したり、撮影映像を外部レコーダーに記録したりするときは、本機と外部機器を接続したあと、必要な設定をメニューで行います。出力信号の詳細については、「出力信号形式」(P.134)をご覧ください。

接続のしかた



MEMO

- ACアダプターを使って、コンセントにつないで使うことをおすすめします。

SDI OUT端子を使用する

SDI OUT端子から出力される映像信号には、オーディオ信号とタイムコード信号、記録コマンドが重畳されます。SDI OUT端子の映像信号には、マーカー、画面表示が重畳できるほか、拡大表示 (P.73) などを行うこともできます。

- 1 MENU > システム設定 > 「SDI出力」 > 「入」を選ぶ
- 2 マッピング方式を変更するときは、MENU > システム設定 > 「3G-SDIマッピング」 > 「Level A」または「Level B」を選ぶ
 - SMPTE ST 425-1規格のLevel AまたはLevel Bに準拠した信号が出力される。

SD解像度で出力する

SD解像度で出力するときの方式を選びます。

MENU > システム設定 > 「SD出力時リサイズ」 > いずれかを選ぶ。

MEMO

- MENU > 記録/メディア設定 > 「記録コマンド (EXT REC)」を「入」にして、本機と他機をSDI OUT端子でつなぐと、本機の撮影／撮影一時停止操作 (RECボタンの操作) と連動して、他機の記録／記録一時停止を行うことができます。ただし、スロー & ファストモーション記録モードやインターバル記録モード、フレーム記録モード、常時記録モードのときは、記録コマンドを出力しないため、この機能は使用できません。
- フレームレートが23.98Pの場合、「SDI出力形式」が「1280x720P」のときは、SDI OUT端子に出力するタイムコードのフレームカウントは0～29となります。
- SD解像度で出力しているときに拡大表示を使うと、「SD出力時リサイズ」は「スクイーズ」固定となります。

HDMI OUT端子を使用する

HDMI OUT端子を使用すると、映像と音声をデジタル信号で出力することができます。出力にタイムコード、記録コマンド、画面表示、マーカーなどを重畳できます。カメラモードのときは、タイムコードを重畳することもできます。

1 HDMI OUT端子にHDMIケーブルを接続する

2 MENU > システム設定 > 「HDMI出力形式」 > いずれかを選ぶ

3 タイムコードを重畳するときは、MENU > 記録/メディア設定 > 「HDMI Time Code」 > 「入」を選ぶ

MEMO

- MENU > 「 システム設定」 > 「HDMIモニター連動」を「入」にすると、接続されたモニターの能力に応じて自動で出力解像度を設定します。「切」にすると、出力解像度はメニューで選んだ解像度に設定され、接続したモニターが選んだ出力解像度に非対応のときは出力が停止します。
- HDMI OUT端子は出力専用です。他の出力端子と接続しないでください。故障の原因となります。
- DVI対応モニターとの接続は保証していません。
- 接続する外部モニター／レコーダーや使用するHDMIケーブルによっては正しく表示されないことがあります。そのときは、他の端子を使って接続してください。
- MENU >  記録/メディア設定 > 「記録コマンド (EXT REC)」とタイムコードの重畳を有効にして、本機と他機をHDMI OUT端子でつなぐと、本機の撮影／撮影一時停止操作（RECボタンの操作）と連動して、他機の記録／記録一時停止を行うことができます。
- スロー & ファストモーション記録モードやインターバル記録モード、フレーム記録モード、常時記録モードのときは、記録コマンドを出力しません。
- 次の場合、HDMI OUT端子にタイムコードは重畳されません。
 - メディアモードのとき
- フレームレートが23.98Pの場合、「HDMI出力形式」が「1280×720P」のときは、HDMI OUT端子に出力するタイムコードのフレームカウントは0～29となります。

出力レンジを選択する

SDI OUT端子やHDMI OUT端子から出力する映像のガンマがLogガンマまたはHDR（PQまたはHLG）のときは、映像の出力レンジを選択することができます。

適用される出力レンジ設定

カスタムピクチャー			適用されるレンジ設定
Gamma	Look File	Look File適用後の Gamma/Color Space	MENU >  モニタリング設定 > Range: SDIまたはRange: HDMI
Canon Log 3	切	—	Canon Log出力時
	入	Custom Picture準拠	
PQ	切	—	HDR出力時
	入	Custom Picture準拠	
HLG	切	—	
	入	Custom Picture準拠	

カスタムピクチャー			適用されるレンジ設定
Gamma	Look File	Look File適用後のGamma/Color Space	MENU >  モニタリング設定 > Range: SDIまたはRange: HDMI
BT.709 Wide DR	切	—	— (Narrow Range固定)
	入	Custom Picture準拠	
BT.709 Normal	切	—	
	入	Custom Picture準拠	
BT.709 Standard	切	—	
	入	Custom Picture準拠	
Canon 709	切	—	HDR出力時
	入	Custom Picture準拠	
—	入	SDR BT.709	
		SDR BT.2020	
		HDR PQ(BT.2100)	
		HDR HLG(BT.2100)	

SDI OUT端子のとき

- 1 MENU >  モニタリング設定 > 「Range: SDI」を選ぶ
- 2 「Canon Log 出力時」または「HDR出力時」> いずれかを選ぶ

Full Range : フルレンジで出力する。
Narrow Range : ナローレンジで出力する。

HDMI OUT端子のとき

- 3 MENU >  モニタリング設定 > 「Range: HDMI」を選ぶ
- 4 「Canon Log 出力時」または「HDR出力時」> いずれかを選ぶ

Full Range優先 : フルレンジで出力することを優先する。接続したモニターの能力によっては、レンジが自動で変更されて出力される。
Narrow Range : ナローレンジ（ビデオレンジ）で出力する。

MEMO

- カスタムピクチャーの「Gamma/Color Space」で設定しているガンマや選んだLookファイル適用後のGamma/Color Spaceによって設定が変わります。モニタリング設定でLUTが適用されているときは、出力のガンマによって設定が変わります。適用されているLUTがユーザー LUTのときはユーザー LUTの「Range (Output)」の設定と同じになります。
- 再生時は、再生するクリップを記録したときのガンマに応じて適用されるレンジ設定が決まります。
- 「ビューアシスト: HDMI」（ 146）が「入」のときは、「Range: HDMI」の設定は無効です。

出力映像に画面表示を重畳する

SDI OUT端子やHDMI OUT端子から出力される映像に画面表示を重畳することができます。また、重畳する画面表示の透過度を設定することもできます。なお、この設定は、カードに記録する映像には影響しません。

MENU >  モニタリング設定 > 「オンスクリーン表示: XXXXX」 > 「入」を選ぶ

- 画面に **DISP** が表示される*。
- * カメラモードでは、MENU >  モニタリング設定 > 「Custom Display2」> 「オンスクリーン表示」が「入」のときのみ。

MEMO

- 「オンスクリーン表示: XXXXX」を割り当てたアサインボタンで操作することもできます (📖 109)。

画面表示の透過度を設定する

重疊する画面表示の透過度を設定します。透過度を適用する画面を限定することもできます。

- 1 MENU >  モニタリング設定 > 「オンスクリーン透過: XXXXX」のいずれか > 「入」を選ぶ
- 2 MENU >  モニタリング設定 > 「オンスクリーン透過 不透過度」> いずれかを選ぶ
- 数値が小さくなるほど、画面が透明になる。
- 3 MENU >  モニタリング設定 > 「オンスクリーン透過 適用画面」> いずれかを選ぶ
- すべて: すべての画面にオンスクリーン透過を適用する。
- 撮影/再生画面のみ: 撮影/再生画面のみオンスクリーン透過を適用する。

MEMO

- 「**オンスクリーン透過: XXXXX**」を割り当てたアサインボタンを押して、各出力先のオンスクリーン透過を入／切することもできます (109)。

画面に表示する映像にLUT／ビューアシストを適用する

カスタムピクチャーで特定のガンマ／色空間を選択している場合、SDI OUT端子の出力映像にLUTを、画面やHDMI OUT端子の出力映像にビューアシストを適用できます。LUTを適用すると、標準的なガンマ／色空間に、ビューアシストを適用すると、BT.709 Wide DR相当のガンマ／BT.709相当の色空間に変換できます。LUT／ビューアシストの適用可否と使用可能なLUT／ビューアシストは、カスタムピクチャー（ 114）の「Gamma/Color Space」と「Look File」の設定によって決まります（これらの設定を変更するとLUT／ビューアシストは「切」になります）。

LUT

LUT一覧

LUT	ガンマ	色空間	内容
BT.709	BT.709 Wide DR	BT.709	BT.709規格に準拠した外部モニターで確認するためのLUT。
BT.2020	BT.709 Wide DR	BT.2020	BT.2020UHDTV（4K/8K）用に規定されたITU-R BT.2020規格に準拠した外部モニターで確認するためのLUT。
DCI	DCI	DCI-P3	DCI（Digital Cinema Initiatives）で規格化されている色空間とガンマに対応する外部モニターで確認するためのLUT。
PQ	PQ	BT.2020	HDR（High Dynamic Range）映像をITU-R BT.2100で定義されたPQ規格に準拠した外部モニターで確認するためのLUT。ナローレンジ（ビデオレンジ）で出力する。
HLG	Hybrid Log-Gamma	BT.2020	HDR（High Dynamic Range）映像をITU-R BT.2100で定義されたHLG規格に準拠した外部モニターで確認するためのLUT。ナローレンジ（ビデオレンジ）で出力する。
CMT 709	CMT 709	BT. 709	BT.709規格に準拠した外部モニターで確認するためのLUT。Log撮影時の広いダイナミックレンジをクリップせずに残した、シネマ制作に適したルック。
User LUT1～ User LUT4	登録したガンマ	BT.709、 BT.2020、 変換しない	登録したガンマと任意で設定した出力する色空間やレンジを画面で確認するためのLUT。

選択できるLUT

カスタムピクチャー		選択できるLUT						
Look File	Look File適用後の Gamma/Color Space	BT.709	BT.2020	DCI	PQ	HLG	CMT 709	User LUT1 ～User LUT4
切	—	A（下表参照）						
入	Custom Picture準拠							
	SDR BT.709	—	—	—	—	—	—	—
	SDR BT.2020	●	—	—	—	—	—	—
	HDR PQ(BT.2100)	●	—	—	—	—	—	—
	HDR HLG(BT.2100)	●	—	—	—	—	—	—

* 表中の「SDR」は、スタンダードダイナミックレンジのこと。

選択できるLUT（Aの場合）

カスタムピクチャー	選択できるLUT						
Gamma/Color Space	BT.709	BT.2020	DCI	PQ	HLG	CMT 709	User LUT1～ User LUT4
Canon Log 3 / C.Gamut	●	●	●	●	●	●	●
Canon Log 3 / BT.2020	●	●	—	●	●	—	●

カスタムピクチャー	選択できるLUT						
Gamma/Color Space	BT.709	BT.2020	DCI	PQ	HLG	CMT 709	User LUT1～ User LUT4
Canon Log 3 / BT.709	●	—	—	—	—	—	●
PQ / BT.2020	●	—	—	—	—	—	—
HLG / BT.2020	●	—	—	—	—	—	—
BT.709 Wide DR / BT.2020	●	—	—	—	—	—	—
BT.709 Wide DR / BT.709	—	—	—	—	—	—	—
BT.709 Normal / BT.2020	—	—	—	—	—	—	—
BT.709 Normal / BT.709	—	—	—	—	—	—	—
BT.709 Standard / BT.709	—	—	—	—	—	—	—
Canon 709 / BT.709	—	—	—	—	—	—	—

ビューアシスト

ビューアシスト一覧

ビューアシスト	ガンマ	色空間	内容
BT.709または入 (BT.709)* ¹	BT.709 Wide DR相当	BT.709相当	本機の画面で確認するためのビューアシスト。
CMT 709	CMT 709相当	BT.709相当	本機の画面で確認するためのビューアシスト。Log撮影時の広いダイナミックレンジをクリップせずに残した、シネマ制作に適したルック。
HDRアシスト(800%)* ²	独自ガンマ	BT.709相当	ITU-R BT.2100のHDR映像を画面で確認するためのビューアシスト。800%、400%のいずれかの輝度領域をリニアに変換する。
HDRアシスト(400%)* ²			

*¹ MENU > モニタリング設定 > 「ビューアシスト: HDMI」のみ選択可能。

*² MENU > モニタリング設定 > 「ビューアシスト: HDMI」を除く。

選択できるビューアシスト

カスタムピクチャー		選択できるビューアシスト			
Look File	Look File適用後の Gamma/Color Space	BT.709	CMT 709	HDRアシスト (800%)	HDRアシスト (400%)
切	—	B（下表参照）			
	Custom Picture準拠				
入	SDR BT.709	—	—	—	—
	SDR BT.2020	●	—	—	—
	HDR PQ (BT.2100)	●	—	—	●
	HDR HLG (BT.2100)	●	—	—	●

* 表中の「SDR」は、スタンダードダイナミックレンジのこと。

選択できるビューアシスト（Bの場合）

カスタムピクチャー	選択できるビューアシスト			
Gamma/Color Space	BT.709	CMT 709	HDRアシスト(800%)	HDRアシスト(400%)
Canon Log 3 / C. Gamut	●	●	●	●
Canon Log 3 / BT.2020	●	—	●	●

カスタムピクチャー Gamma/Color Space	選択できるビューアシスト			
	BT.709	CMT 709	HDRアシスト(800%)	HDRアシスト(400%)
Canon Log 3 / BT.709	●	—	—	—
PQ / BT.2020	●	—	—	●
HLG / BT.2020	●	—	—	●
BT.709 Wide DR / BT.2020	●	—	—	—
BT.709 Wide DR / BT.709 BT.709 Normal / BT.2020 BT.709 Normal / BT.709 BT.709 Standard / BT.709 Canon 709 / BT.709	—	—	—	—

LUTを適用する

1 MENU > モニタリング設定 > 「LUT: SDI」 > 「入」を選ぶ

- LUTが有効になり、出力映像のガンマと色空間が変更される。

2 MENU > モニタリング設定 > 「LUT選択: SDI」 > いずれかのLUTを選ぶ

- 選択できるLUTが1つのときは、適用するLUTが灰色で表示される。

MEMO

- 「LUT: SDI」を割り当てたアサインボタンを押して、LUTを入／切することもできます（ 109）。
- MENU >  アシスト設定 > 「フォルスカラー：LCD」を「入」にすると、LUTの効果が一時的に解除されます。

HLGの色味を設定する

LUTが「HLG」のとき、HLGの色味を設定できます。

MENU > モニタリング設定 > 「HLG Color」 > いずれかを選ぶ

BT.2100： ITU-R BT.2100相当

Vivid： ITU-R BT.2390記載の「Traditional Colour」相当

ユーザー LUTを使用する

Blackmagic Design DaVinci Resolveで作成したLUTファイルを本機に登録して、SDI OUT端子の映像に適用することができます（ユーザー LUT）。カスタムピクチャーのガンマがLogガンマのときに適用できます。出力する色空間やレンジを設定することもできます。ユーザー LUTはSDカードを使用して本機に読み込み、4種類まで登録できます。

ユーザー LUTを登録する

1 LUTファイル（.cube形式）が保存されているSDカードを本機のスロットBに入れる

2 MENU > モニタリング設定 > User LUT 1～4のいずれか > 「登録」を選ぶ

3 SDカード内のLUTファイルを選ぶ

4 出力する色空間（Color Space (Output)）を選ぶ

- 変換しないときは「変換しない」を選ぶ。

5 出力するレンジ（Range (Output)）を選ぶ

6 「OK」を2回選ぶ。

- 選択したLUTファイルが本機に登録される。

ユーザー LUTを適用する

1 MENU > モニタリング設定 > 「LUT: SDI」> 「入」を選ぶ

2 MENU > モニタリング設定 > 「LUT選択: SDI」> いずれかを選ぶ

- User LUT 1～4は、ユーザー LUTに登録しているときのみ表示される。
- ユーザー LUTの名称には、最後に★が付く。

ユーザー LUTを消去する

1 MENU > モニタリング設定 > User LUT 1～4から消去するユーザー LUTを選ぶ

2 「消去」を選ぶ

3 「OK」を選ぶ

- 選んだユーザー LUTが、消去される。

ユーザー LUTをすべて消去する

1 MENU > モニタリング設定 > 「User LUT 設定初期化」を選ぶ

2 「OK」を2回選ぶ

- 登録したすべてのユーザー LUTが消去される。

ユーザー LUTの名前を変更する

1 MENU > モニタリング設定 > User LUT 1～4から名前を変更するユーザー LUTを選ぶ

2 「名称変更」を選ぶ

3 8文字以内の英数字・記号で名前を入力する（ 22）

ユーザー LUTの情報を表示する

MENU > モニタリング設定 > 「User LUT 情報表示」> 情報を表示するユーザー LUTを選ぶ

MEMO

LUTファイルについて

- Blackmagic Design社のDaVinci Resolveで作成した17グリッドまたは33グリッドのLUTファイル（3D LUT／.cube形式）を使用できる。
- ヘッダー部の「LUT_3D_INPUT_RANGE」に、0～1以外の入力レンジを定義しているLUTファイルは使用できない。
- データ部に、0～1以外の値が含まれるLUTファイルは使用できない。
- ファイルサイズが2MB以上、またはファイル名が65文字（拡張子を含む）以上のLUTファイルは使用できない。
- ファイル名に使用可能な文字：0～9、a～z、A～Z、「_」（アンダーバー）、「-」（ハイフン）、「.」（ドット）、「」（半角スペース）
- LUTファイルは、SDカードの直下（ルートディレクトリ）に保存してください。
- 出力色空間（Color Space (Output)）が正しく選択されていないと、正しく出力されません。
- ユーザー LUTは、登録済みのものに上書きして登録することはできません。一度消去してから登録してください。

ビューアシストを適用する

1 MENU > モニタリング設定 > 「ビューアシスト: XXXXX」 > 「入」を選ぶ

- ビューアシストが有効になり、出力映像のガンマと色空間が変更される。
- 映像の出力レンジはナローレンジ（ビデオレンジ）になる。
- ダイレクトタッチコントロールで操作することもできる（ 45）。

2 MENU > モニタリング設定 > 「ビューアシスト選択: XXXXX」 > いずれかを選ぶ

- 選択できるビューアシストが1つのときは、適用するビューアシストが灰色で表示される。

MEMO

- 「ビューアシスト: HDMI」を「入」にすると、MENU >  モニタリング設定 > 「Range: HDMI」の設定は無効になります。
- 本機能で変換した映像の色は目安です。また、「BT.709」を選択した場合、カスタムピクチャー（ 118）のガンマ／色空間で「BT.709 Wide DR/BT.709」を選んだときの色と異なります。
- 低輝度／高輝度部分の色が異なる場合があります。

HDR映像をSDR映像に変換するときのゲインの差を調整する

次の場合にHDRに対するSDRのゲインの差を ± 7.5 dB（0.5 dB刻み）の範囲で調整できます。

- メイン動画がHDR*で、出力にLUTまたはビューアシストを適用してBT.709にするとき。
- メイン動画がHDR*でプロキシ動画の「Proxy記録色変換」が「BT.709 (Wide DR)」／「BT.709 (CMT 709)」のとき。

* カスタムピクチャーの「Gamma/Color Space」が「PQ / BT.2020」／「HLG / BT.2020」のとき、またはLookファイルが有効でLookファイル適用後のGamma/Color Spaceが「HDR PQ (BT.2100)」／「HDR HLG (BT.2100)」のとき。

MENU > モニタリング設定 > 「HDR→SDRゲイン」 > いずれかを選ぶ

音声の出力チャンネルを選択する

SDI OUT端子やHDMI OUT端子、（ヘッドホン）端子、スピーカーから音声を出力できます。記録メディアに記録した4チャンネルの音声のうち、（ヘッドホン）端子やHDMI OUT端子から出力される2チャンネルの音声はメニューで選択します。

音声の出力信号形式

記録信号形式		撮影／再生時		
記録方式	量子化ビット数	SDI OUT端子	HDMI OUT端子	ヘッドホン端子
4ch リニアPCM	24 bit、16 bit	4ch リニアPCM 24bit	2ch リニアPCM 16bit	2ch
2ch AAC	16 bit			

（ヘッドホン）端子の出力チャンネルを選ぶ

MENU >  オーディオ設定 > 「モニターチャンネル」 > 出力音声（L/R）の組み合わせを選ぶ

- 「CH1+2」はCH1とCH2のミックスした信号であることを示す。「CH1+3」、「CH3+4」なども同様。

HDMI OUT端子の出力チャンネルを選ぶ

HDMI OUT端子は2チャンネルの音声を出力できます。4チャンネルで記録／再生する音声のうち、HDMI OUT端子から出力するチャンネルをメニューで選択できます。

MENU >  オーディオ設定 > 「HDMIチャンネル」 > 「CH1/CH2」または「CH3/CH4」のいずれかを選ぶ

撮影データを保存する

撮影データをパソコンやスマートフォンに保存することができます。

撮影データをパソコンに保存する

XF-AVCクリップなどの撮影データをパソコンに保存するときはCanon XF Utilityを、XF-AVCクリップをノンリニア編集ソフトウェアに読み込むときはCanon XF Plugin*¹を使用します。これらのソフトウェアは、キャノンのホームページからダウンロードしてインストールします。ソフトウェアの動作環境および最新の情報については、キャノンのホームページをご覧ください。ソフトウェアのインストールについては、ダウンロードしたソフトウェアの圧縮ファイルに含まれるPDFファイルをご覧ください。ソフトウェアの使いかたの詳細については、ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）*²をご覧ください。

*¹ Avid社のノンリニア編集ソフトウェア用のプラグインです。

*² ソフトウェアと一緒にインストールされます。

Canon XF Utility（Windows用／macOS用）

パソコンへの保存、クリップの確認・再生・管理、静止画の切り出しを行うソフトウェア

Canon XF Plugin for Avid Media Access（Windows用／macOS用）

Avid Media Accessに対応したノンリニア編集ソフトウェアAvid Media Composer（Windows / macOS）から、カード内またはパソコンに保存したクリップを直接読み込むことができる。

MP4クリップをパソコンに保存する

本機でカードに記録したMP4クリップは、パソコンまたはパソコンに接続したカードリーダー／ライターのスロットを使って、パソコンに取り込みます。カード内のファイルの取り込み方については、パソコンまたはOSの説明書をご覧ください。

また、本機で分割して記録されたMP4クリップは、ソフトウェアMP4 Join Toolを使って結合することができます。

クリップをパソコンに取り込む

- 1 MP4クリップが記録されたカードを、パソコンまたはパソコンに接続したカードリーダー／ライターに入れる
- 2 パソコンのOSの案内に従って操作する
- 3 カード内の撮影データをパソコンにコピーする

- 「DCIM¥100_mmdd」* という名称のフォルダーに撮影データ（MP4クリップ、静止画）が保存されている。

- * 「100」は100～999の番号、「mmdd」は撮影した月日を表わす。

分割されたMP4クリップを結合する

チャンク記録のときや、クリップ内の映像ファイル（ストリーム）が約4GBに達したり、リレー記録が発生したりすると、クリップが分割して記録されます。分割して記録されたMP4クリップは、ソフトウェアMP4 Join Tool（Windows / macOS）を使って結合することができます。MP4 Join Toolは、キャノンのホームページからダウンロードしてインストールします。ソフトウェアの動作環境および最新の情報については、キャノンのホームページをご覧ください。ソフトウェアのインストールについては、ダウンロードしたソフトウェアの圧縮ファイルに含まれるPDFファイルをご覧ください。ソフトウェアの使いかたの詳細については、ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）*をご覧ください。

* ソフトウェアと一緒にインストールされます。

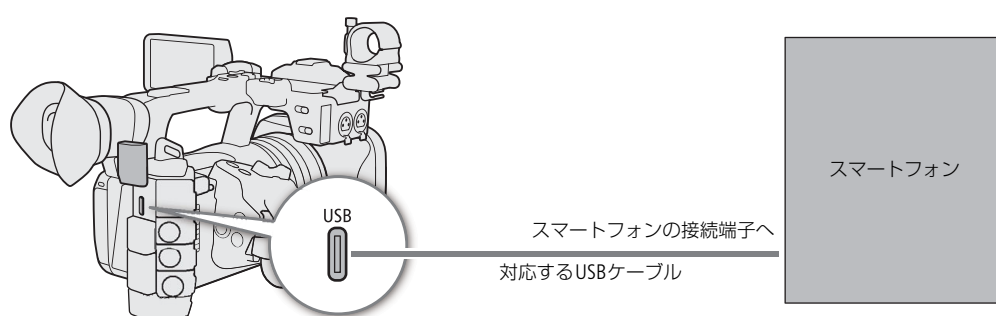
WAVファイルをパソコンに保存する

音声ファイルは、MP4クリップと同じ要領でパソコンに保存できます。カード内の音声ファイルの格納フォルダー（/PRIVATE/AUDIO）からパソコンにコピーしてください。

撮影データをスマートフォンに保存する

本機で撮影したMP4クリップやプロキシクリップ、News Metadataをスマートフォンに保存できます。保存には、Content Transfer Mobileが必要です。本機とスマートフォンは、対応するUSBケーブル*で接続するか、ネットワーク機能を使用して接続します。ネットワーク機能を使用して接続するときは、「撮影データをスマートフォンに転送する」（□ 178）をご覧ください。

* 対応するUSBケーブルについては、キヤノンのホームページをご覧ください。



- 1 MENU > 設定 > 「USB (Type-C)モード」> 「iPhone Canonアプリ」を選ぶ
- 2 本機とスマートフォンを対応するUSBケーブルで接続する
- 3 スマートフォン：Content Transfer Mobileを起動する
- 4 スマートフォン：Content Transfer Mobileを操作して撮影データを保存する
- 5 接続を終了するときは、本機からUSBケーブルを抜く

MEMO

- チャンク記録のクリップはスマートフォンに保存できません。

撮影データをFTPサーバーに自動で転送する

Content Transfer Mobileを使うと、MP4形式のプロキシクリップやチャンク記録のクリップをFTPサーバーに自動転送できます。事前に、スマートフォンにContent Transfer Mobileをインストールします（□ 178）。

1 本機とスマートフォンを接続する

USBケーブルで接続時： 「撮影データをスマートフォンに保存する」（□ 149）の操作1～3を行う
 ネットワーク機能で接続時： 「撮影データをスマートフォンに転送する」（□ 178）の操作2～6を行う

2 スマートフォン：Content Transfer Mobileで転送先のFTPサーバーを指定し、撮影自動転送機能を有効にする

3 プロキシ動画記録（□ 50）またはチャンク記録（□ 51）を有効にし、RECボタンを押して記録を開始する

- クリップが記録されるたびに自動で転送される。

4 接続を終了する

USBケーブルで接続時： 「撮影データをスマートフォンに保存する」(149) の操作5を行う

ネットワーク機能で接続時： 「撮影データをスマートフォンに転送する」(178) の操作8を行う

ネットワーク機能と接続方式

Wi-Fiまたは品（イーサネット）端子を使って、本機をネットワークに接続すると、下表のネットワーク機能が使用できます。

機能名	概要	イーサネット	Wi-Fi		📖
			インフラストラクチャー ^{*1}	カメラアクセスポイント ^{*2}	
FTP転送	撮影したクリップをネットワーク機器にFTP ^{*3} で転送する。	●	●	●	168
IPストリーミング	ネットワーク経由で、映像と音声を映像伝送装置（デコーダー）にストリーミング送信する。	●	●	—	169
ブラウザーリモート	ネットワーク機器から本機をリモートで操作して撮影する。	●	●	●	170
Canonアプリ	撮影したクリップや音声ファイルをスマートフォンに転送したり、Content Transfer Mobileで作成／編集したNews Metadataを本機に反映したりする。	—	●	—	178
XCプロトコル	IP接続により、XCプロトコル対応コントローラー／アプリで本機をリモート操作して撮影する。	●	●	●	175

^{*1} アクセスポイントを介してWi-Fiに接続する通信方式。

^{*2} 本機がアクセスポイントの働きをして、Wi-Fi機器と直接接続する方式。

^{*3} ネットワークに接続した機器間でファイルを転送するための通信規約。File Transfer Protocolの略。

ネットワーク機能を使用する前に

本書は、ネットワーク機器およびWi-Fiのアクセスポイントの設定が完了し、正しく動作していることを前提に説明しています。アクセスポイントの設定方法については、お使いの機器のメーカーにお問い合わせください。

- ネットワークの接続の設定を行うには、ネットワーク（イーサネットおよびWi-Fi）の設定方法に関する十分な知識が必要です。ネットワークの設定方法については、弊社ではサポートできませんので、あらかじめご了承ください。

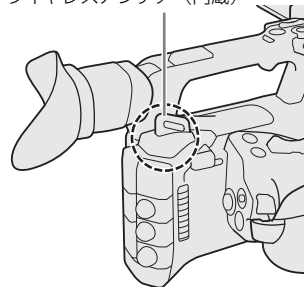
ご注意

- ネットワーク機能を使用するためにネットワークに対して誤った設定を行った結果生じた損害、および本ネットワーク機能を使用した結果生じた損害については、弊社ではその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- セキュリティーで保護されていないWi-Fiやネットワーク環境に接続することは避けてください。お客様の個人情報などのデータが第三者に漏洩する危険性があります。

MEMO

- ネットワーク機能を使用中は、メモリーカードカバーを開けないでください。
- SDI OUT端子やHDMI OUT端子、INPUT端子、MIC端子、USB端子に接続したケーブルを、内蔵ワイヤレスアンテナの近くに配置しないでください。通信や記録する音声に影響することがあります。

ワイヤレスアンテナ（内蔵）



Wi-Fiで接続するとき

Wi-Fiの接続方式

Wi-Fiに接続するには、「カメラアクセスポイント」と「インフラストラクチャー」の2つの方式があり、インフラストラクチャー方式のときは、さらに4つの設定方法を選択できます。

Wi-Fiへの接続方法については、お使いのWi-Fiネットワーク環境によって仕様や制限事項が異なります。

カメラアクセスポイント

屋外などアクセスポイントのない環境で、カメラとWi-Fi対応機器を直接接続します。カメラがアクセスポイントの働き^{*1}をするので、Wi-Fi対応機器側はアクセスポイントに接続するのと同じ操作で接続できます。

インフラストラクチャー

WPS(プッシュボタン方式)^{*2}：

パスワードなどの入力が必要な最も簡単な設定方法です。この方法で接続するときには、お使いのアクセスポイントがWPS用のボタンを備えていることを、あらかじめご確認ください。

WPS(PIN方式)^{*2}：

WPS用のボタンを備えていないアクセスポイントでも、PINコードを使って設定できるものがあります。接続は自動的に行われますが、アクセスポイントの設定画面を操作して、WPS機能を動作させるための一定の知識が必要です。詳しくはアクセスポイントの説明書をご覧ください。



アクセスポイント検索：

WPSに対応していないアクセスポイントやデザリング（インターネット共有）を有効にしたスマートフォンに接続するときなどに、周囲のアクセスポイントを検索して設定できます。

SSIDと認証方式を入力：

アクセスポイントのSSIDなどを手動で入力してネットワーク設定を行います。

^{*1} カメラとWi-Fi対応機器間の通信を行うのみで、市販のアクセスポイントの機能とは異なります。

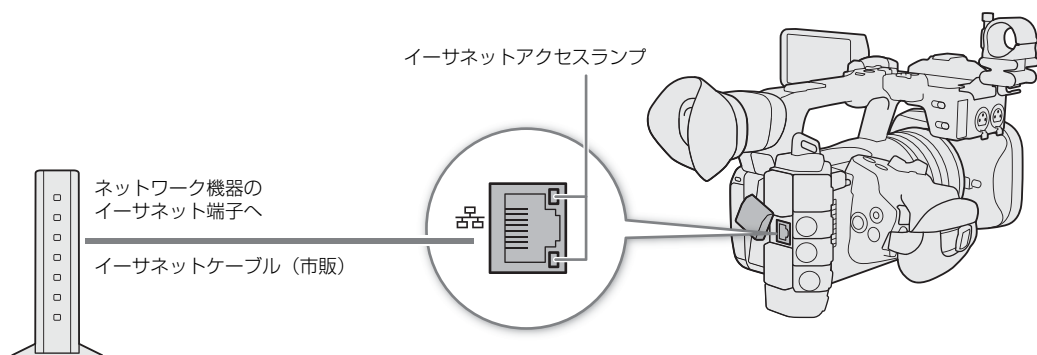
^{*2} WPSは、Wi-Fi Protected Setupの略で、アクセスポイントへの接続とセキュリティの設定を簡単に行うための規格です。

ご注意

- IEEE 802.11b/g/a/n/acの電波を使用する場合、地域によっては屋外やカメラアクセスポイントでの使用に法律上の制限が定められていることがあります。使用可能地域をご確認ください。使用可能地域については、クイックガイドの取り扱い上のご注意「使用可能な地域について」の記載をご覧ください。

イーサネット接続するとき

本機の品（イーサネット）端子とイーサネットケーブル（市販）を使って、ネットワークに接続できます。イーサネットケーブルには、ギガビット対応でシールド性能の高い、カテゴリ 5e以上のSTP（Shielded Twisted Pair）ケーブルを使用してください。イーサネットアダプター／イーサネットケーブルの詳細については、メーカーの説明書をご覧ください。

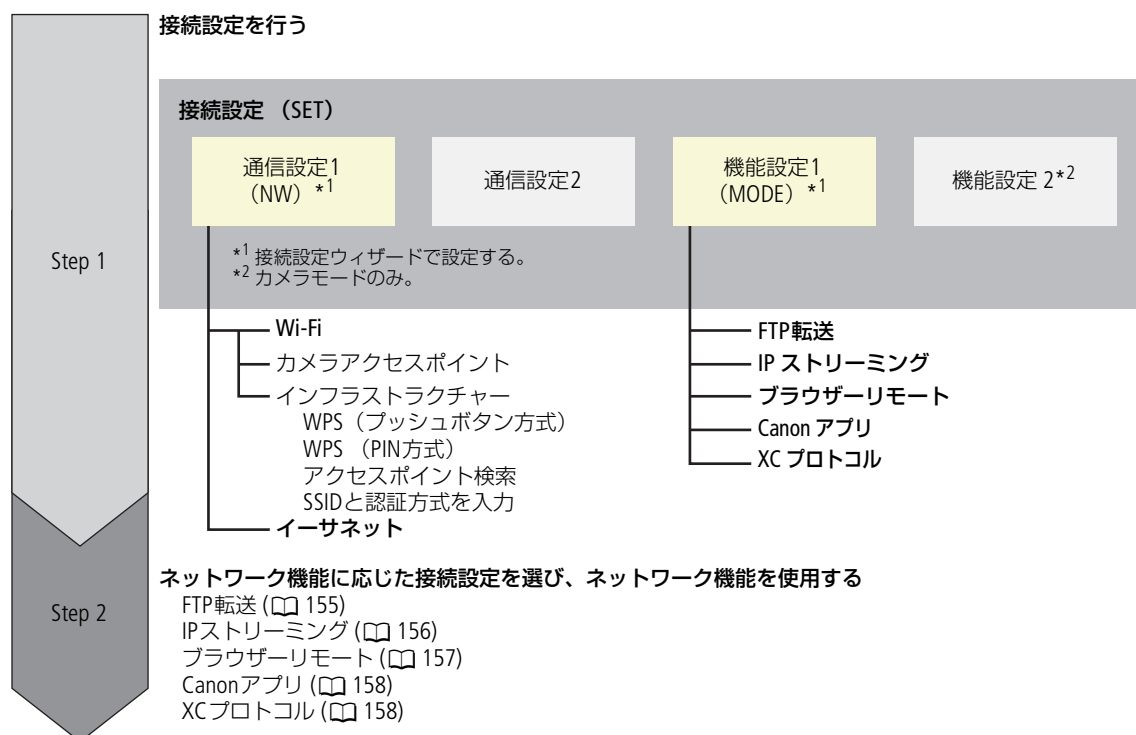


ネットワークの接続設定を行う

ネットワークに接続するには、はじめに、「通信設定」(NW)と「機能設定」(MODE)とで構成される「接続設定」(SET)を作成する必要があります。通信設定と機能設定はそれぞれ25個まで保存でき、それらを組み合わせた接続設定は20個まで保存できます (SET1～SET20) *。

接続設定は、接続設定ウィザードを使って作成できます (□ 155)。ウィザードを使うと、通信設定と機能設定を1つずつ組み合わせた接続設定が作成できます。複数の接続設定を作成した後で、2つ目の通信設定／機能設定を追加したり、既存の通信設定／機能設定を組み合わせて新しい接続設定を作ったりすることができます (□ 162)。接続設定内にIPストリーミングの機能設定とブラウザーリモートの機能設定を登録すると、両機能を同時に使用することができます。

* 1つの接続設定には、通信設定と機能設定をそれぞれ2つまで登録可能。



ネットワークを有効にする

ネットワーク機能を使用するときや、オンラインで接続設定を行うときは、ネットワークへの接続を有効にします。

1 MENU > ネットワーク設定 > 「ネットワーク」 > 「有効」を選ぶ

2 既存の接続設定を使うときは、MENU > ネットワーク設定 > 「接続」 > 「SET1」～「SET20」のいずれか > 「OK」を選ぶ

- ネットワーク接続を終了するときは、「接続」の代わりに「通信切」を選ぶ。

ウィザードで新規に接続設定を行う

接続設定ウィザードを使用して、新規に接続設定を行うことができます。ここでは、WPSプッシュボタン方式でWi-Fiに接続する場合を例に説明します。アクセスポイントのWPS用ボタンの位置と操作方法などアクセスポイントの操作／設定については、アクセスポイントの説明書をご覧ください。

- 1 ネットワークを有効にする (□ 154)
- 2 MENU >  ネットワーク設定 > 「新規接続設定 (ウィザード)」 > 使用するネットワーク機能のいずれか > 「OK」を選ぶ
- 3 「通信設定を新規作成」を選ぶ
 - 既に通信設定が登録されている場合、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの通信設定を使用できる。
- 4 「Wi-Fi 」を選ぶ
イーサネットに接続するとき (□ 159)
- 5 「WPS機能で接続」 > 「WPS(プッシュボタン方式)」を選ぶ
 - 他の方法で接続するときは、いずれかの設定を行う。
 - カメラアクセスポイントで接続する (□ 159)
 - WPS (PIN方式) で接続する (□ 160)
 - 検出したアクセスポイントに接続する (□ 160)
 - SSIDと認証方式を入力して接続する (□ 160)
 - オフラインで設定する (□ 161)
- 6 アクセスポイントのWPS用ボタンを長押ししてWPSを起動する > 本機の「OK」を選ぶ
- 7 IPアドレス (IPv4) を自動的に設定するときは、「自動設定」 > 「使わない」を選ぶ
手動で設定するとき (□ 161)
TCP/IPv6を使用するときは「使う」を選び、ウィザード終了後に設定を行う (□ 164)。
- 8 「OK」を選ぶ
 - 通信設定が「NW」に保存される。
 - 以降は、操作2で選んだネットワーク機能に応じて機能設定を行う。
 - 「FTP転送の設定をする」 (□ 155)
 - 「IPストリーミングの設定をする」 (□ 156)
 - 「ブラウザーリモートの設定をする」 (□ 157)
 - 「Canonアプリの設定をする (スマートフォンとの接続)」 (□ 158)
 - 「XCプロトコルの設定をする」 (□ 158)

MEMO

周囲の環境や使用している機器によっては、WPS (プッシュボタン方式) でうまく接続できないことがあります。このときは、WPS (PIN方式) など他の接続方法で接続してください。

機能設定を行う

新規接続設定ウィザードの通信設定に続き、この節では機能設定を行います。機能設定は、各ネットワーク機能特有の項目について設定します。設定画面で文字を入力するときは、「文字入力のしかた」 (□ 22) をご覧ください。

FTP転送の設定をする

FTPサーバーの設定や転送先フォルダーに関する設定を行います。FTPサーバーについては、必要に応じてネットワーク管理者にお問い合わせください。

- 1 「機能設定を新規作成」を選ぶ
 - 以前行ったFTP転送に関する機能設定が登録されているときは、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの機能設定を使用できる。

2 FTPモードを選ぶ

FTP：通信データが暗号化されない方式。

FTPS：ルート証明書（□□ 161）を使用してFTP転送のセキュリティを行うとき。

SFTP：SSHを使用してFTP転送のセキュリティを行うとき。

3 転送先FTPサーバーの設定として、「サーバー」と「ポート番号」を入力＞「OK」を選ぶ

- FTPサーバーのIPアドレスまたはホスト名と、ポート番号を入力する。
- ポート番号は、通常、21（FTP／FTPS）または22（SFTP）を使う。
- 以降は、操作2のFTPモードの選択に応じて、操作4または操作4～5を行ったあと、操作6に進む。

SFTP

4 SSHプロトコル認証のための「ユーザー名」と「パスワード」を入力＞「OK」を選ぶ

FTP／FTPS

4 パッシブモードを使う（「使う」）か、アクティブモードを使う（「使わない」）かを選ぶ

- 通常は、アクティブモードを使う。

5 FTPサーバーの「ユーザー名」と「パスワード」を入力＞「OK」を選ぶ

全FTPモード

6 転送先フォルダーを設定する

ルート：FTPサーバーで設定したルートフォルダーに保存される。

フォルダー指定：ルートフォルダーにある保存先フォルダーを指定できる。フォルダーがないときは、自動作成される。

7「OK」を選ぶ

- 機能設定が「MODE」に保存される。

8 接続設定の保存先（「SET1」～「SET20」）を選ぶ

9「OK」を選ぶ

- 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
「クリップをFTPで転送する」（□□ 168）

IPストリーミングの設定をする

送信する映像のビットレートや解像度、プロトコルなど、ストリーミング送信に必要な設定を行います。デコーダーまたはパソコンの受信用ソフトウェアの詳細については、それぞれの説明書などをご覧ください。

1「機能設定を新規作成」を選ぶ

- 以前行ったIPストリーミングに関する機能設定が登録されているときは、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの機能設定を使用できる。

2 プロトコルを選ぶ

UDP：高速な伝送を重視し、信頼性／順序性を保証しない。喪失／遅延パケットは無視する。

RTP：動画／音声のインターネット配信の標準的な方式。喪失／遅延パケットは無視する。

RTP+FEC：RTPによる伝送に、エラー訂正（FEC）*の制御を行うことにより、受信側で喪失／破損パケットをリカバリーする。

* FECによるエラー訂正制御に対応するデコーダーまたはパソコン用ソフトウェアが必要。

RTSP+RTP：RTSP（リアルタイム・ストリーミング・プロトコル）によるリアルタイムデータの配信制御を行って、RTPによる伝送を行う。受信側からストリーミングの開始／停止が制御可能。

SRT：喪失／遅延パケットの発生を抑えて高速な伝送を行う方式。送信するデータの暗号化が可能。

- 以降は、選んだプロトコルに応じて操作3～6を行ったあと、操作7に進む。

RTP+FEC

3 送信先の設定として、「送信先サーバー」と「送信先ポート番号」を入力＞「OK」を選ぶ

- ポート番号は、通常は初期設定を使用する。
- 4 FECパケットの送信に使用する設定として、「FECポート番号」と「FECインターバル」を入力>「OK」を選ぶ
- 通常は初期設定を使用する。
 - 操作7に進む。

RTSP+RTP

- 3 送信先の設定として、「送信先サーバー」と「送信先ポート番号」を入力>「OK」を選ぶ
- ポート番号は、通常は初期設定を使用する。
- 4 RTSPクライアント設定として、「RTSP：ユーザー名」と「RTSP：パスワード」を入力>「OK」を選ぶ
- 操作7に進む。

SRT

- 3 接続モードを選ぶ
- Caller： カメラからデコーダーまたはパソコンに接続する。
Listener： デコーダーまたはパソコンからの接続を待ち受ける。
- 4 「Caller」を選んだときは、「送信先サーバー」、「送信先ポート番号」と「ストリームID」を入力>「OK」を選ぶ
- ポート番号は、通常は初期設定を使用する。
- 5 「Listener」を選んだときは、「待ち受けポート番号」を入力>「OK」を選ぶ
- デコーダーまたはパソコンのポート番号を入力する。
- 6 「暗号化の設定」を選び、「パズフレーズ」と「レイテンシー」を入力>「OK」を選ぶ

全プロトコル

- 7 出力信号形式を選ぶ
- 8 オーディオ出力チャンネルを選ぶ
- 9 解像度やフレームによっては、設定を変更する画面が表示されるので設定を変更する
- 10 「OK」を選ぶ
- 機能設定が「MODE」に保存される。
- 11 接続設定の保存先（「SET1」～「SET20」）を選ぶ
- 12 「OK」を選ぶ
- 13 受信側のデコーダーまたはパソコンの設定をする
- 受信側のデコーダーまたはパソコンをネットワークに接続し、必要な設定を行う。
 - 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
「映像をストリーミングで送信する」（[169](#)）

ブラウザーリモートの設定をする

ネットワークに接続した機器に接続するためのユーザー名とパスワードを設定します。

- 1 「機能設定を新規作成」を選ぶ
- 以前行ったブラウザーリモートに関する機能設定が登録されているときは、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの機能設定を使用できる。
- 2 ユーザー名とパスワードを設定する
- 3 「OK」を2回選ぶ
- 機能設定が「MODE」に保存される。
- 4 接続設定の保存先（「SET1」～「SET20」）を選ぶ

5 「OK」を選ぶ

- 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
「ネットワーク機器でリモート撮影をする（ブラウザーリモート）」（□ 170）

Canonアプリの設定をする（スマートフォンとの接続）

本機とネットワークに接続したスマートフォンとの接続に必要な設定を行います。スマートフォンは、あらかじめ本機と同じネットワークに接続してください。

本機とスマートフォンの接続には、Content Transfer Mobileが必要です。Content Transfer Mobileのダウンロードについては、「撮影データをスマートフォンに転送する」（□ 178）をご覧ください。スマートフォンの詳細については、スマートフォンの説明書をご覧ください。

1 「機能設定を新規作成」を選ぶ

- 以前行ったCanonアプリに関する機能設定が登録されているときは、「既存の設定から選択」を選ぶと、登録済みの機能設定を使用できる。

2 「OK」を選ぶ

3 画面の指示に従って、Content Transfer Mobileを起動する

4 スマートフォン：画面の指示に従って、本機を選ぶ

- 本機とスマートフォンが同じネットワークに接続していると、自動的に本機が検出される。

5 「OK」を選ぶ

- 本機とスマートフォンの接続が完了する。
- 機能設定が「MODE」に保存される。

6 接続設定の保存先（「SET1」～「SET20」）を選ぶ

7 「OK」を選ぶ

- 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
「撮影データをスマートフォンに転送する」（□ 178）

XCプロトコルの設定をする

ネットワークに接続したXCプロトコル対応機器に接続するためのユーザー名とパスワードを設定します。

1 「機能設定を新規作成」を選ぶ

2 XCプロトコル（HTTP）サーバーで使用する認証方式を設定する

- 「Basic認証」または「Digest認証」を選んだときは、ユーザー名とパスワードを設定する。
ユーザー名： 5～15文字以内の半角英数字・記号で設定する。
パスワード： 8～32文字以内の半角英数字・記号で設定する。英数字・記号から2種以上を使用する。

3 「OK」を選ぶ

- 機能設定が「MODE」に保存される。

4 「SET1」～「SET20」から接続設定の保存先を選ぶ > 「OK」を選ぶ

- 接続したあとは機能のページを参照して操作を行う。
「XCプロトコル対応コントローラー／アプリでリモート撮影する」（□ 175）

その他の接続方法で通信設定を行う

ここでは、WPS（プッシュボタン方式）以外の接続方法による、通信設定について説明します。設定画面で文字を入力するときは、「文字入力のしかた」（□ 22）をご覧ください。

イーサネット接続する

- 1 「ネットワークの種類」画面で「イーサネット品」を選ぶ
- 2 イーサネットケーブルが正しく接続されるのを確認して、「ネットワークに接続して設定」を選ぶ
 - ネットワークに接続しないで設定を行うときは、「ネットワークに接続せずに設定」を選ぶ。
- 3 IPアドレスを設定する（□□ 161）
- 4 「OK」を選ぶ
 - 通信設定が「NW」に保存される。
 - 以降の操作は各機能設定へ進む。
 「FTP転送の設定をする」（□□ 155）
 「IPストリーミングの設定をする」（□□ 156）
 「ブラウザーリモートの設定をする」（□□ 157）
 「XCプロトコルの設定をする」（□□ 158）

カメラアクセスポイントで接続する

カメラアクセスポイントで接続します。ネットワーク設定は自動（「簡単接続」）と手動で選べます。

- 1 「ネットワークを選択」画面で「カメラアクセスポイントモード」を選ぶ
- 2 カメラアクセスポイントモードを選ぶ
 - ネットワーク設定を自動で行うときは「簡単接続」を、手動で行うときは「手動接続」を選ぶ。
 - 以降は、操作2のカメラアクセスポイントモードの選択に応じて、操作3または操作3～6を行ったあと、操作7に進む。

「簡単接続」

- 3 画面に表示されるSSIDとパスワードを確認して、「OK」を選ぶ
 - 表示される情報は、ネットワーク機器からカメラに接続するときに必要な。
 - 画面に表示された「QR」をタッチして、QRコードを表示することもできる。
 - 画面の「QR」をタッチして表示されるQRコードをネットワーク機器で読み取り、カメラと接続することもできる。

「手動接続」

- 3 SSIDを入力する > 「OK」を選ぶ
- 4 チャンネル設定を選ぶ
 - 手動で設定するときは「手動設定」を選んでチャンネルを選ぶ。
- 5 暗号化の設定を選ぶ
 - 暗号化するときは「AES」を選ぶ。「AES」を選んだときは、パスワード画面が表示されるので、パスワードを入力して「OK」を選ぶ。
- 6 IPアドレスを設定する（□□ 161）

全カメラアクセスポイントモード

- 7 「OK」を選ぶ
 - 通信設定が「NW」に保存される。
 - 以降の操作は各機能設定の操作2に進む。
 「FTP転送の設定をする」（□□ 155）
 「ブラウザーリモートの設定をする」（□□ 157）
 「XCプロトコルの設定をする」（□□ 158）
- 8 接続する機器を操作してカメラに接続する
 - 接続する機器のWi-FiをONにして、カメラに表示されているSSID（ネットワーク名）を選ぶ。
 - パスワード入力欄に操作5で設定したパスワードを入力する。

WPS（PIN方式）で接続する

WPS（PIN方式）でアクセスポイントに接続します。アクセスポイントの設定操作については、アクセスポイントの説明書をご覧ください。

- 1 「ネットワークを選択」画面で「WPS機能で接続」>「WPS(PIN方式)」を選ぶ
 - 画面にPINコード（8桁の数字）が表示される。
- 2 アクセスポイントのWPS（PINコード方式）の設定画面で、PINコードを入力してWPSを起動する
- 3 「OK」を選ぶ
- 4 IPアドレスを設定する（[161](#)）
- 5 「OK」を選ぶ
 - 通信設定が「NW」に保存される。
 - 以降の操作は各機能設定に進む。
 - 「FTP転送の設定をする」（[155](#)）
 - 「IPストリーミングの設定をする」（[156](#)）
 - 「ブラウザーリモートの設定をする」（[157](#)）
 - 「Canonアプリの設定をする（スマートフォンとの接続）」（[158](#)）
 - 「XCプロトコルの設定をする」（[158](#)）

検出したアクセスポイントに接続する

カメラが周囲のアクセスポイントを自動的に検出します。検出されたアクセスポイントの一覧から接続するアクセスポイントを選んで接続します。スマートフォンをアクセスポイントとして検出したいときは、あらかじめテザリング（インターネット共有）を有効にしてください。アクセスポイントのSSIDとパスワードについては、アクセスポイントの説明書またはネットワーク管理者にお問い合わせください。

- 1 「ネットワークを選択」画面でアクセスポイントを選ぶ
 - 暗号化されているアクセスポイントを選んだときは、パスワードを入力して「OK」を選ぶ。
- 2 IPアドレスを設定する（[161](#)）
- 3 「OK」を選ぶ
 - 通信設定が「NW」に保存される。
 - 以降の操作は各機能設定に進む。
 - 「FTP転送の設定をする」（[155](#)）
 - 「IPストリーミングの設定をする」（[156](#)）
 - 「ブラウザーリモートの設定をする」（[157](#)）
 - 「Canonアプリの設定をする（スマートフォンとの接続）」（[158](#)）
 - 「XCプロトコルの設定をする」（[158](#)）

SSIDと認証方式を入力する

アクセスポイントのSSIDなどを手動で入力してネットワーク設定を行います。アクセスポイントのSSIDとパスワードについては、アクセスポイントの説明書またはネットワーク管理者にお問い合わせください。

- 1 「ネットワークを選択」画面で「SSIDと認証方式を入力」を選ぶ
- 2 SSIDを入力する > 「OK」を選ぶ
- 3 いずれかの認証方式を選ぶ
 - 「オープン」を選ぶと「暗号化の設定」画面が表示されるので「しない」または「WEP」を選ぶ。
 - 「共有キー」または「オープン」>「WEP」を選んだときは、キーインデックスを選ぶ。
- 4 パスワードを入力 > 「OK」を選ぶ
- 5 IPアドレスを設定する（[161](#)）

6 「OK」を選ぶ

- 通信設定が「NW」に保存される。
- 以降の操作は各機能設定に進む。
「FTP転送の設定をする」(□ 155)
「IPストリーミングの設定をする」(□ 156)
「ブラウザーリモートの設定をする」(□ 157)
「Canonアプリの設定をする（スマートフォンとの接続）」(□ 158)
「XCプロトコルの設定をする」(□ 158)

オフラインで設定する

ネットワークに接続せずにオフラインで設定します。

1 「ネットワークを選択」画面で「オフラインで設定」を選ぶ

2 「インフラストラクチャー」または「カメラアクセスポイントモード」を選ぶ

- インフラストラクチャーを選んだとき：「SSIDと認証方式を入力する」(□ 160)
カメラアクセスポイントモードを選んだとき：「カメラアクセスポイントで接続する」(□ 159)

IPアドレスを設定する

IPアドレスを設定します。表示される項目は選んだ機能によって異なります。

1 IPアドレスの設定方法を、「自動設定」または「手動設定」から選ぶ

- 新規接続設定（ウィザード）で設定しているときは、「IPアドレス（IPv4）」画面で選ぶ。
- 以下、選んだ設定方法に応じて操作する。

「自動設定」

- 操作4に進む。

「手動設定」

2 IPアドレスやサブネットマスクなどの数値を入力する

- ゲートウェイを使う場合は「ゲートウェイの使用」>「使う」を選んでから数値を入力する。
- DNSアドレスを使う場合は「DNSアドレスの使用」>「手動設定」を選んでから数値を入力する。

3 「OK」を選ぶ

共通の操作

4 TCP/IPv6を使うかどうかを選ぶ

- IPv4を使うときは「使わない」を選ぶ。
「TCP/IPv6を使用するとき」(□ 164)

その他のネットワーク設定を行う

FTP転送用のルート証明書の読み出し／消去を行う

FTPモードに「FTPS」を使用するときは、接続するFTPSサーバーに対応したルート証明書をカメラに読み込む必要があります。読み込んだルート証明書は、内容を確認したり、消去したりすることもできます。

1 MEDIAモードにする

2 ルート証明書をカードのルートフォルダーに保存し、カードをスロットBに入れる

3 MENU > ネットワーク設定 > 「詳細設定」> 「FTP転送の設定」を選ぶ

4「ルート証明書を読み出し」>「OK」を選ぶ

- ルート証明書がカードから読み込まれる。
- 「ルート証明書の情報確認」を選ぶと、発行者や発行先、有効期限を確認でき、「ルート証明書の消去」を選ぶと、カメラに読み込んだルート証明書を消去できる。

MEMO

- カメラに読み込むことができるルート証明書は1つで、ファイル名が「ROOT.CER」、「ROOT.CRT」、「ROOT.PEM」のものです。
- 自己署名証明書を使用したFTPS接続を行う場合に、接続先サーバーを信頼できないことがあります。

802.1X認証の設定

802.1認証情報を設定します。

本機の対応プロトコルは以下のとおりです。

EAP-TLS： X.509をサポート。
EAP-TTLS： MS-CHAP v2をサポート
PEAP： MS-CHAP v2をサポート

MENU > ネットワーク設定 > 「詳細設定」 > 「802.1X認証の設定」を選ぶ

設定ウィザード： ウィザードに従って、認証設定を行う。

認証プロトコルで「EAP-TLS」を選んだときは、「ルート証明書」、「クライアント証明書」、「秘密鍵」をカードから読み出す。「EAP-TTLS」または「PEAP」を選んだときは、「ユーザー名」と「パスワード」を入力して「ルート証明書」をカードから読み出す。

参考 ▶ 「文字入力のしかた」(□ 22)

設定内容確認： 認証設定の内容を確認するときに選ぶ。

設定消去： 認証設定を消去するときに選ぶ。表示画面で「OK」を選ぶと、設定が削除される。

ニックネームを変更する

接続する機器で表示される、カメラのニックネームを変更することができます。

1 MENU > ネットワーク設定 > 「ニックネーム」を選ぶ

2 ニックネームを入力する

接続設定（SET）を確認／編集する

カメラに保存されている接続設定（SET）の確認、変更、消去、名称変更を行うことができます。また、接続設定に2つ目の通信設定（NW）／機能設定（MODE）を追加することもできます。

接続設定の内容を確認する

1 MENU > ネットワーク設定 > 「接続設定」 > SET1～SET20のいずれかを選ぶ

- 設定内容を確認する接続設定を選ぶ。

2「設定内容確認」を選ぶ

- 設定内容が表示される。
- ジョイスティックを左右に押すと、すべての設定を表示できる。また、CANCELを押すとメニューに戻る。

ウィザードで変更する

- 1 MENU >  ネットワーク設定 > 「接続設定」 > SET1～SET20のいずれかを選ぶ
 - 変更や確認を行う接続設定を選ぶ
- 2 「ウィザードで変更」を選ぶ
- 3 ネットワーク機能を選ぶ > 必要に応じてウィザードで設定する（ 155の操作3以降）

既存の設定を使用して変更する

カメラにすでに登録されている通信設定（NW）や機能設定（MODE）を使用して、接続設定の内容を簡単に置き換えたり、2番目の通信設定／機能設定を追加したりすることができます。

- 1 MENU >  ネットワーク設定 > 「接続設定」 > SET1～SET20のいずれかを選ぶ
 - 変更や確認を行う接続設定を選ぶ
- 2 「既存の設定から選択」を選ぶ

通信設定／機能設定を追加または置き換える

- 3 変更する設定を選ぶ > 「既存の設定から選択」 > いずれかの通信設定（NW）または機能設定（MODE）を選ぶ
 - 登録されている通信設定／機能設定のうち、使用できないものは灰色で表示される。
- 4 「決定」を選ぶ
 - 必要に応じて「通信設定確認」または「機能設定確認」を選んで設定内容を確認する。

通信設定／機能設定の選択を解除する

- 3 選択解除する設定を選ぶ > 「選択解除」 > 「OK」を選ぶ

MEMO

- IPストリーミングまたはブラウザーリモートのときは、1つの接続設定に、通信設定と機能設定を2つずつ登録することができます。
- 通信設定を2つとも選択解除すると、接続設定自体がリセットされ、「未設定」に変わります。

接続設定名を変更する

一覧から見つけやすくするために接続設定（SET）の名前を変更できます。

- 1 MENU >  ネットワーク設定 > 「接続設定」 > SET1～SET20のいずれか > 「セット名」を選ぶ
- 2 セット名を12文字以内で入力する（ 22）

接続設定を消去する

- 1 MENU >  ネットワーク設定 > 「接続設定」 > SET1～SET20のいずれか > 「設定消去」を選ぶ
 - 消去する接続設定を選ぶ。
- 2 「OK」を選ぶ
 - 接続設定が消去される。

MEMO

接続設定を消去しても登録した通信設定と機能設定は消去されません。ほかの接続設定を作成するときに再利用できます。

通信設定（NW）や機能設定（MODE）を確認／変更する

カメラに保存されている通信設定（NW）や機能設定（MODE）を確認し、必要に応じて変更／消去することができます。

通信設定／機能設定の内容を確認する

- 1 MENU >  ネットワーク設定 > 「詳細設定」 > 「通信設定」 または 「機能設定」 を選ぶ
- 2 設定内容を確認する通信設定（「NW1」～「NW25」）または機能設定（「MODE1」～「MODE25」）を選ぶ
- 3 「設定内容確認」を選ぶ
 - 設定内容が表示される。
 - ジョイスティックを左右に押すと、すべての設定を表示できる。また、CANCELを押すとメニューに戻る。

通信設定／機能設定を変更／消去する

- 1 MENU >  ネットワーク設定 > 「詳細設定」 > 「通信設定」 または 「機能設定」 を選ぶ
- 2 編集する通信設定（「NW1」～「NW25」）または機能設定（「MODE1」～「MODE25」）のいずれかを選ぶ
- 3 「設定変更」を選んで設定の変更を行う
 - 操作2で「未設定」を選んだときは、「ウィザードで新規作成」（ 155）のみ選択できる。
 - 「設定消去」 > 「OK」を選ぶと、設定が消去される。

TCP/IPv6設定を行う

接続設定ウィザードでTCP/IPv6の「使う」を選んだときは、ウィザードを終了後にTCP/IPv6設定が必要です。

- 1 「TCP/IPv6」 > 「TCP/IPv6設定」 > 「使う」を選ぶ
 - 新規接続設定（ウィザード）で「使う」を選んだときは、この操作は不要。
 - 以降、TCP/IPv6の設定を行う。
- 2 TCP/IPv6設定を手動で行うときは、「手動設定」 > 「使う」を選ぶ
 - 「DNSサーバー」が「手動設定」に変わる。
 - DNSサーバーを使用しないときは「使わない」を選ぶ。
- 3 「DNSサーバー」 > いずれかを選ぶ
 - 操作2で「使わない」を選んだときは、DNSサーバーに「自動取得」が選べる。
- 4 DNSサーバーが「手動設定」のときは、「DNSアドレス」を設定する

「手動設定」が「使う」のとき

- 5 「手動アドレス」、「プレフィックス長」、「ゲートウェイ」を設定する
 - 項目を選んで入力する。

設定変更できる項目（通信設定）

設定項目	設定値／内容
Wi-Fi	
SSID	
詳細設定	認証方式、パスワード
TCP/IPv4	
IPアドレス設定	自動設定、手動設定
DNSサーバー	使わない、自動取得、手動設定
DNSアドレス、IPアドレス	
サブネットマスク、ゲートウェイ	
TCP/IPv6	
TCP/IPv6設定	使わない、使う
手動設定	使わない、使う
DNSサーバー	使わない、自動取得、手動設定
DNSアドレス、手動アドレス	
プレフィックス長、ゲートウェイ	

設定変更できる項目（機能設定）

設定項目	設定値／内容
FTP転送	
転送先サーバー	
サーバー、ポート番号	
ユーザー名・パスワード	
ユーザー名、パスワード	
転送先フォルダー	
転送先フォルダーの階層	初期設定、カメラ
同名ファイルの上書き	スキップ、別名で保存、上書き
	スキップ：転送先に同じ名前のファイルがあるとき、そのファイルを転送しない。 別名で保存：転送先に同じ名前のファイルがあるとき、ファイル名の末尾に「_1」が付加される。 上書き：転送先に同じ名前のファイルがあっても、上書きする。
パッシブモード	使わない、使う
日付フォルダー生成	する、しない
IPストリーミング	
プロトコル	UDP、RTP、RTP+FEC、RTSP+RTP、SRT
送信先サーバー	
送信先ポート	
FECポート番号	
FECインターバル	
RTSPユーザー名	
RTSPパスワード	
SRT接続モード	Caller、Listener
SRTストリームID	
SRT待ち受けポート番号	

設定項目	設定値／内容
SRT暗号化の設定	しない、AES-128、AES-192、AES-256
SRTパスフレーズ	
SRTレイテンシー	
出力信号形式	9Mbps/1920x1080 59.94P、4Mbps/1920x1080 59.94P、9Mbps/1920x1080 50.00P、4Mbps/1920x1080 50.00P、9Mbps/1920x1080 59.94i、4Mbps/1920x1080 59.94i、9Mbps/1920x1080 50.00i、4Mbps/1920x1080 50.00i
オーディオ出力チャンネル	CH1/CH2、CH3/CH4

ブラウザーリモートの設定を変更する

1 MENU > ネットワーク設定 > 「詳細設定」> 「ブラウザーリモート設定」を選ぶ

2 項目を選択して変更する

- ポート番号(HTTP)／ポート番号(HTTPS)を選ぶと、HTTP/HTTPS通信用のポート番号を変更することができる。通常は、初期設定（HTTP：80、HTTPS：443）を使用する。
- 「HTTPS」> 「使う」を選ぶと、ブラウザーリモートにHTTPS通信でアクセスできるようになる。HTTPS通信を使う場合は、はじめに、カメラアクセスポイントを使ってHTTP接続でネットワーク機器と接続します（□ 170）。次に、ブラウザーリモートの設定メニュー（□ 174）でルート証明書をダウンロードします。最後に、ダウンロードしたルート証明書をWebブラウザーにインポートすると、HTTPS通信を使うことができます。

XCプロトコルの設定を変更する

1 MENU > ネットワーク設定 > 「詳細設定」> 「XCプロトコル設定」を選ぶ

2 項目を選択して変更する

- ポート番号(HTTP)を選ぶと、HTTP通信用のポート番号を変更することができる。通常は、初期設定（80）を使用する。

ネットワークの接続状態を確認する

接続設定をオフラインで行う場合を除き、接続設定を行うとすぐに、本機は自動的にネットワーク接続を行い、選択されているネットワーク設定を有効化します。ネットワークの接続状態は、接続方式とネットワーク機能を表わすアイコンで確認できます。ネットワーク機能を無効にすると、ネットワーク接続アイコンは消えます。



接続方式のアイコン

📶：Wi-Fi（インフラストラクチャー）

ネットワークへの接続処理中は、画面に黄色で表示され、接続が完了すると白色に変わる。

📷：Wi-Fi（カメラアクセスポイント）

接続準備中は黄色で表示され、Wi-Fi対応機器から接続可能な状態になると白色に変わる。

📶：イーサネット

ネットワークへの接続処理中は黄色で表示され、接続が完了すると白色に変わる。

ネットワーク機能のアイコン

 : FTP転送 ( 168)

 : IPストリーミング ( 169)

クリップをFTPで転送する

メディアモードのときに、本機に記録したクリップをFTPサーバーに転送できます。以下では、FTPサーバーがあらかじめ起動され、正しく動作していることを前提に説明しています。

1つのクリップを転送する

1 ネットワークを有効にする（ 154）

- FTP転送の機能設定を含む接続設定を選ぶ。

2 「XF-AVC」または「MP4」のインデックス画面で、転送するクリップを選ぶ

3 クリップメニュー>「FTP転送」>「OK」を選ぶ

- 本機がFTPサーバーと接続し、選択したクリップのファイルが転送される。
- 転送を中止するときは「CANCEL」を選ぶ。

クリップをまとめて転送する

1 ネットワークを有効にする（ 154）

- FTP転送の機能設定を含む接続設定を選ぶ。

2 「XF-AVC」または「MP4」のインデックス画面を表示する

3 MENU > ネットワーク設定 > 「FTP全クリップ転送」を選ぶ

- 本機がFTPサーバーと接続し、インデックス画面内のクリップのファイルが転送される。
- 転送を中止するときは「CANCEL」を選ぶ。

ご注意

- ファイル転送中は、次のことを守ってください。通信が中断され、転送先に不要なファイルが残ることがあります。
 - メモリーカードカバーを開けない。
 - 電源を切らない。バッテリーなどの電源を取り外さない。
- 転送先に不要なファイルが残っているときは、内容を十分に確認してから、削除してください。

MEMO

- アクセスポイントの性能や設定、通信状態によっては、ファイルの転送に時間がかかることがあります。

映像をストリーミングで送信する

本機をネットワークに接続して、ネットワーク経由で映像伝送装置のデコーダー（以下「デコーダー」と記載）^{*1}またはパソコン^{*2}に、本機のライブ映像と音声を送信します。ライブ中継に利用できるほか、ネットワーク環境が低速な取材現場からでも速報映像を送信することができます。

^{*1} 対応するデコーダーについてはキャノンのホームページなどでご確認ください。

^{*2} ストリーミング映像の受信に対応したパソコン用ソフトウェアが必要です。

送信できる映像と音声の信号形式

メイン動画			ストリーミングの信号形式				
記録形式	解像度	フレームレート	映像			音声*	
			ビットレート	解像度	フレームレート	形式	ビットレート
XF-AVC MP4 (H.264)	3840×2160 1920×1080	59.94P	9 Mbps 4 Mbps	1920×1080	59.94P、59.94i	MPEG-2 AAC 2ch	256 Kbps
		59.94i			59.94i		
		50.00P			50.00P、50.00i		
		50.00i			50.00i		

* メイン動画の音声は4チャンネルの場合、送信するチャンネルはメニューで選択可能。

1 受信側のデコーダーまたはパソコン：ストリーミング受信の待機状態にする

- デコーダーまたはパソコンの受信用ソフトウェアの詳細については、それぞれの説明書をご覧ください。

2 ネットワークを有効にする（ 154）

- IPストリーミングの機能設定を含む接続設定を選ぶ。

3 MENU > ネットワーク設定 > 「IPストリーミング実行」> 「する」を選ぶ

- 本機がストリーミング送信を開始する。
- RECボタンを押して、ストリーミング送信と同時に本機に記録することもできる。

4 受信側のデコーダーまたはパソコン：本機と接続する

RTSP+RTPプロトコルのとき：

URL (rtsp://<カメラのIPアドレス>/stream)、RTSPのユーザー名とパスワードを入力する

SRTプロトコルで接続モードが「Listener」のとき：

URL (srt://<カメラのIPアドレス>:<待ち受けポート番号>) を入力する

- 送信するデータを暗号化しているときは、SRTのパスフレーズも入力する。

5 MENU > ネットワーク設定 > 「IPストリーミング実行」> 「しない」を選んで、送信を終了する

ご注意

- 送信するデータは暗号化されません（SRTプロトコルで暗号化している場合を除く）。

MEMO

- RTSPを使用しない場合、IPストリーミングは、受信側の状態にかかわらず、映像・音声データを送信します。IPアドレスを正しく設定し、受信側のデコーダーが正しく受信できることをあらかじめ確認してください。
- ネットワーク環境や通信状態によっては、パケットの喪失や遅延が発生することがあります。
- IPストリーミング送信を連続して24時間行くと、一旦停止したあと自動的に再開します。
- IPストリーミングを使用中にブラウザーリモートの接続を行うと、ストリーミングの映像や音声途切れることがあります。IPストリーミングとブラウザーリモートを同時に使用するときは、ブラウザーリモートの接続を切断／再接続しないことをおすすめします。
- IPストリーミング実行中にメモリーカードカバーを開けて、カードの取り出しを行うと、ストリーミングの映像や音声途切れることがあります。
- 次のときはIPストリーミングを使用できません。
 - 記録モードが通常記録以外のとき。
 - 「2スロット記録機能」が「切」以外のとき。
 - 本機をWebカメラとして使用しているとき。

ネットワーク機器でリモート撮影する（ブラウザーリモート）

カメラモードにおいて、ネットワークに接続した機器のWebブラウザーから本機をリモートで操作して、動画を撮影することができます。撮影時は、ライブビューによる画角の確認、さまざまな撮影設定*、各種マークの付加が可能なほか、記録メディアやバッテリーの残量、タイムコードの確認を行うことができます。

* ホワイトバランス、ISO感度／ゲイン、シャッタースピード、NDフィルター、アイリス、フォーカス、ズームなどが調整可能。

ブラウザーリモートを起動する

携帯端末などネットワークに接続した機器*¹のWebブラウザー*²からブラウザーリモートを起動します。

*¹ OS、Webブラウザーなどの情報については、キャノンのホームページなどでご確認ください。

*² JavaScript（ジャバスクリプト）に対応し、Cookie（クッキー）が有効になっている必要があります。

1 ネットワークを有効にする（ 154）

- ブラウザーリモートの機能設定を含む接続設定を選ぶ。

2 MENU > ネットワーク設定 > 「接続設定」> 操作1で選んだ接続設定 > 「設定内容確認」を選ぶ

- IPアドレスやURLをメモする。

3 携帯端末など：カメラまたはカメラと同じネットワークに接続する

4 携帯端末など：Webブラウザーを起動する

5 携帯端末など：操作2で確認したURLを入力して、ブラウザーリモートを起動する

- URLを次のように入力する。

`http://xxx.xxx.xxx.xxx:nnnn`

カメラのIPアドレス

ポート番号（初期値を使うときは省略可）

- HTTPS通信を使うときは、「http」を「https」に変更する。
- TCP/IPv6を使うときは、IPv6用に設定したIPアドレスとポート番号を使う。

6 携帯端末など：機能設定で設定したユーザー名とパスワードを入力（ 157）してログインする

- ブラウザーリモートの画面が表示される。
- ユーザー名とパスワードが不明のときは、カメラの管理者にお問い合わせください。

7 携帯端末など：撮影後はログアウトする

- 撮影後、ブラウザーリモート画面の「ログアウト」を選んで、ブラウザーリモートを終了する。

MEMO

- ネットワーク環境や通信状態によっては、ライブビューの表示や各種設定などに遅延が発生することがあります。遅延が大きい場合は、ライブビュー解像度（ 174）を下げることをおすすめします。

`http://192.168.0.3`

192.168.0.3にログイン

パスワードは暗号化されずに送信されます。

ユーザー名

パスワード

キャンセル

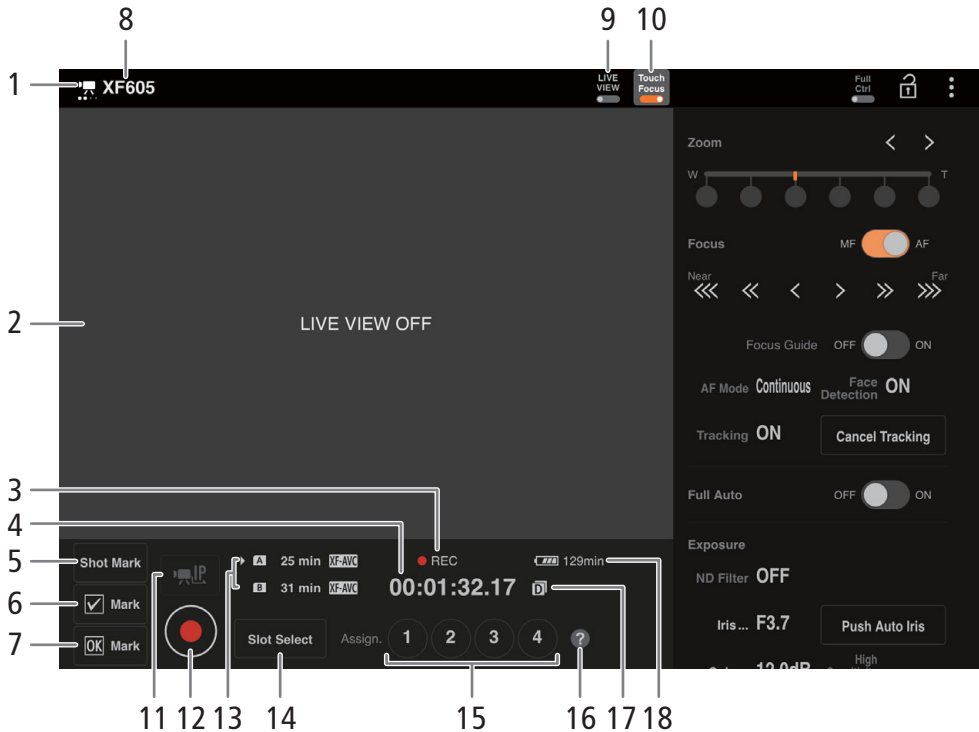
ログイン

リモート撮影する

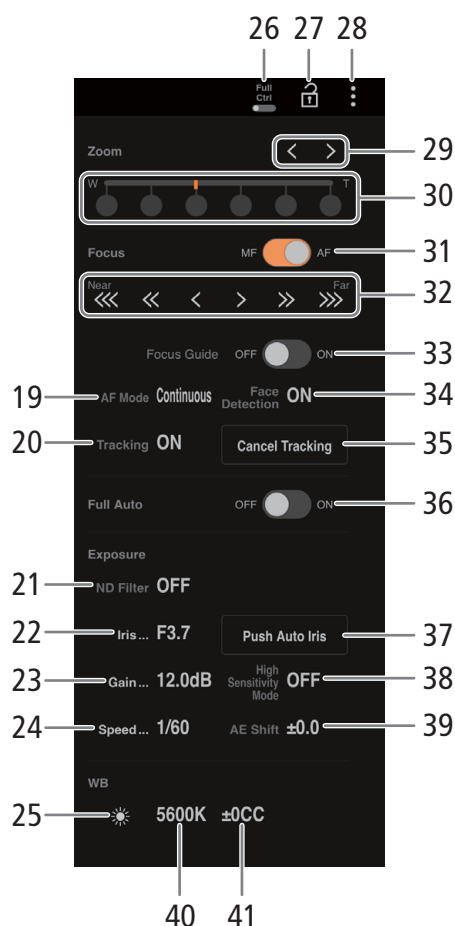
MEMO

- ブラウザーリモートは、マルチタッチ操作には対応していません。

カメラ操作画面

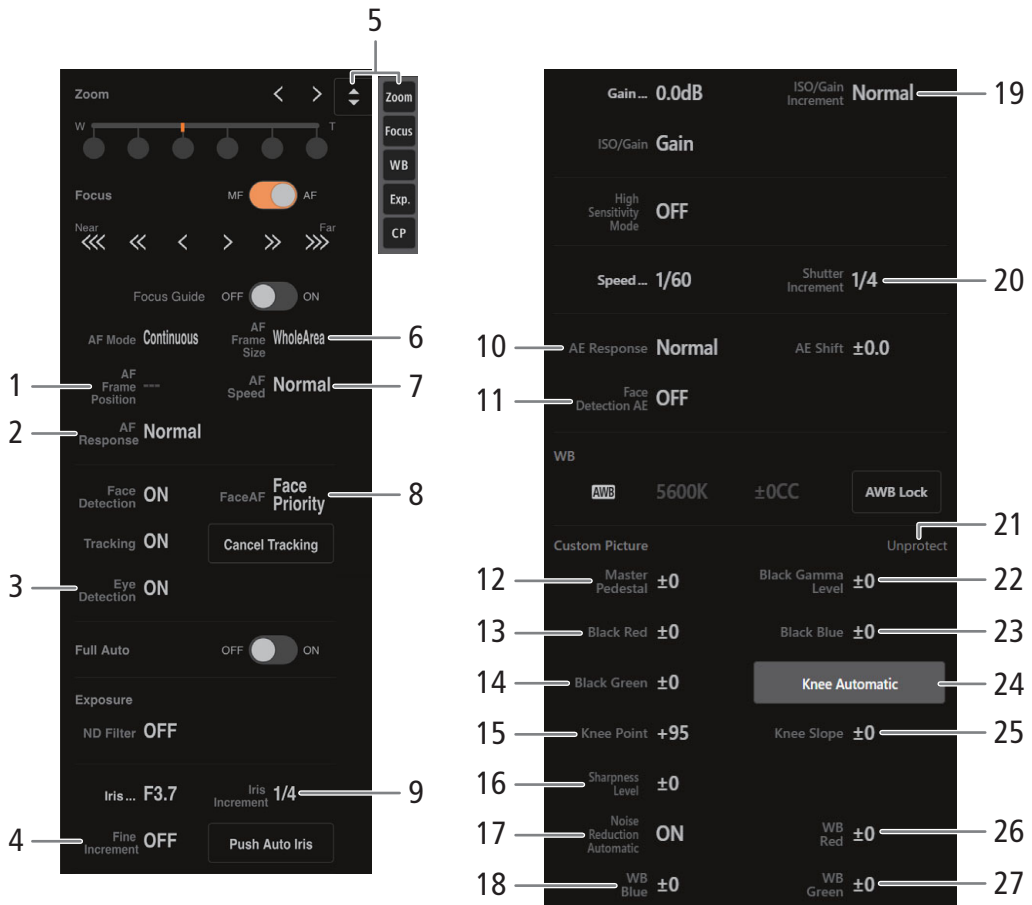


- 1 接続状態表示
 - ブラウザーリモートに接続中は、画面上の●●●●が、順に点灯→消灯を繰り返す。
- 2 ライブビュー表示エリア
 - カメラのライブビュー映像を表示する。
- 3 撮影状態／記録コマンド状態
- 4 タイムコード
- 5 Shotマークボタン
- 6 ☒ Mark（チェックマーク）ボタン
- 7 ☐ Mark（OKマーク）ボタン
- 8 ニックネーム
- 9 LIVE VIEW（ライブビュー）ボタン
 - ライブビュー表示を入／切する。
- 10 Touch Focus（タッチフォーカス）ボタン
- 11 IPストリーミングボタン
 - ブラウザーリモートとIPストリーミングを同時に実行しているとき使用できる。
- 12 REC（記録開始／停止）ボタン
 - 撮影が開始され、撮影状態表示が「●REC」に変わる。RECボタンが●（赤色）に変わる。
 - 撮影中は、タイムコードが歩進する。
 - 再度、RECボタンを押すと撮影を終了し、撮影状態表示が「STBY」に変わる。
- 13 記録メディアの状態／撮影可能時間
- 14 SLOT SELECT（スロット選択）ボタン
- 15 アサインボタン
- 16 アサインボタン設定確認
- 17 ダブルスロット記録
- 18 DC入力／バッテリーの電圧、バッテリー残量とバッテリー残時間



- 19 AFモード
• AFモードを選ぶ。
- 20 追尾
- 21 NDフィルター
- 22 アイリス
- 23 ISO感度／ゲイン
- 24 シャッタースピード
- 25 ホワイトバランス設定方法
• 設定方法がAWBのときに「AWB Lock」を押すと、一時的にAWB動作を停止する。もう一度押すと再開する。
• 設定方法が  Aまたは  Bのときは、 を押して基準白色を取り込んで、登録する。
- 26 Full Ctrl（詳細設定）スイッチ（ 173）
• AF、アイリス、ISO感度／ゲイン、AE、カスタムピクチャーの詳細設定を表示する。
- 27 （キーロック）ボタン
• ブラウザリモートの操作ボタンをロックする。 を選ぶとロックは解除される。カメラ本体の操作はロックされない。
- 28 設定メニューボタン（ 174）
- 29 ズーム操作ボタン
• ズームを調整する。
• ボタンを長押しすると、ズームの動作が連続する。
- 30 ズーム位置選択ボタン
• ズームを調整する。
• 低速で操作すると、レンズの動き出しまでに時間がかかることがある。
- 31 フォーカスモードスイッチ
- 32 フォーカス操作ボタン
• 、、 を選ぶと至近方向に調整し、、 を選ぶと無限方向に調整する。
• 調整量は選ぶボタンによって異なり、／ は小、／ は中、／ は大。
• ボタンを長押しすると、フォーカスの動作が連続する。
- 33 デュアルピクセルフォーカスガイドスイッチ
• 画面にフォーカスガイド枠が表示される。
- 34 顔検出
- 35 追尾キャンセル
- 36 フルオートスイッチ
- 37 プッシュオートアイリス
- 38 高感度モード
- 39 AEシフト
- 40 ケルビン
- 41 色補正値

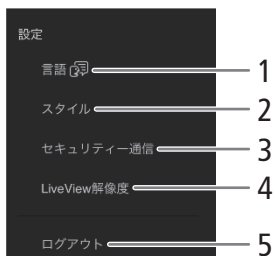
詳細設定（Full Controls）



- 1 AF枠位置
- 2 AFレスポンス
- 3 瞳検出
- 4 アイリス刻み幅（ファイン）
- 5 調整項目ボタン
 - 調整項目ボタンを表示する。
 - 調整する項目にタッチすると、それぞれの調整項目が表示される。
- 6 AF枠
- 7 AFスピード
- 8 顔検出AF
 - 顔検出AFのモードを選ぶ。
- 9 アイリス刻み幅（段）
- 10 AEレスポンス
- 11 顔検出AE
- 12 Master Pedestal

- 13 Black Red
- 14 Black Green
- 15 Knee Point
- 16 Sharpness Level
- 17 Noise Reduction Automatic
- 18 White Balance Blue
- 19 ISO感度／ゲイン刻み幅
- 20 シャッタースピード刻み幅
- 21 カスタムピクチャプロテクト状態
- 22 Black Gamma Level
- 23 Black Blue
- 24 Knee Automatic
- 25 Knee Slope
- 26 White Balance Red
- 27 White Balance Green

設定メニュー



- 1 言語選択
 - 一部の画面やメッセージの表示言語を選ぶ。
- 2 スタイル選択
 - ブラウザーリモートの背景色を設定できる。
- 3 セキュリティー通信
 - HTTPS通信で使用するルート証明書をダウンロードする。
- 4 ライブビュー解像度
 - ライブビューの解像度を選択する。
- 5 ログアウト
 - ブラウザーリモートを終了するときに選ぶ。

XCプロトコル対応コントローラー／アプリでリモート撮影する

XCプロトコル対応のリモートカメラコントローラー RC-IP100（別売）／RC-IP1000（別売）やリモートカメラコントロールアプリ*¹に本機のIPアドレスを設定すると、本機をリモートで操作できます。また、本機と同じネットワークに接続しているスマートフォンのMulti-Camera Control*²から本機をリモートで操作できます。

*¹ キヤノンのホームページからダウンロード可能。

*² App Storeからダウンロード可能。

1 本機をカメラモードにする

2 ネットワークを有効にする（ 154）

- XCプロトコルの機能設定を含む接続設定を選ぶ。

RC-IP100／RC-IP1000でリモート撮影する

撮影時にアイリス、シャッターなどのカメラ設定や、二一、シャープネスなどの画質調整ができます。接続／設定のしかたやRC-IP100／RC-IP1000の詳細については、RC-IP100／RC-IP1000の説明書をご覧ください。

MEMO

- 本機を接続時に使用できないRC-IP100の機能は、次のとおりです。
 - F1／F2ノブ：PT Speed、R Gain、B Gain、Noise Reduction
 - USER1／USER2ボタン：One Shot AF、Preset Color Settings、Color Space
 - コントロールレバー：パン／チルト操作
 - [TRACE] タブ
 - [FUNC] タブ：Soft Zoom Control、PT Acceleration、ND Filter Mode、Infrared、Wiper、Washer、AUX1、AUX2、AUX3、AUX4、Enhanced ND Filter
- 本機を接続時に使用できないRC-IP1000のボタン／レバー／ダイヤルは、次のとおりです。
 - カメラ設定部：ABBボタン
 - パン／チルト操作部：PAN / TILTレバー、パン／チルトSPEEDダイヤル
 - アイリス／ズーム／フォーカス操作部：ONE-SHOT AFボタン
 本機が対応していない機能は使用できません。また、メニュー操作部、ユーザーボタン部、F1／F2／F3／F4／F5ダイヤル、SYSTEMメニューのUSER 1～USER 10ボタンに本機が対応していない機能を割り当てた場合は、RC-IP1000のLCDパネルに灰色で表示されます。
- キーロックで本機の操作を無効にしているときでも、RC-IP100／RC-IP1000からは操作できます（ 12）。

MEMO

カスタムピクチャーの設定を調整するとき

- プロテクトしたカスタムピクチャーファイルを選んでいると、カスタムピクチャーの設定をRC-IP100／RC-IP1000／リモートカメラコントロールアプリから調整できません。
- RC-IP100／RC-IP1000／リモートカメラコントロールアプリで画質の調整を行うと、選択中のカスタムピクチャーファイルの設定が変更／登録されます。大切なカスタムピクチャーファイルはバックアップし、変更しても良いカスタムピクチャーファイルを選んでから、RC-IP100／RC-IP1000／リモートカメラコントロールアプリで調整してください。

リモートカメラコントロールアプリでリモート撮影する

撮影時は、ライブビューによる画角の確認やさまざまな撮影設定、画質調整ができます。接続／設定のしかたやリモートカメラコントロールアプリの詳細については、リモートカメラコントロールアプリの説明書をご覧ください。

MEMO

- リモートカメラコントロールアプリから本機を操作するときには使用できない機能は、次のとおりです。
 - メニュー 
 - [カメラ電源]
 - [操作設定]：
 - [キーボードショートカット] > [パン 左]、[パン 右]、[チルト 上]、[チルト 下]、[パン/チルト 左上]、[パン/チルト 右上]、[パン/チルト 左下]、[パン/チルト 右下]、[プリセットHome 呼び出し]、[パン/チルトスピード +]、[パン/チルトスピード -]、[トレース準備]、[トレース実行]
 - [PTZ操作方向設定]
 - [プリセット/トレース設定]：
 - [プリセット] > [プリセット一覧] > [プリセット名]、[カメラ設定]
 - [トレース]
 - [設定ページ]
 - カメラ操作部
 - [基本]タブ：
 - [PTZ/フォーカス] > [ワンショットAF]、[パン/チルトスピード]、[パン/チルト]
 - [プリセット] > [移動速度]、[Home]
 - [露出] >  (フルオート)、 (マニュアル露出) 以外
 - [露出] > [NDフィルター] > [オート]
 - [ホワイトバランス] > [Rゲイン]、[Bゲイン]
 - [トレース]
 - [詳細]タブ：
 - [露出] > [拡張NDフィルター]
 - [その他機能] > [ワイパー]
 - キーロックで本機の操作を無効にしているときでも、リモートカメラコントロールアプリからは操作できます (12)。
 - カスタムピクチャーの設定を調整するときは、「カスタムピクチャーの設定を調整するとき」(175) を参照してください。

Multi-Camera Controlでリモート撮影する

本機と同じネットワークに接続しているスマートフォンから本機をリモートで操作して、動画を撮影することができます。撮影時は、ライブビューによる画角の確認やさまざまな撮影設定、画質調整ができます。

1 スマートフォン：Multi-Camera Controlをインストールする

- App StoreからMulti-Camera Controlをダウンロードして、インストールする。
- 2回目から、この操作は不要。

2 スマートフォン：本機と同じネットワーク（アクセスポイント）に接続する

- スマートフォンの詳細については、スマートフォンの説明書をご覧ください。

3 ネットワークを有効にする

- 参考** ▶ 「接続設定を選んでネットワークを有効にする」(154)
- 「XCプロトコル」で設定した接続設定を選ぶ。

4 スマートフォン：Multi-Camera Controlを起動する

5 スマートフォン：本機と接続する

6 スマートフォン：Multi-Camera Controlを操作してリモート撮影する

7 終了するときは、MENU > ネットワーク設定 > 「ネットワーク」> 「無効」を選ぶ

- MENU >  ネットワーク設定 > 「接続」> 「通信切」を選んでも終了できる。

MEMO

- キーロックで本機の操作を無効にしているときでも、Multi-Camera Controlからは操作できます（ 12）。

撮影データをスマートフォンに転送する

本機と同じネットワークに接続しているスマートフォンに、本機で撮影した撮影データ（MP4クリップやプロキシクリップ、WAV形式の音声、News Metadata）を転送できます。転送した撮影データはスマートフォンに保存できます（[図 149](#)）。

1 スマートフォン：Content Transfer Mobileをインストールする

- App StoreからContent Transfer Mobileをダウンロードして、インストールする。
- 2回目から、この操作は不要。

2 スマートフォン：本機と同じネットワーク（アクセスポイント）に接続する

- スマートフォンをアクセスポイントにして接続するときは、あらかじめテザリング（インターネット共有）を有効にする。
- スマートフォンの詳細については、スマートフォンの説明書をご覧ください。

3 ネットワークを有効にする（[図 154](#)）

- 「Canonアプリ」の機能設定を含む接続設定を選ぶ。

4 画面の指示に従って、Content Transfer Mobileを起動する

5 スマートフォン：本機と接続する

6 「OK」を選ぶ

7 スマートフォン：Content Transfer Mobileを操作して撮影データを本機から転送する

8 終了するときは、MENU > ネットワーク設定 > 「ネットワーク」 > 「無効」を選ぶ

- MENU >  ネットワーク設定 > 「接続」 > 「通信切」を選んででも終了できる。
- Content Transfer Mobileから本機との接続を終了したときは、MENU >  ネットワーク設定 > 「接続」が「通信切」になる。

MEMO

- 「Canonアプリ」の機能設定を含む接続設定を実行中にGPSレシーバー GP-E2を接続するときは、マルチアクセサリシューに接続してください。

メニュー一覧

各メニューで設定できる項目と設定値について説明します。初期設定は太字で記載しています。
メニュー設定の基本操作については「メニューで設定を変える」(P.20)をご覧ください。メニューの項目は、他の機能との設定状態によっては表示されなかったり、使用できなかったりすることがあります。

カメラ設定メニュー

設定項目	設定値／内容	📖
測光方式	バックライト、 スタンダード 、スポットライト	62
AEシフト	+2.0～-2.0 (±0)、0.25段刻み	62
AEレスポンス	ハイ、 ノーマル 、ロー	60
アイリスステップ	1/3段、 1/4段	60
アイリスファイン	入、 切	60
アイリスリミット	入 、切	60
アイリスリング方向	リバース、 ノーマル	61
シャッターステップ	1/3段、 1/4段	54
ISO/ゲイン	ISO、 ゲイン	56
オート時リミット	[ISO] : ISO200～ 切/ISO12800 、1/3段刻み [ゲイン] : -6.0 dB～ 切/21.0 dB 、1 dB刻み 設定しているGammaによって、選択できる値が異なる。	56
ISO/ゲインステップ	[ISO] : 1段、 1/3段 [ゲイン] : ノーマル 、ファイン	56
ISO/ゲイン L	[ISO] 1段 ISO200～ISO12800 (下記参照、1段刻み) 1/3段 ISO200～ISO12800 (下記参照、1/3段刻み) [ゲイン] ノーマル -6.0 dB～21.0 dB (0.0 dB 、3 dB刻み) ファイン -6.0 dB～21.0 dB (0.0 dB 、0.5 dB刻み) 設定しているGammaによって、初期設定が異なる。 1段 BT.709 Normal、BT.709 Standard : ISO200 PQ、HLG : ISO400 BT.709 Wide DR、Canon Log 3、Canon 709 : ISO800 1/3段 BT.709 Normal、BT.709 Standard : ISO200 PQ、HLG : ISO320 BT.709 Wide DR、Canon Log 3、Canon 709 : ISO500	57
ISO/ゲイン M	[ISO] 1段 ISO200～ISO12800 (下記参照、1段刻み) 1/3段 ISO200～ISO12800 (下記参照、1/3段刻み) [ゲイン] ノーマル -6.0 dB～21.0 dB (6.0 dB 、3 dB刻み) ファイン -6.0 dB～21.0 dB (6.0 dB 、0.5 dB刻み) 設定しているGammaによって、初期設定が異なる。 1段 BT.709 Normal、BT.709 Standard : ISO400 PQ、HLG : ISO800 BT.709 Wide DR、Canon Log 3、Canon 709 : ISO1600 1/3段 BT.709 Normal、BT.709 Standard : ISO400 PQ、HLG : ISO640 BT.709 Wide DR、Canon Log 3、Canon 709 : ISO1000	57

設定項目	設定値／内容	
ISO/ゲインH	[ISO] 1段 ISO200～ISO12800 (下記参照、1段刻み) 1/3段 ISO200～ISO12800 (下記参照、1/3段刻み) [ゲイン] ノーマル -6.0 dB～21.0 dB (12.0 dB、3 dB刻み) ファイン -6.0 dB～21.0 dB (12.0 dB、0.5 dB刻み) 設定しているGammaによって、初期設定が異なる。 1段 BT.709 Normal、BT.709 Standard : ISO800 PQ、HLG : ISO1600 BT.709 Wide DR、Canon Log 3、Canon 709 : ISO3200 1/3段 BT.709 Normal、BT.709 Standard : ISO800 PQ、HLG : ISO1250 BT.709 Wide DR、Canon Log 3、Canon 709 : ISO2000	57
ショックレスゲイン	ハイ、ノーマル、ロー、切 ゲインの値をなめらかに変化させる。	—
高感度モード	入、切	57
ホワイトバランス: PRESET	☀ 太陽光、💡 電球、🌡 Kelvin	63
ショックレスWB	入、切	63
AWBレスポンス	ハイ、ノーマル、ロー	64
色温度ステップ	ミレッド、ケルビン	63
AFモード	AFブーストMF、連続	71
AF枠	全域、大、小	75
AF枠位置	可動、中央固定	75
AFスピード	ハイ、ノーマル、ロー	75
AFレスポンス	ハイ、ノーマル、ロー	75
顔検出&追尾	入、切	76
顔検出AE	入、切	76
顔検出AF	顔優先、顔限定	76
瞳検出	入、切	76
フォーカスリミット	入、切	77
フォーカスリング方向	リバース、ノーマル	71
フォーカスリングレスポンス	ハイ、ノーマル、ロー	71
ズームスピードレベル	ハイ、ノーマル、ロー	—
ハイスピードズーム	入、切	68
デジタルズーム	デジタルテレコン6.0x、デジタルテレコン3.0x、デジタルテレコン1.5x、デジタル300x、アドバンスド 30x、切	67
ハンドルズームスピード	切、1～16	70
グリップズームスピード	固定、可変速、ユーザー設定	68
固定スピード	1～16 (8)	68
ユーザー設定	ユーザー 1～ユーザー 3	68
カラーバー	入、切	93
カラーバータイプ	SMPTE、EBU、ARIB	93
フリッカー低減	オート、切	55
コンバージョンレンズ	TL-U58、WA-U58、切	70
回折補正	入、切 映像の先鋭さが低下する現象を補正する。	24
手ブレ補正モード	ダイナミック、スタンダード	78
手ブレ補正	入、切	78
パワードIS	入、切	78

設定項目	設定値／内容	📖
赤外撮影色	ホワイト、グリーン	105
赤外ライト	トグル、常時 入、常時 切	105
赤外撮影時スローシャッター	入、切	105

CP Custom Pictureメニュー

設定項目	設定値／内容	📖
CP ファイル選択	C1:BT.709 Normal 、C2:BT.709 Wide DR、C3:BT.709 Standard、C4:Canon Log 3、C5:PQ、C6:HLG、C7:EOS Standard、C8:EOS Neutral、C9:Canon 709、C10:User10～C20:User20	114
CP ファイル編集		115
名称変更	—	
プロテクト	プロテクト解除、プロテクト	
リセット	BT.709 Normal 、BT.709 Wide DR、BT.709 Standard、Canon Log 3、PQ、HLG、EOS Standard、EOS Neutral、Canon 709、USER (BT.709 Normal)	
Gamma/Color Space、Color Matrix、Look File、Look File設定、HLG Color、Black、Black Gamma、Low Key Saturation、Knee、Sharpness、Noise Reduction、Skin Detail、Color Matrix Tuning、White Balance、Color Correction、Other Functions	「カスタムピクチャーの設定項目」を参照 (📖 118)。	
CP ファイル保存	SDカードBへコピー、SDカードBから読み出し	117

🔧 記録/メディア設定メニュー

設定項目	設定値／内容	📖
メディア初期化	SDカード A、SDカード B	27
システム周波数	59.94 Hz 、50.00 Hz	48
メイン記録形式	XF-AVC YCC422 10 bit 、MP4(HEVC) YCC422 10 bit、MP4(HEVC) YCC420 10 bit、MP4(H.264) YCC420 8 bit	48
メイン解像度	[XF-AVC形式] 3840x2160 Intra-frame、 3840x2160 Long GOP 、1920x1080 Intra-frame、1920x1080 Long GOP、1280x720 Long GOP [MP4形式] 3840x2160 、1920x1080、1280x720	47
フレームレート	[59.94Hz] : 59.94i* / 59.94P / 29.97P / 23.98P [50.00Hz] : 50.00i* / 50.00P / 25.00P * XF-AVC形式のみ。スロー & ファストモーション記録やフレーム記録、インターバル記録では選択できない。 メイン解像度の設定によって選択できる値が異なる。	48
ビットレート	410Mbps 、300Mbps、250Mbps、240Mbps、50Mbps、25Mbps メイン解像度、フレームレートの設定によって選択できる値が異なる。	49

設定項目	設定値／内容	📖
メイン記録MP4オーディオ形式	AAC 16 bit 2CH 、 LPCM 16 bit 4CH	87
記録モード	通常記録 、 Slow & Fast モーション 、 Slow & Fastモーション／音声 (WAV) 、 フレ記録 、 [A]メイン／[B]常時記録 、 フレーム記録 、 インターバル記録	100
Slow&Fastフレームレート	「メイン記録形式」や「メイン解像度」、「フレームレート」、「ビットレート」の設定によって選択できる値が異なる。	100
常時記録	REC 、 STBY	104
フレーム記録 フレーム数	1 、 3 、 6 、 9	102
インターバル記録 時間間隔	1 sec 、 2 sec 、 3 sec 、 5 sec 、 10 sec 、 15 sec 、 30 sec 、 1 min 、 2 min 、 3 min 、 5 min 、 10 min	103
インターバル記録 フレーム数	1 、 3 、 6 、 9	103
2スロット記録機能	切 、 [A]メイン／[B]Proxy記録 、 [A]メイン／[B]サブ記録 、 [A]メイン／[B]音声記録 、 リレー記録 、 ダブルスロット記録 、 [A]メイン／[B]チャンク記録	30
[B]記録形式	XF-AVC YCC422 10 bit 、 XF-AVC YCC420 8 bit 、 MP4(HEVC) YCC 422 10 bit 、 MP4(HEVC) YCC 420 10 bit 、 MP4(H.264) YCC 420 8 bit メイン記録形式や2スロット記録機能によって選択できる値が異なる。	50、52
[B]解像度／ビットレート	[メイン動画：XF-AVC形式] [XF-AVC YCC422 10 bit] 3840x2160 Intra-frame、3840x2160 Long GOP、1920x1080 Intra-frame、1920x1080 Long GOP、1280x720 Long GOP、1920x1080 50Mbps L.GOP、1280x720 24Mbps L.GOP [XF-AVC YCC420 8 bit] 1920x1080 35Mbps L.GOP、1280x720 24Mbps L.GOP、1280x720 17Mbps L.GOP [MP4(H.264) YCC420 8 bit] 3840x2160、1920x1080、1280x720、1920x1080 35Mbps、1920x1080 16Mbps、1920x1080 9Mbps、1280x720 9Mbps、1280x720 8Mbps、1280x720 6Mbps、1280x720 4Mbps [メイン動画：MP4形式] [MP4(HEVC) YCC422 10 bit] 1920x1080、1280x720、1920x1080 50Mbps、1280x720 12Mbps [MP4(HEVC) YCC420 10 bit] 1920x1080、1280x720、1920x1080 35Mbps、1280x720 9Mbps [MP4(H.264) YCC420 8 bit] 1920x1080、1280x720、1920x1080 35Mbps、1920x1080 9Mbps、1280x720 9Mbps、1280x720 8Mbps、1280x720 6Mbps、1280x720 4Mbps メイン記録形式や2スロット記録機能、[B]記録形式によって選択できる値が異なる。	50、52
[B]フレームレート	メイン記録と同じ 、 59.94i 、 50.00i	52
[B]MP4オーディオ形式	AAC 16 bit 2CH 、 LPCM 16 bit 4CH	87
Proxy記録色変換	Custom Picture準拠 、 BT.709 (Wide DR) 、 BT.709 (CMT 709)	50
チャンク記録 時間設定	30秒 、 1分 、 2分	51
メタデータ		32
カメラインデックス	A～Z	
リール番号	001～999	
クリップ番号	001～999	
ユーザー定義	5文字の文字列 (CANON)	
ストリーム番号／プロキシ	01_Proxy 、 _01P	
シーン	16文字以内の文字列 (未設定)	
テイク	8文字以内の文字列 (未設定)	

設定項目	設定値／内容	📖
XMLファイル付加	入、切	97、98
XMLファイル形式	News Metadata、User Memo	
News Metadata	切、ファイル選択	99
News Metadata設定初期化	—	
User Memo	切、ファイル選択	97
国コード	4文字の文字列 UMID所有権情報の国コード。ISO-3166-1で定義している短縮文字を左詰めで入力する。	
組織	4文字の文字列 UMID所有権情報の組織コード。各組織で運用する組織コード*を入力する。 * 組織コードは、SMPTE登録局に申請後、取得して初めて使用できる。取得していないときは「0000」を入力する。	
ユーザーコード	4文字の文字列 UMID所有権情報のユーザーコード。ユーザーの識別用のコードを入力する*。 * 運用の方法は、ユーザーに任されているが、組織コードに「0000」を入力したときは、入力しない。	
📁 ファイル付加	入、切	
クリップ番号方式	オートリセット、通し番号	
記録コマンド (EXT REC)	入、切	139
HDMI Time Code	入、切	139
MP4クリップ／静止画番号方式	オートリセット、通し番号	33
ボリュームラベル	Canon、Canon+ メタデータ	28
表示文字記録	Time Code/日付/時刻、日付/時刻、Time Code、時刻、日付、切 映像に重ねて記録する画面表示を選ぶ。 • 撮影画面を回転中は、設定できない。	38
表示文字記録位置	左上、右上、左下、右下 映像に重ねて記録する画面表示の位置を選ぶ。 • 撮影画面を回転中は、設定できない。	—

🎧 オーディオ設定メニュー

設定項目	設定値／内容	📖
オーディオInput選択		86
(CH1/CH2)	INPUT端子、MIC端子、内蔵マイク	
(CH3/CH4)	INPUT端子、MIC端子、内蔵マイク マルチアクセサリシューに対応したアクセサリ（市販）を装着時： INPUT端子(カメラ)、MIC端子、内蔵マイク、マルチアクセサリシュー	
CH2 Input	INPUT 2、INPUT 1、内蔵マイク* ¹ 、MIC端子* ² * ¹ 4チャンネル記録で「オーディオInput選択」の「CH3/CH4」が内蔵マイクのとき、または2チャンネル記録のときのみ。 * ² 4チャンネル記録で「オーディオInput選択」の「CH3/CH4」がMIC端子のとき、または2チャンネル記録のときのみ。	89
CH1/CH2 ALCリンク CH3/CH4 ALCリンク	連動、独立	91

設定項目	設定値／内容	📖
録音レベル CH2 録音レベル CH3 録音レベル CH4 録音レベル CH3/CH4	オート、マニュアル	90
CH2 レベル CH3 レベル CH4 レベル CH3/CH4 レベル	0～100 (50)	90
INPUT 1 マイクトリミング INPUT 2 マイクトリミング	+12 dB、+6 dB、 0 dB 、-6 dB、-12 dB	91
INPUT 1 マイクアッテネーター INPUT 2 マイクアッテネーター	入、切	91
INPUT 1 マイクローカット INPUT 2 マイクローカット	切、LC1、LC2	91
INPUT 基準レベル	-18 dB 、-20 dB	91
INPUTリミッター	入、切	91
MICアッテネーター	入、切	92
MICローカット	切、LC1、LC2	92
MIC入力	MIC (電源供給あり) 、MIC、LINE	89
内蔵マイク感度	ノーマル、ハイ	92
内蔵マイクアッテネーター	入、切	
内蔵マイクローカット	切、LC1、LC2	
1 kHz トーン	-12 dB、-18 dB、-20 dB、切	93
ヘッドホン音量	切、1～15 (8)	129
スピーカー音量	切、1～15 (8)	129
	メディアモードで表示される。	
モニターチャンネル	CH1/CH2 、CH1/CH1、CH2/CH2、CH1+2/CH1+2、CH3/CH4、CH3/CH3、CH4/CH4、CH3+4/CH3+4、CH1/CH3、CH2/CH4、CH1+3/CH2+4	147
HDMIチャンネル	CH1/CH2 、CH3/CH4	147
CH2スイッチ&ダイヤルアサイン	CH2 、CH3	86
	録音レベル切り換えスイッチCH2と録音レベル調整つまみCH2を割り当てるチャンネルを選ぶ。	

🔊 モニタリング設定メニュー

設定項目	設定値／内容	📖
LCD明るさ	-50～+50 (±0)	18
LCDコントラスト	-50～+50 (±0)	18
LCDカラー	-20～+20 (±0)	18
LCDシャープネス	1～4 (2)	18
LCD輝度	ノーマル、+1、+2	18
LCD対面ミラー	入、切	18
VF明るさ	-50～+50 (±0)	24
VFコントラスト	-50～+50 (±0)	24

設定項目	設定値／内容	📖
VFカラー	-20～+20 (±0)	24
VFシャープネス	1～4 (2)	24
VF輝度	ノーマル、ハイ	24
VFアイセンサー	入、切	24
VF倍速駆動	入、切	24
白黒: LCD、VF、SDI、HDMI	入、切	18、 24
オンスクリーン表示: SDI、HDMI	入、切	141
オンスクリーン表示方向: LCD/VF	標準、  左90度回転、  右90度回転	43
オンスクリーン表示方向: SDI、HDMI	LCD/VF連動、  左90度回転、  右90度回転	
DISPレベル1	全表示、全表示(フレーム)	42
DISPレベル2	撮影情報表示、FUNC/MENU操作時表示	42
DISPレベル3	REC/STBY表示のみ、表示なし	42
フレーム表示対象	DISP レベル1/2/3、DISP レベル1/2、DISP レベル1、DISP レベル2、DISP レベル3、切	42
Custom Display 1		38
測光方式、Custom Picture	入、切	
ズーム表示	バー、ナンバー	
ズーム位置、グリップズームスピード: ユーザー、被写体距離	常時入、ノーマル、切	
ND Filter	警告、ノーマル、切	
フォーカスモード、キーロック、フルオート、赤外撮影、ホワイトバランス、AEシフト	入、切	
露出バー	入、AE時無効、切	
アイリス、ISO/ゲイン、シャッター、ピーキング、デジタルテレコン、コンバージョンレンズ、Magnification、LUT、手ブレ補正	入、切	

設定項目	設定値／内容	📖
Custom Display 2		38
バッテリー残量、記録可能時間	警告、ノーマル、切	
記録モード	入、切	
インターバルカウンター		
Genlock		
Time Code		
リール番号／クリップ番号		
Photo	警告、ノーマル、切	
温度／ファン	入、切	
解像度／カラーサンプリング		
フレームレート		
映像出力		
オンスクリーン表示	入、切	
記録コマンド (EXT REC)	入、切	
User Memo	入、切	
User Bit		
表示文字記録	入、切	
モニターチャンネル	入、切	
オーディオレベル	入、切	
マルチアクセサリシュー		
ネットワーク機能		
USB HOST		
GPS		
日付／時刻	日付／時刻、時刻、日付、切	
Custom Display	メディアモードで表示される。	38
オーディオレベル	入、切	
日付／時刻 カメラデータ	入、切 日付／時刻：クリップ／静止画の再生画面に日時を表示する。 カメラデータ：クリップの再生画面にカメラデータ（シャッタースピード、絞り値、ISO感度／ゲイン）を表示する。	
表示単位系	Meters、Feet GPSの高度の表示単位を選ぶ。	—
オンスクリーン透過: LCD、VF、SDI、HDMI	入、切	141
オンスクリーン透過 不透過度	75%、62.5%、50%、37.5%、25%	141
オンスクリーン透過 適用画面	すべて、撮影/再生画面のみ	141
タリー OSD: LCD、VF、SDI、HDMI	入、切	43
タリー OSD設定	REC/タリー入力(PGM/PVW)、REC、タリー入力(PGM/PVW)	
タリー OSD位置	フレーム、上部、下部	
LUT: SDI	入、切	144
LUT選択: SDI	BT.709、BT.2020、DCI、PQ、HLG、CMT 709、User LUT 1～User LUT 4* * ユーザー LUTを登録しているときのみ表示される。	144
ビューアシスト: LCD、VF	入、切	146

設定項目	設定値／内容	📖
ビューアシスト選択: LCD、VF	BT.709 、HDRアシスト(800%)、HDRアシスト(400%)、CMT 709	146
ビューアシスト: HDMI	入、 切	146
ビューアシスト選択: HDMI	BT.709 、CMT 709	146
HLG Color	BT.2100、 Vivid	144
HDR→SDRゲイン	−7.5dB〜+7.5dB (− 3.0dB 、0.5 dB刻み)	146
User LUT 1〜User LUT 4		144
登録	ファイル選択	
Color Space (Output)	BT. 709 Gamut、BT.2020 Gamut、変換しない	
Range (Output)	Narrow Range、Full Range	
消去	—	
名称変更	8文字以内の文字列	
User LUT設定初期化	—	145
User LUT情報表示	—	145
Range: SDI		139
Canon Log 出力時	Full Range 、Narrow Range	
HDR出力時	Full Range、 Narrow Range	
Range: HDMI		139
Canon Log 出力時	Full Range優先 、Narrow Range	
HDR出力時	Full Range優先、 Narrow Range	

アシスト設定メニュー

設定項目	設定値／内容	📖
フォーカスガイド	入、 切	71
ピーキング: LCD、VF、SDI、HDMI	入、 切	73
ピーキング選択	ピーキング1 、ピーキング2	73
ピーキング1		73
カラー	ホワイト 、レッド、イエロー、ブルー	
ゲイン	切、1〜15 (8)	
周波数	1〜4 (2)	
ピーキング2		73
カラー	ホワイト、 レッド 、イエロー、ブルー	
ゲイン	切、1〜15 (15)	
周波数	1〜4 (1)	
Magnification	入、 切	73
Magnification出力先	LCD 、VF、SDI、HDMI	73
Magnification有効時白黒	入、 切	73
フォルスカラー: LCD、VF、SDI、HDMI	入、 切	81
フォルスカラーインデックス	—	81
ゼブラ: LCD、VF、SDI、HDMI	入、 切	81

設定項目	設定値／内容	📖
ゼブラ選択	ゼブラ 1 、ゼブラ 2、ゼブラ 1+2	81
ゼブラ1レベル	5 ±5% ～ 95 ±5% (70 ±5%) ゼブラパターン1の輝度レベルを5%刻みで選ぶ。	81
ゼブラ2レベル	0% ～ 100% ゼブラパターン2の輝度レベルを5%刻みで選ぶ。	81
WFM: LCD、VF、SDI、HDMI	入、切	94
WFM不透過度	オンスクリーン透過運動 、100%、80%、60%、40%、20% WFMの不透過度を選ぶ。「オンスクリーン透過運動」を選ぶと、「オンスクリーン透過 不透過度」の設定に連動する。	94
WFM機能	波形モニター 、ベクトルスコープ	94
波形モニター設定		94
サイズ: LCD / VF	ノーマル 、2倍 画面上の表示倍率を切り換える。	
位置	右 、左	
タイプ	ライン 、ライン+スポット、ラインセレクト、RGB、YPbPr	
ゲイン	1x 、2x	
HDR時スケール	IRE 、PQ/HLG	
Yポジション	0% 、15%、30%、45%、50%	
ラインセレクト	0 ～ 360 ～ 719 (1ライン刻み)、 0 ～ 540 ～ 1079 (1ライン刻み)、0 ～ 1080 ～ 2158 (2ライン刻み) 波形を表示するライン (赤い横線) の位置を選ぶ。記録解像度、撮影／再生によって、設定範囲と初期値が異なる。	
ベクトルスコープ設定		95
位置	右 、左	
タイプ	ノーマル 、スポット	
ゲイン	1x 、2x	
マーカー : LCD、VF、SDI、HDMI	入、切	79
センターマーカー、水平マーカー、垂直マーカー、グリッドマーカー	イエロー、ブルー、グリーン、レッド、ブラック、グレー、ホワイト、 切	79
センターマーカータイプ	クロス1 、クロス2、ドット1、ドット2	79
アスペクトマーカー	イエロー、ブルー、グリーン、レッド、ブラック、グレー、ホワイト、マスク100%、マスク75%、マスク50%、マスク25%、 切	80
マーカーアスペクト比	4:3、13:9、14:9、16:9、1.375:1、1.66:1、1.75:1、1.85:1、1.90:1、2.35:1、 2.39:1 、9:16、カスタム	80
マーカー カスタムアスペクト比	1.00:1 ～ 9.99:1	80
セーフティーゾーンマーカー	イエロー、ブルー、グリーン、レッド、ブラック、グレー、ホワイト、マスク100%、マスク75%、マスク50%、マスク25%、 切	80
マーカー セーフティーゾーン基準	映像全体 、アスペクトマーカー領域	80
セーフティーゾーン領域	80% (長さ比)、88% (長さ比)、90% (長さ比)、93% (長さ比)、 95% (長さ比) 、80% (面積比)、90% (面積比)、92.5% (面積比)、95% (面積比)	80
ユーザーマーカー 1、ユーザーマーカー 2	イエロー、ブルー、グリーン、レッド、ブラック、グレー、ホワイト、 切	80
ユーザーマーカー 1 サイズ、ユーザーマーカー 2 サイズ	W : 2 ～ 100 ～ 1920 (偶数のみ)、H : 2 ～ 100 ～ 1080 (偶数のみ)	
ユーザーマーカー 1 位置、ユーザーマーカー 2 位置	X : -960 ～ 0 ～ 960、Y : -540 ～ 0 ～ 540	

🌐 ネットワーク設定メニュー

設定項目	設定値／内容	📖
ネットワーク	有効、無効	154
接続	通信切、SET1～SET20	154
接続設定	SET1～SET20	162
設定内容確認	—	
ウィザードで変更	—	
既存の設定から選択	—	
セット名	12文字以内の文字列	
設定消去	—	
新規接続設定（ウィザード）	FTP転送、IPストリーミング、ブラウザーリモート、Canonアプリ、XCプロトコル	155
IPストリーミング実行	する、しない	169
FTP全クリップ転送	メディアモードで表示される。	168
IPv4アドレス確認	現在のIPv4アドレスの設定内容を表示する。	—
エラー内容表示	最後に発生したネットワーク関連のエラーを表示する。	—
詳細設定		164
通信設定	NW1～NW25	
機能設定	MODE1～MODE25	
ブラウザーリモート設定	ユーザー名・パスワード、ポート番号(HTTP)、ポート番号(HTTPS)、HTTPS	166
XCプロトコル設定	認証方式、ユーザー名・パスワード、ポート番号(HTTP)	158
802.1X認証の設定	設定ウィザード、設定内容確認、設定消去	162
ニックネーム	16文字以内の文字列 (XF605)	162

📷 アサインボタンメニュー

設定項目	設定値／内容	📖
カメラ	1：パワードIS、2：ピーキング: LCD / VF、3：ゼブラ: LCD / VF、4：WFM: すべて、5：レックレビュー、6：Magnification、7：Magnification（メディアモード時：INDEX）、8：FUNC、9：ステータス、10：DISP、11：（未設定）	109
ブラウザーリモート/XCプロトコル		109
カメラ本体に連動	する、しない	
	1：Magnification、2：ピーキング: すべて、3：ゼブラ: すべて、4：WFM: すべて	
REMOTE A/B		109
カメラ本体に連動	する、しない	
	1：Magnification、2：ピーキング: すべて、3：ゼブラ: すべて、4：WFM: すべて	

システム設定メニュー

設定項目	設定値／内容	
リセット		—
全設定	全設定：アワーメーターを除く本機の設定を初期状態に戻す。	
アサインボタン	アサインボタン：アサインボタンの機能割り当て設定を初期状態に戻す。	
メニュー／  設定保存		123
保存	カメラ本体へ、SDカードBへ	
読み出し	カメラ本体から、SDカードBから	
タイムゾーン	UTC - 12:00 ~ + 14:00 (UTC+09:00 東京/ソウル)	19
日付／時刻	YYYY.MM.DD hh:mm	19
日時スタイル	YMD 、YMD/24H、MDY、MDY/24H、DMY、DMY/24H	19
言語 	日本語 、English	—
	表示されるメニューやメッセージなどの言語を選ぶ。	
REMOTE端子	NU Protocol (REMOTE B)、スタンダード + RC-V100、RC-V100 (REMOTE B)、RC-V100 (REMOTE A)、 スタンダード	106
	NU Protocolは周辺機器との接続を可能にするキャノン独自の通信プロトコル。	
HDMI出力形式	3840x2160P 、1920x1080P、1920x1080i、1280x720P	139
HDMIモニター連動	入 、切	139
SDI出力	入 、切	138
SDI出力形式	3840x2160P、 1920x1080P 、1920x1080i(PsF)、1280x720P、720x480i*または720x576i* * システム周波数によって異なる。	
3G-SDIマッピング	Level A、 Level B	138
SD出力時リサイズ	レターボックス、サイドクロップ、 スクイーズ	138
Time Codeモード	Preset 、Regen.	82
Time Code Run	Rec Run 、Free Run	82
Time Code DF/NDF	DF 、NDF	82
Time Code設定	[59.94 Hz] 00:00:00.00 ~ 23:59:59.29 [50.00 Hz] 23:59:59.24	82
TC In/Out	In 、Out	84
User Bit記録モード	Internal 、External	84
User Bitタイプ	設定 、時刻、日付	83
G-LOCK/SYNC端子	HD Sync出力、 Genlock入力	85
Genlock調整	— 1023 ~ 1023 (0)	85
SYNCスキャンモード	P 、PsF	85
キーロック	すべてのボタン、 RECボタン以外	12
RECボタン	無効、 有効	—
	RECボタンの有効／無効を切り換える。	
アサインボタン11へのREC割り当て	入 、切	109
	カメラアサイン11ボタンに「REC」を割り当てる。	
REC/STBYタッチボタン	入 、切	37
	撮影画面上の「 ●REC 」／「 STBY 」のタッチによる、記録開始／停止操作を可能にする。	
タッチ操作レスポンス	ノーマル 、ロー	18

設定項目	設定値／内容	📖
電源LED	入、切 「切」にすると、本機の電源が入っている状態でも電源LEDが消灯する。	11
タリーランプ(前面)、 タリーランプ(背面)	入、切 「入」にすると、カメラやタリー入力の状態に応じてタリーランプが点灯／点滅する。	11 13
タリーランプ設定	電源/メディア/タリー入力(PGM) 、REC/タリー入力(PGM)、REC、タリー入力(PGM) 「電源/メディア/タリー入力(PGM)」にすると、バッテリーの警告やSDカードの記録状態／警告に応じて点灯／点滅する。	37
SDカードアクセスLED	入、切 「入」にすると、SDカードにアクセスしたときに、アクセスしているスロットのアクセスランプが点灯する。	27
ファンモード	オート、常時	35
レックレビュー	クリップ先頭から 、最終4 sec	44
GPS自動時刻設定	入、切 GPSから得られる時刻情報を使って、本機の「日付／時刻」を自動的に設定する。 • GPS自動時刻設定が有効のときは、 MENU > ⚙️ システム設定 > 「日付／時刻」 を変更できない。 • 動画撮影中は、時刻設定を行わない。	—
USB (Type-C)モード	映像出力 (UVC)、iPhone Canonアプリ、 PTP接続/GP-E2 別売のインターフェースケーブルを使って、本機にGPSレシーバー GP-E2を接続するときは、「PTP接続/GP-E2」を選ぶ。	108
DC IN警告(V)	11.5V ～ 15.0V (13.0V 、0.1V刻み)	17
アワーメーターリセット	カメラ本体の使用時間として、購入時からの使用時間と、最後にこの設定でリセットしたときからの使用時間とがある。アワーメーターリセットでは、最後にリセットしたときからの使用時間をリセットする。	—
認証情報表示	本機が対応している認証情報の一部を確認できる。	—
Firmware		—
カメラ	本機（カメラ）のファームウェアのバージョン確認／更新を行う。	

★ マイメニュー

設定項目	設定値／内容	📖
CAMERA-1～CAMERA-5		21
編集	登録、並べ換え、消去、設定初期化、メニュー名変更	

ステータス画面を表示する

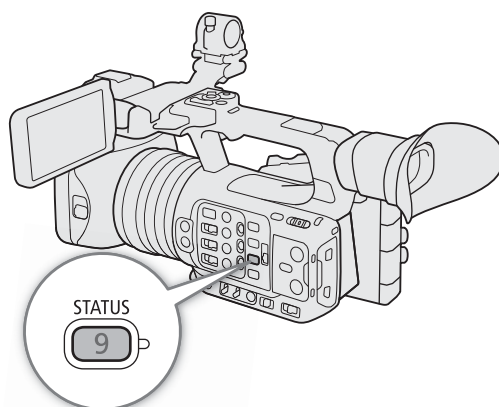
撮影や再生に関する様々な設定内容や状態をステータス画面に表示して確認することができます。ステータス画面は、外部モニター（ 138）に出力することもできます。次にあげるステータス画面を表示できます。なお、一部のステータス画面は英語で表示されます。

1 STATUSボタンを押して、ステータス画面を表示する

- 最後に表示したステータス画面が表示される
- AUDIO STATUSボタンを押すと、オーディオ専用のステータス画面が表示される。

2 ジョイスティックを左右に押してステータス画面を切り換える

- ステータス画面に表示されたアイコンをタッチしても切り換えることができる。
- カーソルをページ番号に移動してジョイスティックを左右に押すと、ページが切り換わる。
- ページ番号をタッチするか、画面を左右にフリックしても、ページを切り換えることができる。



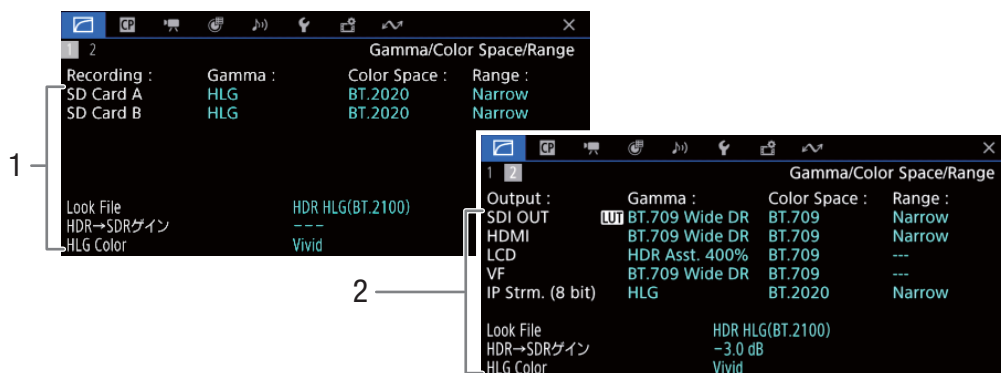
3 STATUSボタンを再度押すか、✕を選ぶ

- ステータス画面が消える。
- 「✕」をタッチしても、ステータス画面が消える。
- MENUボタンを押しても、ステータス画面が消え、メニューが表示される。

ステータス画面の詳細については、各画面のページをご覧ください。

ガンマ／色空間／レンジ	( 193)
カスタムピクチャー	( 194)
カメラ設定	( 195)
アサインボタン	( 196)
オーディオ設定	( 197)
システム設定	( 198)
記録/メディア設定	( 199)
ネットワーク設定	( 201)

ガンマ／色空間／レンジ（カメラモードのみ）



- 1 カード記録のガンマ／色空間／レンジ、Look File、HDR→SDRゲイン、HLG Color
- 2 SDI OUT端子、HDMI OUT端子、LCDモニター、ファインダー、IPストリーミングのガンマ／色空間／レンジ、Look File、HDR→SDRゲイン、HLG Color

カスタムピクチャー（カメラモードのみ）

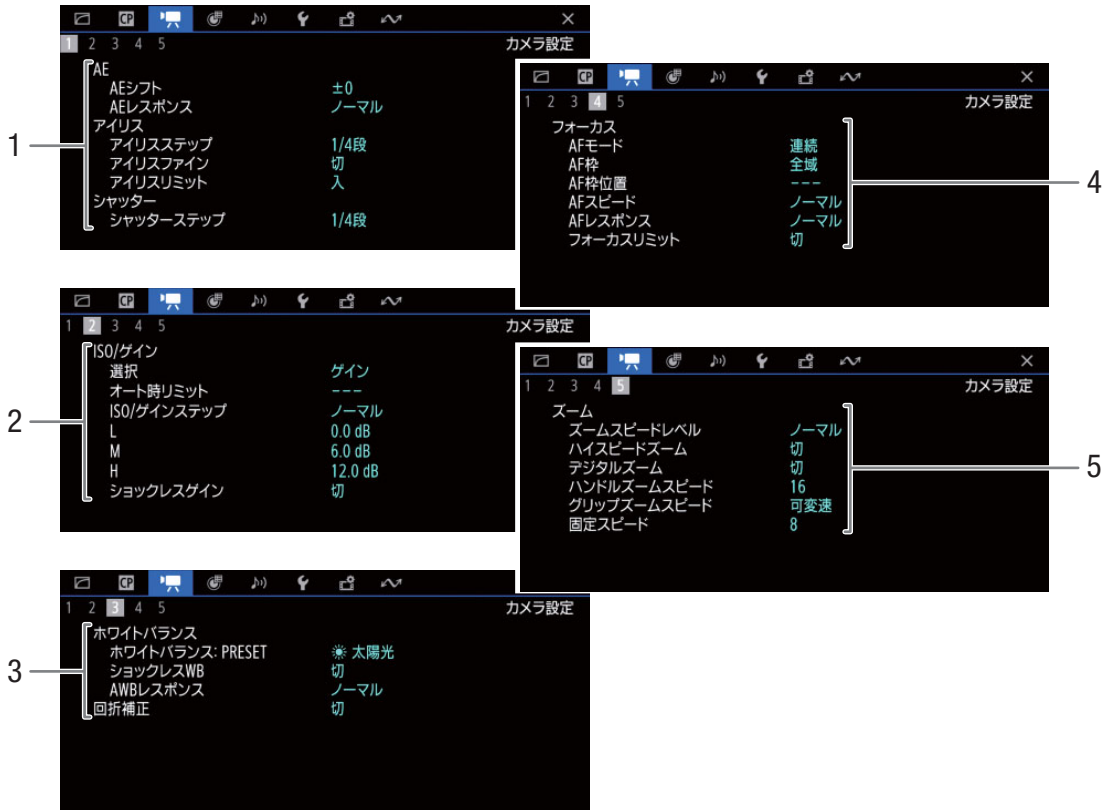
現在選択しているカスタムピクチャーファイルの設定内容を表示します。



- 1 ガンマ／色空間／カラーマトリクス／HLG Color／Look File
- 2 ブラック、ブラックガンマ、ローキーサチュレーション、ニー
- 3 シャープネス、ノイズリダクション、スキディテール
- 4 カラーマトリクスチューニング、ホワイトバランス、カラーコレクション、オーバー 100%

カメラ設定（カメラモードのみ）

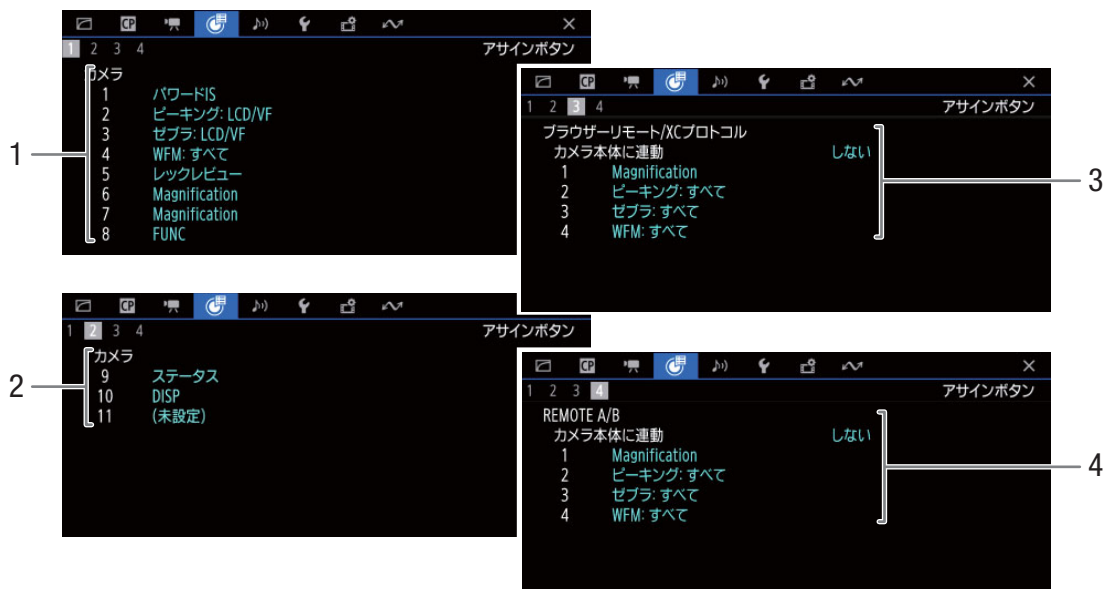
ISO感度／ゲイン、アイリス、シャッタースピード、ズームなどの撮影設定を表示します。



- 1 AE (62)
 - AEシフト、AEレスポンス
 - アイリス (60)
 - アイリスステップ、アイリスファイン、アイリスリミット
 - シャッター (54)
 - シャッターステップ
- 2 ISO感度／ゲイン (56)
 - 選択、オート時リミット、ISO／ゲインステップ、GAIN（ゲイン）スイッチ、ショックレスゲイン
- 3 ホワイトバランス (63)
 - プリセット設定、ショックレスホワイトバランス、AWBレスポンス
 - 回折補正 (24)
- 4 フォーカス (71)
 - AFモード、AF枠、AF枠位置、AFスピード、AFレスポンス、フォーカスリミット
- 5 ズーム
 - ズームスピードレベル、ハイスピードズーム、デジタルズーム、ハンドルズームスピード、グリップズームスピード、固定スピード

アサインボタン

アサインボタンに割り当てられている機能の一覧を表示します (109)。



1 カメラ1~8

2 カメラ9~11

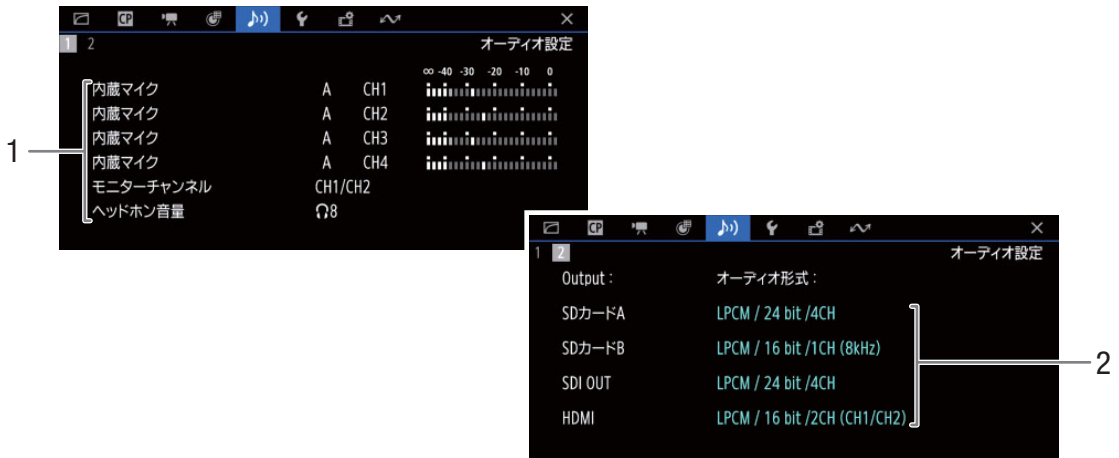
3 ブラウザーリモート/XCプロトコル
カメラ本体に連動
1~4

4 REMOTE A/B
カメラ本体に連動
1~4

オーディオ設定

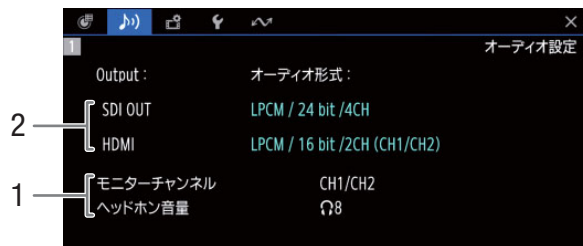
音声の記録、入出力などオーディオ関係の設定内容を表示します。

カメラモードのとき



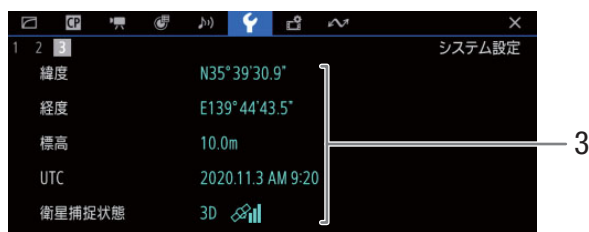
♪) オーディオ設定メニューを表示
(AUDIO STATUSボタンで表示したときのみ)

メディアモードのとき



- 1 入力音声と録音レベルモード (CH1～CH4)
(86)
モニターチャンネル (147)
ヘッドホン音量 (129)
- 2 記録 (カードA／B)、
出力 (SDI OUT端子、HDMI OUT端子) する映像の
オーディオ形式 (86)

システム設定



1 HDMI OUT端子の出力状態 (139)

HDMIタイムコード* (139)

* カメラモードのみ。

オンスクリーン表示 (141)

SDI OUT端子の出力状態* (138)

3G-SDIマッピング

* 表示されるビット数は映像信号のビット数。

オンスクリーン表示 (141)

ユーザービットタイプ* (83)

* カメラモードのみ。

USB (Type-C) モードの設定状態

2 バッテリー残量

バッテリーライフ

購入後／リセット後の使用時間
(アワーメーター／ 191)

3 GPS情報*

緯度、経度、標高、UTC (協定世界時)、
衛星補足状態

* GPSレシーバー GP-E2接続時のみ。

記録/メディア設定

ページ2～ページ7は、メディアモードでは表示されません。



1 SDカードA/B

総容量、記録済み容量、使用量（バー）*、記録可能時間、静止画記録可能枚数（カードB）、スピードクラス

* チャンク記録など低ビットレートで短時間の記録を繰り返すと、カード容量が余っていても記録できないことがあります。

2 ユーザーメモ

ファイル名、タイトル、撮影者、撮影場所、撮影内容

3 News Metadata

ファイル名、Story Title、Description、Key Words(Tags)、Category、Contributor、Source / Originator、Copyright Holder、Restrictions

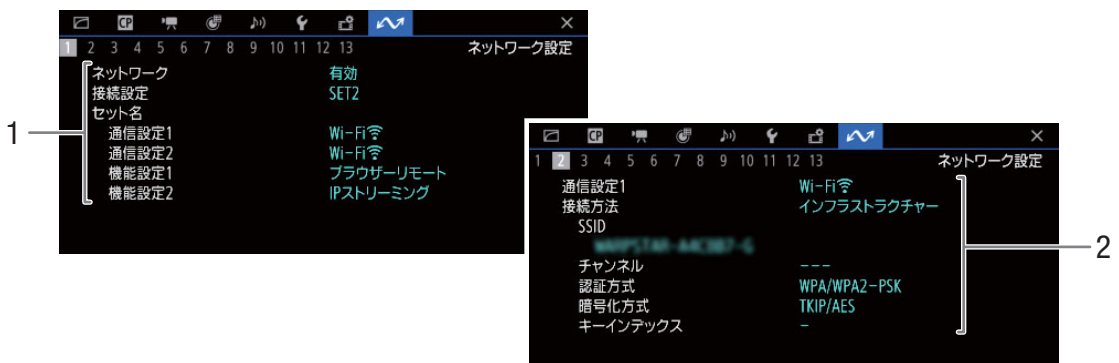
4 カメララインデックス、リール番号／クリップ番号、ストリーム番号／プロキシ、ユーザー定義（) 32)、

シーン、テイク、国コード、組織、ユーザーコード（) 97)

 ファイル付加

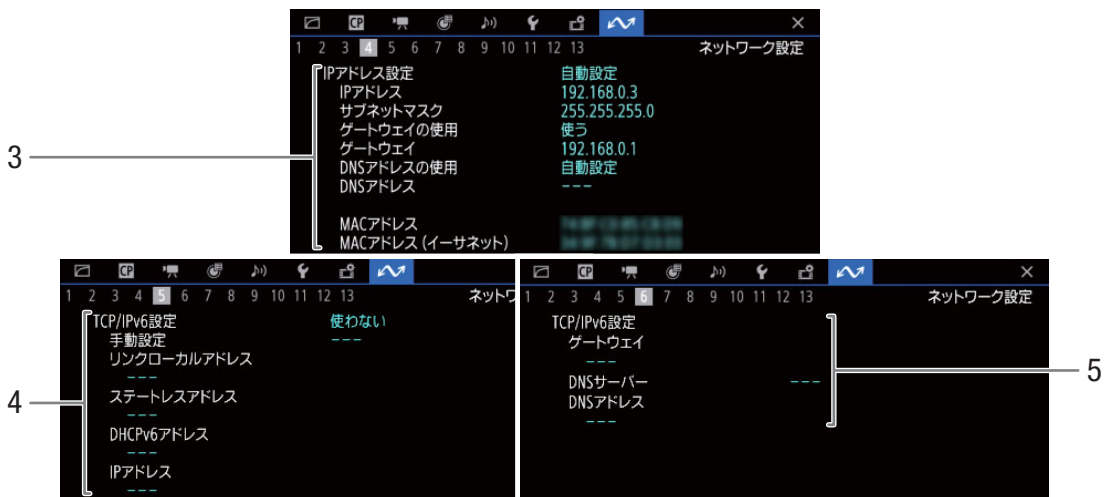
- 5 記録モード (📖 30)
 - フレーム記録 フレーム数 (📖 102)
 - インターバル記録間隔 (📖 103)
 - インターバル記録 フレーム数 (📖 103)
 - 2スロット記録機能 (📖 30)
 - クリップ番号方式 (📖 32)
 - MP4クリップ／静止画番号方式 (📖 33)
- 6 メイン記録形式
 - メイン解像度
 - フレームレート (📖 47)
 - ビットレート
 - メイン記録MP4オーディオ形式 (📖 86)
- 7 ④記録の記録形式
 - ④記録の解像度／ビットレート
 - ④記録の記録フレームレート (📖 52)
 - ④記録のMP4オーディオ形式 (📖 86)
 - Proxy記録色変換 (📖 50)
 - チャンク記録 時間設定

ネットワーク設定



- 1 ネットワーク（有効／無効）
接続設定
セット名
通信設定1／2、機能設定1／2

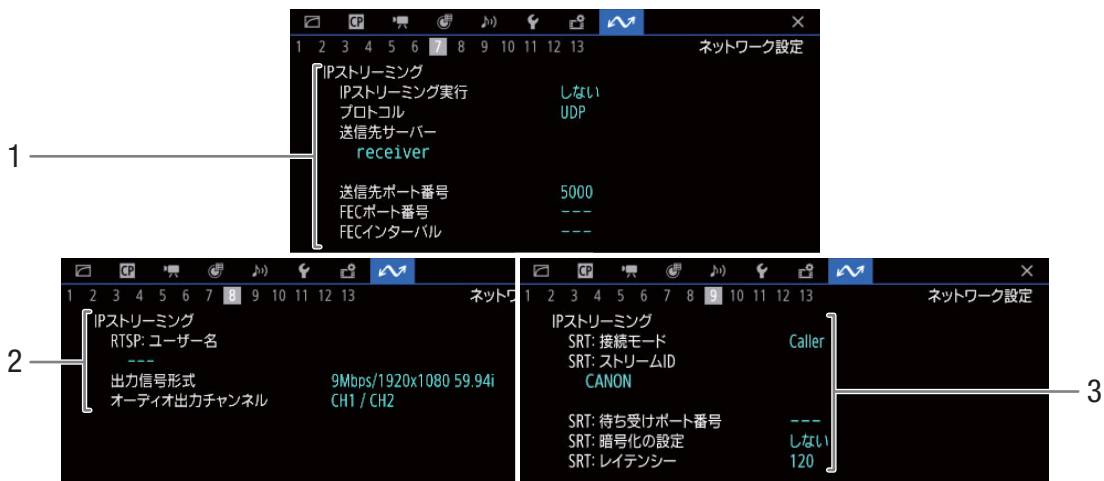
- 2 通信設定1／2
接続方法
SSID、チャンネル、認証方式、暗号化方式、キーインデックス



- 3 IPアドレス設定
IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイの使用、ゲートウェイ、DNSアドレスの使用、DNSアドレス、MACアドレス、MACアドレス（イーサネット）

- 4 TCP/IPv6設定
手動設定、リンクローカルアドレス、ステートレスアドレス、DHCPv6アドレス、IPアドレス
- 5 TCP/IPv6設定
ゲートウェイ、DNSサーバー、DNSアドレス

IPストリーミング（カメラモードのみ）



1 IPストリーミング

IPストリーミング実行、プロトコル、
送信先サーバー、送信先ポート番号、
FECポート番号、FECインターバル

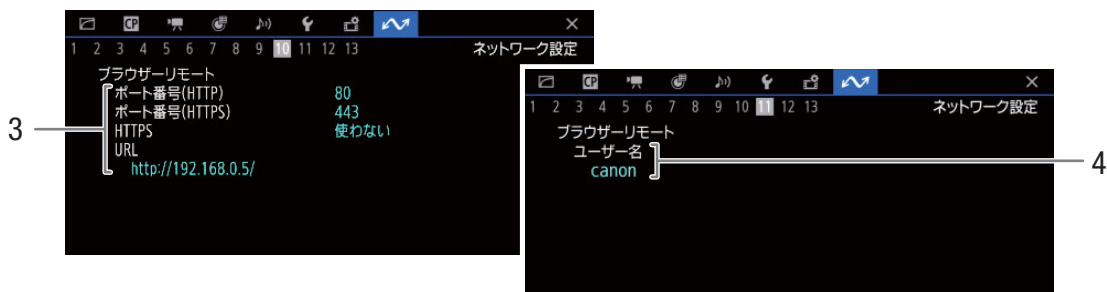
2 IPストリーミング

RTSP：ユーザー名、出力信号形式、
オーディオ出力チャンネル

3 IPストリーミング

SRT：接続モード、SRT：ストリームID、
SRT：待ち受けポート番号、SRT：暗号化の設定、
SRT：レイテンシー

ブラウザーリモート（カメラモードのみ）



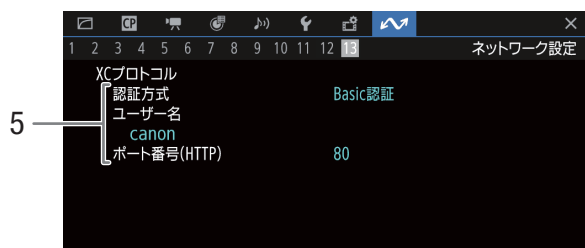
4 ブラウザーリモート

ポート番号(HTTP)、ポート番号(HTTPS)、
HTTPSの使用有無、URL

5 ブラウザーリモート

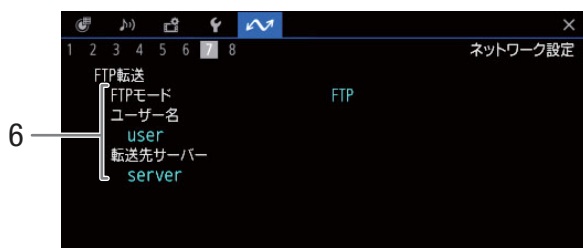
ユーザー名

XCプロトコル（カメラモードのみ）



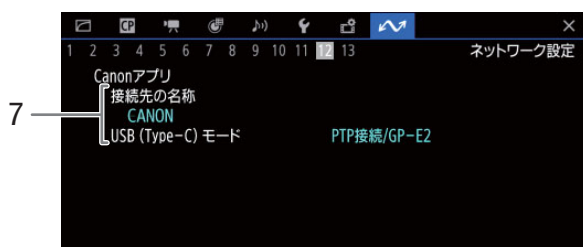
- 6 XCプロトコル
認証方式、ユーザー名、ポート番号(HTTP)

FTP転送（メディアモードのみ）



- 7 FTP転送
FTPモード、ユーザー名、転送先サーバー

Canonアプリ



- 8 Canonアプリ
接続先の名称
USB (Type-C) モード

トラブルシューティング

修理に出す前にこの「トラブルシューティング」で説明する内容をもう一度確認してください。それでも直らないときは、カメラ修理受付センター（☎ 235）にご相談ください。

電源

電源が入らない。または途中で電源が切れる。

- バッテリーが消耗しているので、十分に充電したバッテリーと交換する（☞ 15）。
- バッテリーを正しく取り付け直す（☞ 16）。

起動直後に電源が自動的に切れる。

- 本機で使用できないバッテリーを取り付けた。本機に対応するバッテリーに交換する（☞ 220）。

バッテリーが充電できない。

- バッテリーの温度が0℃未満になったか、または40℃を超えている。0℃未満のときはバッテリーを温めてから、40℃を超えたときは放置して40℃以下になってから、充電を開始する。
- 周囲の温度が0℃～40℃のときに充電する。
- バッテリーが故障しているので、別のバッテリーを使用する。

常温でバッテリーの消耗が極端に早い。

- バッテリーの寿命の可能性がある。🔧システム設定ステータス画面（☞ 198）でバッテリーの寿命を確認し、寿命がないときは、新しいバッテリーを購入する。

撮影中

カメラ本体の操作が利かない。

- KEY LOCK（キーロック）スイッチを🔒（キーロック）にしていると、レンズの各リングを除くすべての操作、またはRECボタンとINFRARED（赤外撮影）切り換えスイッチ以外の操作が無効になる*。KEY LOCKスイッチを🔓にする。
* MENU > 🔧システム設定 > 「キーロック」で変更可能（☞ 12）。

REC操作を行っても録画しない。

- カードに空き容量がない。または999クリップ記録されている。別のカードと入れ換える。または不要なクリップを消すか（☞ 133）、記録されているクリップをバックアップして初期化する（☞ 27）。
- MENU > 🔧システム設定 > 「キーロック」（☞ 12）を「すべてのボタン」に設定して、キーロック中にRECボタンを押した。キーロック（☞ 12）を解除するか、設定を「RECボタン以外」に変更する。
- MENU > 🔧システム設定 > 「RECボタン」、「REC/STBY タッチボタン」のうち、使用している操作方法が無効になっている。有効にする。
- カメラに供給している電源の電圧が低下している（☞ 191）。
- カスタムピクチャーの「Color Correction」で調整中は録画できない（☞ 122）（Area A(B) Revision LevelまたはArea A(B) Revision Phaseの調整中を除く）

REC操作を行った時点と、記録されたクリップの始めと終わりの時点が異なる。

- REC操作を行ってから、録画の開始／終了までに、多少時間がかかることがある。故障ではない。

ピントが合わない。

- オートフォーカスでフォーカスを調整するとき、被写体によってはピントが自動で合いにくいことがある。手動でピントを調整する（☞ 71）。
- AFモードがAFブーストMFのときは、合焦付近（AFブーストMF枠が白色に変わる）まで手動で調整する。
- ファインダーの視度が合っていない。視度調整レバーで画面がはっきり見えるように調整する（☞ 24）。
- レンズが汚れているので手入れする。

被写体が横切るとき、被写体がゆがんで見える。

- 撮像素子にCMOSセンサーを使用しているため、本機の前を被写体が素早く横切ると、少しゆがんで見えることがある。故障ではない。

画面に赤、緑、青の輝点が出る。

- 高度な精密技術で作られている撮像素子（CMOSセンサー）が、宇宙線などの影響を受けると、まれに画面上に小さな輝点（赤、緑、青）ができることがある。これは、撮像素子の原理によるもので、故障ではない。なお、次の場合は画面上に生じる輝点が見えやすくなる。
 - 高温の場所で使用するとき。
 - ISO感度／ゲインが高いとき。
 - シャッタースピードのモードがスローのとき。

画面に通常出ない映像が出て、動画を正しく記録できない。

- 消耗したバッテリーを装着し、ACアダプターをつないで動画記録中に、ACアダプターが抜かれた。または、停電した。ACアダプターを再度つないで本機の電源を入れ直すか、十分に充電したバッテリーと交換する。

動画の「● REC」／「STBY」の切り換えに時間がかかる。

- クリップ数が多いとこのようになることがある。別のカードと入れ換えるか、クリップをバックアップしてカードを初期化する（□ 27）。

動画を正しく記録できない。

- 記録や消去を繰り返すと、このようになることがある。カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する（□ 27）。

長時間使うと熱くなる。

- 長時間使い続けると熱くなることがあるが、そのまま使用しても問題ない。
本機の温度が急激に上昇したり、持てないほど熱くなったときは故障の可能性がある。カメラ修理受付センター（□ 235）にご相談ください。

再生中

クリップの消去ができない。

- OKマークが付加されたXF-AVCクリップは、本機では消去できない。OKマークを消去してからクリップを消去する（□ 132）。
- SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側または  側になっているので、ロックを解除する。

クリップの消去に時間がかかる。

- クリップ数が多いとこのようになることがある。クリップをバックアップしてカードを初期化する（□ 27）。

静止画を消せない。

- SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側または  側になっているので、ロックを解除する。
- 他機でプロテクトされた静止画は、本機では消去できない。

表示やランプ

画面に  (赤色) が出る。

- バッテリーが消耗しているので、十分に充電したバッテリーと交換する。

画面に  が出る。

- 本機と通信できないバッテリーが取り付けられているため、使用可能時間を表示できない。

電源ランプ／タリーランプが点灯しない。

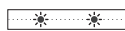
- MENU >  システム設定 > 「電源LED」、「タリーランプ（前面）」、「タリーランプ（背面）」を「入」にする。

電源ランプ／タリーランプが速く点滅する。

 (1秒に4回の点滅)

- バッテリーが消耗している。十分に充電されたバッテリーと交換する。
- カードAとカードBに空き容量がない。別のカードと入れ換えるか、不要なクリップを消す（[133](#)）。
- システムエラーが発生している。電源を入れなおしても解決しないときは、故障の可能性がある。カメラ修理受付センター（[235](#)）にご相談ください。

電源ランプ／タリーランプがゆっくり点滅する。

 (1秒に1回の点滅)

- カードAとカードBの空き容量が少なくなっている。別のカードと入れ換えるか、不要なクリップを消す（[133](#)）。

画面に  （赤色）が出る。

- SDカードエラー。電源を切り、SDカードを出し入れする。それでも赤く点灯しているときは、クリップ／静止画をバックアップしてSDカードを初期化する（[27](#)）。

画面に  （赤色）が出て、記録可能時間に「END」が表示される。

- カードに空き容量がない。別のカードと入れ換えるか、クリップと静止画を消す（[133](#)）。

撮影を中断してもアクセスランプが赤く点灯している。

- 撮影したクリップを記録メディアに書き込んでいる。故障ではない。

画面に （黄色）が出る。

- 本機内部の温度が高くなり一定の温度に達した。そのまま使用しても問題ない。

画面に （赤色）が出る。

- 画面に （黄色）が出ている状態で、さらに内部温度が高くなった。本機の電源を切り、温度が下がるまで使用を中止する。

画面に （赤色）が出る。

- 冷却ファンが故障した可能性がある。数分後に電源が強制的に切れる。カメラ修理受付センター（[235](#)）にご相談ください。

画面に （赤色）が出る。

- USB (HOST)端子に接続した機器の過電流を検知した。接続した機器を取り外し、本機の電源を入れ直す。

画面のNDフィルターの表示が、赤色または「ー」になる。

リモートコントローラー RC-V100のNDフィルターランプが点滅する。

- NDフィルターのユニットが故障した可能性がある。カメラ修理受付センター（[235](#)）にご相談ください。

画面や音

外部モニターに映像が出ない。

- 本機と外部モニターとの接続が正しく行われていない。ケーブルの接続を確認する。
- 外部モニターの設定を、接続した端子に切り換える。

SDI OUT端子に映像と音が出ない。

- **MENU** >  システム設定 > 「SDI出力」が「切」になっている。
- 出力信号に対応する外部モニター／レコーダーを接続する。
- 本機の出力信号に合わせて、外部機器の設定を行う（[134](#)）。
- ケーブルを交換する。

HDMIケーブルで接続しているときに、外部モニター／レコーダーに映像や音が出ない。

- HDMIケーブルを抜き差しするか、本機の電源を入れ直す。
- 出力信号に対応する外部モニター／レコーダーを接続する。
- ケーブルを交換する。

画面に、ピーキング／ゼブラ／WFM／マーカー／フォルスカラーの表示、拡大表示、白黒表示、タリー OSDの表示が行われない。LUT／ビューアシストが適用されない。

- 各設定項目の出力設定を行う。
- 画面表示が出力映像に重畳されていない。画面表示の重畳を「入」にする（ 141）。

画面がついたり消えたりを繰り返す。

- バッテリーが消耗しているので、十分に充電したバッテリーと交換する。
- バッテリーを正しく取り付け直す。

画面に通常出ない文字が出たり、正常に動作しない。

- 電源を取り外し、メモリーカードを取り出す。しばらくしてから電源を取り付けて、メモリーカードを入れる。それでも解決しないときは、**MENU** >  システム設定 > 「リセット」 > 「全設定」を行う。アワーメーター（リセット後の使用時間）を除く本機の設定が初期状態に戻る。

画面にノイズが出る。

- 磁石、モーターの近くや電波塔の近くなど、強い磁気や電波が発生する場所から離れて本機を使用する。

画面に横帯が出る。

- 撮像素子にCMOSセンサーを使用しているため、撮影時の照明によっては横帯が見えることがある。故障ではない。電源の周波数に応じたシャッタースピードを設定すると軽減することがある。電源周波数が50 Hzのときは1/50秒*、または1/100秒を、60 Hzのときは1/60秒、または1/120秒を設定する。
* フレームレートによっては選択できない。

音声が記録されない。

- 記録する入力音声の選択（ 89）が正しく設定されていないか、選択した端子にマイクが接続されていない。
- INPUT 1端子やINPUT 2端子入力を使用するときはXLRコネクターで、MIC（マイク）端子を使用するときはφ3.5mmステレオミニプラグで正しく接続する（ 88）。
- 外部マイクの電源が入っていないか、電池が消耗している。
- INPUT端子にファンタム電源が必要な外部マイクを取り付けたときに、INPUT1 / INPUT 2端子切り換えスイッチを「MIC + 48V」に切り換えていない。
- MIC端子にプラグインパワー対応マイクを取り付けたときに、**MENU** >  オーディオ設定 > 「MIC入力」を「MIC（電源供給有り）」に切り換えていない（ 89）。
- スロー & ファストモーション記録で音声を記録するときは、記録モードを「Slow&Fastモーション/音声(WAV)」にする。

音がひずんだり、実際より小さく記録される。

- 録音レベルが適正でないと、このようになることがある。録音レベルをマニュアルで調整する（ 90）。マイクアッテネーターを使う（ 91）と、録音レベルを小さくすることができる。
- 入力が「LINE」になっている。INPUT端子またはMIC端子の入力切り換えを、マイクのときは「MIC」に、外部音声入力機器のときは「LINE」に設定する（ 88）。
- 録音レベルをマニュアルで調整していて、録音レベルをしぼっている。画面のオーディオレベルメーターで確認しながら適正なレベルに調整する（ 90）。

映像は出るが、内蔵スピーカーから音が出ない。

- スピーカーの音量が「切」になっているので、音量を調整する（ 129）。
- ヘッドホンをはずす。

アクセサリ

メモリーカードが入らない。

- カードは対応するカードスロットにそれぞれ正しい向きで入れる（ 27）。

カードに動画、静止画を記録できない。

- 対応しているカードを確認する (□ 26)。
- はじめて使用するカードは、本機で初期化する (□ 27)。
- カードに空き容量がないか、または記録可能なクリップ数 (999個) を超えた。カードの不要なクリップを消すか (□ 133)、別のカードと入れ換える。
- クリップ番号が最大になった。カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化 (□ 27) するか、クリップをすべて消す (□ 133)。
- SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側または🔒側になっているので、ロックを解除する。
- MP4クリップ／静止画に付けられるファイル番号が最大になったため、カードに記録できない。新しいSDカードを入れて、**MENU** > 📁 記録/メディア設定 > 「MP4クリップ／静止画番号方式」を「オートリセット」にする (□ 183)。

カードへの書き込み／読み出しが遅くなった。

- 記録や消去を繰り返すとこのようになることがある。カードに記録されているデータをバックアップしたあと、カードを初期化する (□ 27)。

リモートコントローラー RC-V100または市販のリモコンが動作しない。

- **MENU** > ⚙️ システム設定 > 「REMOTE端子」を、RC-V100のときは「RC-V100 (REMOTE B)」または「RC-V100 (REMOTE A)」に、市販のリモコンのときは「スタンダード」に設定する (□ 106)。
- 本機の電源を切ってリモコンを再接続したあと、本機の電源を入れる。
- 選択しているカスタムピクチャーファイルがプロテクトされていると、RC-V100からカスタムピクチャーの設定を調整できない。プロテクトを解除する。

他機

テレビの放送画面にノイズが出る。

- テレビの近くで使用するときは、テレビやアンテナケーブルからACアダプターを離す。

ネットワーク接続

ネットワーク接続に関するトラブルについては、ここで説明する内容をご確認ください。お使いのネットワーク機器の説明書も併せてご覧ください。

はじめに確認してください

- アクセスポイントやパソコンなどのネットワーク機器と本機の電源は入っていますか？
- ネットワークの設定が完了し、正しく動作していますか？
- パソコンなどのネットワーク機器は、本機と同じネットワークに正しく接続していますか？
- Wi-Fi接続の場合、本機をアクセスポイントまたはパソコンなどWi-Fi対応機器から見通しの良い場所に置いてありますか？

アクセスポイントに接続できない。

カメラアクセスポイントで、本機に接続できない。

- 接続方式アイコン*が黄色から白色に変わらないときは、本機の電源を入れなおす。
* アクセスポイントのときは 📶、カメラアクセスポイントのときは 📷。
- アクセスポイントに接続するときは、接続しようとしているネットワーク機器の設定が正しいか確認する。
- 本機的全設定をリセットすると、ネットワーク設定が解除される。初期設定で接続するか、再度設定を行う。
- 電波状況が悪いが、周囲の電子機器と電波が干渉している可能性がある。「Wi-Fi接続の注意点とトラブル対処方法」を参考に対応する (□ 209)。

イーサネットに接続できない。

- イーサネットケーブルには、カテゴリ 5e以上のSTPケーブルを使用する。
- 別のイーサネットケーブルで接続する。
- 本機の全設定をリセットすると、ネットワーク設定が解除される。
- 本機と接続しているネットワーク機器が正しく動作しているか確認する。1000BASE-Tで通信するときはギガビットに対応したネットワーク機器を使用する

ブラウザーリモートが起動できない。

- ブラウザーリモートで設定した接続設定を選んで接続する。
- ネットワーク機器のWebブラウザーに入力したURLが間違っている。**MENU** >  ネットワーク設定 > 「接続設定」 > 使用する接続設定 > 「設定内容確認」を選んで、表示されているIPアドレスを入力する (p.170)。

ネットワーク機器のWebブラウザーで、ブラウザーリモートの画面が正しく表示されない。

- ブラウザーリモートが対応していないOSやWebブラウザーを使用した。キャノンのホームページで動作環境を確認する。
- Webブラウザーの設定で、CookieとJavaScriptが無効になっているときは、有効にする。

IPストリーミングが実行できない。

- 手順に従ってIPストリーミングを開始する (p.169)。
- IPストリーミングのプロトコルが「RTSP+RTP」以外の場合は、「送信先サーバー」を設定する。
- 次の場合はIPストリーミングを使用できない。設定を確認する。
 - スロー & ファストモーション記録、ブレ記録、常時記録、フレーム記録、インターバル記録、2スロット記録機能を設定しているとき。
 - メイン動画の記録形式にMP4(HEVC)形式を設定しているとき。
 - 本機をWebカメラとして使用しているとき。

スマートフォンと接続できない。

- スマートフォンを本機と同じネットワークに接続していないときは、同じネットワークに接続する。
- スマートフォンのテザリング（インターネット共有）が無効になっているときは、有効にする。

XCプロトコル対応のリモートカメラコントローラー／リモートカメラコントロールアプリ／Multi-Camera Controlに接続できない。

- XCプロトコルで設定した接続設定を選んで接続する。
- リモートカメラコントローラー／リモートカメラコントロールアプリ／Multi-Camera Controlの設定を確認する。

Wi-Fi接続の注意点とトラブル対処方法

ここでは、Wi-Fi接続に関する注意点と、トラブル発生時の一般的な対応方法を説明します。Wi-Fiを使用しているときに「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときには、以下の例を参考に対応してください。

ネットワーク機器（アクセスポイント／携帯端末）の設置のしかたについて

- Wi-Fiを室内で使用するときは、本機とネットワーク機器を同じ部屋に設置してください。
- 本機とネットワーク機器の間に人や遮蔽物が入らない、見通しの良い場所に設置してください。
- 本機とネットワーク機器をできるだけ近付けて設置してください。必要に応じて、設置する高さや向きを変えてください。

周囲の電子機器について

- 周囲にある電子機器の影響（電波の干渉）で通信速度が遅くなるときは、5 GHz帯の電波を使用するか、チャンネルを変更すると、問題を解消できることがあります。
- IEEE 802.11b/g/nのWi-Fiでは、電子レンジやコードレス電話機、ワイヤレスマイク、Bluetooth機器などと同じ2.4 GHz帯の電波を使用します。このため、周囲にこれらの機器があると通信速度が遅くなります。
- 本機と同じ周波数帯を使用するアクセスポイントが近くで稼働していると、通信速度が遅くなります。

本機やアクセスポイントを複数台使用するとき

- 同一ネットワーク内の機器のIPアドレスが重複しないようにしてください。
- 同じアクセスポイントに本機を2台以上接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b / gまたはIEEE 802.11n（2.4 GHz帯）のアクセスポイントを複数台使用するときは、電波干渉を少なくするため、Wi-Fiのチャンネルの間隔を、「1、6、11」、「2、7、12」、「3、8、13」のように4チャンネル分空けてください。5 GHz帯の電波を使用するIEEE 802.11a / n / acが使用可能なときは、IEEE 802.11a / n / acに切り換え、異なるチャンネルを設定してください。その際、Wi-Fiのチャンネルの間隔は、使用する電波や帯域幅に応じて、必要なチャンネル分空けてください。

例：IEEE 802.11acの場合、VHT80のときは8チャンネル分空ける。

エラーメッセージ

本機の画面にメッセージが出たときは、次のような対処をしてください。なお、メッセージ中に、「SDカードA」、「SDカードB」、「SDカード」などが表示されることがあります。これは、エラーが発生した記録メディアを表わします。

空き容量がありません

- カードに空き容量がない。別のカードと入れ換えるか、不要なクリップを消す（ 133）。
- カードA（カードB）に空き容量がないため記録を開始できない。もう一方のスロットに切り換えてから撮影する。

空き容量がわずかです

- 以下の空き容量不足が発生した。別のカードと入れ換えるか、不要なクリップを消す（ 133）。
- 通常記録で記録中に、カードの空き容量が少なくなっている。
- リレー記録で記録中に、カードAとカードBを合わせた空き容量が少なくなっている。
- サブ記録、ダブルスロット記録で記録中に、カードAとカードBのうち、記録容量の少ないカードの空き容量がわずかになっている。
- プロキシ記録で記録中に、カードA（メイン動画）の空き容量が少なくなった。または、カードB（プロキシ動画）のみ記録中にカードBの空き容量が少なくなった。
- 音声記録で記録中に、カードA（メイン動画）の空き容量が少なくなった。または、カードB（音声）の記録中にカードBの空き容量が少なくなった。
- 常時記録で記録中に、カードBの空き容量が少なくなっている。

アクセス中です

取り出さないでください

- カードに記録中にカードカバーを開けた。記録を停止してからカードを取り出す。

以下の設定が更新されました

-  記録/メディア設定メニューの変更に伴い、画面に表示されたメニュー項目が自動的に変更された。設定を確認する。

エラーが発生しました

電源を入れなおしてください

- エラーが発生した。本機の電源を入れ直す。それでも解決しないときは、エラーメッセージが表示されている状態で、MENUボタンを押しながら、本機の電源を切る。アワーマーターを除く本機の設定が初期化されるので、再度電源を入れる。

カードの誤消去防止ツマミを確認してください

- SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側または側になっているため、カードに書き込めない。誤消去防止ツマミを反対側にする。

カードを確認してください

- カードにアクセスできない。カードが正しく入っているときはカードをいったん取り出し、カードに不具合がないか確認したあと、再度入れ直す。
- カードにエラーがあり記録や再生ができない。カードを出し入れするか、別のカードと入れ換える。
- マルチメディアカードを入れた。推奨のSDカードを入れる（ 26）。
- 「カードを確認してください」が4秒後に消えて、が赤く点灯するときは、電源を切り、カードを出し入れする。、が緑色に点灯すれば、そのまま記録や再生ができる。それでも赤く点灯しているときは、動画と静止画をバックアップして初期化する（ 27）。

画像がありません

- SDカードに静止画が記録されていない。静止画を記録してから再生する。

カバーがあいています

- カメラモードに切り換えたときに、メモリーカードカバーが開いていた。カードを入れたらカードカバーを閉じる。

管理ファイルエラー

- クリップの管理情報に書き込みできないため、記録できない。他の機器でカード内のファイルを操作すると、このようになることがある。カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する（ 27）。

記録を中止しました

- クリップの管理情報が壊れた^{*1}か、またはエンコーダーにエラーが発生したため、記録できない。電源を入れなおしてカードを出し入れするか、別のカードと入れ換える。それでも解決しないときは、カメラ修理受付センター（☎ 235）にご相談ください。

クリップがありません

- カードにクリップが記録されていない。クリップを記録してから再生する。

クリップ数がいっぱいです

- 記録中のカードがクリップ数の上限（999個）に達した。もう一方のスロットに切り換えるか、別のカードと入れ換える。
- ダブルスロット記録時に、両カードのクリップ数がいっぱいでは記録できない。

現在の動画記録設定に対応していないカードです

- ビデオスピードクラスがV90未満のカードが入っているときに、下記のいずれかの記録設定にした。V90のカードに入れ換える。
 - スロー & ファストモーション記録モードにして、スロー記録になる撮影フレームレートを選んだ。
 - 記録形式をXF-AVC YCC 422 10bitにして、解像度を3840x2160 Intra-frame、フレームレートを59.94 P / 50.00 Pにした。
- ビデオスピードクラスがV60未満のカードが入っているときに、下記のいずれかの記録設定にした。V60またはV90のカードに入れ換える。
 - 記録形式をXF-AVC YCC422 10 bitにして、解像度を3840x2160 Intra-frame、フレームレートを59.94 P / 50.00 P以外にした。
 - 記録形式をXF-AVC YCC422 10 bitにして、解像度を3840x2160 L.GOPまたは1920x1080 Intra-frameにした。
 - 記録形式をMP4(HEVC)YCC422 10 bitにして、解像度を3840x2160にした。

現在のGamma/Color Space設定では「メイン記録形式」を10 bitに設定することをお勧めします

- メイン記録形式のビット数が8 bitのときに、カスタムピクチャーの「Gamma/Color Space」に色空間が「C.Gamut」または「BT.2020」の項目を設定した。またはその逆。設定したGamma/Color Spaceの特性を生かすには、ビット数を10 bitにすることをおすすめします。

このカードでは動画記録できないことがあります

- 本機で使用する条件を満たさないカードを入れた。「使用可能な記録メディア」を確認する（☎ 26）。

この設定を変更すると、現在のLook Fileを使用できません

- カスタムピクチャーの「Gamma/Color Space」、[HLG Color]、[Over 100%] が、Lookファイルを登録したときの設定から変更されたため、Lookファイルによる画質調整を有効にできない。前記の設定をLookファイル登録時の設定に戻すか、Lookファイルを登録し直す。

再生できない画像です

- 他機で記録したり、パソコンで作成や加工をしたりした静止画は再生できないことがある。

再生できません

- XF-AVCクリップの管理情報が壊れた^{*1}か、またはデコーダーにエラーが発生したため、再生できない。電源を入れなおしてカードを出し入れする。それでも解決しないときは、カメラ修理受付センター（☎ 235）にご相談ください。
- メモリーカードの読み出し速度が遅いため、再生を中断した。記録／再生には推奨のカードを使用する。

修復が必要なクリップがあります

- 記録中に停電したり、記録中にカードを取り外したりしたことにより、クリップに異常が発生した。クリップを修復する（☎ 29）。

修復が必要なWAVファイルがあります

- 記録中に停電したり、記録中にカードを取り出したりしたことにより、音声ファイル（WAV）に異常が発生した。音声ファイルを修復する（☎ 29）。

ズーム駆動音が記録されることがあります

- ❶ カメラ設定メニュー > 「ズームスピードレベル」を「ハイ」にしてズーム操作を行うと、レンズの動作音が記録されることがある。レンズの動作音を記録したくないときは、ズーム速度を遅くする（☎ 67）。

^{*1} 破損した管理情報は修復できません。また、管理情報が破損したカードやXF-AVCクリップを、ソフトウェア（Canon XF Utility）で読み込むことはできません。

赤外撮影 入／切が切り換わりました**フォーカスを確認してください**

- INFRARED（赤外撮影）切り換えスイッチを切り換えると、ピントがずれることがある。フォーカスを確認する。

操作は無効です

- 次にあげる無効な操作を行った。
 - メディアモードで再生中、同じフレームにショットマークを付加しようとした。
 - OKマーク、チェックマークを同じクリップに付加しようとした。
 - 記録メディアが入っていないときに、RECボタンを押した。

データの確認と初期化をお勧めします

- 次の理由によりカードを使用できない。カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する（□ 27）。
 - カードに異常があるため、記録・再生できない。
 - カードの情報が取得できない。
 - パソコンなど他の機器で初期化されている。
 - カード内にパーティションが設定されている。

電圧が低下しました**電源を確認してください**

- 電源（DC IN端子）の入力電圧／残量（%）が、電源警告の設定値に達した（□ 191）。電源を確認する。
- 電源が上記の状態のときに、RECボタンを押した。

バッテリー通信エラー**ご使用のバッテリーにCanonロゴはありますか？**

- キヤノンの推奨以外のバッテリーを取り付けて、電源を入れた。
- キヤノン推奨のバッテリーを使用している場合は、カメラ本体またはバッテリーの故障の可能性がある。カメラ修理受付センター（□ 235）にご相談ください。

バッファオーバーです**記録を中止しました**

- メモリーカードの書き込み速度が遅いため、記録を中断した。推奨のカードを入れる。
- 記録メディアに記録されているクリップをバックアップしたあと、記録メディアを初期化する（□ 27）。

ファイル名が作成できません

- XF-AVCクリップのクリップ番号またはMP4クリップ／静止画番号が最大になった。撮影データをバックアップしてカードを初期化するか（□ 27）、撮影データをすべて消す（□ 133）。

ファンエラー

- 冷却ファンが故障した可能性がある。数分後に電源が強制的に切れる。カメラ修理受付センター（□ 235）にご相談ください。

50.00 Hz（59.94 Hz）で記録されています**データの確認と初期化をお勧めします**

- カード内のクリップが異なるシステム周波数または動画形式で記録されている。このカードに記録するときは、カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する（□ 27）。XF-AVCクリップを再生するときは、本機のシステム周波数を、記録されているクリップと同じにする。

60分を超えたので、WAV記録を停止します

- 60分を超えたため、音声（WAV）記録を停止した。動画は記録は継続する。

SDカードA→SDカードB（SDカードB→SDカードA）切り換えました

- リレー記録またはスロット切り換え操作（SLOT SELECTボタンを押す）により、記録先が切り換わった。

SDカードA→SDカードB（SDカードB→SDカードA）まもなく切り換えます

- 選択しているカードの空き容量が少なくなったため、リレー記録によって、約1分後に記録先スロットが切り換わる。

SDスロット切り換えできません

- 撮影中など、カードスロットの切り換えができないときにSLOT SELECT（スロット選択）ボタンを押した。撮影終了後にスロットを切り換える。

Shot Mark数オーバー

- ショットマーク数が最大の100個になったため、付加できない。

WAVファイルがありません

- SDカードにWAVファイルが記録されていない。WAVファイルを記録してから再生する。

ネットワーク機能使用時

アクセスポイントからの応答がありません

- アクセスポイントが正しく動作しているか確認する。
- 「Wi-Fi接続の注意点とトラブル対処方法」を参考に対応する（ 209）。

アクセスポイントに接続できません

- 本機とアクセスポイントの暗号化方式が異なる。本機をアクセスポイントの設定に合わせる。

アクセスポイントに接続できませんでした

始めからやり直してください

- WPS（プッシュボタン方式）で接続するときは、あらかじめアクセスポイントの説明書をご覧になり、アクセスポイントがWPS起動状態になるまで、WPSのボタンを押してください。

イーサネットの接続が切れました

- イーサネットで接続時に、イーサネットケーブルが接続されていなかった。本機またはネットワーク機器のイーサネット端子にケーブルが接続されていることを確認する。
- ハブ、ルーターやサーバーの電源が入っていて正常に動作しているか確認する。

カメラの温度が上昇したため

ネットワーク接続を切断しました

- カメラ内部の温度上昇により、ネットワークが切断された。本機の電源を切り、温度が下がるまで使用を中止する。

接続先が見つかりません

- Content Transfer Mobileを起動しているか確認する。
- スマートフォンを本機と同じネットワークに接続しているか確認する。

選択したSSIDのWi-Fiネットワークが見つかりません

- アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDを本機に設定する。
- アクセスポイントが正常に動作しているか確認して、もう一度接続を行う。

データセッションに対し、FTPサーバーからエラーが通知されました

- FTPサーバーが接続を切断した。FTPサーバーを再起動する。
- FTPサーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にする。
- FTPサーバーにある保存先フォルダーのアクセス権を設定する。
- FTPサーバーは、電源が入っていて正常に動作しているか確認する。
- 記憶装置（ハードディスクなど）に空き容量があるか確認する。

転送先サーバーとの接続の安全性を確認できません

このサーバーを信頼して接続する場合は、「転送先サーバーを信頼」を「する」に設定してください

- 証明書が正しく設定されているか確認する。
- 証明書設定に関わらず、このサーバーを信頼して接続する場合は、「転送先サーバーを信頼」を「する」に設定する。

ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します

- 本機と同じIPアドレスの機器が、同一ネットワーク内にあった。IPアドレスが重複している他機または本機のIPアドレスを変更する。
- DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、本機のIPアドレスが「手動設定」になっているときは、IPアドレスを「自動設定」にする。

配信エラーが発生しました

- SRTプロトコルのCallerモードのときに、デコーダーまたはパソコンとの接続に失敗した。デコーダーまたはパソコンを受信の待機状態にしてから、再度、ネットワーク設定メニューの「IPストリーミング実行」を「する」に設定する（ 169）。

複数のアクセスポイントを検出したため、接続できませんでした

始めからやり直してください

- 他のWi-Fi機器がWPSのプッシュボタン方式で接続を行っている。しばらくしてから操作するか、「WPS(PIN方式)」など他の接続方法で接続してください。

ほかの機器が、同じIPアドレスを設定しました

- 本機と同じIPアドレスの機器が、同一ネットワーク内にあった。IPアドレスが重複している他機または本機のIPアドレスを変更する。

A user with the same login name is already accessing the camera.

- ネットワーク機器の画面に表示される。
- 他のネットワーク機器が、すでに本機に接続している。他機の接続を解除する。

DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

- 本機の設定がIPアドレス「自動設定」になっている。DHCPサーバーを使用していない場合は、本機をIPアドレス「手動設定」にして設定を行う。
- DHCPサーバーを確認する。
 - DHCPサーバーは、電源が入っていて正常に動作しているか。
 - DHCPサーバーに割り当てられるアドレスに余裕はあるか。
- ネットワーク全体を確認する。
 - 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていないか。
 - 本機を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定する。
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容を本機に設定する。

DNSサーバーから応答がありません

- 本機の設定がDNSアドレス「手動設定」になっている。DNSサーバーを使用していない場合は、本機をDNSアドレス「使わない」にして設定を行う。
- 使用するDNSサーバーと同じIPアドレスを本機に設定する。
- DNSサーバーを確認する。
 - DNSサーバーは、電源が入っていて正常に動作しているか。
 - DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定する。
- ネットワーク全体を確認する。
 - 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていないか。
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容を本機に設定する。
 - 本機を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定する。

FTPサーバーから接続を拒否されました

- FTPサーバーが、特定のIPアドレスのみ接続を許可する設定になっている。「設定内容確認」で本機のIPアドレスを確認して、FTPサーバーの設定を変更する。

FTPサーバーから切断できません

サーバーからエラーが通知されました

- FTPサーバーに対する接続解除が、何らかの理由でうまくいかなかった。FTPサーバーとカメラの電源を入れなおす。

FTPサーバーから、ファイルの転送完了通知がありませんでした

- FTPサーバーからの転送完了通知を、何らかの理由で受けられなかった。FTPサーバーと本機の電源を入れ直し、再度FTP転送を行う。

FTPサーバーに接続できません

- FTPサーバーと同じIPアドレスを本機に設定する。
- 暗号化の認証方式が「オープン」の設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになる。大文字、小文字も確認し、正しい認証用の暗号キーを本機に設定する。
- ポート番号は通常21（SFTPのときは22）で、本機とFTPサーバーとも同じポート番号を設定する。FTPサーバーのポート番号を本機に設定する。
- 設定したFTPサーバーのサーバー名が、DNSサーバーに正しく設定されているか確認する。また、使用するFTPサーバーのサーバー名が、本機に間違いなく設定されているか確認する。
- FTPサーバーを確認する。
 - FTPサーバーは、電源が入っていて正常に動作しているか。
 - FTPサーバーに設定しているIPアドレスと、本機に設定しているFTPサーバーのIPアドレスを、同じ設定にする。
 - セキュリティソフトウェアやブロードバンドルーターによっては、ファイアウォールでFTPサーバーへの接続制限をかけている可能性がある。ファイアウォールの設定を変更して、FTPサーバーに接続できるようにする。
 - 本機の設定で「パッシブモード」を「使う」にすると、FTPサーバーに接続できる場合がある。
 - ネットワーク管理者がいるときは、FTPサーバーのアドレスとポート番号を聞いて、その内容を本機に設定する。
- ネットワーク全体を確認する。
 - 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていないか。
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容を本機に設定する。
 - 本機を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定する。

FTPサーバーに接続できません

サーバーからエラーが通知されました

- FTPサーバーで設定している最大接続数を超えて接続している。FTPサーバーに接続しているネットワーク機器を少なくするか、FTPサーバーの設定で最大接続数を増やす。

FTPサーバーにログインできません

サーバーからエラーが通知されました

- FTPサーバーにログインできなかった。本機のFTPサーバーの「ユーザー名」と「パスワード」を確認する。
- FTPサーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にする。
- フォルダー名をASCII文字で構成する。

Wi-Fiの暗号化方式が違います

- 本機とアクセスポイントの認証／暗号化方式が異なる。本機をアクセスポイントの設定に合わせる。

Wi-Fiの接続が切れました

- アクセスポイントなどのネットワーク機器に接続できなかった。
- コードレス電話機、電子レンジ、冷蔵庫などからの電波と干渉することがある。これらの機器から離れた場所で本機を操作する。

Wi-Fiの認証ができませんでした

- 本機とアクセスポイントの認証方式、認証用の暗号キーが異なる。本機をアクセスポイントの設定に合わせる。

Wi-Fiのパスワードが違います

- 正しい認証用の暗号キーを本機とアクセスポイントに設定する。

取り扱い上のご注意

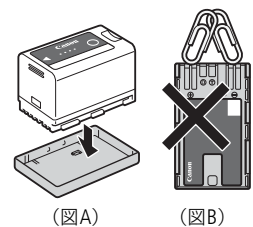
ここでは本機や電源とメモリーカードなどを取り扱うときに注意していただきたいことや、カメラ本体の日常のお手入れについて説明しています。

カメラ本体

- ホコリ・砂・水・泥・塩分の多い場所で使用・保管しないでください。本機は防水・防じん構造になっていませんので、これらが内部に入ると故障の原因となります。レンズにホコリや砂が付くのを防ぐため、使用後は、ホコリなどの少ない場所でレンズフードを外してレンズキャップを取り付けてください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布で、よくふき取ってください。万一、本機が水に濡れてしまったときは、早めにカメラ修理受付センター（☎ 235）にご相談ください。
- 磁石、モーターの近くや電波塔の近くなど、強い磁気や電波が発生する場所での使用は避けてください。映像や音声 が乱れたり、ノイズが入ったりすることがあります。
- カメラやファインダーを強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子などの 内部の部品が損傷する恐れがあります。特に三脚を使用しているときや本機を持ち運ぶときは、本体の角度を変えて 直射日光などが入らないようにしてください。本機を使用しないときは、レンズフードを外して、レンズキャップを 取り付けてください。ファインダーを使用しないときは、ファインダーキャップを取り付けてください。
- LCDモニターをつかんでもちあげたり、正しい位置に戻さないで無理に収納したりしないでください。LCDモニターの 接合部が破損することがあります。
- LCDモニターの画面を強くタッチしないでください。画面の表示がムラになったり、LCDモニターの接合部が破損した りすることがあります。
- 画面に保護シートなどを貼らないでください。静電容量方式のタッチパネルのため、正しく動作しなくなることがあ ります。
- 製品を長期間で使用にならない場合は、ホコリが少なく、湿度の低い、30℃以下の場所に保管してください。

バッテリー

- バッテリーと本体端子（充電器の端子）の間に異物が入り込まないようにしてください。 接触不良、ショート、破損の原因となります。バッテリーの端子は、乾いた布または綿 棒などで定期的に清掃してください。
- バッテリーを持ち運ぶときや保管するときは、必ず端子カバーを取り付けてください（図A）。金属などでショートすると高熱や液漏れ、破損の原因となります（図B）。
- バッテリーを使い切ってからフル充電してください。バッテリーを高温下で長時間使っ たり、フル充電後に放置したりすると、正しく表示されないことがあります。また、使 用回数が多いバッテリーも正しく表示されないことがあります。なお、表示は目安とし てご使用ください。



使用時間を長くするコツ

こまめに電源を切り、10℃～30℃のところで使用すると、長く使えます。スキー場などでバッテリーが冷たくなると、一時的に使用時間が短くなりますので、ポケットなどに入れて温めてから使用すると効果的です。

長い間保管するとき

- バッテリーの消耗を防ぐため本体から取り外し、乾燥した30℃以下のところで保管してください。
- バッテリーの劣化を防ぐため、画面に「バッテリーパックを取り換えてください」が表示されるまで使い切っ たら、保管してください。
- 1年に1回程度、充電完了まで充電してから使い切ってください。

- ショート防止用端子カバーには□の穴があり、バッテリーに取り付けるときの向きによって□の穴から見える色 が異なります。これを利用して端子カバーを取り付ければ、充電済みバッテリーを見分けることができます。
- 海外でも付属のバッテリーチャージャーやコンパクトパワーアダプター（AC100～240V 50/60Hzまでの電源に対応） を使用できます。お使いになる国のコンセント形状にあった変換プラグを使用してください。

- バッテリーチャージャーやコンパクトパワーアダプターを変圧器に接続しないでください。故障するおそれがあります。

メモリーカード

- カメラ本体／メモリーカードの故障や静電気などによるデータの損傷・消失に備えて、データはパソコンなどにバックアップしてください。なお、データ損傷および消失については、当社では一切の責任を負いかねます。
- 端子に触れないでください。汚れが付着し、接触不良の原因となります。
- 強い磁気が発生する場所で使わないでください。
- 高温・多湿の場所に放置しないでください。
- シールを貼らないでください。シールが差し込み口につまるおそれがあります。
- 落とす、ぬらす、強い衝撃を与えるなどしないでください。分解は絶対にしないでください。
- メモリーカードに記録されたデータは、消去や初期化をしても、ファイル管理情報が変更されるだけで、完全には消えません。譲渡・廃棄するときは、データを復元できないように、一度メモリーカードの初期化（□□ 27）を行った後、本機にボディキャップを取り付けて最後まで撮影し、再度初期化を行います。これによって、情報漏洩を防いでください。

充電式内蔵電池

本機には充電式のリチウム電池が内蔵されており、日付などの設定を保持しています。この電池は本機を使用中、自動的に充電されますが、約3か月間使わないと完全に放電してしまいます。充電式リチウム電池を充電するときは、本機の電源を切り、電源（バッテリーまたはDC IN端子）を取り付けてください。約24時間で充電できます。

その他

結露について

室温が高いとき、冷水の入ったコップの表面に水滴がつくことがあります。この現象を結露といいます。本機が結露した場合、そのままの状態ですると故障の原因になりますので注意してください。なお、次のような条件のときに結露が発生しやすくなります。

- 寒い所から急に暖かい所に移動したとき
- 湿度の高い部屋の中
- 夏季、冷房のきいた部屋から急に温度や湿度の高い所に移動したとき

結露したらどうする？

周囲の環境によって多少異なりますが、水滴が消えるまで約2時間程度放置してください。

温度差のある場所へ移動するときは

バッテリーを取り外し、メモリーカードを取り出して、本機をビニール袋に空気がはいらないように入れて密閉します。移動先の温度になじんだら袋から取り出します。

日常のお手入れ

大切なカメラをより長くお使いいただくために、日常のお手入れには十分注意してください。

カメラ本体

製品の汚れは乾いたやわらかい布で軽くふいてください。化学ぞうきんやシンナーなどの使用は、製品を傷めることがあるのでおやめください。

レンズ

レンズは常にきれいに保つようにしてください。レンズにホコリや汚れがついたときは、最初にブローアーで表面のゴミ、ホコリを取り除き、それから汚れをふき取るようにしてください。

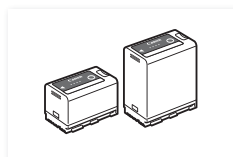
LCDモニター

- 汚れたときは市販の眼鏡クリーナー（布製）などで拭いてください。
- 温度差の激しいところでは、画面に水滴がつくことがあります。柔らかい乾いた布で拭いてください。

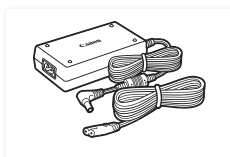
アクセサリ紹介

本機に対応する別売アクセサリは次のとおりです。別売アクセサリについては、各アクセサリの説明書や「XF/XAシステム拡張ユーザーガイド」(PDFファイル) *も併せてご覧ください。

* キヤノンのホームページからダウンロード可能。



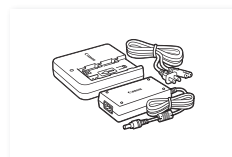
バッテリーパック
BP-A30*1、BP-A60*1



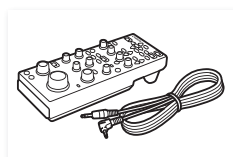
コンパクトパワーアダプター
CA-CP200 L



バッテリーチャージャー
CG-A10



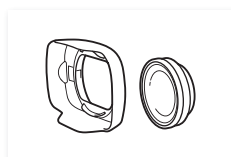
バッテリーチャージャー CG-A20と
コンパクトパワーアダプター
CA-CP200 B (CG-A20用)



リモートコントローラー
RC-V100



テレコンバーター
TL-U58



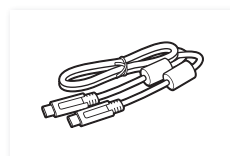
ワイドアタッチメント
WA-U58



GPSレシーバー GP-E2*2



PROTECTフィルター 58mm、
ND4Lフィルター 58mm、
ND8Lフィルター 58mm



インターフェースケーブル
IFC-100U



インターフェースケーブル
IFC-40AB III / IFC-150AB III



リモートカメラコントローラー
RC-IP100



リモートカメラコントローラー
RC-IP1000

*1 このバッテリーパックは、カメラと通信することにより、バッテリー残量を分単位（目安）で確認できるインテリジェントリチウムイオンバッテリーです。

*2 本機とケーブルで接続するときは、別売のインターフェースケーブル IFC-40AB IIIまたはIFC-150AB IIIが必要です。

ご注意

アクセサリはキヤノン純正品のご使用をおすすめします。

このカメラでキヤノン純正以外のバッテリーをお使いになると、「バッテリー通信エラー」のメッセージが表示され、所定の操作が必要となります。なお、純正以外のバッテリーに起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。



このマークは、キヤノンのビデオ関連商品の純正マークです。キヤノンのビデオ機器をお求めの際は、同じマークもしくはキヤノンビデオ関連商品をおすすめします。

主な仕様

XF605本体

システム

- 記録方式

動画：

XF-AVC

映像圧縮方法：MPEG-4 AVC / H.264

音声記録方式：リニアPCM、24 bit、48 kHz、4 ch

ファイルフォーマット：MXF

MP4

映像圧縮方法：H.265 / HEVC、MPEG-4 AVC / H.264

音声記録方式：リニアPCM、16 bit、48 kHz、4 ch

MPEG-2 AAC-LC、16 bit、48 kHz、2 ch

ファイルフォーマット：MP4

WAV

音声記録方式：スロー & ファストモーション記録時の音声ファイル

リニアPCM、24 bit、48 kHz、4 ch

2スロット記録機能の音声記録時の音声ファイル

リニアPCM、16 bit、8 kHz、1 ch

ファイルフォーマット：BWF

静止画：DCF準拠、Exif Ver2.31準拠、静止画圧縮方法：JPEG

- 記録／再生信号形式

メイン動画：

XF-AVC

ビットレート：600 Mbps、500 Mbps、410 Mbps、310 Mbps、300 Mbps、250 Mbps、240 Mbps、
160 Mbps / Intra-frame

260 Mbps、160 Mbps、50 Mbps、25 Mbps、24 Mbps / Long GOP

解像度：3840×2160、1920×1080、1280×720

カラーサンプリング：4:2:2 10 bit

フレームレート：59.94P、59.94i、50.00P、50.00i、29.97P、23.98P、25.00P

MP4

ビットレート：225 Mbps、170 Mbps、150 Mbps、135 Mbps、100 Mbps、50 Mbps、35 Mbps、
12 Mbps、9 Mbps、8 Mbps / Long GOP

解像度：3840×2160、1920×1080、1280×720

カラーサンプリング：4:2:2 10 bit、4:2:0 10 bit、4:2:0 8 bit

フレームレート：59.94P、50.00P、29.97P、23.98P、25.00P

サブ動画：

XF-AVC

ビットレート：310 Mbps、300 Mbps、250 Mbps、240 Mbps、160 Mbps / Intra-frame
160 Mbps、50 Mbps、24 Mbps / Long GOP

解像度：3840×2160、1920×1080、1280×720

カラーサンプリング：4:2:2 10 bit

フレームレート：59.94P、59.94i、50.00P、50.00i、29.97P、23.98P、25.00P

MP4

ビットレート：150 Mbps、100 Mbps、50 Mbps、35 Mbps、12 Mbps、9 Mbps、8 Mbps / Long GOP

解像度：3840×2160、1920×1080、1280×720

カラーサンプリング：4:2:2 10 bit、4:2:0 10 bit、4:2:0 8 bit

フレームレート：59.94P、50.00P、29.97P、23.98P、25.00P

プロキシ動画：

XF-AVC

ビットレート：35 Mbps、24 Mbps、17 Mbps / Long GOP

解像度：1920×1080、1280×720

カラーサンプリング：4:2:0 8 bit

MP4 フレームレート：59.94P、59.94i、50.00P、50.00i、29.97P、23.98P、25.00P

ビットレート：16 Mbps、9 Mbps、6 Mbps、4 Mbps / Long GOP
解像度：1920x1080、1280x720
カラーサンプリング：4:2:0 8 bit
フレームレート：59.94P、50.00P、29.97P、23.98P、25.00P

チャンク動画：

MP4
ビットレート：16 Mbps / Long GOP
解像度：1920x1080
カラーサンプリング：4:2:0 8 bit
フレームレート：59.94P、50.00P

- **記録メディア**

SD / SDHC / SDXCメモリーカード

- **撮像素子**

1.0型 CMOS（単板）
有効画素：約829万画素（3840x2160）

- **LCDモニター**

カラー液晶（3.5型、約276万ドット、視野率100%）、静電容量方式タッチパネル
ビューアシスト（ガンマ：BT.709 Wide DR相当／CMT 709相当／独自、色空間：BT.709相当）
アシスト表示（画面表示、ピーキング、ゼブラ、拡大表示、白黒表示、WFM機能、フォルスカラー）

- **ファインダー**

ワイドカラー有機ELファインダー（0.36型、約177万ドット、視野率100%）
ビューアシスト（ガンマ：BT.709 Wide DR相当／CMT 709相当／独自、色空間：BT.709相当）
アシスト表示（画面表示、ピーキング、ゼブラ、拡大表示、白黒表示、WFM機能、フォルスカラー）

- **レンズ**

f=8.3 - 124.5 mm F=2.8 - 4.5 光学15倍ズーム 9枚羽根虹彩絞り
35 mmフィルム換算時の焦点距離：
約25.5 - 382.5mm（ダイナミックIS 設定時以外）
約28.3 - 424.6mm（ダイナミックIS 設定時）

- **レンズ構成**

14群18枚（非球面2枚）

- **フィルター径**

58mm

- **最短撮影距離**

ワイド端1cm、ズーム全域60cm

- **シャッタースピード**

オート、スピード（1/3段ステップ、1/4段ステップ）、アングル、クリアスキャン、スロー、切

- **アイリス**

マニュアル、プッシュオートアイリス、オートアイリス
ステップ（1/3段、1/4段、ファイン）

- **ISO感度／ゲイン**

オート、マニュアル
ISO感度
200～12800
ゲイン
-6 dB～21.0 dB

- **NDフィルター**

内蔵（OFF、1/4、1/16、1/64）、電動式

- **露出**

AEシフト、測光方式（スタンダード、スポットライト、バックライト）

- **ホワイトバランス**

セットA、セットB、プリセット設定（太陽光 約5600K、電球 約3200K）*、色温度設定（2000K～15000K）、
AWB * 色温度は目安です。
色温度（K）／色補正値（CC）による微調整（ホワイトバランスセット、AWB以外）

- **フォーカス**
調整方法：マニュアル、AFブーストMF、コンティニュアスAF、顔検出AF、追尾AF方式：デュアルピクセルCMOS AF、コントラストAF
- **手ブレ補正**
光学式+電子補正（スタンダードIS、ダイナミックIS、パワードIS）
- **感度**
59.94 Hz F12（59.94P時）
50.00 Hz F13（50.00P時）
いずれも2000ルクス、反射率 89.9%、高感度モード「入」時。
- **赤外撮影**
赤外撮影可、赤外ライトあり
- **Wi-Fi**
無線LAN規格： IEEE802.11b/g/n（2.4 GHz帯）
IEEE802.11a/n/ac（5 GHz帯）
接続方法： インフラストラクチャー（WPS：プッシュボタン方式、WPS：PINコード方式、アクセスポイント検索、マニュアル）、カメラアクセスポイント
認証方式： オープン、共有キー、WPA-PSK、WPA2-PSK
暗号化方式： WEP-64、WEP-128、TKIP、AES
- **マイク**
ステレオエレクトレットコンデンサーマイク
- **静止画サイズ**
3840×2160

入・出力端子

- **SDI OUT端子**
BNCジャック（出力のみ）、0.8 Vp-p／75 Ω、不平衡
映像
SD（SMPTE ST 259）
HD（SMPTE 292）
3G（SMPTE 424、425）
6G（SMPTE ST 2081）
12G（SMPTE ST 2082）
音声
SD（SMPTE ST 272）
SD以外（SMPTE ST 299）
エンベデッドオーディオ、タイムコード（VITC / LTC）
LUT（BT.709、BT.2020、DCI、PQ、HLG、CMT 709、UserLUT1～4）
アシスト表示（画面表示、ピーキング、ゼブラ、拡大表示、白黒表示、WFM機能、フォルスカラー）
- **HDMI OUT端子**
HDMIコネクター、出力のみ、タイムコード
ビューアシスト（ガンマ：BT.709 Wide DR相当／CMT 709相当、色空間：BT.709相当）
アシスト表示（画面表示、ピーキング、ゼブラ、拡大表示、白黒表示、WFM機能、フォルスカラー）
- **INPUT 1端子、INPUT 2端子**
XLR 3ピンジャック（バランス）（①シールド、②ホット、③コールド）、2系統
MIC時：感度 -60 dBu（ポリウムセンター、フルスケール-18 dB）／Att.：20 dB
LINE時：感度+4 dBu（ポリウムセンター、フルスケール-18 dB）
- **MIC（マイク）端子**
Ø 3.5mmステレオミニジャック
MIC時：-72 dBV（ポリウムセンター、フルスケール-18 dB）／Att.：20 dB
供給電圧：DC2.5V
LINE時：-12 dBV（ポリウムセンター、フルスケール-18 dB）
- **G-LOCK/SYNC端子**
BNCジャック、1.0 Vp-p／75 Ω
GENLOCK時：入力のみ／SYNC OUT時：出力のみ、HD三値信号

- **○ (ヘッドホン) 端子**
Ø 3.5 mmステレオミニジャック
-∞〜-8 dBV (16 Ω負荷、ボリュームMin〜Max)
- **TIME CODE端子**
BNCジャック (入出力兼用)、入力時：0.5 -18 Vp-p / 100 kΩ、出力時：1.3 Vp-p / 50 Ω以下
- **USB端子**
USB Type-C™
- **USB (HOST)端子**
USB Type-A (将来の機能拡張用)
- **REMOTE A端子**
Ø 2.5mm ステレオミニミニジャック
- **REMOTE B端子**
丸型8ピンジャック。RC-V100 (別売) 接続用 (RS-422通信用)
- **品 (イーサネット) 端子**
Ethernet (イーサネット)、1000BASE-T対応

電源その他

- **DC IN端子**
入力：DC 24V
- **バッテリー**
DC 14.4V (バッテリーパック)
- **消費電力と連続撮影時間**
数値は、消費電力、BP-A30 / BP-A60使用時の連続撮影時間の順で記載。
約14.3 W、約175分、約360分 (XF-AVC、3840x2160 600Mbps Intra、59.94P記録時)
約13.9 W、約180分、約370分 (XF-AVC、3840x2160 500Mbps Intra、50.00P記録時)
約14.2 W、約175分、約365分 (XF-AVC、3840x2160 260Mbps L.GOP、59.94P記録時)
約13.6 W、約185分、約380分 (XF-AVC、3840x2160 260Mbps L.GOP、50.00P記録時)
いずれも通常記録 (2スロット記録機能「切」、LCDモニター (LCD輝度「ノーマル」、SDI OUT端子 (3G-SDI) 使用時。
- **動作温度**
0 °C ~ +40 °C
- **外形寸法 (幅×高さ×奥行き)**
カメラ本体のみ：約 168×173×333 mm
カメラ本体にレンズフード、アイカップ、マイクホルダー装着時：約 200×219×385 mm
- **質量**
カメラ本体 (グリップベルトを含む)：
約2010 g
カメラ本体、レンズフード、アイカップ、マイクホルダー、グリップベルト、BP-A30、SDカード1枚を含む：
約2460 g

バッテリーチャージャー CG-A20

- **定格入力**：DC 24 V、1.8 A
- **定格出力**：DC 16.7 V、1.5 A
- **使用温度**：0 °C ~ +40 °C
- **外形寸法 (幅×高さ×奥行き)**：約100×24×100 mm
- **質量**：約145 g

コンパクトパワーアダプター CA-CP200 L

- 定格入力：AC 100 ～ 240 V、50 / 60 Hz、90 VA（AC 100 V）～ 120 VA（AC 240 V）
- 定格出力：DC 24 V、1.8 A
- 使用温度：0℃～ +40℃
- 外形寸法（幅×高さ×奥行き）：約67.5×37×134 mm
- 質量：約290 g

バッテリーパック BP-A30

- 使用電池：リチウムイオン（インテリジェントリチウムイオンバッテリー）
- 使用温度：0℃～ +40℃
- 公称電圧：DC 14.4 V
- 公称容量：3100 mAh / 45 Wh
- 外形寸法（幅×高さ×奥行き）：約41.5×45.1×69.7 mm
- 質量：約225 g

動画の記録可能時間の目安

1回の記録でカードの空き容量がなくなるまで記録したときの記録時間です。

記録形式	ビットレート	32 GB	128 GB	512 GB
XF-AVC	600Mbps	約6分	約27分	約109分
	500Mbps	約8分	約32分	約131分
	410Mbps	約9分	約39分	約156分
	310Mbps	約12分	約51分	約207分
	300Mbps	約13分	約54分	約216分
	260Mbps	約15分	約61分	約246分
	250Mbps	約16分	約64分	約256分
	240Mbps	約16分	約66分	約267分
	160Mbps	約25分	約100分	約401分
	50Mbps	約80分	約321分	約1,284分
MP4 (HEVC)	225Mbps	約16分	約71分	約285分
	170Mbps	約23分	約94分	約377分
	135Mbps	約29分	約118分	約475分
	100Mbps	約40分	約160分	約642分
	50Mbps	約80分	約321分	約1,284分
MP4 (H.264)	150Mbps	約25分	約107分	約428分
	35Mbps	約114分	約458分	約1,834分

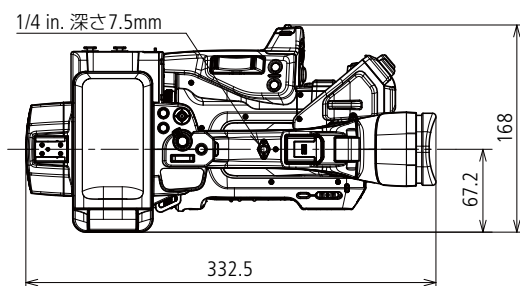
バッテリーの充電時間の目安

バッテリーパック	BP-A30	BP-A60
充電時間*（バッテリーチャージャー CG-A20を使用時）	約170分	約300分

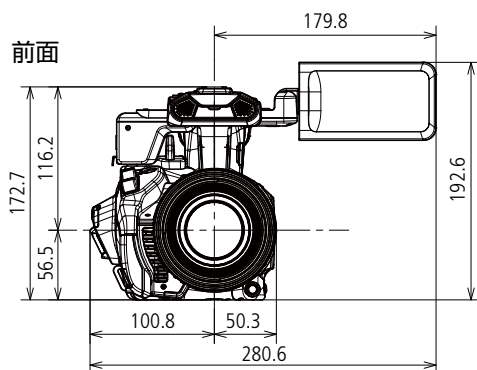
* 周囲の温度や充電状態によって異なります。

寸法図 (単位: mm)

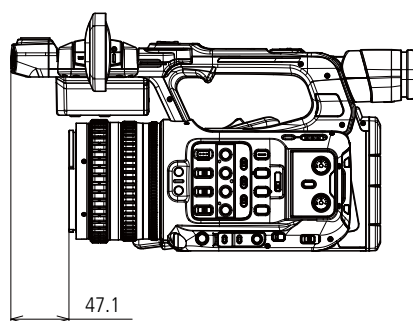
上面



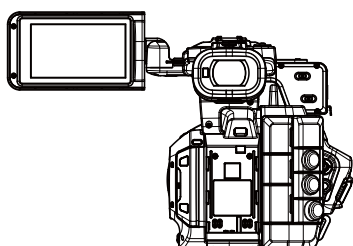
前面



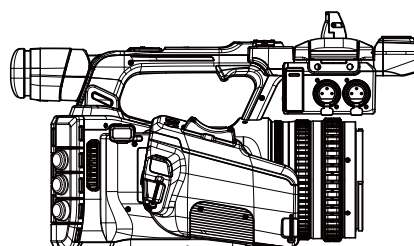
左面



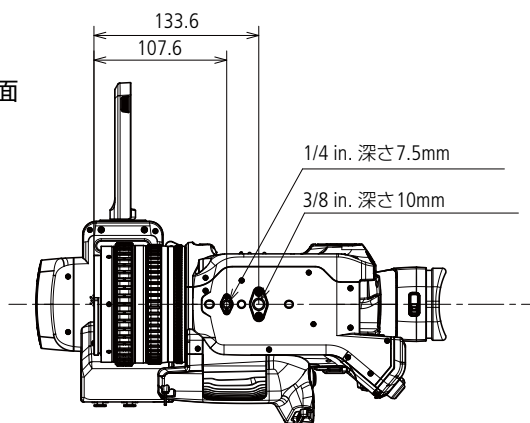
背面



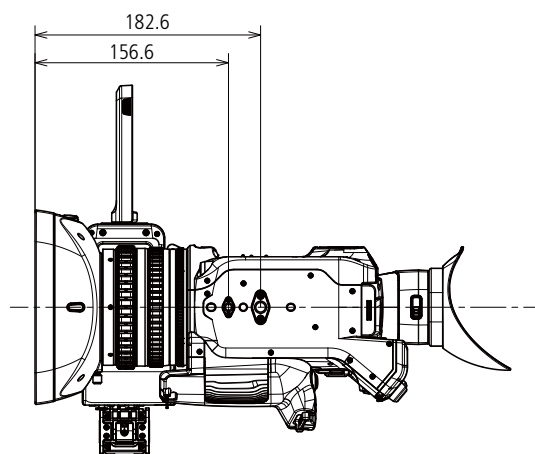
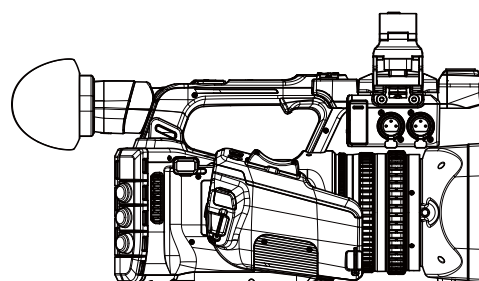
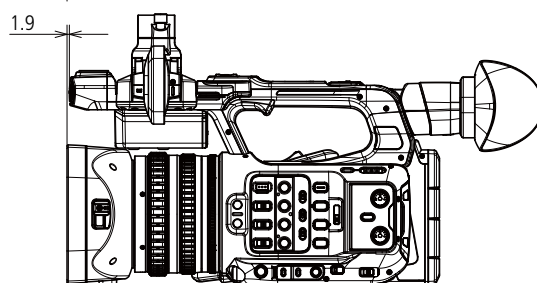
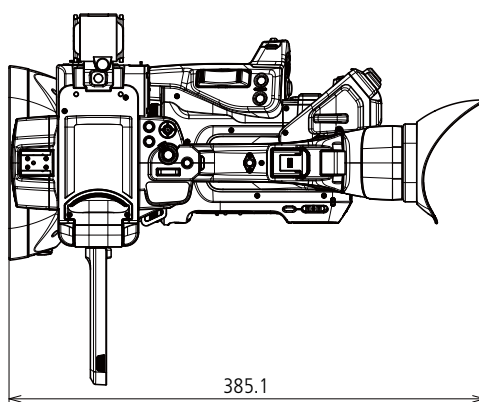
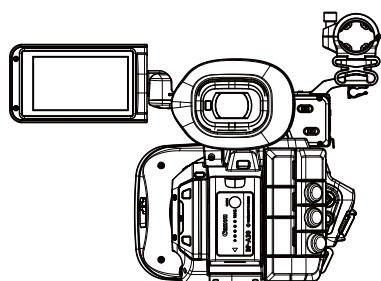
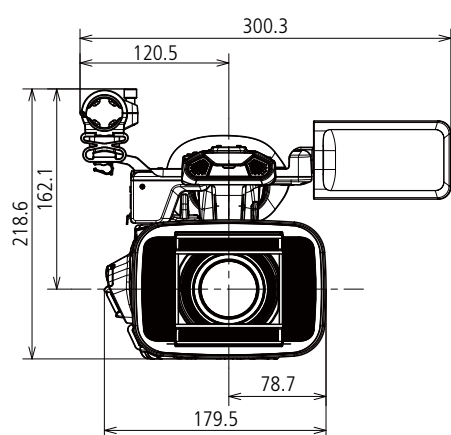
右面



底面



レンズフード、マイクホルダー、アイカップ装着時



索引

あ

アイカップ	25
アイリス	60
アクセサリ	220
アクセスポイント	152, 160
アサインボタン	109

い

イーサネット	153
色空間	114
インターバル記録	103
インデックス表示	124
インフラストラクチャー	152

え

エラーメッセージ	211
----------	-----

お

オーディオ形式	87
オーディオリミッター	91
オートアイリス	60
お手入れ	219
音声記録	30, 87
音声記録形式	86
音声出力チャンネル	147
音声を記録する	86
音声をモニターする	92
音声（スロー＆ファストモーション記録）	100

か

回折補正	24
解像度	48
外部機器	138
外部マイク／外部音声入力機器を接続する	88
顔検出AF／顔検出AE	76
拡大表示	73
カスタムディスプレイ	38
カスタムピクチャー	114
:プリセット	114
:Lookファイル	116
カメラアクセスポイント	152
カメラインデックス	32
カメラダイレクト設定	46

カメラモード	11
画面表示	38, 127, 141
カラーサンプリング	48
カラーバー	93
ガンマ	114

き

キーロック	12
機能設定 (MODE)	154
吸気口	13
記録形式	47
記録コマンド	138
記録信号形式	47

く

クリップ番号	32
クリップファイル名	32
クリップメニュー	130

け

ゲイン	56
結露	218

こ

広角	68
コンバージョンレンズ	70

さ

再生	
:撮影データを再生する	124
撮影データを操作する	130
撮影データを保存する	148
撮影フレームレート	100
撮影	
:静止画を撮影する	37
:動画を撮影する	36
サブ動画	52

し

シークバー	127
シーン	99
システム周波数	48
絞り値	60

シャッタースピード	54
修復	29
修理対応	235
出力信号形式	134
出力チャンネル	147
出力レンジ	139
仕様	221
常時記録	104
ショットマーク	96

す

ズーム	67
:ズームリングで操作する	68
ズームロッカーで操作する	68
スタンダードIS	78
ステータス画面	192
スピーカー	129
スロー & ファストモーション記録	100

せ

静止画

:MP4クリップ／静止画番号の付けかたを 選ぶ	33
:記録する	37
:再生する	124
赤外線撮影 (Infrared)	105
赤外ライト	105
接続設定 (SET)	154
接続	
:外部モニター／レコーダーを接続する	138
:ヘッドホンでモニターする	92, 129
設定データ	123
ゼブラパターン	79

そ

測光方式	62
------	----

た

ダイナミックIS	78
タイムコード	82
タイムコードを外部同期する	84
ダイレクトタッチコントロール	45
縦撮り	43

ダブルスロット記録	30
タリーランプ	36
タリー OSD	43

ち

チェックマーク	96, 131
チャンク記録	51

つ

追尾	77
通信設定 (NW)	154

て

テイク	99
デジタルテレコン	67
テストトーン	93
手ブレ補正	78
デュアルピクセルフォーカスガイド	72
電源	

:コンセントにつないで使う	17
:電圧を確認する	17
:バッテリーを使う	15

電源警告	17
電源ランプ	11

と

動画の記録方法	30
動画形式	47
特殊記録	100
トラブルシューティング	204
取り扱い上のご注意	217
ドロップフレーム	82

な

内蔵マイク	86
-------	----

に

ニックネーム	162
--------	-----

ね

ネットワーク

:機能	151
:機能設定	154, 155
:接続状態	166
:接続設定	154, 162
:通信設定	154, 158

の

ノンドロップフレーム	82
------------	----

は

排気口	10
波形モニター	94
パソコン	148
バッテリー	
:充電する	15
:本体に取り付ける／取り外す	16
パワードIS	78

ひ

ピーキング	73
日付・時刻	19
ビットレート	47
瞳検出	76
ビューアシスト	142

ふ

ファームウェア	191
ファイル名	32
ファインダー	24
ファン	35
ファンタム電源	88
フォーカス	
:顔検出AE	76
:コンティニュアスAF	74
:追尾	77
:フォーカスアシスト機能	71
:マニュアルフォーカス	71
:AFスピード	75
:AFブーストMF	74
フォーカスガイド	72
フォーカスリング	71
フォルスカラー	81

プッシュオートアイリス	60
ブラウザーリモート	170
フリーラン	83
フリッカーを抑える	55
フルオートモード	37
フレーム記録	102
フレーム表示	42
フレームレート	48
ブレ記録	102
プロキシ動画記録	50

へ

ベクトルスコープ	94
ヘッドホン端子	92

ほ

望遠	68
ボリュームラベル	28
ホワイトバランス	63
:色温度／色補正值 (CC) 調整	64
:プリセット設定	64
:ホワイトバランスセット	65
:AWB (オートホワイトバランス)	64

ま

マーカー	79
マイクの感度	91
マイクホルダー	13
マイメニュー	21
マルチアクセサリシュー	25

め

メイン記録形式	47
メイン動画	30, 48
メタデータ	97
メッセージ	211
メディアモード	11
メニュー	
:基本操作	20
:メニュー一覧	179

も

文字入力	22
------	----

ゆ

ユーザービット	83
ユーザーメモ	97

り

リール番号	32
リセット	190
リファレンスビデオ信号	85
リモートカメラコントローラー	175
リモートカメラコントロールアプリ	176
リモートコントローラー	106
リモート撮影	106
量子化ビット数	86
リレー記録	30

る

ルート証明書	161
--------	-----

れ

冷却ファン	35
レックラン	83
レックレビュー	44
レンズフード	23

ろ

録音レベル調整	90
露出バー	62

番号

2スロット記録機能	30
-----------	----

その他

+48V	88
AEシフト	62
AF枠	75
C. Gamut	114
Canon Log 3	115
Canonアプリ	151, 158, 178
Content Transfer Mobile	149
DC IN端子	17
DCI-P3	142
DISPレベル	42
FEC (エラー訂正)	156

FTP転送	168
FUNCボタン	46
Gamma/Color Space	114
G-LOCK/SYNC端子	85
H.264	47
HDMI OUT端子	139
HDRアシスト	142
HEVC	47
HTTPS	166
INDEXボタン	125
INPUT端子	88
IPアドレス	161
IPストリーミング	169
IPv4	161
IPv6	164
ISO感度	56
LCDモニター	18
Lookファイル	116
LUT	142
Magnification	73
MEDIAボタン	11
MIC (マイク) 端子	86
MP4	47
Multi-Camera Control	176
MXF	221
NDフィルター	59
News Metadata	98
OKマーク	96, 131
POWERスイッチ	11
PUSH AUTO IRIS	60
RC-IP100/RC-IP1000	175
RC-V100	106
RECボタン	36
REMOTE端子	106
SDカード	
:カードを入れる/取り出す	27
:使用可能なSDカード	26
:初期化	27
:スロットを切り換える	28
SSID	160
TCP/IPv6	164
TIME CODE端子	84

USB端子 (Type-C)	14
USB (HOST) 端子	10
User Memo	97
Vectorscope	94
WAV	101
Waveform Monitor	94
WFM	94
Wi-Fi	152
WPS	152
XCプロトコル	175
XF Utility	148
XF-AVC	47

商標について

- SD、SDHC、SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- macOS、App Store、iPhoneは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Avid、Media Composerは、米国および／またはその他の国におけるAvid Technology, Inc.またはその子会社の商標または登録商標です。
- Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの登録商標です。Wi-Fi CERTIFIED、WPA、WPA2とWi-Fi CERTIFIEDロゴは、Wi-Fi Allianceの商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- JavaScriptは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface という語、HDMIのトレードドレスおよび HDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。
- USB Type-C™ およびUSB-C™ はUSB Implementers Forumの商標です。
- DaVinci Resolve™ は、Blackmagic Design Pty Ltd.の商標です。
- DCFロゴマークは、(社)電子情報技術産業協会 (JEITA) の「Design rule for Camera File system」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

使用許諾について

- This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and noncommercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.
- THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD("AVC VIDEO")AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://WWW.MPEGLA.COM)

本機は、DCFに準拠しています。DCFは、(社)電子情報技術産業協会 (JEITA) で主として、デジタルカメラ等の画像ファイル等を、関連機器間で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

アクセサリは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリのご使用をおすすめいたします。なお、純正品以外のアクセサリの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
 2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打ち切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
 3. 修理品をご送付の場合は、見本となる撮影データを記録した記録メディアを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。
-

修理のお問い合わせ

- 修理・メンテナンスのご相談・お申し込み
<https://canon.jp/support/repair-index>

- 電話でのお申込み

カメラ修理受付センター

0570-07-0070

平日・土 9:00～17:00

- 12月31日から1月3日は休ませていただきます。
- 上記番号は0570から始まるナビダイヤルを利用しています。
- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、03-6634-5704におかけください。



■本書の記載内容は2023年11月現在のものです

製品の仕様および外観や本書の記載内容は、改良等のため予告なく変更することがあります。最新の使用説明書については、キヤノンのホームページなどでご確認ください。



キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6